ユーザーガイド

AWS 請求

Version 2.0

Copyright © 2024 Amazon Web Services, Inc. and/or its affiliates. All rights reserved.

AWS 請求: ユーザーガイド

Copyright © 2024 Amazon Web Services, Inc. and/or its affiliates. All rights reserved.

Amazon の商標とトレードドレスは、Amazon 以外の製品またはサービスとの関連において、顧客に混乱を招いたり、Amazon の名誉または信用を毀損するような方法で使用することはできません。Amazon が所有しない他の商標はすべてそれぞれの所有者に帰属します。所有者は必ずしも Amazon との提携や関連があるわけではありません。また、Amazon の支援を受けているとはかぎりません。

Table of Contents

AWS Billing and Cost Management の概要 1
AWS Billing and Cost Management の機能 1
請求と支払い 1
コスト分析 2
コストの整理 2
予算編成と計画 3
コスト削減とコミットメント 3
関連サービス 3
AWS Billing Conductor 3
IAM 4
AWS Organizations 4
AWS Pricing Calculator 5
の開始方法 AWS アカウント 6
ステップ 1: にサインアップ AWS して IAM ユーザーを作成する 6
にサインアップする AWS アカウント 6
管理ユーザーの作成 7
ステップ 2: 請求情報と使用状況を確認する 8
ステップ 3: 請求書をダウンロードまたは印刷する 8
請求機能の詳細 9
次のステップ 9
AWS コスト管理機能を使用して支出を最適化する 9
請求情報とコスト管理 API を使用する 9
詳細はこちら 10
ヘルプの表示 10
AWS Billing and Cost Management ホームページを使用する 11
Billing and Cost Management ウィジェットの管理 11
コスト概要 12
コストモニター 13
コストの内訳 14
推奨されるアクション 14
関連リソース 16
コスト配分カバレッジ 16
コスト削減の機会 18
請求ダッシュボードを理解する 18

AWS 請求データと AWS Cost Explorer データの違いを理解する 21
請求データ 21
Cost Explorer データ 21
償却コスト 22
AWS のサービス のグループ分け 22
当月の推定請求額 23
Rounding 23
割引、クレジット、返金、税金の表示 23
アカウントの管理 24
の管理 AWS アカウント 24
アカウント名、 AWS アカウントのルートユーザー パスワード、 AWS アカウント ルートユーザーの E メールアドレスの編集 25
連絡先情報の編集 25
代替連絡先の追加または更新 26
秘密の質問の追加または編集 26
AWS リージョン の有効化と無効化 26
AWS Billing and Cost Management コンソールへの IAM アクセスのアクティブ化 27
アカウント契約情報を管理する 27
納税者番号の更新と削除 28
税設定の継承をオンにする 28
米国の免税を管理する 29
の閉鎖 AWS アカウント 30
インドでのアカウントの請求管理 30
AWS インドへの登録 31
AWS インドアカウントの管理 31
登録販売者の検索 33
現在の SOR 34
関連リソース 36
月次請求チェックリスト 37
発注書の残高と有効期限を確認する 37
税金の設定を確認する 38
税金設定の継承を有効にする 38
請求連絡先情報を更新する 39
支払い通貨を確認する 40
ヘルプの利用 41
AWS ナレッジセンター 41

に連絡する AWS Support 41
請求対象の使用状況の確認 42
無料利用枠の使用量のモニタリング 43
請求を表示する 44
月額料金を表示する 44
[請求] ページで月額料金と請求書の内容を確認する 45
請求書の PDF をダウンロードする 48
E メールで送付された請求書を取得する 49
追加の請求書メール 49
関連情報 50
月別レポートをダウンロードする 50
予想外の料金について 51
使用量が を超えています AWS 無料利用枠 52
アカウント閉鎖後に受け取った料金 52
オフAWS リージョンになっている のリソースで発生した料金 53
他のサービスによって起動されたサービスによって発生する料金 54
Amazon EC2 インスタンスによって発生する料金 54
Amazon Elastic Block Store ボリュームとスナップショットによって発生する料金 55
Elastic IP アドレスによって発生する料金 57
ストレージサービスによって発生する料金 57
に連絡する AWS Support 57
請求設定ページの使用 58
請求書の送付設定 58
アラートの設定 59
クレジット共有設定 60
リザーブドインスタンスと Savings Plans のディスカウント共有 61
請求明細レポート (従来) 62
支払いの管理 63
支払い、資金の確認、支払い履歴の表示 63
支払いをする 64
残りの請求書、未適用の資金、支払い履歴を表示する 65
クレジットカード支払い検証を管理します。 66
検証のベストプラクティス 67
支払いの検証 67
支払いの検証のトラブルシューティング 68
AWS Organizations 68

サブスクリプションの購入 ... 68
クレジットカードと ACH の支払い方法の管理 ... 69
クレジットカードの追加 ... 69
クレジットカードを更新する ... 70
未確認のクレジットカードのトラブルシューティング ... 70
クレジットカードを削除する ... 71
ACH 銀行引き落としによる支払い方法を管理する ... 71
事前支払いの管理 ... 74
事前支払いを登録する ... 75
事前支払いへ資金を追加する ... 75
CNY での AWS 支払いの管理 ... 76
新しい中国銀行リダイレクト支払いの利用 ... 76
中国人民元クレジットカードの使用 ... 80
ブラジルでの PIX 支払い方法の管理 ... 82
インドでの支払いの管理 ... 84
サポートされている支払い方法 ... 84
クレジットカードまたはデビットカードを使って支払う ... 84
クレジットカードまたはデビットカードの詳細情報を保存する ... 85
支払い時にカードの詳細情報を追加する ... 86
クレジットカードまたはデビットカードを削除する ... 86
ネットバンキングアカウントの追加 ... 87
ネットバンキング口座を使って支払う ... 87
ネットバンキングアカウントの削除 ... 88
統合決済インターフェース (UPI) を使用して支払いを行います。 ... 89
AWS ヨーロッパでの支払いを管理 ... 90
AWS ヨーロッパでの支払い方法の管理 ... 90
AWS Europe の支払い、資金の確認、支払い履歴の表示 ... 91
AWS ヨーロッパのクレジットカード支払い方法の管理 ... 94
AWS ヨーロッパのクレジットカード決済認証を管理 ... 95
ACH 口座振替の支払い方法を管理する ... 98
支払いプロファイルの管理 ... 102
支払いプロファイルの作成 ... 103
支払いプロファイルの編集 ... 106
支払いプロファイルの削除 ... 107
AWS 支払いの詳細設定の管理 ... 107
支払い方法の表示 ... 108

デフォルトの支払い方法を指定する 108
支払い方法の削除 109
請求の支払い通貨の変更 109
追加の請求連絡先 E メールアドレスの設定 109
Customer Carbon Footprint Tool の表示 111
Customer Carbon Footprint Tool の開始方法 111
IAM ポリシー 111
AWS Organizations ユーザー 111
Customer Carbon Footprint Tool の理解の概要 112
炭素排出量の推定の理解 113
リージョン、使用状況、および請求データの考慮要素 113
Customer Carbon Footprint Tool と Amazon のカーボンフットプリントレポート 114
発注書を管理する 115
発注書設定をセットアップする 116
発注書を追加する 119
発注書を編集する 121
発注書を削除する 123
発注書を表示する 124
発注書の詳細ページを読む 124
発注所の通知を有効にする 126
タグを使用して発注書へのアクセスを管理する 127
AWS Cost Categories によるコストの管理 129
サポートされているディメンション 131
サポートされているオペレーション 132
サポートされているルールの種類 133
デフォルト値 134
ステータス 134
クォータ 134
用語の比較 134
コストカテゴリを作成する 135
コストプレビューパネルについて 139
コストカテゴリのタグ付け 140
コストカテゴリを表示する 140
コストカテゴリの詳細ページへ移動する 141
コストカテゴリの詳細ページを理解する 141
コストカテゴリのmonth-to-date 分類 141

コストカテゴリ値をダウンロードする 142
コストタイプを変更する 142
コストカテゴリを編集する 143
コストカテゴリを削除する 143
コストカテゴリ内で料金を分割する 144
前提条件 144
分割料金のベストプラクティスを理解する 145
AWS コスト配分タグの使用 146
AWS 生成されたコスト配分タグ 148
AWS Marketplace ベンダー提供のタグ 153
AWS 生成されたコスト配分タグを有効にします。 153
AWS 生成されたコスト配分タグを非アクティブ化します。 154
AWS 生成されたコスト配分タグに関する制限 154
ユーザー定義のコスト配分タグ 155
ユーザー定義のコスト配分タグの適用 156
ユーザー定義のコスト配分タグのアクティブ化 157
ユーザー定義タグの制限 158
バックフィルコスト配分タグ 159
バックフィルによるCost Explorer 更新 159
AWS Cost and Usage Report バックフィルによるアップデート 160
毎月のコスト配分レポート 160
月別コスト配分レポートの設定 160
時間別コスト配分レポートの取得 162
コスト配分レポートの表示 162
コスト配分タグの日付を理解する 163
AWS 無料利用枠 の使用 165
対象 166
予想外の料金の回避 166
使用状況を追跡 168
AWS 無料利用枠使用状況アラートの使用 168
無料利用枠の推奨アクション 170
追跡可能な AWS 無料利用枠サービス 170
無料利用枠 API を使用する 204
関連リソース 207
AWS の料金表 の概要 208
AWS Price List Query API を使用する 210

IAM アクセス許可 ... 210
エンドポイント ... 211
クォータ ... 212
サービスおよび製品の検索 ... 212
AWS Price List Bulk API を使用する ... 219
IAM アクセス許可 ... 219
エンドポイント ... 220
クォータ ... 221
料金表ファイルの取得 ... 221
料金表ファイルの手動取得 ... 226
料金表ファイルの読み取り ... 232
サービス料金表ファイルでの料金の確認 ... 253
料金更新通知の設定 ... 258
Amazon SNS 通知の設定 ... 258
AWS のサービスの通知の構造 ... 259
Savings Plans の通知の構造 ... 262
の一括請求 AWS Organizations ... 265
一括請求 (コンソリデーティッドビリング) の処理 ... 266
EMEA AWS での一括請求 ... 267
統合期間 ... 268
対象サービス ... 268
通貨と外国為替レート ... 268
AWS Cost and Usage Report への変更 ... 268
一括請求機能の無効化 ... 269
インドでの一括請求 (コンソリデーティッドビリング) ... 269
請求発効日、アカウントアクティビティ、数量割引 ... 270
請求およびアカウントアクティビティ ... 270
従量制割引 ... 270
クレジット ... 271
ステップ 1 : 適用するクレジットを選択する ... 272
ステップ 2: クレジット適用先を選択する ... 273
ステップ 3: AWS 複数のアカウントにクレジットを適用する ... 274
ステップ 4: AWS クレジットを共有する ... 275
リザーブドインスタンス ... 276
特定のサービスの請求例 ... 277
リザーブドインスタンスと Savings Plans の割引共有 ... 279

一括請求について ... 281
一括請求の計算方法 ... 281
料金階層 ... 282
リザーブドインスタンス ... 286
Savings Plans ... 288
ブレンドレートとコスト ... 288
短いバージョンの PDF 請求書のリクエスト ... 291
組織のサポート料金 ... 293
セキュリティ ... 294
データ保護 ... 294
Identity and Access Management ... 295
ユーザータイプと請求に対するアクセス許可 ... 296
アクセス管理の概要 ... 298
対象者 ... 296
アイデンティティを使用した認証 ... 302
ポリシーを使用したアクセスの管理 ... 305
AWS 請求と IAM の連携の仕組み ... 308
請求に関する ID ベースのポリシー ... 315
AWS 請求ポリシーの例 ... 328
アクセスコントロールを移行します ... 351
AWS 管理ポリシー ... 419
トラブルシューティング ... 428
ロギングとモニタリング ... 431
AWS コストと使用状況レポート ... 431
AWS CloudTrail ... 432
での CloudTrail API コールのログ記録 ... 432
コンプライアンス検証 ... 441
耐障害性 ... 442
インフラストラクチャセキュリティ ... 442
クォータと制限 ... 444
コストカテゴリ ... 444
発注書 ... 445
事前支払い ... 445
コスト配分タグ ... 446
AWS の料金表 ... 447
ドキュメント履歴 ... 448

AWS 用語集 465
..... cdlxvi

AWS Billing and Cost Management の概要

「AWS 請求ユーザーガイド」にようこそ。

AWS Billing and Cost Management には、請求の設定、請求書の取得と支払い、コストの分析、整理、計画、最適化に役立つ一連の機能があります。

使用を開始するには、要件に合った請求を設定します。個人または小規模組織の場合、AWS は指定されたクレジットカードに自動的に請求します。

大規模な組織の場合は、AWS Organizations を使用して、複数の AWS アカウント の料金をまとめて請求できます。その後、請求書、税金、発注書、支払い方法を組織の調達プロセスに合わせて設定できます。

コストカテゴリまたはコスト配分タグを使用するか、AWS Cost Explorer を使用して、チーム、アプリケーション、または環境にコストを割り当てることができます。また、お好みのデータウェアハウスやビジネスインテリジェンスツールにデータをエクスポートすることもできます。

クラウドの予算管理に役立つ機能の概要について説明します。

AWS Billing and Cost Management の機能

トピック

- 請求と支払い
- コスト分析
- コストの整理
- 予算編成と計画
- コスト削減とコミットメント

請求と支払い

毎月の料金の把握、請求書の表示と支払い、請求、請求書、税金、支払いの設定を管理できます。

- [請求] ページ — 請求書のダウンロードや、詳細な月次請求データの確認により、請求額の計算方法を把握できます。

- [発注書] — 組織独自の調達プロセスに準拠する発注書を作成および管理します。
- [支払い] — 未払いまたは支払期日を過ぎた支払い残高と支払い履歴を把握できます。
- [支払いプロファイル] — 異なる AWS のサービス プロバイダーや組織の部署ごとに複数の支払い方法を設定できます。
- [クレジット] — クレジット残高を確認し、クレジットの適用先を選択します。
- [請求設定] — 電子メールによる請求書の配信と、クレジット共有、アラート、割引共有の設定を有効にします。

コスト分析

コストを分析し、詳細なコストと使用状況データをエクスポートして、支出を予測します。

- AWS Cost Explorer — コストと使用状況のデータを、ビジュアル、フィルタリング、グループ化で分析できます。コストを予測し、カスタムレポートを作成できます。
- [データエクスポート] — Billing and Cost Management データセットからカスタムデータエクスポートを作成します。
- [コスト異常検出] — AWS がコストの異常を検出した際の自動アラートを設定して、予期しないコストを削減します。
- AWS 無料利用枠— 無料利用枠サービスの現在の使用状況と予測使用状況を監視して、予期しないコストが発生しないようにします。
- [コスト配分データの分割] — 共有の Amazon Elastic Container Service (Amazon ECS) リソースの詳細なコストと使用状況データを有効にします。
- [コスト管理設定] — メンバーアカウントが表示できるデータの管理、アカウントデータの粒度の変更、コスト最適化設定の構成を行います。

コストの整理

チーム、アプリケーション、エンドカスタマー全体のコストを整理できます。

- [コストカテゴリ] — チーム、アプリケーション、または環境にコストをマッピングし、Cost Explorer とデータエクスポートでこれらのディメンションに沿ってコストを表示します。共有コストを配分する分割料金ルールを定義します。
- [コスト配分タグ] — リソースタグを使用してコストを整理し、Cost Explorer とデータエクスポートでコスト配分タグごとに表示します。

予算編成と計画

計画されたワークロードのコストを見積もり、コストを追跡および管理するための予算を作成します。

[予算] — コストと使用量のカスタム予算を設定して組織全体のコストを管理します。また、コストが定義したしきい値を超えるとアラートを受信します。

コスト削減とコミットメント

リソースの使用量を最適化し、柔軟な価格設定モデルを使用して請求額を削減します。

- AWS Cost Optimization Hub - 未使用リソースの削除、サイズの適正化、Savings Plans、予約など、カスタマイズされた推奨事項に基づいて節約の機会を特定します。
- [Savings Plans] — 柔軟な価格設定モデルにより、オンデマンド料金に比べて請求額を削減できます。Savings Plans の在庫を管理し、購入推奨事項を確認して、Savings Plans の利用状況と補償範囲を分析します。
- [予約] – Amazon Elastic Compute Cloud (Amazon EC2)、Amazon Relational Database Service (Amazon RDS)、Amazon Redshift、Amazon DynamoDB などのキャパシティを、割引を適用して予約します。

関連サービス

AWS Billing Conductor

Billing Conductor は、AWS ソリューションプロバイダーおよび AWS エンタープライズのお客様のショーバックおよびチャージバックワークフローをサポートするカスタム請求サービスです。毎月の請求データの代替バージョンをカスタマイズできます。このサービスは、お客様とその顧客またはビジネスユニット間の請求関係をモデル化します。

Billing Conductor は、AWS による毎月の請求方法を変更しません。代わりに、このサービスを使用して、特定の請求期間における特定の顧客に対するレートを設定、生成、表示できます。また、これを使用して、グループに適用するレートと AWS の同じアカウントにおける実際のレートを比較し、その差を分析することもできます。

Billing Conductor を設定すると、支払いアカウント (管理アカウント) は、AWS Billing and Cost Management コンソールの請求詳細ページに適用されたカスタムレートを確認することもできま

す。支払いアカウントは、AWS コストと使用状況レポートを請求グループごとに設定することもできます。

Billing Conductor の詳細については、「AWS Billing Conductor ユーザーガイド」を参照してください。

IAM

AWS Identity and Access Management (IAM) を使用すると、アカウント内または組織内の誰が Billing and Cost Management コンソールの特定のページにアクセスできるかを制御できます。例えば、請求書や、料金、アカウントアクティビティ、予算、支払い方法、クレジットに関する詳細情報へのアクセスを制御できます。IAM は AWS アカウント の機能です。IAM へのサインアップに必要な作業はありません。また、使用しても料金は発生しません。

アカウントを作成する場合は、このアカウントのすべての AWS のサービス とリソースに対して完全なアクセス権を持つ 1 つのサインインアイデンティティから始めます。このアイデンティティは AWS アカウントのルートユーザー と呼ばれ、アカウントの作成に使用した E メールアドレスとパスワードでのサインインによりアクセスします。日常的なタスクには、ルートユーザーを使用しないことを強くお勧めします。ルートユーザーの認証情報を保護し、それらを使用してルートユーザーのみが実行できるタスクを実行します。

ルートユーザーとしてサインインする必要があるタスクの完全なリストについては、「IAM ユーザーガイド」の「ルートユーザー認証情報が必要なタスク」を参照してください。

デフォルトでは、アカウント内の IAM ユーザーおよびロールは、Billing and Cost Management コンソールにアクセスできません。アクセスを許可するには、[IAM アクセスをアクティブ化] 設定を有効にします。詳細については、「AWS Billing コンソールへの IAM アクセスについて」を参照してください。

組織内に複数の AWS アカウント がある場合は、[コスト管理設定] ページを使用して、Cost Explorer データへの連結アカウントアクセスを管理できます。詳細については、「Cost Explorer へのアクセスの管理」を参照してください。

IAM の詳細については、IAM ユーザーガイドを参照してください。

AWS Organizations

組織の一括請求機能を使用して、複数の AWS アカウント の請求と支払いを統合できます。すべての組織には管理アカウントがあり、すべてのメンバーアカウントの請求を支払います。

一括請求には次の利点があります。

- 1 つの請求書 – 複数のアカウントに対して 1 つの請求書を受け取るだけで済みます。
- 簡単な追跡 – 複数のアカウントでの料金を追跡し、コストと使用状況の統合データをダウンロードできます。
- 使用状況の結合 – 組織内のアカウントすべての使用量を結合し、料金のボリューム割引、リザーブドインスタンスの割引、および Savings Plans を共有できます。その結果、会社、部門、またはプロジェクトでの料金が個々のスタンドアロンアカウントと比較して低くなります。詳細については、「従量制割引」を参照してください。
- 追加料金なし – 一括請求は追加コストなしで提供されます。

組織の詳細については、「AWS Organizations ユーザーガイド」を参照してください。

AWS Pricing Calculator

AWS Pricing Calculator は、AWS のユースケースの見積りを作成する、ウェブベースの計画ツールです。ソリューションを構築する前のモデル化、AWS のサービス のサービス価格ポイントの調査、見積りに含まれる計算の確認に使用できます。AWS Pricing Calculator を使用して、AWS を使用する際の支出の計画、コスト削減機会の発見、情報に基づいた意思決定に役立てることができます。AWS Pricing Calculator は、これまで一度も AWS を使用したことがないユーザーや、AWS の利用状況の再編成または拡張を検討するユーザーにとって有益です。

詳細については、https://calculator.aws/#/ および「AWS Pricing Calculator ユーザーガイド」を参照してください。

の開始方法 AWS アカウント

このセクションでは、 AWS Billing and Cost Management コンソールの使用を開始するために必要な情報を提供します。

トピック

- ステップ 1: にサインアップ AWS して IAM ユーザーを作成する
- ステップ 2: 請求情報と使用状況を確認する
- ステップ 3: 請求書をダウンロードまたは印刷する
- 請求機能の詳細
- 次のステップ

ステップ 1: にサインアップ AWS して IAM ユーザーを作成する

を初めて使用する場合は AWS、 AWS アカウントを作成します。詳細については、「 の開始方法 AWS」を参照してください。

にサインアップする AWS アカウント

がない場合は AWS アカウント、次のステップを実行して作成します。

にサインアップするには AWS アカウント

1. https://portal.aws.amazon.com/billing/signup を開きます。
2. オンラインの手順に従います。

   サインアップ手順の一環として、通話呼び出しを受け取り、電話のキーパッドを使用して検証コードを入力するように求められます。

   にサインアップすると AWS アカウント、 AWS アカウントのルートユーザーが作成されます。ルートユーザーには、アカウント内のすべての AWS のサービス とリソースにアクセスできます。セキュリティのベストプラクティスとして、管理ユーザーに管理アクセスを割り当て、ルートユーザーのみを使用してルートユーザーアクセスが必要なタスクを実行します。

AWS サインアッププロセスが完了すると、 から確認メールが送信されます。https://aws.amazon.com/ の [アカウント] をクリックして、いつでもアカウントの現在のアクティビティを表示し、アカウントを管理することができます。

管理ユーザーの作成

にサインアップしたら AWS アカウント、 を保護し AWS アカウントのルートユーザー、 を有効にして AWS IAM Identity Center、日常的なタスクにルートユーザーを使用しないように管理ユーザーを作成します。

のセキュリティ保護 AWS アカウントのルートユーザー

1. ルートユーザーを選択し、 AWS アカウント E メールアドレスを入力して、アカウント所有者AWS Management Consoleとして にサインインします。次のページでパスワードを入力します。

   ルートユーザーを使用してサインインする方法については、「AWS サインイン ユーザーガイド」の「Signing in as the root user」を参照してください。
2. ルートユーザーの多要素認証 (MFA) を有効にします。

   手順については、「IAM ユーザーガイド」の AWS アカウント 「ルートユーザーの仮想 MFA デバイスを有効にする (コンソール)」を参照してください。

管理ユーザーを作成する

1. IAM アイデンティティセンターを有効にします。

   手順については、「AWS IAM Identity Center ユーザーガイド」の「AWS IAM Identity Centerの有効化」を参照してください。
2. IAM アイデンティティセンターで、管理ユーザーに管理アクセス権を付与します。

   を ID ソース IAM アイデンティティセンターディレクトリ として使用する方法のチュートリアルについては、「 ユーザーガイド」の「デフォルト でユーザーアクセスを設定する IAM アイデンティティセンターディレクトリAWS IAM Identity Center 」を参照してください。

管理ユーザーとしてサインインする

- IAM アイデンティティセンターのユーザーとしてサインインするには、IAM アイデンティティセンターのユーザーの作成時に E メールアドレスに送信されたサインイン URL を使用します。

IAM Identity Center ユーザーを使用してサインインする方法については、「 AWS サインイン ユーザーガイド」の AWS 「 アクセスポータルにサインインする」を参照してください。

ステップ 2: 請求情報と使用状況を確認する

請求情報とコスト管理コンソールの機能を使用して、現在の AWS 料金と AWS 使用状況を表示します。

Billing and Cost Management コンソールを開いて使用量と料金を表示するには

1. にサインイン AWS Management Console し、https://console.aws.amazon.com/billing/ で請求情報とコスト管理コンソールを開きます。
2. [Bills (請求書)] を選択して、現在の料金の詳細を参照します。
3. [支払い] を選択して、支払履歴を参照します。
4. [AWS Cost and Usage Reports] をクリックして、コストの詳細レポートを表示します。

AWS コストと使用状況レポートの設定と使用の詳細については、AWS コストと使用状況レポート ユーザーガイドを参照してください。

ステップ 3: 請求書をダウンロードまたは印刷する

AWS 請求は、毎月の最終日の午前 0 時に請求期間を終了し、請求額を計算します。ほとんどの請求書は、月の 7 会計日目までにダウンロードできるようになります。

請求書をダウンロードまたは印刷するには

1. にサインイン AWS Management Console し、https://console.aws.amazon.com/billing/ で請求情報とコスト管理コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで [Bills] を選択します。
3. [Date] で、該当する請求書の月を選択します。
4. [Download CSV (CSV のダウンロード)] を選択してカンマ区切りの可変ファイルをダウンロードします。または [Print (印刷)] を選択します。

請求機能の詳細

Billing and Cost Management コンソールで使用できる機能について理解します。

- アカウント設定: アカウントの管理
- AWS 無料利用枠： AWS 無料利用枠 の使用
- 支払い: Managing Your Payments
- 請求を表示する: 請求を表示する
- : AWS Cost Categories によるコストの管理
- コスト配分タグ: AWS コスト配分タグの使用
- AWS 発注書： Managing your purchase orders
- AWS コストと使用状況レポート: AWS コストと使用状況レポートの使用
- の使用 AWS CloudTrail: Billing and Cost Management API 呼び出しのロギング AWS CloudTrail
- 一括請求 (コンソリデーティッドビリング: の一括請求 AWS Organizations

次のステップ

AWS 請求書を表示して支払う準備ができたので、利用可能な機能を使用する準備が整いました。このガイドの残りの部分は、コンソールを使用してジャーニーをナビゲートするのに役立ちます。

AWS コスト管理機能を使用して支出を最適化する

AWS コスト管理機能を使用してコストの予算と予測を行い、 AWS 支出を最適化して全体的な AWS 請求額を削減できます。請求情報とコスト管理コンソールリソースを組み合わせて使用して支払いを管理し、 AWS コスト管理機能を使用して将来のコストを最適化します。

AWS コスト管理機能の詳細については、「 AWS コスト管理ユーザーガイド」を参照してください。

請求情報とコスト管理 API を使用する

AWS Billing and Cost Management API リファレンスを使用して、いくつかの AWS コスト管理機能をプログラムで使用します。

詳細はこちら

プレゼンテーション、仮想ワークショップ、ブログ投稿などの請求機能の詳細については、マーケティングページ「 によるクラウド財務管理 AWS」を参照してください。

仮想ワークショップは、[サービス] ドロップダウンリストを選択して目的の機能を選択することによって見つけることができます。

ヘルプの表示

請求機能について質問がある場合は、利用可能なリソースが多数あります。詳細については、「AWS 請求のヘルプを利用する」を参照してください。

AWS Billing and Cost Management ホームページを使用する

Billing and Cost Management ホームページを使用すると、AWS クラウドの財務管理データの概要を確認し、より多くの情報に基づいた意思決定をより迅速に行うことができます。コストの大まかな傾向と要因を理解し、注意が必要な異常値や予算超過を迅速に特定し、推奨アクションを検討し、コスト配分範囲を把握し、節約の機会を特定します。

このページのデータ提供元は AWS Cost Explorer です。以前に Cost Explorer を使用したことがない場合、このページにアクセスすると自動的に有効になります。このページに新しいデータが表示されるまでに最大 24 時間かかります。データは、利用可能な場合 24 時間ごとに一度以上更新されます。ホームページの Cost Explorer データは、分析目的に合わせて調整されています。つまり、データの AWS のサービス へのグループ分け方法、割引、クレジット、返金、税金の表示方法の違い、当月における推定請求額のタイミングの違い、四捨五入により、データが請求書や [請求] ページと異なる場合があります。

詳細については、「AWS 請求データと AWS Cost Explorer データの違いを理解する」を参照してください。

AWS クラウド Financial Management の詳細については、AWS Billing and Cost Managementコンソールの「使用開始」ページを参照してください。トピックを選択してから、特定のコンソールページまたはドキュメントのリンクを使用することができます。

Billing and Cost Management ウィジェットの管理

ウィジェットを移動またはサイズ変更することで、ウィジェットの表示方法をカスタマイズできます。

Billing and Cost Management ウィジェットを管理する

1. https://console.aws.amazon.com/costmanagement で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. (オプション) Billing and Cost Management ホームページをカスタマイズするには、ウィジェットをドラッグアンドドロップで移動するか、ウィジェットのサイズを変更します。
3. 各推奨事項に基づいてアクションを実行したり、詳細を確認したりするには、ウィジェット内のデータを確認し、ウィジェット内のリンク先に移動します。
4. レイアウトをリセットするには、[レイアウトをリセット] を選択し、[リセット] を選択します。

以下のウィジェットを使用できます。

- コスト概要
- コストモニター
- コストの内訳
- 推奨されるアクション
- コスト削減の機会

コスト概要

コスト概要ウィジェットでは、前月の支出と比較した現在のコスト傾向を簡単に確認できます。

[請求] ページで当月の推定請求額を表示するには、[請求書を表示] を選択します。

コスト概要ウィジェットに表示されるすべての指標には、クレジットと返金は含まれていません。つまり、ホームページには、[請求] ページや請求書とは異なる数値が表示される場合があります。ウィジェットには以下の指標が表示され、Cost Explorer で表示するように選択できます。

- [今月の初めから今日までのコスト] — 当月の推定コストです。このトレンド指標は、当月のコストを同じ期間の前月のコストと比較します。
- [同期間の前月のコスト] — 同じ期間の前月のコストです。例えば、今日が 2 月 15 日の場合、ウィジェットには 1 月 1 ~ 15 日までの前月のコストも表示されます。

> **Note**
>
> トレンドの計算は、各月の日数によって影響を受ける場合があります。例えば、7 月 31 日のトレンド指標は 7 月 1 ~ 31 日までのコストを調べ、6 月 1 ~ 30 日のコストと比較します。

- [当月の予測コストの合計] — 当月の推定総コストの予測です。
- [前月のコストの合計] — 前月の総コストです。詳細については、各指標を選択して Cost Explorer でコストを表示するか、[請求書を表示] を選択して、[請求] ページで当月の推定請求額を確認してください。

> **Note**
>
> このウィジェットの指標には、クレジットと返金は含まれていません。ここに表示されるコストは、[請求] ページや請求書に記載されているコストと異なる場合があります。

Cost Explorer へのアクセスの詳細については、「Cost Explorer で予測する」を参照してください。

コストモニター

このウィジェットでは、コストと使用量の予算や、AWS が検出したコストの異常をすばやく確認し、修正できます。

- [予算状況] — コストと使用量の予算のいずれかが超過した場合に警告します。

  ステータスは以下のようになります。

- [OK] — コストと使用量の予算を超えていません。
- [予算超過] — コストと使用量の予算を超えています。実際のコストが 100% より大きくなっています。超過した予算の数と警告アイコンが表示されます。
- [セットアップが必要です] — コストと使用量の予算をまだ作成していません。

ステータスインジケーターを選択して [予算] ページに移動し、各予算の詳細を確認するか、予算を作成します。予算ステータスインジケーターには、コストと使用予算に関する情報のみが表示されます。カバレッジ、Savings Plans の利用状況、予約状況を追跡するために作成した予算は、このウィジェットには表示されません。コスト異常ステータスは、AWS が当月の初日以降にコストの異常を検出した場合にアラートを出します。ステータスは以下のようになります。

- [OK] — 当月のコスト異常は検出されていません。
- [異常検出] — コスト異常が検出されました。検出された異常の数と警告アイコンが表示されます。
- [セットアップが必要です] — 異常検出モニターはまだ作成されていません。

ステータスインジケーターを選択して [コスト異常検出] ページに移動し、検出された各異常の詳細を確認するか、異常検出モニターを作成します。コスト異常ステータスインジケーターには、当月に

検出されたコスト異常に関する情報のみが表示されます。すべての異常履歴を表示するには、[コスト異常検出] ページにアクセスしてください。

詳細については、「AWS Budgets を用いてコストを管理する」を参照してください。

異常検出モニターの詳細については、「AWS 異常検出で異常な使用料を検出する」を参照してください。

コストの内訳

このウィジェットでは過去 6 か月間のコストの内訳が表示されるため、コストの傾向と要因を把握できます。コストの内訳については、ドロップダウンリストからオプションを選択してください。

- サービス
- AWS リージョン
- メンバーアカウント (AWS Organizations 管理アカウント用)
- コスト配分タグ
- コストカテゴリ

コストカテゴリまたはコスト配分タグキーを選択した場合は、グラフにカーソルを合わせると値が表示されます。

コストと使用状況を詳しく調べるには、[Cost Explorer でコストを分析] を選択します。Cost Explorer を使用すると、アベイラビリティーゾーン、インスタンスタイプ、データベースエンジンなどのディメンションを追加して、コストと使用状況を視覚化、グループ化、フィルタリングできます。

Cost Explorer の詳細については、「Cost Explorer を使用してデータを探索する」を参照してください。

推奨されるアクション

このウィジェットは、AWS クラウド財務管理のベストプラクティスを実装し、コストを最適化するのに役立ちます。

推奨されるアクションウィジェットを使用する

1. それぞれの推奨事項については、リンクをクリックしてアカウントに対するアクションを実行してください。デフォルトでは、ウィジェットは推奨されるアクションを 7 つまで表示します。

2. その他の推奨アクションを読み込むには、[さらにアクションを読み込む] を選択します。
3. 特定の推奨事項を却下するには、右上隅の [X] アイコンを選択します。

> **Note**
>
> 各推奨事項を表示する AWS のサービス にアクセスする権限がない場合は、アクセス拒否エラーが表示されます。例えば、`budgets:DescribeBudgets` を除くすべての Billing and Cost Management アクションにアクセスできる場合は、予算を除くすべての推奨事項をページに表示できます。不足している IAM アクションをポリシーに追加することについてのエラーメッセージを参照してください。

このウィジェットには以下の推奨事項が表示されます。

予算

このウィジェットは、以下の例のように、注意が必要な予算がある場合に推奨事項を表示します。

- コストと使用量の予算を超えている、または超過すると予測されている場合
- Savings Plans、予約のカバレッジ、利用率が定義された予算基準を下回った場合
- カスタム予算アラートのしきい値を超えた場合

コストモニターウィジェットとは異なり、このウィジェットには以下に関連する情報が表示されます。

- 超過すると予測されているが、まだ超過していない予算
- 警戒状態にあるが、まだ超過していない予算
- Savings Plans または予約の利用とカバレッジ予算

コスト異常検出

このウィジェットには、注意が必要な異常が検出された場合の推奨事項が表示されます。コストモニターウィジェットとは異なり、このウィジェットには、過去 90 日間に検出された、コストへの影響総額が 100 USD を超え、影響率が 40% を超えるコスト異常が表示されます。

コスト最適化

このウィジェットは、次の理由による推奨事項を表示します。

- コスト効率を高め、AWS 請求額を下げるのに役立つため。推定節約額の合計が前月のコストの 5% 以上になった時点の AWS Cost Optimization Hub の推奨事項が表示されます。
- 十分に活用されていない Savings Plans や予約を確認するため
- 今後 30 日以内に有効期限が切れる Savings Plans または予約を更新するため

AWS 無料利用枠

このウィジェットには、使用量がいずれかのサービスに設定された無料利用枠使用制限の 85% を超えた場合の推奨事項が表示されます。

IAM の使用開始

このウィジェットには、次のような AWS クラウド財務管理のベストプラクティスを実装するための推奨事項が表示されます。

- 支出を追跡、管理するための予算を作成する
- 有効な Savings Plans はあるが、Savings Plans の予算を作成していない
- リザーブドインスタンスの契約はあるが、リザーブドインスタンス予算を作成していない
- 適切な担当者が AWS の通信を受信できるように、代替の請求連絡先を追加する
- コスト異常モニターを設定していない

関連リソース

詳細については、次のトピックを参照してください。

- AWS Budgets を使用したコストの管理
- AWS コスト異常検出で異常な支出を検出する
- Cost Optimization Hub
- AWS 無料利用枠 の使用
- 追加の請求連絡先 E メールアドレスの設定

コスト配分カバレッジ

組織内でコストを可視化し、説明責任を果たすには、チーム、アプリケーション、環境、またはその他の面にコストを配分することが重要です。このウィジェットには、コストカテゴリとコスト配分タ

グに未割り当てのコストが表示されるため、コストを整理するためのアクションを取るべき部分がわかります。

コスト配分カバレッジは、作成したコストカテゴリまたはコスト配分タグキーに値が割り当てられていないコストの割合として定義されます。

Example 例

- 今月の支出額は 100 USD で、コストを個々のチームごとに整理するためのコストカテゴリ (「チーム」という名前) を作成しました。
- チーム A のコストカテゴリの値は 40 USD、チーム B のコストカテゴリの値は 35 USD です。また未割り当ての 25 USD があります。
- この場合、コスト配分カバレッジは 25/100 = 25% です。

未配分コスト指標が低いということは、コストは組織にとって重要な側面に沿って適切に配分されているということです。詳細については、「Best Practices for Tagging AWS Resources」ホワイトペーパーの「Building a cost allocation strategy」を参照してください。

このウィジェットは、当月の直近の未割り当てコスト率を前月のすべての未割り当てコスト率と比較します。このウィジェットには、最大 5 つのコスト配分タグキーまたは 5 つのコストカテゴリが表示されます。コスト配分タグキーまたはコストカテゴリのいずれかが 5 つを超える場合は、ウィジェットの設定を使用して必要なものを指定してください。

Cost Explorer を使用して未割り当てのコストをより詳細に分析するには、コストカテゴリまたはコスト配分名を選択します。

コストカテゴリまたはコスト配分タグのコスト配分カバレッジを改善するには、コストカテゴリのルールを編集するか、AWS タグエディタでリソースのタグ付けを改善します。

詳細については、次のトピックを参照してください。

- AWS Cost Categories を用いてコストを管理する
- AWS コスト配分タグを使用する
- Using Tag Editor

コスト削減の機会

このウィジェットには、コストと AWS の請求額の削減に役立つ Cost Optimization Hub からの推奨事項が表示されます。これには次が含まれる場合があります。

- 未使用のリソースを削除する
- 過剰にプロビジョニングされたリソースを適切なサイズに調整する
- Savings Plans を購入または予約する

削減の機会ごとに、ウィジェットには毎月の推定削減額が表示されます。推定削減額は重複せず、推奨される削減機会ごとに自動的に調整されます。

Example 例

- ###### *A* と###### *B* の 2 つの Amazon EC2 インスタンスがあるとします。
- Savings Plans を購入した場合、###### *A* のコストを 20 USD、###### *B* のコストを 10 USD 削減できるため、合計 30 USD の削減になります。
- ただし、###### *B* がアイドル状態の場合、ウィジェットは Savings Plans を購入する代わりにこのインスタンスを終了するように勧める場合があります。削減の機会があれば、アイドル状態の###### *B* を終了することでどれだけ削減できるかがわかります。

このウィジェットで節約できる機会を確認するには、Cost Optimization Hub ページにアクセスするか、コスト管理設定ページを使用してオプトインできます。

請求ダッシュボードを理解する

> **Note**
>
> ナビゲーションペインのレガシーページセクションを使用して、以前のバージョンの [請求] ホームページにアクセスできます。[請求] ホームページは 2024 年 6 月 1 日までご利用いただけます。

請求ダッシュボード (旧コンソール) を理解する

AWS 請求コンソールのダッシュボードページを使用して、AWS の使用料金の全般表示を取得できます。また、最もコストの高いサービスまたはリージョンを特定したり、過去数か月間の使用料金の

傾向を表示したりするために使用することもできます。ダッシュボードページを使用して、AWS 使用状況のさまざまな内訳を確認できます。これは、無料利用枠のユーザーである場合に特に便利です。AWS のコストおよび請求書に関する詳細を表示する場合は、左側のナビゲーションペインにある [Billing details] (請求の詳細) を選択します。ダッシュボードレイアウトは、ページ上部にある歯車アイコンをクリックすることで、ユースケースに合わせていつでもカスタマイズできます。

AWS 請求コンソールのダッシュボードで AWS のコストを表示する場合は、Cost Explorer をオンにする必要はありません。Cost Explorer をオンにしてコストと使用状況データの追加のビューにアクセスするには、「Enabling AWS Cost Explorer」 を参照してください。

AWS 請求コンソールとダッシュボードを開くには

- AWS Management Console にサインインして AWS Billing and Cost Management コンソール (https://console.aws.amazon.com/billing/) を開きます。

デフォルトでは、コンソールに AWS[Billing Dashboard] (請求ダッシュボード) ページが表示されます。

ダッシュボードページについて

AWS 請求コンソールのダッシュボードには、次のセクションが含まれています。希望するレイアウトを作成するには、[Dashboard] (ダッシュボード) ページのセクションをドラッグアンドドロップします。表示されるセクションとレイアウトをカスタマイズする場合は、ページ上部にある歯車アイコンをクリックします。これらの設定は、[Dashboard] (ダッシュボード) ページへの継続的なアクセス用に保存されます。ビューからセクションを一時的に削除するには、各セクションの x アイコンを選択します。すべてのセクションを表示するには、ページ上部にある [Refresh] (更新) を選択します。

AWS の概要

このセクションは、すべてのアカウント、AWS リージョン、サービスプロバイダー、およびサービスにわたる AWS のコスト、ならびにその他の KPI の概要です。[Total compared to prior period] (前の期間と比較した合計) には、直近の請求での AWS の合計コストが表示されます。また、当月の予測コストの合計との比較も行います。カードの歯車アイコンをクリックして、表示する KPI を決定します。

最も高いコストと使用量の詳細

このセクションには、過去 1 か月 (MTD) の推定支出ごとの上位サービス、アカウント、または AWS リージョン が表示されます。表示する項目を選択するには、右上の歯車アイコンをクリックします。

上位 5 つのサービスごとのコスト傾向

このセクションでは、直近 3～6 回分の請求期間における上位 5 つのサービスのコスト傾向を確認できます。

セクションの上部で、グラフの種類と期間のいずれかを選択できます。歯車アイコンを使用して追加設定を調整できます。

行には以下の情報が示されます。

- 平均: 直近 3 か月間の平均コスト。
- 合計: 直近の請求での合計。
- 傾向: [Total] (合計) 列を [Average] (平均) 列と比較する。

アカウントのコスト傾向

このセクションには、直近 3～6 回分の請求期間におけるアカウントのコスト傾向が表示されます。AWS Organizations の管理アカウントである場合、[cost trend by top five section] (上位 5 つのセクションごとのコスト傾向) には、直近 3～6 回分の請求期間における上位 5 つの AWS アカウントが表示されます。請求書がまだ発行されていない場合、このセクションにはデータが表示されません。

セクションの上部で、グラフの種類と期間のいずれかを選択できます。歯車アイコンを使用して追加設定を調整します。

行には以下の情報が示されます。

- 平均: 直近 3 か月間の平均コスト。
- 合計: 直近の請求での合計。
- 傾向: [Total] (合計) 列を [Average] (平均) 列と比較する。

ダッシュボードでは、次のグラフを表示できます。

- 支出の概要
- サービスごとの過去 1 か月の支出

- 支出ごとの過去 1 か月の上位サービス

支出の概要

[支出の概要] グラフには、先月に支出した金額、過去 1 か月の AWS 使用量、および今月どの程度支出する可能性があるかの予測を表示します。予測とは、過去の AWS のコストに基づいた見積りです。したがって、実際の月次コストが予測と一致しない場合があります。

サービスごとの過去 1 か月の支出

[Month-to-Date Spend by Service] (サービスごとの過去 1 か月の支出) グラフには、最も頻繁に使用する上位のサービスと、そのサービスがコストに占める割合が表示されます。[サービスごとの過去 1 か月の支出] グラフには予測は含まれません。

支出ごとの過去 1 か月の上位サービス

[支出ごとの過去 1 か月の上位サービス] グラフには、最も頻繁に使用するサービスと、過去 1 か月に発生したコストが表示されます。[支出ごとの過去 1 か月の上位サービス] グラフには予測は含まれません。

> **Note**
>
> 請求情報とコスト管理コンソールの更新時間は、請求データを反映するために約 24 時間です。

AWS 請求データと AWS Cost Explorer データの違いを理解する

請求データ

請求データは、AWS Billing and Cost Management コンソールの [請求] ページと [支払い] ページ、および AWS が発行する請求書に表示されます。請求データは、前月の請求期間における実際の請求額と、その月のサービス利用状況に基づき現在の請求期間に発生した推定請求額を把握するのに役立ちます。請求書は AWS に対する未払いの金額を表します。

Cost Explorer データ

Cost Explorer データは次の場所に表示されます。

- Billing and Cost Management ホームページ
- Cost Explorer、Budgets、コスト異常検出のページ
- カバレッジと使用状況に関するレポート

Cost Explorer は詳細な分析をサポートしているため、節約の機会を特定できます。Cost Explorer データは、より詳細なディメンション (アベイラビリティーゾーンやオペレーティングシステムなど) を提供します。また、請求データと比較すると違いが見られる可能性のある特徴が含まれています。[Cost Management] 設定ページでは、連結アカウントへのアクセスや、履歴データおよび詳細なデータの設定など、Cost Explorer データの設定を管理できます。詳細については、「Cost Explorer へのアクセスの管理」を参照してください。

償却コスト

請求データは常に現金ベースで表示されます。これは AWS が毎月請求する金額を表します。例えば、9 月に全額前払いで 1 年分の Savings Plans を購入した場合、AWS は 9 月の請求期間にその Savings Plans の全額を請求します。その際、請求データには、Savings Plans の 9 月の全費用が含まれます。これで、AWS 請求書の内容を把握し、検証して、期日通りに支払えます。

一方、Cost Explorer データを使用して、償却されたコストを表示することもできます。コストが償却されると、前払い料金がその契約期間全体にわたって分散または償却されます。前の例では、Cost Explorer を使用して Savings Plans の償却ビューを表示できます。1 年分全額前払いの Savings Plans 購入は、契約対象の 12 か月間に均等に分散されます。償却コストを参考に、予約ポートフォリオや Savings Plans に関連する 1 日の実効コストを把握できます。

AWS のサービス のグループ分け

請求データを使用すると、請求書で AWS 請求額が AWS のサービス ごとにグループ分けされます。詳細な分析に役立つように、Cost Explorer では一部のコストを異なる方法でグループ化します。

例えば、Amazon Elastic Compute Cloud のコンピューティングコストを、Amazon Elastic Block Store ボリュームや NAT ゲートウェイなどの付随的なコストとの比較で把握するとします。Cost Explorer は、Amazon EC2 のコストを単一のグループに分類する代わりに、コストを [EC2 - インスタンス] と [EC2 - その他] にグループ化します。

別の例として、データ転送コストの分析に役立つように、Cost Explorer は転送コストをサービスごとにグループ化します。請求データでは、データ転送コストは [データ転送] という名前の 1 つのサービスにグループ化されます。

当月の推定請求額

請求データと Cost Explorer データは、1 日に 1 回以上更新されます。更新される頻度は異なる場合があります。その結果、月次の推定料金に差異が発生することがあります。

Rounding

請求データと Cost Explorer データは、別の精度で処理されます。例えば Cost Explorer のデータは、時間単位およびリソースレベルの精度で利用できます。請求データは月単位で、リソースレベルの詳細は提供されません。その結果として、四捨五入によって請求データと Cost Explorer データに差異が発生する場合があります。これらのデータソースが異なる場合は、請求書に記載されている金額が最終的な AWS への未払い金額になります。

割引、クレジット、返金、税金の表示

[請求] ページ (例えば、[サービス別料金] タブ) の請求データには返金が含まれませんが、Cost Explorer データには含まれます。返金が行われると、他の請求タイプとの差異が発生する場合があります。

例えば、税金の一部が返金されたとします。[請求] ページの [サービス別税金] タブには、引き続き税額の全額が表示されます。Cost Explorer データには、返金後の税額が表示されます。

アカウントの管理

この章の手順を使用して、アカウント設定、デフォルトの通貨、代替の連絡先などを管理します。

の閉鎖については AWS アカウント、「 AWS Account Management リファレンスガイド」の「アカウントの閉鎖」を参照してください。

トピック

- の管理 AWS アカウント
- インドでのアカウントの請求管理
- 登録販売者の検索

の管理 AWS アカウント

AWS Billing and Cost Management コンソールを使用して、次のアカウント設定を変更できます。

- 連絡先および代替連絡先情報
- 請求書の支払いに使用する通貨
- AWS リージョン リソースを作成できる
- 納税登録番号

[アカウント] ページにサインインするには

以下のオプションのいずれかを選択します。

- [アカウント] ページにサインインして請求情報とコスト管理コンソール (https://console.aws.amazon.com/billing/home?#/account) を開きます。
- にサインインし AWS Management Console、右上隅でアカウント名を選択し、アカウント を選択します。

> 注記：
>
> - アカウントページの一部のセクションを編集 AWS アカウントのルートユーザー できるのは、 のみです。[編集] オプションが表示されていない場合は、ルートユーザーに切り替えます。

- 請求先 AWS アカウント 住所がインドにある については、「」を参照してくださいインドでのアカウントの請求管理。

トピック

- アカウント名、 AWS アカウントのルートユーザー パスワード、 AWS アカウント ルートユーザーの E メールアドレスの編集
- 連絡先情報の編集
- 代替連絡先の追加または更新
- 秘密の質問の追加または編集
- AWS リージョン の有効化と無効化
- AWS Billing and Cost Management コンソールへの IAM アクセスのアクティブ化
- アカウント契約情報を管理する
- 納税者番号の更新と削除
- 税設定の継承をオンにする
- 米国の免税を管理する
- の閉鎖 AWS アカウント

アカウント名、 AWS アカウントのルートユーザー パスワード、 AWS アカウント ルートユーザーの E メールアドレスの編集

[アカウント] ページを使用して、アカウント名、 AWS アカウントのルートユーザー パスワード、またはメールアドレスを編集できます。この場合の E メールは、 ルートユーザーの E メールアドレスを指します。これは、アカウントへのサインインに使用する E メールアドレスです。

アカウント名、パスワード、または E メールアドレスの更新の詳細については、「 AWS Account Management リファレンスガイド」の「ルートユーザー AWS アカウント の名前、E メールアドレス、またはパスワードの更新」を参照してください。

連絡先情報の編集

郵送先住所、電話番号、ウェブサイトアドレスなど、アカウントに関連付けられた連絡先情報を変更できます。

連絡先情報の更新の詳細については、「 AWS Account Management リファレンスガイド」のAWS アカウント 「連絡先情報の更新」を参照してください。

代替連絡先の追加または更新

代替連絡先を使用すると AWS 、 は、利用できない場合でも、お客様のアカウントに関する問題を別の人に連絡することができます。代替の連絡先は、特定の人物である必要はありません。請求、運用、およびセキュリティ関連の問題を管理するチームがある場合は、代わりに E メール配布リストを追加できます。

代替連絡先の例

AWS は、次のシナリオで各問い合わせタイプに通知します。

- [請求] - 月次請求書が入手可能になったとき、または支払い方法を更新する必要がある場合。[E メールで PDF 版請求書を受け取る] が [請求設定] で有効になっている場合、代替の請求先も PDF 請求書を受け取ります。通知は AWS のサービス チームから行うことができます。
- [オペレーション] - サービスが複数の AWS リージョン で一時的に利用できない場合、または利用できなくなる場合。また、連絡先は操作に関する通知も受信します。通知は AWS のサービス チームからのものである可能性があります
- セキュリティ — セキュリティ、 AWS 信頼、安全、または AWS のサービス チームからの AWS 通知がある場合。これらの通知には、セキュリティ上の問題や、 AWS アカウント での潜在的な不正使用または不正行為が含まれることがあります。通知は、 AWS アカウント の使用に関連するセキュリティ関連のトピックに関する AWS のサービス チームからのものである可能性があります。件名または氏名フィールドに機密情報を含めないでください。これは、E メールによる通信に使用される可能性があるためです。

代替アカウントの連絡先の管理の詳細については、「 AWS Account Managementリファレンスガイド」の「代替アカウントの連絡先」を参照してください。

秘密の質問の追加または編集

AWS アカウント セキュリティチャレンジの質問の詳細については、「 AWS Account Management リファレンスガイド」の「セキュリティチャレンジの質問の更新」を参照してください。

AWS リージョン の有効化と無効化

この機能が利用可能になる前に、 AWS はすべての新しいリージョンをデフォルトで有効にしました。これにより、ユーザーはどのリージョンでもリソースを作成できます。これで、 がリージョン

AWS を追加すると、新しいリージョンはデフォルトで無効になります。リージョンを有効にして、ユーザーがその新しいリージョンでリソースを作成可能にできます。

アカウントのリージョンの管理の詳細については、「 AWS Account Management リファレンスガイド」のAWS リージョン 「アカウントで使用できる を指定する」を参照してください。

AWS Billing and Cost Management コンソールへの IAM アクセスのアクティブ化

デフォルトでは、 内の IAM ロール AWS アカウント は請求情報とコスト管理コンソールにアクセスできません。これは、IAM ユーザーまたはロールに、特定の請求機能へのアクセス権を付与する IAM ポリシーがある場合でも当てはまります。ルートユーザーは、[IAM アクセスをアクティブ化] 設定を使用して、IAM ユーザーおよびロールに、Billing and Cost Management コンソールへのアクセスを許可できます。

Billing and Cost Management コンソールへのアクセスを提供する

1. [アカウント] ページにサインインして請求情報とコスト管理コンソール (https://console.aws.amazon.com/billing/home?#/account) を開きます。
2. [IAM ユーザーとロールの請求情報へのアクセス] の横にある、[編集] を選択します。
3. [IAM アクセス許可をアクティブ化] を選択します。
4. [更新] を選択します。

この機能の詳細については、「請求情報とコスト管理コンソールへのアクセスをアクティベートする」を参照してください。

アカウント契約情報を管理する

このアカウントを公共部門の顧客へのサービスに使用する場合、このセクションに契約の詳細を入力します。

契約情報を管理するには

1. [アカウント] ページにサインインして請求情報とコスト管理コンソール (https://console.aws.amazon.com/billing/home?#/account) を開きます。
2. [アカウント契約情報] で、[編集] を選択します。
3. 更新した情報を入力し、[更新] を選択します。

納税者番号の更新と削除

1 つ以上の税登録番号を更新または削除するには、次の手順に従います。

> **Note**
>
> 国が税金設定ページのドロップダウンに表示されていない場合、現時点では AWS はその国の税登録を収集しません。

税登録番号を更新するには

1. にサインイン AWS Management Console し、https://console.aws.amazon.com/billing/ で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで [課税設定] を選択します。
3. [納税登録] で、編集する番号を選択します。
4. [納税登録の管理] で、[編集] を選択します。
5. 更新した情報を入力し、[更新] を選択します。

税登録番号は、1 つまたは複数削除できます。

税登録番号を削除するには

1. にサインイン AWS Management Console し、https://console.aws.amazon.com/billing/ で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで [課税設定] を選択します。
3. [納税登録] で、削除する納税登録番号を選択します。
4. [納税登録の管理] で、[TRN の削除] を選択します。
5. [Delete tax registration (税登録の削除)] ダイアログボックスで、[Delete (削除)] を選択します。

税設定の継承をオンにする

[税金設定の継承] を有効にすると、メンバーアカウントで納税登録情報を使用できます。有効にすると、税金登録情報が他のアカウントに追加され AWS Organizations 、冗長情報の登録作業が節約されます。税金請求書は一貫した税金情報を使用して処理され、メンバーアカウントからの使用状況が 1 つの税金請求書にまとめられます。

メモ

- 税設定の継承は、メンバーアカウントが追加された後のアカウントでのみ使用できます。
- 税の継承をオフにすると、メンバーアカウントはアカウントの元の TRN 設定に戻ります。アカウントに TRN が設定されていなかった場合、TRN は割り当てられません。

税登録情報には、次の情報が含まれます。

- 法人の名称
- 課税住所
- 税登録番号
- 特別免除 (米国の売上税免除には適用されません)

税設定の継承を有効にするには

1. にサインイン AWS Management Console し、https://console.aws.amazon.com/billing/ で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで [課税設定] を選択します。
3. [納税登録] で、[税金設定の継承を有効化] を選択します。
4. ダイアログボックスで、[有効化] を選択します。

米国の免税を管理する

お住まいの州が条件を満たしていれば、[税金設定] ページで米国での免税を管理できます。免除のためにアップロードしたドキュメントは、24 時間以内に AWS Support で確認されます。

Note

Billing and Cost Management コンソールの [課税設定] ページにある [免税] タブを表示する IAM 許可が付与されている必要があります。
IAM ポリシーの例については、「IAM ユーザーが米国の免税状況を確認したり、ケースを作成したりできるようにします。 AWS Support」を参照してください。

米国の免税をアップロードまたは追加するには

1. にサインイン AWS Management Console し、https://console.aws.amazon.com/billing/ で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで [課税設定] を選択します。
3. [免税] を選択します。
4. すべてのアカウントを選択して免税を追加します。[免税の管理] を選択し、[免税の追加] を選択します。

    a. 連結アカウントとしてログインしている場合は、連結アカウントにのみ免税を追加できます。

    b. 支払者アカウントとしてログインしている場合は、支払者アカウントと連結アカウントの両方に免税を追加できます。
5. 免税タイプと税務管轄区を指定します。
6. 証明書ドキュメントをアップロードします。
7. 情報を確認し、[Submit] (送信) を選択します。

24 時間以内に、追加情報が必要な場合、またはドキュメントのいずれかが有効でなかった場合は、サポートケースを通じて AWS Support から通知されます。

免除が承認されると、その免税は、[免税] タブに、[アクティブ] (アクティブ) の有効期間とともに表示できます。

免税が拒否された場合には、サポートケースを通じて通知があります。

の閉鎖 AWS アカウント

の閉鎖の詳細については AWS アカウント、「 AWS Account Management リファレンスガイド」の「アカウントの閉鎖」を参照してください。

インドでのアカウントの請求管理

新しいアカウントにサインアップし、連絡先住所としてインドを選択した場合、 AWS ユーザー契約はインドのローカルセラーであるAmazon Web Services インディアプライベートリミテッド (AWS インド) との間になります。 AWS 請求はインドが管理し、請求総額はドルではなくルピーで表示されます。 AWS インドでアカウントを作成した後は、連絡先情報の国を変更することはできません。

インドの住所を持つ既存のアカウントをお持ちの場合、アカウントは、アカウントを開設した時期に応じて、 AWS AWS インドかインドのどちらかになります。 AWS AWS アカウントがウィズかインドかについては、を参照してください登録販売者の検索。 AWS 既存のお客様であれば、引き続きご利用いただけます AWS アカウント。また、 AWS アカウント AWS とインドのアカウントの両方を持つこともできますが、両者を同じ支払いファミリーに統合することはできません。の管理方法については AWS アカウント、を参照してくださいの管理 AWS アカウント。

トピック

- AWS インドへの登録
- AWS インドアカウントの管理

AWS インドへの登録

AWS インドは地元の売り手です AWS. AWS 連絡先の住所がインドにある場合にインドのアカウントにサインアップするには、AWS Account Management リファレンスガイドの「インドのアカウント管理」を参照してください。

AWS インドアカウントの管理

「アカウント設定」 ページを使用して、以下のタスクを実行します。

- 顧客確認情報を編集します。
- 顧客確認の管理
- ユーザー名、パスワード、または E メールアドレスを編集する
- 代替連絡先の追加、更新、またはリモート
- 連絡先情報を編集する

これらのタスクについて詳しくは、『AWS Account Management リファレンスガイド』の「AISPL アカウントの管理」を参照してください。

Billing and Cost Management コンソールの税金設定ページを使用して、次のタスクを実行します。

- Permanent Account Number を追加または編集する
- 複数の Permanent Account Number を編集する
- 複数の Goods and Service Tax 番号を編集する
- 税金請求書を表示する

Permanent Account Number を追加または編集する

Permanent Account Number (PAN) をアカウントに追加して編集できます。

PAN を追加または編集するには

1. AWS Management Console にサインインし、https://console.aws.amazon.com/billing/ AWS Billing and Cost Management にあるコンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで [課税設定] を選択します。
3. [Tax Settings] ナビゲーションバーで、[Edit] を選択します。
4. [Permanent Account Number (PAN)] に PAN を入力し、[Update] を選択します。

複数の Permanent Account Number を編集する

アカウントで、複数の Permanent Account Number (PAN) を編集することができます。

複数の PAN 番号を編集するには

1. AWS Management Console にサインインし、https://console.aws.amazon.com/billing/ AWS Billing and Cost Management でコンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで [課税設定] を選択します。
3. [Manage Tax Registration Numbers (税登録番号の管理)] で、編集する PAN 番号を選択します。
4. [Manage Tax Registration (税登録の管理)] で、[Edit (編集)] を選択します。
5. 変更するフィールドを更新し、[Update (更新)] を選択します。

複数の Goods and Service Tax 番号を編集する

アカウントで、複数の Goods and Service Tax 番号 (GST) を編集することができます。

複数の GST 番号を編集するには

1. AWS Management Console にサインインし、https://console.aws.amazon.com/billing/ AWS Billing and Cost Management でコンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで [Tax Settings] を選択します。
3. [Manage Tax Registration Numbers (税登録番号の管理)] で、編集する GST 番号、または [Edit all (すべて編集)] を選択します。

4. [Manage Tax Registration (税登録の管理)] で、[Edit (編集)] を選択します。
5. 変更するフィールドを更新し、[Update (更新)] を選択します。

税金請求書を表示する

コンソールで税金請求書を表示することができます。

税金請求書を表示するには

1. AWS Management Console にサインインし、https://console.aws.amazon.com/billing/ AWS Billing and Cost Management でコンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで [Bills] を選択します。
3. 下にスクロールし、[請求書] タブを選択します。
4. [税金請求書] セクションで、[ドキュメント ID] に記載されている請求書のリンクを選択します。

> **Note**
> [税金請求書] セクションは、利用可能な税金請求書がある場合にのみ表示されます。

登録販売者の検索

AWS は定期的に事業構造を見直し、 の顧客をサポートします。 は、登録販売者 (SOR) AWS を作成します。SOR は、 を再販するために管轄区域 (国) 内に設立された現地の事業体です AWS のサービス。現地の SOR は、現地の法律および規制の対象となります。SOR は現地のお客様との契約当事者となるため、お客様は現地の事業体から請求を受け、支払いを送金することができます。にサインアップすると AWS アカウント、請求情報と連絡先情報に基づいて SOR が自動的にアカウントに割り当てられます。

アカウントの SOR を見つけるには

1. にサインイン AWS Management Console し、https://console.aws.amazon.com/billing/ で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. [支払い設定] を選択し、デフォルトのお支払い方法の下にある [サービスプロバイダー] の下の名前を確認します。
3. この情報は、[税金設定] ページの [販売者] 列でも確認できます。

連絡先情報、郵送先住所、請求先住所がアカウントページと支払い設定ページ up-to-date にあることを確認することをお勧めします。

ビジネスアカウントをお持ちの場合は、支払者アカウントとメンバー (連結) アカウントの [税金設定] ページで税務情報が正しいことを確認します。

AWS はこの情報を使用して、希望する支払い通貨、税金設定、会社の正式名称、住所などの適切なヘッダー情報を含む請求書を準備して発行します。詳細については、「月次請求チェックリスト」を参照してください。

現在の SOR

この表を使用して、以下の国の SOR を検索してください。

アカウントの国/地域	AWS SOR	郵送先住所
オーストラリア	Amazon Web Services オーストラリア株式会社 (ABN: 63 605 345 891)	レベル 37、2-26 パークストリート、ニューサウスウェールズ州シドニー、2000、オーストラリア
ブラジル	Amazon AWS Serviços ブラシリア。	A. プレジデンテ· ジュセリーノ· クビシェック、2.041、トーレE-18階と19階、ヴィラ· ノバ· コンセイサオ、サンパウロ、ブラジル
カナダ	Amazon Web Services カナダ株式会社	120 Bremner Blvd、26階、オンタリオ州トロント、M5J 0A8、カナダ
インド	Amazon Web Services インディアプライベートリミテッド (旧アマゾンインターネットサービスプライベートリミテッド)	ユニット番号 1401 ~ 1421 インターナショナルトレードタワー、ネループレイス、デリー 110019、インド
日本	Amazon Web Services 日本合同会社	〒141-0021東京都品川区上大崎三丁目1-1

アカウントの国/地域	AWS SOR	郵送先住所
マレーシア	Amazon Web Servicesマレーシア Sdn Bhd.（登録番号 201501028710 (1154031-W))	26階と35階、ザ・ガーデンズ・ノースタワー、リンカラン・サイード・プトラ、ミッドバレーシティ、クアラルンプール、59200、マレーシア
ニュージーランド	Amazon Web Servicesニュージーランド有限会社	レベル 5、18 ヴァイアダクト・ハーバー・アベニュー、オークランド、1010、ニュージーランド
シンガポール	Amazon Web Services Singapore Private Limited	23 チャーチストリート、#10-01、シンガポール 049481
南アフリカ	Amazon Web Services South Africa Proprietary Limited	ウェンブリー・スクエア 2、134 ソラン・ロード、ガーデンズ、ケープタウン、8001、南アフリカ
韓国	Amazon Web Services Korea LLC	〒06142大韓民国ソウル市江南区テヘラン路 231 イーストタワー L12
トルコ	Amazon Web Services Turkey Pazarlama, Teknoloji ve Danışmanlık Hizmetleri Limited Şirketi	Esentepe Mahallesi Bahar Sk. Özdilek/River Plaza/Wyndham Grand Hotel Apt. No: 13/52 Şişli/İstanbul, Turkey
EMEA — ヨーロッパ、中東、またはアフリカ内のあらゆる国 (南アフリカとトルコを除く)	Amazon Web Services EMEA SARL	38 アベニュー・ジョン・F・ケネディ、L-1855、ルクセンブルク

アカウントの国/地域	AWS SOR	郵送先住所
この表に記載されていないその他すべての国	Amazon Web Services, Inc.	米国ワシントン州シアトルテリーアベニューノース 410番地 98109-5210

関連リソース

がアカウントの場所 AWS を決定する方法の詳細については、「 がアカウントの場所 AWS を決定する方法」を参照してください。

SOR について質問がある場合は、アカウントと請求に関するサポートケースを作成し、「その他の請求に関する質問」オプションを指定します。

税務ヘルプの詳細については、「Amazonウェブ サービス税務ヘルプ」を参照してください。

AWS カスタマーアグリーメントの詳細については、「 AWS カスタマーアグリーメント」を参照してください。

月次請求チェックリスト

AWS は、ユーザーが AWS Billing and Cost Management コンソールに入力した情報を使用して、設定された支払い通貨、税金設定、会社の正式名称、住所など、適切なヘッダー情報と共に請求書を作成し発行します。

これらの情報が不足していたり間違っていたりすると、AWS ユーザー側で使用も処理もできない、不正確な請求書が発行される可能性があります。

1 か月の請求期間が終了するときは、事前にこちらのチェックリストを使って請求書を確認し、AWS アカウント の情報が最新のものであることを確認します (所要時間 10 分)。

目次

- 発注書の残高と有効期限を確認する
- 税金の設定を確認する
- 税金設定の継承を有効にする
- 請求連絡先情報を更新する
- 支払い通貨を確認する

発注書の残高と有効期限を確認する

調達から支払いまでのプロセスの一環として、発注書を使って AWS のサービス を調達し、支払いの請求書を承認することが可能です。請求や支払いの問題が発生することを避けるため、発注書の有効期限が切れていないか、あるいは残高が不足していないかを確認します。

発注書の残高と有効期限を確認するには

1. AWS Billing and Cost Management コンソールの [発注書] ページに進みます。発注書のダッシュボードには、発注書のステータスが表示されています。
2. 発注書を選択して、[購入の詳細] ページを参照します。
3. 発注書の [残高] と [有効期限] のフィールドを確認します。

Tip

- E メール通知を設定しておくと、発注書の有効期限が切れたり残高が不足したりすることに前もって対応できます。詳細については、「発注所の通知を有効にする」を参照してください。
- 発注書を追加して請求書で使用する方法については、「発注書を追加する」を参照してください。

税金の設定を確認する

税務上の目的のためにアカウントの所在地を判断するとき、AWS は、アカウントに関連付けられている納税登録番号 (TRN) と会社の正式名称を使用します。TRN は、付加価値税 (VAT) 番号、VAT ID、VAT 登録番号、事業者登録番号とも呼ばれます。

税金の設定を確認するには

1. Billing and Cost Management コンソールの [課税設定] のページに進みます。
2. [納税登録] タブの下で、編集するアカウント ID を選択します。
3. [納税登録の管理] で [編集] を選択します。
4. 更新した情報を入力し、[更新] を選択します。

詳細については、「納税者番号の更新と削除」を参照してください。

税金設定の継承を有効にする

AWS Organizations に含まれる管理アカウントとメンバーアカウントは、TRN が同じでも異なっても、どちらでも問題ありません。組織でメンバーアカウントに異なる TRN を使用する必要がある場合を除き、税金設定の継承は有効にしておくことが推奨されます。

管理アカウントからこの設定を有効にすると、税登録情報は組織内のメンバーアカウントに追加されます。これにより、個々のアカウントにこの情報を入力する手間を省くことができます。税金請求書は一貫した税金情報を使用して処理され、メンバーアカウントによる使用は、1 つの税金請求書に統合されます。

税金設定の継承を有効にするには

1. Billing and Cost Management コンソールの [課税設定] のページに進みます。
2. [納税登録] で、[税金設定の継承を有効化] を選択します。
3. ダイアログボックスで、[有効化] を選択します。

米国での税控除に必要な、書類の管理方法については、「米国の免税を管理する」を参照してください。

請求連絡先情報を更新する

請求連絡先情報が正しいことを確認します。AWS は、請求または支払いに関して連絡事項がある場合は、こちらの情報を使ってお客様に連絡します。請求連絡先は、次の 2 つのページから追加できます。

- [お支払いの詳細設定] のページ
- [アカウント] のページ

お支払いの詳細設定のページから請求連絡先を追加するには

1. Billing and Cost Management コンソールの [お支払いの詳細設定] のページに進みます。
2. [デフォルトの支払いの詳細設定] セクションで [請求連絡先のメールアドレス] フィールドを確認します。AWS は、請求または支払いに関して連絡事項がある場合、こちらの連絡先を使用します。
3. [Edit] (編集) を選択します。
4. [請求連絡先のメールアドレス - オプション] フィールドに、AWS の請求関連のメール通知、支払いのリマインダー、支払いサポートの通知、の送付先に指定するメールアドレスを入力します。メールアドレスは 15 件まで追加できます。
5. [Save changes] (変更の保存) をクリックします。

別の連絡先を追加しておくと、AWS アカウントのルートユーザー の連絡先が使用できなくなった場合でも、AWS からアカウントの問題に関する連絡を受け取ることができます。代替連絡先には、請求書を受け取るメールアドレスを指定できます。代替連絡先からは、請求、請求書、お支払に関する問題、について、AWS へ問い合わせることができます。

代替の連絡先は、特定の人物である必要はありません。例えば、組織内に請求、オペレーション、セキュリティ関連問題を管理するチームがいる場合は E メール配布リストを追加できます。

アカウントページから代替連絡先情報を更新するには

1. Billing and Cost Management コンソールの [アカウント] ページに進み、下の [代替連絡先] セクションまでスクロールします。
2. [請求] フィールドで連絡先情報を確認し、請求書を受け取るメールアドレスを確認します。

代替連絡先の使い方については、「代替連絡先の追加または更新」を参照してください。

支払い通貨を確認する

支払い通貨とは、デフォルトの支払い方法に適用される通貨のことです。デフォルトのサービスプロバイダーの請求書に表示される通貨もこの支払い通過です。組織によっては間違った通貨で発行された請求書は処理できないため、支払い通貨が正確であるか確認しておくことは重要です。

支払い通貨を確認するには

1. Billing and Cost Management コンソールの [お支払いの詳細設定] に進みます。
2. [Default payment preferences] (デフォルトの支払いの詳細設定) セクションで、[Edit] (編集) を選択します。
3. [支払い通貨] のセクションで、[デフォルトの支払い通貨] が正しい通貨であることを確認します。

支払い方法の詳細については、「クレジットカードと ACH の支払い方法の管理」を参照してください。

AWS 請求のヘルプを利用する

AWS Billing and Cost Management コンソールのツール、料金、お支払い方法についてご質問がある場合は、さまざまなリソースを利用できます。

トピック

- AWS ナレッジセンター
- に連絡する AWS Support
- 請求対象の使用状況の確認
- 無料利用枠の使用量のモニタリング

AWS ナレッジセンター

すべての AWS アカウント所有者は、無料でアカウントおよび請求サポートにアクセスできます。AWS ナレッジセンターにアクセスすると、質問に対する回答をすばやく見つけることができます。

質問またはリクエストを検索するには

1. AWS ナレッジセンターを開きます。
2. [Billing Management (請求管理)] を選択します。
3. トピックのリストをスキャンして、類似する質問を見つけます。

に連絡する AWS Support

AWS Support に連絡することは、質問について AWS アソシエイトに連絡を取るための最も速く、最も直接的な方法です。AWS Support は、サポート担当者に連絡するための直接電話番号を公開していません。次のプロセスを使用して、アソシエイトに電子メールまたは電話で連絡をしてもらうことができます。

個別の技術サポートのみがサポートプランを必要とします。詳細については、「AWS Support」を参照してください。

AWS Support ケースを開き、[[内容] - アカウントおよび請求サポート] を指定するには、ルートアカウント所有者として AWS にサインインしているか、サポートケースを開く IAM 許可を持っている

必要があります。詳細については、AWS Support ユーザーガイドの「AWS Support へのアクセス」を参照してください。

AWS アカウントを閉じた場合でも、AWS Support にサインインして過去の請求書を表示できます。

AWS Supportに問い合わせるには

1. サインインしてAWS Supportセンターに移動します。プロンプトが表示されたら、ご利用のアカウントのメールアドレスとパスワードを入力します。
2. [ケースを作成] を選択します。
3. [Open case (ケースを開く)] ページで、[Account and Billing Support (アカウントと請求のサポート)] を選択し、フォームの必須フィールドに入力します。
4. フォームの入力が済んだら、 [連絡先オプション] で、[Web] を選択して E メールの返信を待つか、[Phone] を選択して AWS Support 担当者からの電話をリクエストします。インスタントメッセージは、請求に関するお問い合わせにはご利用いただけません。

AWS にサインインできない場合に AWS Support 連絡するには

1. パスワードを回復するか、[AWS アカウント サポート] でフォームを送信します。。
2. [Request information (情報の要求)] セクションで照会タイプを選択します。
3. お問い合わせ内容をご記入ください。セクションに入力してください.。
4. [送信] を選択します。

請求対象の使用状況の確認

請求金額に対する使用状況を確認する場合は、Cost Explorer を有効にして自分で使用状況を確認することができます。このツールを使用すると、事前に作成されたレポートとグラフが提供されて、コストを詳細に分析できます。

Cost Explorer は、この機能を有効にしてから 24 時間使用できます。

Cost Explorer の詳細については、「AWS Cost Explorer によるコストの分析」を参照してください。

無料利用枠の使用量のモニタリング

AWS 無料利用枠の使用状況を追跡することで、無料利用枠の制限以内の使用状況を維持するのに役立ちます。無料利用枠の制限がしきい値に達したときに AWS アカウントにアラートを設定し、請求情報とコスト管理コンソールから使用状況を監視できます。

これらの機能の使用の詳細については、「AWS 無料利用枠使用状況の追跡」を参照してください。

無料利用枠の制限を超えて請求された使用状況の詳細については、「請求対象の使用状況の確認」セクションを参照してください。

請求を表示する

AWS の請求書に関してご質問がある場合、または請求に対して異議を申し立てる場合は、AWS Support までご連絡ください。ただちに対応いたします。サポートが必要な場合は、「AWS 請求のヘルプを利用する」を参照してください。請求書ページの内容を理解するには、「[請求] ページを使って月額料金と請求書を理解する」を参照してください。

AWS の使用料金および基本料金に関する請求書が毎月送付されます。1 回限りの料金、例えば一括前払いのリザーブドインスタンスの購入費などは、ただちに請求されます。

今月の予定請求金額と過去の月の最終料金は、いつでも確認できます。このトピックでは、毎月の請求と過去の請求の確認方法、請求レポートの受け取りと内容の確認方法、請求書のダウンロード方法について説明します。支払いを行うには、「支払いを行い、未適用の資金を確認し、支払い履歴を表示する」を参照してください。

トピック

- 月額料金を表示する
- [請求] ページを使って月額料金と請求書を理解する
- 請求書の PDF をダウンロードする
- E メールで送付される請求書を取得する
- 月別レポートをダウンロードする
- 予想外の料金について

月額料金を表示する

Billing and Cost Management コンソールで月額料金を表示するときはこちらの手順に従います。

月額料金を表示するには

1. にサインインAWS Management Consoleし、https://console.aws.amazon.com/billing/ で AWS Billing and Cost Managementコンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで [Bills (請求書)] を選択します。
3. [請求期間] (例: 2023 年 8 月) を選択します。
4. AWS の請求の要約を表示します。

月額料金を表示する (古いコンソール)

月額料金を表示するには

1. にサインインAWS Management Consoleし、https://console.aws.amazon.com/billing/ で AWS Billing and Cost Managementコンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで [Bills (請求書)] を選択します。
3. [請求期間] で、月を選択します。

   [Summary] セクションには、その月の料金の概要と明細が表示されます。

   > **Note**
   >
   > 要約は、その月のアクティビティが完了して最終的な料金が AWS で計算されない限り、請求書ではありません。

   AWS Organizations の一括請求機能を使用すると、[請求] ページに、[アカウント別料金] のタブにあるすべてのアカウントの合計金額が表示されます。組織のアカウントごとにアクティビティを表示するには、アカウント ID を選択します。一括請求の詳細については、「の一括請求 AWS Organizations」を参照してください。

[請求] ページを使って月額料金と請求書を理解する

毎月の請求期間の終了時、または一回限りの料金が発生した場合、AWS は PDF ファイルとして請求書を発行します。クレジットカードで払う場合、AWS は現時点でファイルに登録されているクレジットカードにも請求されます。

請求書をダウンロードして月額料金の詳細を表示するときは、AWS Billing and Cost Management コンソールの [請求] ページを使用します。

> **Note**
>
> Billing and Cost Management コンソールのページには、IAM ユーザーが使用するときは明示的なアクセス許可が必要になるページがあります。詳細については、「アクセス許可の管理の概要」を参照してください。

請求ページ

[請求] ページでは、毎月の請求対象の費用を、使用した AWS のサービス の詳細および AWS Marketplace から行った購入の詳細と併せて確認できます。請求書は、毎月の請求期間が終了したとき (請求ステータスが [発行済み] になっている)、もしくは、サブスクリプションがあるときか 1 回限りの購入が行われたときに生成されます。毎月の請求期間が終了していない (請求ステータスが [保留中] になっている) 場合、このページには現時点までに計算された AWS のサービス に基づく最新の見積もり料金が表示されます。

AWS Organizations の管理アカウントとしてサインインしている場合、すべてのメンバーアカウントの料金を、一括した料金を確認できます。アカウントレベルの詳細は、[アカウント別料金] からも確認できます。

例えば、AWS Billing Conductor のユーザーが、管理アカウントとしてログインしているとします。ページの上部にある歯車アイコンを選択して、プロフォルマビュー表示をオンにすることができます。月と年を選択し、請求期間を指定します。

表示されるセクションをカスタマイズする場合は、ページ上部にある歯車アイコンを選択します。これらの設定は、[請求書] ページの今後の利用のために保存されます。

AWS 請求の概要

AWS 請求の概要セクションには、月額料金の概要が表示されます。こちらの情報は、すでに終了した請求期間 (請求ステータスが [発行済み] になっいる) の請求書の合計金額です。

終了していない請求期間は、ステータスに [保留中] と表示されます。合計には、現在までに計測された AWS のサービス に基づく最新の推定請求額が表示されます。合計は米ドル (USD) で表示されます。請求書が別の通貨で発行された場合、他の通貨での合計も表示されます。

支払情報

[支払い情報]セクションには、AWS が支払いを受け取った、選択した請求期間の請求書が一覧表示されます。ここでは、サービスプロバイダー、請求タイプ、文書タイプ、請求書 ID、支払いステータス、AWS が支払いを受け取った日付、合計金額 (USD) を確認できます。請求書が別の通貨で発行された場合、他の通貨での合計も表示されます。詳細については、「Managing Your Payments」を参照してください。

サービスプロバイダーごとの最も高いコスト

サービスプロバイダー別の最高コストセクションでは、請求期間のコストAWS リージョンが最も高いアカウントのサービスと を特定し、それぞれの month-over-month 傾向を示します。保留

中の請求期間の場合、 month-over-month 傾向は現在の請求期間の month-to-date 支出を前の請求期間の同等の部分と比較します。

サービス別料金

[サービス別料金] のタブには、各 AWS のサービスの支出が表示されます。こちらは、サービス名または USD の金額で並べ替えたり、サービス名およびリージョンでフィルタリングしたりすることができます。各サービスの横にある + アイコンをクリックすると、そのサービスの料金がリージョン別に表示されます。リージョンを選択して、料金の詳細を表示します。

アカウント別の料金

管理アカウントへのサインインに AWS Organizations を使用している場合、[アカウント別料金] のタブに、各メンバーアカウントの支出が表示されます。アカウント ID、アカウント名、または米ドルでの金額で並べ替えたり、アカウント ID またはアカウント名でフィルタリングしたりできます。各アカウントの横にある + アイコンを選択すると、サービスプロバイダ別のアカウントの料金が表示されます。各明細項目の横にある + アイコンを選択すると、そのサービスおよびリージョン別に料金が表示されます。リージョンを選択して、料金の詳細を表示します。

請求書

[請求書] のタブには、選択した請求期間中にトランザクションが発生した各サービスプロバイダーの、請求書が一覧で表示されます。ここには、請求タイプ、請求書の日付、合計金額 (USD) などの詳細が記載されています。請求書が別の通貨で発行された場合、他の通貨での合計も表示されます。各請求書の PDF を表示したり、ダウンロードしたりするときは、[請求書 ID] を選択します。

削減額

[削減額] のタブには、Savings Plans、クレジット、その他割引プログラムの結果として、請求期間中の削減額がまとめられています。これらの削減額は、[サービス別料金]、[アカウント別料金]、[請求書] の各タブにも反映されています。各節約タイプを選択して、サービス別の詳細を表示します。

サービス別の税金

[サービス別税金] のタブには、税金が課されたサービスの税引き前料金、税金、税引き後料金が表示されています。サービス名、税引き後の料金、税引き前の料金、または米ドルでの税金で並べ替えたり、サービス名でフィルタリングしたりできます。

税金請求書と補足文書

[税金請求書と補足文書] のセクションには、選択した請求期間の税金請求書とその他補足文書が一覧表示されています。すべてのサービスプロバイダーが納税請求書を発行するわけではありま

せん。[請求書 ID] 列には、税金請求書に関連付けられているコマーシャルインボイスが表示されています。各請求書の PDF を表示したり、ダウンロードしたりするときは、[ドキュメント ID] を選択します。

請求書の PDF をダウンロードする

毎月の請求書の PDF をダウンロードするには、以下の手順に従ってください。

料金のコピーを PDF ドキュメントとしてダウンロードするには

1. AWS Billing and Cost Management コンソール https://console.aws.amazon.com/billing/ を開きます。
2. [請求] ページで、[請求期間] の [月] を選択します。
3. [AWS 請求の概要] セクションで、[請求ステータス] が [発行済み] になっていることを確認します。
4. [請求書] タブを選択します。
5. ダウンロードするドキュメントの [請求書 ID] を選択します。
6. (AWS EMEA SARL 以外のサービスプロバイダーの場合) 特定の税金請求書のコピーをダウンロードするときは、[税金請求書と補足文書] セクションで [ドキュメント ID] を選択します。
7. (AWS EMEA SARL の場合) 特定の税金請求書のコピーをダウンロードするときは、[AWS EMEA SARL 請求] セクションで [ドキュメント ID] を選択します。

料金のコピーを PDF としてダウンロード (古いコンソール)

料金のコピーを PDF ドキュメントとしてダウンロードするには

1. AWS Billing and Cost Management コンソール https://console.aws.amazon.com/billing/ を開きます。
2. [請求書] ページで、[日付] リストから、すべてのアクティビティが閉じている月を選択します。
3. [合計] の下で、[Amazon Web Services, Inc. - サービス料金] を選択します。
4. [請求書 <invoiceID>] を選択します。
5. (AWS EMEA SARL 以外のエンティティの場合) 特定の納税請求書のコピーをダウンロードするには、[税金請求書] セクションの [請求書 <invoiceID>] を選択します。
6. (AWS EMEA SARL の場合) 特定の納税請求書のコピーをダウンロードするには、[Amazon Web Services EMEA SARL — サービス料金] セクションの [請求書 <invoiceID>] を選択します。

E メールで送付される請求書を取得する

月次または日次請求書の PDF コピーを、AWS から AWS アカウント に関連したメールアドレスに送信する場合は、以下の手順に従ってください。

> **Tip**
>
> 毎月の請求書を表示およびダウンロードするには、「請求書の PDF をダウンロードする」を参照してください。

1. にサインインAWS Management Consoleし、https://console.aws.amazon.com/billing/ で AWS Billing and Cost Managementコンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで、[請求設定] を選択します。
3. [請求書の送信設定]で[編集] を選択します。
4. [E メールで配信される PDF 請求書] を選択します。
5. [更新] を選択します。

購入内容に応じて、AWS は月次または日次請求書を次の連絡先に送信します。

- AWS アカウントのルートユーザー
- [支払い設定] ページの請求連絡先
- [アカウント] ページの代替請求連絡先

追加の請求書メール

PDF 形式の請求書メールに加えて、AWS は請求書の詳細を記載したメールを月次または毎日、前のセクションの連絡先リストに送信します。

> **Note**
>
> [支払い設定] ページで請求先を指定した場合、ルートユーザーには PDF 形式請求書や追加請求書がメールで届きません。

関連情報

詳細については、次のトピックを参照してください。

- ルートユーザーの E メールアドレスを編集するには、アカウント名、 AWS アカウントのルートユーザー パスワード、 AWS アカウント ルートユーザーの E メールアドレスの編集 を参照してください。
- [支払い設定] ページの請求連絡先を更新するには、「追加の請求連絡先 E メールアドレスの設定」を参照してください。
- 代替請求連絡先を追加または更新するには、「代替連絡先の追加または更新」を参照してください。

月別レポートをダウンロードする

月別レポートをオンにすると、請求に関するレポートを CSV ファイルでダウンロードできるようになります。この機能を使うと、レポートが Amazon S3 バケットに配信されます。

> **Tip**
>
> AWS Cost and Usage Report を使用して、コストと使用状況に関する最も詳細なデータの組み合わせを手に入れることが推奨されます。詳細については、「AWS コストと使用状況レポートユーザーガイド」の「What are AWS Cost and Usage Reports?」を参照してください。

月別レポート用の CSV ファイルをダウンロードするには

1. AWS Billing and Cost Management コンソール https://console.aws.amazon.com/billing/ を開きます。
2. ナビゲーションペインで、[請求設定] を選択します。
3. [請求明細レポート (レガシー)] で [編集] を選択し、次に [S3 へのレガシーレポート配信] を選択します。
4. [S3 バケットをアクティブ化する] を選択し、レポートの配信先を指定します。
5. [S3 バケットの設定] ダイアログボックスで、次のいずれかを選択します。
    - 既存の S3 バケットを使用するときは、[既存の S3 バケットを使用] を選択して、S3 バケットを選択します。

- 新しい S3 バケットを作成するときは、[新しい S3 バケットを作成] を選択し、[S3 バケット名] に名前を入力して、[リージョン] を選択します。

6. [次へ] をクリックします。
7. デフォルトの IAM ポリシーを読み、[このポリシーが正しいことを確認しました] を選択します。
8. [保存] を選択します。
9. [請求] ページで、[すべてを CSV にダウンロード] を選択します。

予想外の料金について

AWS の請求書に関してご質問がある場合、または請求に対して異議を申し立てる場合は、AWS Support までご連絡ください。ただちに対応いたします。サポートが必要な場合は、「AWS 請求のヘルプを利用する」を参照してください。請求書ページの内容を理解するには、「[請求] ページを使って月額料金と請求書を理解する」を参照してください。

以下の例は、予想外の料金が請求されないようにするために役立ちます。本ページでは、特にサービスの解約時やアカウントの閉鎖時に、予期せぬ請求につながるおそれのある、AWS の各サービスが持つ特定の機能または動作を一覧にしています。

> **Note**
>
> これは網羅的なリストではありません。具体的なユースケースに関する質問は、「AWS 請求のヘルプを利用する」のプロセスに従って AWS Support までお問い合わせください。アカウントを閉鎖する、またはサービスを解約する場合は、必ず、AWS リソースを割り当てているすべての AWS リージョン で適切な手順を実行します。

トピック

- 使用量が を超えています AWS 無料利用枠
- アカウント閉鎖後に受け取った料金
- オフAWS リージョンになっている のリソースで発生した料金
- 他のサービスによって起動されたサービスによって発生する料金
- Amazon EC2 インスタンスによって発生する料金

- Amazon Elastic Block Store ボリュームとスナップショットによって発生する料金
- Elastic IP アドレスによって発生する料金
- ストレージサービスによって発生する料金
- に連絡する AWS Support

使用量が を超えています AWS 無料利用枠

サービスの無料利用枠の使用状況が期限切れになっているかどうかを確認します。無料利用枠を提供する 12 か月間の無料サービスの利用資格は、 を初めてアクティブ化してから 12 か月後に期限が切れますAWS アカウント。資格の有効期限が切れると、標準の AWS 請求レートで使用量が請求されます。アクティブな無料利用枠リソースを特定し、料金を生成する方法の詳細については、「」を参照してくださいAWS 無料利用枠後の予期しない請求額の回避。

料金が発生しているリソースを特定したら、引き続きリソースを使用して請求を管理したり、未使用のリソースを終了したり、 を閉鎖したりできますAWS アカウント。

- 請求の管理については、AWS Billing and Cost Management の概要「」および「」を参照してくださいの開始方法 AWS アカウント。
- リソースの終了については、そのサービスのリソースドキュメントを参照してください。例えば、未使用の Amazon Elastic Compute Cloud インスタンスがある場合は、「インスタンスの終了」を参照してください。
- AWS アカウントの閉鎖の詳細については、「AWS Account Management リファレンスガイド」の「アカウントの閉鎖」を参照してください。

アカウント閉鎖後に受け取った料金

以下のいずれかの理由により、アカウントを閉鎖した後に請求が請求される場合があります。

アカウントを閉鎖する前の月に料金が発生しました

月の始めからアカウントを閉鎖した日付までに発生した使用量に対する最終請求が届きます。例えば、1 月 15 日にアカウントを閉鎖した場合、1 月 1 日から 15 日に発生した使用量の請求が 2 月初日に届きます。

アカウントにアクティブな リザーブドインスタンス がある

Amazon EC2 リザーブドインスタンス、Amazon Relational Database Service (Amazon RDS) リザーブドインスタンス、Amazon Redshift リザーブドインスタンス、または Amazon ElastiCache

リザーブドキャッシュノードをプロビジョニングした可能性があります。予約期間が終了するまで、これらのリソースの請求書が引き続き送信されます。詳細については、「Linux インスタンス用 Amazon EC2 ユーザーガイド」の「リザーブドインスタンスAmazon EC2」を参照してください。

Savings Plans にサインアップした

プラン期間が完了するまで、Savings Plans の対象となるコンピューティング使用量の請求が引き続き受け取ります。Savings Plans の詳細については、Savings Plans ユーザーガイドを参照してください。

アクティブなAWS Marketplaceサブスクリプションがある

AWS Marketplace サブスクリプションは、アカウント閉鎖時に自動的にキャンセルされません。まず、サブスクリプション内のソフトウェアのすべてのインスタンスを終了します。次に、AWS Marketplaceコンソールの「サブスクリプションの管理」ページでサブスクリプションをキャンセルします。

> **Important**
>
> アカウントを解約してから 90 日以内に、アカウントにサインインして、アクティブなリソースを表示したり、過去の請求を表示したり、AWS請求の支払いを行ったりできます。詳細については、「 AWS Account Managementリファレンスガイド」の「アカウントの閉鎖」を参照してください。

未払いのAWS請求の支払いについては、「」を参照してください支払いを行い、未適用の資金を確認し、支払い履歴を表示する。

オフAWS リージョンになっている のリソースで発生した料金

AWS リージョン まだリソースがある をオフに (無効化) すると、それらのリソースに対して引き続き料金が発生します。ただし、 は無効になっているリージョンのリソースにアクセスできません。

これらのリソースから料金が発生しないようにするには、リージョンを有効にし、そのリージョンのすべてのリソースを終了してから、リージョンを無効にします。

アカウントのリージョン管理の詳細については、「 AWS Account Managementリファレンスガイド」のAWS リージョン「アカウントで使用できる を指定する」を参照してください。

他のサービスによって起動されたサービスによって発生する料金

リソースを起動AWS のサービスできる が多数あるため、使用したサービスを通じて起動した可能性のあるものがないか必ず確認してください。

によって作成されたリソースに対して発生する料金 AWS Elastic Beanstalk

Elastic Beanstalk は、ユーザーが必要とするすべてのリソースが実行されるように設計されています。つまり、ユーザーが停止したすべてのサービスが自動的に再起動されます。これを回避するには、Elastic Beanstalk が作成したリソースを終了する前に Elastic Beanstalk 環境を終了する必要があります。詳細については、AWS Elastic Beanstalk デベロッパーガイドの「環境を終了する」を参照してください。

Elastic Load Balancing (ELB) ロードバランサーで発生する料金

Elastic Beanstalk 環境と同様に、ELB ロードバランサーは最小数の Amazon Elastic Compute Cloud (Amazon EC2) インスタンスの実行を維持するように設計されています。ロードバランサーに登録された Amazon EC2 インスタンスを削除する前に、ロードバランサーを終了する必要があります。詳細については、Elastic Load Balancing ユーザーガイドの「ロードバランサーの削除」を参照してください。

で開始されたサービスによって発生する料金 AWS OpsWorks

AWS リソースの作成に AWS OpsWorks 環境を使用する場合は、AWS OpsWorks を使用してそれらのリソースを終了する必要があります。そうしないと AWS OpsWorks によりそれらのリソースが再起動されます。例えば、Amazon EC2 インスタンスの作成に AWS OpsWorks を使用したが、終了には Amazon EC2 コンソールを使用した場合、AWS OpsWorks 自動ヒーリング機能によりそのインスタンスはエラーと分類され再起動されます。詳細については、『AWS OpsWorks ユーザーガイド』を参照してください。

Amazon EC2 インスタンスによって発生する料金

ロードバランサーと Elastic Load Balancing 環境を削除した後、Amazon EC2 インスタンスを停止または終了できます。インスタンスを停止しても後で再起動できますが、ストレージ料金が請求されることがあります。インスタンスを終了すると、インスタンスは完全に削除されます。詳細については、「Linux インスタンス用 Amazon EC2 ユーザーガイド」の「インスタンスライフサイクル 」、特にインスタンスの停止と開始、インスタンスの終了」を参照してください。 Amazon EC2

メモ

- Amazon EC2 インスタンスは、複数の の基盤として機能しますAWS のサービス。これらは、他の サービスによって開始された場合でも、Amazon EC2 コンソールインスタンスリストに表示されます。例えば、Amazon RDS インスタンスは Amazon EC2 インスタンスで実行されます。
- 基盤となる Amazon EC2 インスタンスを終了すると、それを起動したサービスが終了をエラーと解釈し、インスタンスを再起動することがあります。例えば、 AWS OpsWorksには、障害を検出したときにリソースを再起動する自動ヒーリングと呼ばれる機能があります。一般的に、リソースを開始したサービスを通じてリソースを削除することがベストプラクティスです。

さらに、インスタンスストアを使用する Amazon Machine Image (AMI) から Amazon EC2 インスタンスを作成する場合は、Amazon S3 で関連するバンドルを確認します。AMI を登録解除しても、バンドルは削除されません。詳細については、Linux インスタンス用 Amazon EC2 ユーザーガイドの「AMI の登録解除」を参照してください。 Amazon EC2

Amazon Elastic Block Store ボリュームとスナップショットによって発生する料金

ほとんどの Amazon EC2 インスタンスは、関連付けられた Amazon EBS ボリュームが終了時に削除されるように設定されていますが、ボリュームとデータを保持するインスタンスを設定することもできます。Amazon EC2 コンソールの [Volumes] ペインで、不要になったボリュームを確認します。詳細については、「Linux インスタンス用 Amazon EC2 ユーザーガイド」の「Amazon EBS ボリュームの削除」を参照してください。 Amazon EC2

Amazon EBS ボリュームのスナップショットを保存したが、不要になった場合は、それらも同様に削除します。ボリュームを削除しても、関連するスナップショットは自動的に削除されません。

スナップショットの削除の詳細については、Linux インスタンス用 Amazon EC2 ユーザーガイドの「Amazon EBS スナップショットの削除」を参照してください。 Amazon EC2

スナップショットを削除しても、組織のデータストレージコストが減少しない場合があります。他のスナップショットはそのスナップショットのデータを参照する場合があります。参照されたデータは常に保持されます。

Example 例: スナップショットの削除

10 GiB のデータを持つボリュームの最初のスナップショット (*snap-A*) を取得する場合、スナップショットのサイズも 10 GiB であるとします。スナップショットは増分バックアップであるため、2 回目に同じボリュームのスナップショットを取得した場合は、最初のスナップショットを取得後に変更したデータブロックのみ含まれます。

2 番目のスナップショット (*snap-B*) は、最初のスナップショットのデータも参照します。つまり、4 GiB のデータを変更し、2 回目のスナップショットを取得した場合、2 番目のスナップショットのサイズは 4 GiB になります。また、2 番目のスナップショットでは、最初に取得した、変更していない 6 GiB のスナップショットを参照できます。詳細については、「Linux インスタンス用 Amazon EC2 ユーザーガイド」の「スナップショットの仕組みAmazon EC2」を参照してください。

この例では、毎日のAWSコストと使用状況レポート (AWS CUR) に 2 つのエントリが表示されます。 AWSCUR は、1 日のスナップショット使用量をキャプチャします。この例では、使用量はスナップ A の場合は 0.33 GiB (10 GiB/30 日) 、スナップ *B* の場合は 0.1333 GiB (4 GiB/30 日) です。1 GB あたり 0.05 USD のレートを使用すると、*Snap-A* のコストは 0.33 GiB x 0.05 USD = 0.0165 USD になります。*#### B* のコストは 0.133 GiB x 0.05 USD = 0.0066 USD で、両方のスナップショットについて 1 日あたり合計 0.0231 USD です。詳細については、『AWS Data Exports ユーザーガイド』を参照してください。

lineItem/ Operation	lineItem ResourceId/	lineItem UsageAmount/	lineItem UnblendedCost/	resourceTags/ user:usage
CreateSnapshot	arn:aws:ec2:us-east-1:123:snapshot/snap-A	0.33	0.0165	dev
CreateSnapshot	arn:aws:ec2:us-east-1:123:snapshot/snap-B	0.133	0.0066	dev

最初のスナップショット (前のテーブルの最初の行の*#### A*) を削除すると、2 番目のスナップショットによって参照されるデータ (前のテーブルの 2 行目の*#### B*) はすべて保持されます。2 番目のスナップショットには 4 GiB の増分データが含まれており、最初のスナップショットの 6 GiB を参照しています。*#### A* を削除すると、*#### B* のサイズは 10 GiB (*#### A* から 4 つの変更 GiB、*#### A* から 6 つの変更なし GiB) になります。

次の表では、毎日の CUR AWS の#### *B* の使用量は 0.33 GiB (10 GiB/30 日) で、1 日あたり 0.0165 USD で請求されます。スナップショットを削除すると、残りのスナップショットの料金は毎日再計算されるため、各スナップショットのコストも毎日変わる可能性があります。

lineItem/ Operation	lineItem ResourceId/	lineItem UsageAmount/	lineItem UnblendedCost/	resourceTags/ user:usage
CreateSnapshot	arn:aws:ec2:us-east-1:123:snapshot/snap-B	0.33	0.0165	dev

スナップショットの詳細については、EBS スナップショットのコスト配分ブログ記事を参照してください。

Elastic IP アドレスによって発生する料金

終了したインスタンスにアタッチされたすべての Elastic IP アドレスはアタッチを解除されますが、割り当ては続行されます。その IP アドレスが不要になった場合は、追加料金が発生しないように解放してください。詳細については、「Linux インスタンス用 Amazon EC2 ユーザーガイド」の「Elastic IP アドレスを解放する」を参照してください。 Amazon EC2

ストレージサービスによって発生する料金

AWS リソースのコストを最小限に抑える場合は、Amazon RDS や Amazon S3 などの多くのサービスでストレージコストが発生する可能性があることに注意してください。ストレージ料金の詳細については、「Amazon S3 料金表」および「Amazon RDS 料金表」を参照してください。

に連絡する AWS Support

上記のリストは、 に予想外の料金が表示される理由をすべて網羅しているわけではありませんAWS アカウント。このページに記載されている理由のいずれかが原因で料金が発生した場合は、「」を参照してくださいに連絡する AWS Support。

請求設定ページの使用

[AWS 請求設定]ページを使用して、請求書の配信、アラート、クレジットの共有、リザーブドインスタンス (RI) と Savings Plans の共有、および請求の詳細 (レガシー) レポートを管理できます。一部のセクションでは、支払いアカウントのみが更新できます。

請求設定ページを表示するためのユーザーアクセス許可を割り当てることができます。詳細については、「きめ細かいアクションを使用する AWS Billing」を参照してください。

請求設定ページには、次のセクションが含まれています。

目次

- 請求書の送付設定
- アラートの設定
- クレジット共有設定
- リザーブドインスタンスと Savings Plans のディスカウント共有
- 請求明細レポート (従来)

請求書の送付設定

毎月の請求書の PDF コピーを E メールで受け取ることができます。毎月の請求書は、AWS アカウントのルートユーザー および代替請求連絡先として登録された E メールに送信されます。これらの E メールアドレスの更新については、「の管理 AWS アカウント」を参照してください。

毎月の PDF 請求書を E メールで受け取ることをオプトインまたはオプトアウトするには

1. AWS Billing and Cost Management コンソール https://console.aws.amazon.com/billing/ を開きます。
2. ナビゲーションペインで、[請求設定] を選択します。
3. [請求書送付設定] セクションで、[編集] を選択します。
4. [PDF 請求書の E メールによる配信] を選択または選択解除します。
5. [更新] を選択します。

アラートの設定

AWS のサービスの使用量が AWS 無料利用枠の使用制限に近づいたり、超えたりすると、E メールアラートを受け取ることができます。

AWS 無料利用枠の使用状況アラートの受信をオプトインまたはオプトアウトするには

1. AWS Billing and Cost Management コンソール https://console.aws.amazon.com/billing/ を開きます。
2. ナビゲーションペインで、[請求設定] を選択します。
3. [アラート設定] セクションで、[編集] を選択します。
4. [AWS 無料利用枠 使用状況アラートを受け取る] を選択または選択解除します。
5. (オプション) [アラートを受信する追加 E メールアドレス] に、ルートユーザーまたは代替請求連絡先としてまだ登録されていない E メールアドレスを入力します。
6. [更新] を選択します。

また、Amazon CloudWatch 請求アラートを使用して、請求額が指定のしきい値に達したときに E メール通知を受け取るようにすることもできます。

CloudWatch の請求アラートを受け取るには

1. AWS Billing and Cost Management コンソール https://console.aws.amazon.com/billing/ を開きます。
2. ナビゲーションペインで、[請求設定] を選択します。
3. [アラート設定] セクションで、[編集] を選択します。
4. [CloudWatch 請求アラートを受け取る] を選択します。

> **Important**
>
> この設定は後で選択解除できません。

5. [更新] を選択します。

CloudWatch 請求アラートを管理するには、「CloudWatch ダッシュボード」を確認するか、[AWS 予算] を確認してください。詳細については、「Amazon CloudWatch ユーザーガイド」の「推定の AWS 料金をモニタリングする請求アラームを作成」を参照してください。

クレジット共有設定

このセクションで、請求ファミリーのメンバーアカウント間でクレジット共有を有効にできます。特定のアカウントを選択することも、すべてのアカウントで共有を有効にすることもできます。

> **Note**
>
> このセクションは、AWS Organizations の一部として管理アカウント (支払いアカウント) でのみ使用できます。

メンバーアカウントのクレジット共有を管理するには

1. AWS Billing and Cost Management コンソール https://console.aws.amazon.com/billing/ を開きます。
2. ナビゲーションペインで、[請求設定] を選択します。
3. [クレジットの共有設定] セクションで、[編集] を選択します。
4. 特定のアカウントのクレジット共有を有効または無効にするには、表からアカウントを選択し、[有効化] または [無効化] を選択します。
5. すべてのアカウントのクレジット共有を有効または無効にするには、[アクション] を選択し、[すべて有効化] または [すべて無効化] を選択します。
6. [更新] を選択します。

> **Tip**
>
> - 組織に加入する新しいアカウントのクレジット共有を有効にするには、[新しく作成したメンバーアカウントのデフォルト共有] を選択します。
> - クレジット共有設定の履歴をダウンロードするには、[設定履歴 (CSV) をダウンロード] を選択します。

AWS クレジットの詳細については、「AWS クレジット」を参照してください。

リザーブドインスタンスと Savings Plans のディスカウント共有

このセクションを使用して、リザーブドインスタンスと Savings Plans の割引を請求ファミリーのアカウント間で共有することができます。特定のアカウントを選択することも、すべてのアカウントで共有を有効にすることもできます。

> **Note**
>
> このセクションは、AWS Organizations の一部として管理アカウント (支払いアカウント) でのみ使用できます。

メンバーアカウントのリザーブドインスタンスと Savings Plans のディスカウント共有を管理するには

1. AWS Billing and Cost Management コンソール https://console.aws.amazon.com/billing/ を開きます。
2. ナビゲーションペインで、[請求設定] を選択します。
3. [リザーブドインスタンスと Savings Plans のディスカウント共有] セクションで、[編集] を選択します。
4. 特定のアカウントのディスカウント共有を有効または無効にするには、表からアカウントを選択し、[有効化] または [無効化] を選択します。
5. すべてのアカウントのディスカウント共有を有効または無効にするには、[アクション] を選択し、[すべて有効化] または [すべて無効化] を選択します。
6. [更新] を選択します。

> **Tip**
>
> - 組織に加入する新しいアカウントのクレジット共有を有効にするには、[新しく作成したメンバーアカウントのデフォルト共有] を選択します。
> - クレジット共有設定の履歴をダウンロードするには、[設定履歴 (CSV) をダウンロード] を選択します。

請求明細レポート (従来)

AWS コストと使用状況レポートのコンソールページ以外で提供されている従来の請求レポートを受け取ることができます。ただし、最も包括的な課金情報が記載されている AWS のコストと使用状況レポートを使用することを強くお勧めします。また、これらの従来のレポート方法は後日サポートされなくなります。

詳細な請求レポートについては、「AWS コストと使用状況レポートユーザーガイド」の「詳細な請求レポート」を参照してください。

レポートを AWS コストと使用状況レポートに転送する方法については、「詳細な請求レポートから AWS コストと使用状況レポートへの移行」を参照してください。

> **メモ**
>
> - このセクションは、AWS Organizations を使用する場合にのみ表示されます。
> - 請求書ページから CSV をダウンロードするには、まず月次レポートを有効にします。

請求詳細レポート (従来) 設定を編集するには

1. AWS Billing and Cost Management コンソール https://console.aws.amazon.com/billing/ を開きます。
2. ナビゲーションペインで、[請求設定] を選択します。
3. [請求詳細レポート (従来)] セクションで、[編集] を選択します。
4. Amazon S3 バケットをレポート配信用に設定するには、[Amazon S3 への従来レポート配信] を選択し、[設定] を選択します。
5. [Amazon S3 バケットの設定] セクションで、AWS コストと使用状況レポートを受け取る既存の Amazon S3 バケットを選択するか、新しいバケットを作成します。
6. [更新] を選択します。
7. AWS の使用状況を表示するためにレポートの詳細度を設定するには、有効化するレポートを選択します。
8. [レポートの有効化] セクションで、[有効化] を選択します。

支払いの管理

AWS アカウントを開設するには、有効な支払い方法が登録されている必要があります。支払い方法の追加、更新、削除、および支払いを行うには、この章の手順を使用します。

AWS Billing and Cost Management コンソールの [お支払いの詳細設定] ページを使用して、AWS の支払い方法を管理できます。

> **Note**
>
> IAM ユーザーは、請求コンソールの一部のページにアクセスするために明示的なアクセス許可が必要です。詳細については、「アクセス許可の管理の概要」を参照してください。

支払いまたは支払い方法の詳細については、「AWS 請求のヘルプを利用する」を参照してください。

トピック

- 支払いを行い、未適用の資金を確認し、支払い履歴を表示する
- クレジットカード支払い検証の管理
- クレジットカードと ACH の支払い方法の管理
- 事前支払いを管理する
- CNYでの AWS 支払いの管理
- ブラジルでの PIX 支払い方法の管理
- インドでの支払いの管理
- AWS ヨーロッパでの支払い管理
- 支払いプロファイルを管理する
- AWS 支払いの詳細設定の管理

支払いを行い、未適用の資金を確認し、支払い履歴を表示する

すべての支払い方法の種類で次のタスクを実行するには、AWS Billing and Cost Management コンソールの [支払い] ページを使用します。

- Make a payment

- View remaining invoices
- View unapplied funds
- View payment history

支払いをする

AWS では、毎月の始めにデフォルトの支払い方法に対して自動的に課金されます。その料金が正常に処理されない場合は、コンソールを使用して支払い方法を更新し、支払いを行うことができます。

> **Note**
>
> ACH 銀行デビットで支払う場合、AWS から請求書が送付され、その月の始めから10日以内に支払い方法への請求が開始されます。支払いが処理されるまで 3~5 日ほどかかる場合があります。詳細については、「ACH 銀行引き落としによる支払い方法を管理する」を参照してください。

支払いを行う前に、今後自動的に請求される支払い方法がデフォルトの支払い方法として設定されていることを確認します。クレジットカードを使用している場合は、カードが有効期限内であることを確認してください。詳細については、デフォルトの支払い方法を指定する および クレジットカードと ACH の支払い方法の管理 を参照してください。

支払いを行うには

1. AWS Billing and Cost Management コンソール https://console.aws.amazon.com/billing/ を開きます。
2. ナビゲーションペインで [支払い] を選択します。

   [支払い期限] テーブルには、未処理の請求書がすべて一覧表示されます。請求書が一覧表示されていない場合は、この時点で必要なアクションはありません。
3. 未処理の請求書がある場合は、支払う請求書を [支払い期限] テーブルで選択してから、[支払いを完了する] を選択します。
4. [支払いを完了する] ページで、請求書の支払いに使用できる場合は、デフォルトの支払い方法が選択されます。別の支払い方法を使用する場合、または対象の支払い方法を選択する場合は、[変更] を選択します。
5. 概要が支払う金額と一致していることを確認し、[確認と支払い] を選択します。

銀行で支払いが処理されると、[支払い] ページにリダイレクトされます。

支払いを ACH 銀行デビットで行ったときに AWS による引き落としができず、再請求する旨のメールを AWS から受け取った場合は、銀行に連絡して問題を確認してください。

銀行口座より再引き落としができなかった旨の E メールを AWS より受け取った場合は、コンソールの [Verify and pay] を選択して請求額をお支払いください。次に [支払いを完了する] を選択して請求書の支払いを行います。銀行口座への請求や、未払い金の支払いに関してご質問がある場合は、サポートセンターでケースを作成します。

海外送金で支払うが、使用料の支払期限が超過している場合は、サポートセンターでケースを作成します。

残りの請求書、未適用の資金、支払い履歴を表示する

[支払い期限]、[未適用の資金]、および [支払い履歴] テーブルは、次の手順で説明されているように、検索およびフィルタリングできます。歯車アイコンを選択して、デフォルトの列を変更し、その他のテーブル設定をカスタマイズします。適切な ID を選択して項目を個別にダウンロードするか、[ダウンロード] を選択してから、[CSV のダウンロード] を選択して、レポートの目的でテーブルの CSV ファイルをダウンロードします。

残りの請求書支払いを確認するには

1. AWS Billing and Cost Management コンソール https://console.aws.amazon.com/billing/ を開きます。
2. ナビゲーションペインで [支払い] を選択します。
3. [支払い期限] タブを選択して、[支払い期限] テーブルを表示します。

   [お支払い期限] テーブルには、残りの請求書支払いがすべて一覧表示されます。テーブルには、請求書の合計金額と残高が表示されます。

   このテーブルには、以下のステータスが含まれます。

   - [期限] — 支払い期日が近づいている未処理の請求書。
   - [期限経過] — 支払い期日までに支払いが行われていない未処理の請求書。
   - [予定] — 今後の支払い予定がある請求書。
   - [処理中] — 現在支払いが予定されている請求書。

未適用の資金を表示するには

1. AWS Billing and Cost Management コンソール https://console.aws.amazon.com/billing/ を開きます。
2. ナビゲーションペインで [支払い] を選択します。
3. [未適用の資金] タブを選択して、[未適用の資金] テーブルを表示します。

   [未適用資金] テーブルには、未適用のすべてのクレジットメモが一覧表示されます。テーブルには、請求書の合計金額と残高が表示されます。

   ステータスが [未適用] の場合は、請求書に適用可能なクレジットメモが存在します。

   ステータスが [部分的に適用] の場合は、以前の請求書に金額の一部が適用されたクレジットメモが存在します。

支払い履歴を表示するには

1. AWS Billing and Cost Management コンソール https://console.aws.amazon.com/billing/ を開きます。
2. ナビゲーションペインで [支払い] を選択します。
3. [トランザクション] タブを選択して、[トランザクション] テーブルを表示します。

   [トランザクション] テーブルには、AWS を用いて完了したすべてのトランザクションが一覧表示されます。

クレジットカード支払い検証の管理

クレジットカードを使用して AWS にオンラインで支払う際、クレジットカードを追加または更新する際、新しい AWS アカウントを登録する際に、銀行から追加の検証を求められる場合があります。

銀行が追加の認証を必要とする場合、銀行の Web サイトにリダイレクトされます。銀行の手順に従って、検証プロセスを完了します。検証を完了させるために、銀行から次のことを求められる場合があります。

- 1 回限りの SMS コードを入力する
- 銀行のモバイルアプリケーションを使用してクレジットカードを検証する
- 生体認証やその他の認証方法を使う

目次

- 検証のベストプラクティス
- 支払いの検証
- 支払いの検証のトラブルシューティング
- AWS Organizations
- サブスクリプションの購入

検証のベストプラクティス

- デフォルトの支払い方法が検証済みであることを確認します。「未確認のクレジットカードのトラブルシューティング」を参照してください。
- 銀行のクレジットカード情報が最新であることを確認します。銀行は登録されたカード所有者にのみ検証コードを送信します。
- 最新のコードを入力します。認証ポータルを閉じた場合や新しいコードをリクエストした場合は、最新のコードの受信が遅れることがあります。
- 指示に従ってコードを入力します。コードの送信元の電話番号を入力しないでください。

支払いの検証

AWS Billing コンソールを使用して、支払いに検証が必要かどうかの確認や、失敗した支払いの再試行を行うことができます。

銀行が支払いの検証を必要とする場合、AWS からの E メールを受信します。

支払いを検証するには

1. AWS Management Console にサインインして AWS Billing and Cost Management コンソール (https://console.aws.amazon.com/billing/) を開きます。
2. ナビゲーションペインで [支払い] を選択します。
3. [Payments due (支払い期限)] で支払う請求書を見つけ、[Verify and pay (検証して支払い)] を選択します。
4. [Payment preferences] (お支払いの詳細設定) ページで、使用する支払い方法を選択します。
5. [Complete payment (支払いを完了)] を選択します。

6. 支払いを検証する必要がある場合は、銀行のウェブサイトにリダイレクトされます。検証を完了するには、表示される指示に従ってください。

銀行で支払いが処理されると、[支払い] ページにリダイレクトされます。

> **Note**
>
> 銀行で支払い処理が完了するまで、請求書は [支払い処理中] というステータスで表示されます。

支払いの検証のトラブルシューティング

検証が正しく完了しなかった場合は、次のいずれかのアクションを取ることをお勧めします。

- AWS 請求コンソールの「支払い設定」ページに移動し、クレジットカードが検証されていることを確認します。「未確認のクレジットカードのトラブルシューティング」を参照してください。
- AWS Billing コンソールの [お支払いの詳細設定] ページに移動し、請求連絡先情報を更新します。
- 銀行に連絡して、自分の連絡先情報が最新であることを確認します。
- 銀行に連絡して、検証が失敗した理由の詳細を確認します。
- キャッシュと cookie を消去するか、別のブラウザを使用します。

AWS Organizations

AWS Organizations の管理アカウントの場合は、前払いが必要な購入済みサービスが、マスターアカウントユーザーが支払いを検証するまでアクティブ化されない場合があります。検証が必要な場合、AWS から管理アカウントの請求連絡先に E メールで通知されます。

管理アカウントとメンバーアカウント間の連絡プロセスを確立してください。

サブスクリプションの購入

複数のサブスクリプションを一度に (一括で) 購入し、銀行から確認を求められたとします。その後、銀行から個々の購入の確認を求められる場合があります。

サブスクリプションには、リザーブドインスタンス、ビジネスサポートプラン、Route 53 ドメインなどの即時購入が含まれる場合があります。サブスクリプションに AWS Marketplace 料金は含まれません。

すべての購入について検証を完了させる必要があります。

クレジットカードと ACH の支払い方法の管理

クレジットカードや ACH 銀行引き落としによる支払い方法を管理するときは、AWS Billing and Cost Management コンソールの [お支払いの詳細設定] ページを使用します。

トピック

- クレジットカードの追加
- クレジットカードを更新する
- 未確認のクレジットカードのトラブルシューティング
- クレジットカードを削除する
- ACH 銀行引き落としによる支払い方法を管理する

> **Note**
>
> 人民元決済のクレジットカードをご使用になる場合は、「中国人民元クレジットカードの使用」を参照してください。

クレジットカードの追加

アカウントへのクレジットカードの追加は、Billing and Cost Management コンソールから行えます。

AWS アカウントにクレジットカードを追加するには

1. AWS Management Console にサインインして AWS Billing and Cost Management コンソール (https://console.aws.amazon.com/billing/) を開きます。
2. ナビゲーションペインで [Payment preferences] (お支払いの詳細設定) を選択します。
3. [Add payment method] (支払い方法を追加) を選択します。
4. クレジットカード情報を入力します。
5. (オプション) [デフォルトの支払い方法として設定] で、このクレジットカードをデフォルトの支払い方法にするかどうか選択します。
6. カードの請求先住所を入力します。

7. 内容を確認して問題がなければ、[支払い方法を追加] を選択します。

クレジットカードを更新する

クレジットカードに関連付けられている有効期限、氏名、住所、電話番号は更新することができます。

> **Note**
>
> クレジットカードを追加または更新すると、AWS は前月の未払いの請求書を新しいカードに請求します。

クレジットカードを更新するには

1. AWS Billing and Cost Management コンソール https://console.aws.amazon.com/billing/ を開きます。
2. ナビゲーションペインで [Payment preferences] (お支払いの詳細設定) を選択します。

   AWS アカウント に関連付けられている支払い方法が [お支払方法] のセクションに表示されます。
3. 編集するクレジットカードを選択し、[編集] を選択します。
4. 変更する情報を更新します。
5. 変更を確認し、問題がなければ [変更の保存] を選択します。

未確認のクレジットカードのトラブルシューティング

支払いを行うには、期限切れでない有効なクレジットカードが登録されている必要があります。

クレジットカード情報が最新であることを確認するには

1. AWS Billing and Cost Management コンソール https://console.aws.amazon.com/billing/ を開きます。
2. ナビゲーションペインで [Payment preferences] (お支払いの詳細設定) を選択します。
3. お支払い方法を確認します。クレジットカードが未検証の場合は、[検証] を選択し、画面の指示に従います。

4. それでもこのクレジットカードを検証できない場合は、以下の手順に従います。

   a. 支払い方法を選択して、[削除] を選択します。
   b. [支払い方法を追加] を選択し、クレジットカード情報をもう一度入力します。
   c. プロンプトに従ってクレジットカード情報を確認します。

> **Note**
>
> 銀行によっては、追加の検証を求められる場合があります。銀行の Web サイトにリダイレクトされます。詳細については、「クレジットカード支払い検証の管理」を参照してください。

クレジットカードを削除する

クレジットカードを削除するときは、削除する前に、別の有効な支払い方法が AWS アカウント でデフォルトとして設定されていることを確認します。

クレジットカードを削除するには

1. AWS Billing and Cost Management コンソール https://console.aws.amazon.com/billing/ を開きます。
2. ナビゲーションペインで [Payment preferences] (お支払いの詳細設定) を選択します。AWS アカウント に関連付けられている支払い方法が [お支払方法] のセクションに表示されます。
3. 削除する支払い方法を選択して、[削除] を選択します。
4. [この支払い方法を削除しますか] のダイアログボックスで、[削除] を選択します。

ACH 銀行引き落としによる支払い方法を管理する

資格要件を満たしている場合は、ACH 銀行デビット支払い方法として米国の銀行口座を支払い方法に追加できます。

その場合、Amazon Web Services のお客様であること、および以下の要件が満たされていることが必要です。

- AWS アカウント を作成した日から 60 日以上が経過している。
- 過去 12 か月間で 1 件以上の請求が発生し、全額支払い済みである。

- 過去 12 か月間で累計 100 USD 以上を支払っている。
- 支払い通貨を USD に設定している。

ACH 銀行デビットで支払う場合、AWS から請求書が送付され、その月の始めから10日以内に支払い方法への請求が開始されます。AWS Billing and Cost Management コンソールの支払い欄に [成功] と表示されている場合でも、支払いが完了するまでに最大 20 日間かかります。

銀行引き落とし口座の追加または更新は、Billing and Cost Management コンソールから行えます。

目次

- 銀行引き落とし口座を追加する
- 銀行引き落とし口座を更新する

銀行引き落とし口座を追加する

銀行デビット口座を AWS の支払い方法に追加するには、請求情報とコスト管理コンソールを使用します。個人用口座またはビジネス用口座のいずれも使用できます。ただし、口座が米国内の支店にある場合に限ります。

ACH 銀行引き落とし口座を追加するときは、次の情報をお手元に用意しておきます。

- 米国の銀行口座番号
- 米国の銀行口座の支店コード
- 銀行を口座と関連付けるアドレス
- (個人用銀行口座の場合) 米国の運転免許証番号またはその他の州発行の ID 番号
- (ビジネス用銀行口座の場合) 納税者番号 (Tax ID)

銀行引き落とし口座を AWS アカウント に追加するには

1. AWS Management Console にサインインして AWS Billing and Cost Management コンソール (https://console.aws.amazon.com/billing/) を開きます。
2. ナビゲーションペインで [Payment preferences] (お支払いの詳細設定) を選択します。
3. [Add payment method] (支払い方法を追加) を選択します。
4. [Bank account (ACH)] (銀行口座 (ACH)) を選択します。
5. [口座のタイプ] で、[個人用] または [事業用] を選択します。

6. [Name on account] (口座の名前) で、主要口座名義人の名前を入力します。
7. [銀行支店番号] に 9 桁の支店番号を入力します。

   支店コードは常に 9 桁です。銀行によっては、小切手の最初にルーティングナンバーが記載されていることがあります。他の銀行では口座番号が最初に記載されていることがあります。
8. [銀行支店番号を再入力] に、もう一度 9 桁の支店番号を入力します。
9. [当座預金口座の番号] に当座預金口座の番号を入力します。

   口座番号は 17 桁まで入力できます。この口座は、米国にある銀行の ACH が有効な当座預金口座である必要があります。
10. [当座金口座の番号を再入力] に、もう一度、当座預金口座の番号を入力します。
11. 個人用の銀行口座の場合

    a. [運転免許証番号その他都道府県が発行した ID] に、プライマリアカウントの所有者の、有効な運転免許証の番号か、その他都道府県が発行した身分証明書の番号を入力します。
    b. [発行された ID の都道府県] に、都道府県名を入力します。
12. 事業用口座の場合は、[納税 ID] に、事業用連邦納税 ID を入力します。
13. [デフォルトの支払い方法として設定] で、この銀行引き落とし口座をデフォルトの支払い方法として設定するどうかを選択します。
14. [請求連絡先情報] に、プライマリアカウントの所有者の、有効な米国の請求連絡先を入力します。
15. [銀行口座を追加] を選択し、[利用規約] に同意して、銀行引き落とし口座を追加します。

銀行引き落とし口座を更新する

銀行デビット口座に関連付けられた名前、住所、または電話番号は更新することができます。

銀行引き落とし口座を更新するには

1. AWS Billing and Cost Management コンソール https://console.aws.amazon.com/billing/ を開きます。
2. ナビゲーションペインで [Payment preferences] (お支払いの詳細設定) を選択します。

   AWS アカウント に関連付けられた支払い方法は、[支払い方法] セクションに表示されます。
3. 編集する銀行引き落とし口座を選択し、[編集] を選択します。
4. 変更する情報を更新します。

5. 変更を確認し、問題がなければ [変更の保存] を選択します。

事前支払いを管理する

⚠ 事前支払いは AWS Billing and Cost Management のパブリックプレビューであり、変更の対象となります。この機能は、選択した顧客グループで使用できます。事前支払いの使用には、AWS サービス規約 (セクション 2) のベータおよびプレビュー参加条件が適用されます。

事前支払いを使用して、AWS の使用料金を事前に支払うには、事前支払いを使用します。AWS は資金を使用して、請求書に対する支払いを支払期日に自動的に行います。

AWS Billing and Cost Management コンソールで事前支払いに登録できます。事前支払いに資金を追加するには、電子資金振替を使用するか、個人またはビジネス用銀行口座を使用します。銀行口座を使用して資金を追加する場合、その銀行は米国支店の所在地である必要があります。

ℹ メモ

- 登録販売者 (SOR) が AWS Inc. で、米ドルでお支払いの場合は、前払いをご利用いただけます。[前払い] タブが表示されない場合は、次のいずれかの理由が考えられます。
  - AWS アカウント に別の SOR がある。ご利用の SOR を確認するには、[支払い設定] ページに移動し、デフォルトのお支払い方法の下にある [サービスプロバイダー] の下の名前を確認してください。この情報は、[税金設定] ページの [販売者] 列でも確認できます。
  - 組織に属するメンバーアカウントの場合、前払いを利用できるのは管理アカウント (支払いアカウントとも呼ばれます) だけです。
- 前払いは AWS GovCloud (US)ではご利用いただけません。
- 前払いに関するサービス制限の詳細なリストについては、「事前支払い」をご覧ください。

トピック

- 事前支払いを登録する

- 事前支払いへ資金を追加する

事前支払いを登録する

AWS Billing and Cost Management コンソールを使用して、事前支払いに登録できます。

事前支払いに登録するには

1. AWS Management Console にサインインして AWS Billing and Cost Management コンソール (https://console.aws.amazon.com/billing/) を開きます。
2. ナビゲーションペインで [支払い] を選択します。
3. [事前支払い] タブを選択します。
4. [事前支払いの利用規約] を承諾します。
5. [Register] (登録) を選択します。

事前支払いへ資金を追加する

電子資金振替または個人またはビジネス用銀行口座を使用して、事前支払いに資金を追加できます。

電子資金振替を使用して事前支払いに資金を追加するには

1. AWS Billing and Cost Management コンソール https://console.aws.amazon.com/billing/ を開きます。
2. ナビゲーションペインで [支払い] を選択します。
3. [事前支払い] タブを選択します。
4. [資金の追加] を選択します。
5. [金額] の下で、追加する基金の金額を入力します。

   金額は US ドル建ての入力が必要です。
6. [支払い方法] の下で、[支払い方法の選択] を選択します。
7. [電子送金] を選択します。
8. [この支払い方法を使用する] を選択します。
9. 支払いの詳細を確認し、[検証] を選択します。
10. 電子資金振込を完了するには、[支払いの概要] セクションの手順を使用します。

前払いを利用するには、ACH デビット支払い方法として米国の銀行口座を追加するための資格要件を満たす必要があります。詳細については、「ACH 銀行引き落としによる支払い方法を管理する」を参照してください。

銀行口座を使用して事前支払いに資金を追加するには

1. AWS Billing and Cost Management コンソール https://console.aws.amazon.com/billing/ を開きます。
2. ナビゲーションペインで [支払い] を選択します。
3. [事前支払い] タブを選択します。
4. [資金の追加] を選択します。
5. [金額] の下で、追加する基金の金額を入力します。

   金額は US ドル建ての入力が必要です。
6. [支払い方法] の下で、[支払い方法の選択] を選択します。
7. [銀行口座] を選択します。
8. [この支払い方法を使用する] を選択します。
9. 支払いの詳細を確認し、[資金の追加] を選択します。

入力した資金の金額が銀行口座に請求されます。

資金の概要ドキュメントは、[事前支払いの概要] ページからダウンロードできます。

CNYでの AWS 支払いの管理

AWS Inc.のお客様は、中国人民元の通貨でのお支払いが可能です。

新しい中国銀行リダイレクト支払いの利用

中国を拠点とするお客様は、中国の銀行のリダイレクト支払い方法を使用してお支払いを完了できます。これを行うには、人民元による支払いを有効にして、優先通貨として設定する必要があります。中国の銀行のリダイレクト方式を使用すると、AWS Inc. について人民元で支払うことができます。

トピック

- 中国の銀行のリダイレクト支払いを利用するための要件
- 中国の銀行のリダイレクト支払いの設定
- 中国銀行リダイレクトによる支払い

- 中国の銀行のリダイレクトから請求書による支払いへの切り替え

中国の銀行のリダイレクト支払いを利用するための要件

支払い方法として中国銀行リダイレクトを使用するには、Amazon Web Services, Inc. のお客様であること、および以下の要件が満たされていることが必要です。

- 人民元による支払いを有効にする必要があります。
- 優先通貨として人民元を設定する必要があります。

中国の銀行のリダイレクト支払いの設定

支払い方法として中国銀行リダイレクトを使用するには、AWS Billing and Cost Management コンソールで人民元の支払いを有効化します。

人民元の支払いを有効にするには、本人確認のための情報を提供します。個人アカウントの場合、確認のために国民識別番号が必要です。ビジネスアカウントの場合、次の情報が必要です。

- Unified Social Credit Code または組織コード
- 営業許可証の画像

必要な情報を収集したら、次の手順に従います。この手順では、優先通貨を人民元に設定し、中国銀行リダイレクト支払いをセットアップします。

人民元の支払いを有効にし、中国の銀行のリダイレクト支払い方法を設定するには

1. AWS Management Console にサインインして AWS Billing and Cost Management コンソール (https://console.aws.amazon.com/billing/) を開きます。
2. ナビゲーションペインで [Payment Methods (支払い方法)] を選択します。
3. [Pay with Chinese yuan] (人民元での支払い) のセクションで、[Get started] (今すぐ始める) または [Pay in Chinese yuan] (人民元で支払う) を選択します。
4. 「Terms and Conditions for Chinese Yuan Payments」(人民元でのお支払いに関する規約) を確認します。その後、[I have read and agree to the Terms and Conditions for Chinese Yuan Payments] (私は、人民元のお支払いに関する規約を読み、同意します) を選択します。
5. [Next] (次へ) をクリックします。
6. 個人アカウントの場合、以下を実行します。

- [Full name] (フルネーム) で、フルネームを中国語で入力します。
- [Identity card number] (身分証明書番号) で、国民識別番号を入力します。

ビジネスアカウントを使用している場合は、以下を実行します。

- [Company name] (会社名) は中国語で入力してください。
- [Contact name] (連絡先の名前) で、連絡先の名前を中国語で入力します。
- [Contact phone number] (連絡先の電話番号) で、会社の連絡先の電話番号を入力します。
- [Uniform social credit code or organization code] (Unified Social Credit Code または組織コード) で、会社のコードを入力します。
- [Company business license] (会社の営業許可証) で、会社の営業許可証の画像をアップロードします。

> **Note**
>
> アカウントによっては、中国銀聯クレジットカードの追加が必要になる場合があります。詳細については、「中国人民元クレジットカードの使用」を参照してください。

7. [Next] (次へ) をクリックします。
8. 入力した本人確認のための情報が正しいことを確認します。次に、[送信] を選択します。

本人情報の確認には 1 営業日を要する場合があります。本人であることが確認されると、デフォルトの通貨は自動的に人民元に変更されます。さらに、中国の銀行のリダイレクトの支払い方法は、[Payment Methods] (お支払方法) コンソールページの [Pay with Chinese yuan] (人民元での支払い) セクションで利用できます。

中国銀行リダイレクトによる支払い

支払い方法を設定した後、中国銀行のリダイレクトを使用して、請求書の支払いを行うことができます。

> **Note**
>
> ビジネスアカウントを使用している場合は、中国銀行リダイレクト支払い方法に選択する銀行口座名が、人民元での支払い設定時に送信した会社の正式名称と同一である必要があります。前の手順のステップ 6 を参照してください。

中国銀行のリダイレクトを使用して請求書を支払うには

1. AWS Billing and Cost Management コンソール https://console.aws.amazon.com/billing/ を開きます。
2. ナビゲーションペインで [支払い] を選択します。
3. 支払いを希望する請求書を選択し、[Complete payment] (支払いを完了) を選択します。
4. [Select payment option (支払いオプションの選択)] で、[中国銀行のリダイレクト] を選択します。
5. 50,000 USD を超える支払いについては、適用される税および源泉徴収の義務を履行したことを確認してください。そのためには、[I confirm that I fulfilled the Chinese tax and surcharge withholding obligations according to Chinese tax laws and regulations] (私は、中国の税法および規制に従って、中国の税および追加料金の源泉徴収義務を履行したことを確認します) を選択します。
6. [Verify and pay] (確認して支払う) を選択します。
7. リダイレクトを続行するには、[OK] を選択します。

リダイレクトされたら、ドロップダウンメニューから銀行を選択し、銀行のウェブサイトでお支払いを完了します。トランザクションリクエストの処理には最大 24 時間かかることがあります。

中国の銀行のリダイレクトから請求書による支払いへの切り替え

デフォルトの支払い方法を請求書による支払いに変更するには、次の手順に従います。

請求書による支払いの方法に切り替えるには

1. AWS Billing and Cost Management コンソール https://console.aws.amazon.com/billing/ を開きます。
2. ナビゲーションペインで [Payment Methods (支払い方法)] を選択します。

3. [Pay by invoice] (請求書による支払い) セクションで、使用するデフォルトの支払い方法の横にある [Make default] (デフォルトにする) を選択します。
4. [Change your payment method and currency] (支払い方法と通貨を変更) ダイアログボックスで、[Yes, I want to proceed] (はい、続行します) を選択します。

お支払い方法を変更すると、優先通貨はデフォルトで USD に設定されます。優先通貨を人民元に戻すには、中国の銀行のリダイレクト支払い方法の横にある Make default デフォルトにする を選択します。優先通貨をサポートされている別の通貨に変更するには、「請求の支払い通貨の変更」を参照してください。

中国人民元クレジットカードの使用

AWS Inc. のアカウントを持っており、USD で請求され、拠点が中国の場合は、以下のセクションに従って、中国人民元 (CNY) クレジットカードをアカウントに追加します。

次のタスクを実行するには、AWS Billing and Cost Management コンソールの [支払い方法] ページを使用します。

- the section called “中国人民元クレジットカードの設定”
- the section called “中国人民元クレジットカードからインターナショナルクレジットカードへの切り替え”
- the section called “別の中国人民元クレジットカードの追加”

中国人民元クレジットカードの設定

使用する通貨を CNY に変更し、クレジットカードを追加するには、次の情報が必要です。

- 国民 ID 番号
- ビジネスライセンス (該当する場合)
- ビジネスライセンスの画像 (該当する場合)

必要な情報を入力したら、次の手順に従って指定通貨を変更し、最初の中国人民元クレジットカードを追加します。

最初の中国人民元クレジットカードを追加するには

1. AWS Management Console にサインインして AWS Billing and Cost Management コンソール (https://console.aws.amazon.com/billing/) を開きます。
2. ナビゲーションペインで [Payment Methods (支払い方法)] を選択します。
3. [Pay with Chinese yuan] を選択します。
4. [Setting up Chinese yuan payment] ダイアログボックスで、[Terms and Conditions for Chinese yuan payments (中国人民元でのお支払いに関する規約)] をお読みの上、[I've already read and agree to the above terms and conditions] を選択し、[Next] を選択します。
5. [Verify customer identity] に、次の情報を入力します。

   - 国民 ID の名前
   - 連絡先の番号
   - (法人のみ) 会社名
   - 国民 ID 番号
   - (法人のみ) Business License number (ビジネスライセンス番号)
   - (法人のみ) Business License image (ビジネスライセンスの画像)

   必要な情報を入力したら、[次へ] を選択します。
6. [中国銀聯クレジットカードを追加] にカードと銀行の情報を入力します。
7. [Get Code (コードの取得)] を選択し、指定されたコードを入力して、[Next (次へ)] を選択します。
8. 情報を確認し、[I have confirmed that the provided information is accurate and valid (表示された情報は性格で有効なものであることを確認しました)] を選択して、[Submit (送信)] を選択します。

お客様の情報の確認に 1 営業日かかる場合があります。情報の確認が完了すると、AWS より E メールが送信されます。

中国人民元クレジットカードからインターナショナルクレジットカードへの切り替え

中国人民元クレジットカードからインターナショナルクレジットカードに切り替えるには、優先通貨を変更します。次の手順に従って、デフォルトの支払い方法と指定の通貨を一度に変更することができます。

デフォルトの支払い方法と通貨を変更するには

1. AWS Billing and Cost Management コンソール https://console.aws.amazon.com/billing/ を開きます。
2. ナビゲーションペインで [Payment Methods (支払い方法)] を選択します。
3. デフォルトの支払い方法として使用するインターナショナルクレジットカードの横にある、[Make Default] を選択します。
4. ダイアログボックスの [Select payment currency (支払い通貨の選択)] で、使用する通貨を選択します。次に、[はい、続行します] を選択します。

別の中国人民元クレジットカードの追加

別の中国人民元クレジットカードを追加するには、次の手順に従います。

別の中国のクレジットカードを追加するには

1. AWS Billing and Cost Management コンソール https://console.aws.amazon.com/billing/ を開きます。
2. ナビゲーションペインで [Payment Methods (支払い方法)] を選択します。
3. [Add a Chinese yuan credit card (中国人民元クレジットカードの追加)] を選択します。
4. クレジットカードのボックスに、カードおよび銀行に関する情報を入力します。
5. [コードの取得] を選択し、指定されたコードを入力して、[Continue (続行)] を選択します。

ブラジルでの PIX 支払い方法の管理

要件が満たされている場合、PIX 機能を有効にした状態でモバイルバンキングアプリを使用できます。この機能を使用して、AWS が生成した QR コードをスキャンし、AWS アカウントの支払いを行うことができます。

PIX を使用するには、Amazon Web Services のお客様であること、および AWS アカウントが以下の要件を満たしている必要があります。

- 請求書はブラジルレアル (BRL) で生成され、BRL が優先通貨として設定されている。
- クレジットカードがデフォルトのお支払いとして設定されている。

クレジットカードの登録は必須です。ただし、クレジットカードが有効な支払いオプションである場合、PIX はご利用いただけません。クレジットカードでの支払いが失敗した場合は、PIX を支払い方法として選択できます。

PIX を使用して取引を完了するには

1. AWS Management Console にサインインして AWS Billing and Cost Management コンソール (https://console.aws.amazon.com/billing/) を開きます。
2. ナビゲーションペインで [支払い] を選択します。
3. [支払期限] セクションで、[期限切れ] ステータスの請求書を選択します。
4. [Complete payment (支払いを完了)] を選択します。
5. [支払い方法を変更] または [PIX を使用] を選択します。
6. [QR コードを生成] を選択します。

> **Note**
>
> PIX の QR コードは 30 分間有効です。取引時間が 30 分を超える場合は、これらの手順をもう一度実行して新しい QR コードを生成してください。

7. モバイルバンキングアプリで PIX オプションを開き、AWS が生成した QR コードをスキャンしてトランザクションの詳細を確認します。また、AWS の [支払いの完了] ページで [PIX コードのコピー] を選択して、バンキングのページにコードを貼り付けることもできます。
8. バンキングアプリから必要な追加の手順をすべて完了してください。
9. 完了した取引を[支払い] ページで確認します。

> **Note**
>
> 銀行から支払いの確認を受け取るまでに最大 2 分かかります。情報が届き次第、[支払い] ページに変更内容が反映されます。

PIX のお支払いに関する質問については、AWS Supportにお問合せください。

インドでの支払いの管理

AWS アカウントがインドにある場合は、このトピックの手順に従って支払い方法を管理し、支払いを行います。 AWS アカウントがインドにあるのかインドにあるのかについて詳しくは、を参照してください登録販売者の検索。 AWS

> **Note**
>
> 支払い方法に関して質問がある場合は、「AWS 請求のヘルプを利用する」を参照してください。

目次

- サポートされている支払い方法
- クレジットカードまたはデビットカードを使って支払う
- クレジットカードまたはデビットカードの詳細情報を保存する
- 支払い時にカードの詳細情報を追加する
- クレジットカードまたはデビットカードを削除する
- ネットバンキングアカウントの追加
- ネットバンキング口座を使って支払う
- ネットバンキングアカウントの削除
- 統合決済インターフェース (UPI) を使用して支払いを行います。

サポートされている支払い方法

AWS AWS インドのアカウントの Visa、Mastercard、アメリカンエキスプレス、 RuPay クレジットカード、デビットカードをサポートします。さらに、インターネットバンキング (ネットバンキング) アカウントとユニファイドペイメントインターフェイス (UPI) を使用して、インドの請求書の支払いを行うことができます。 AWS

クレジットカードまたはデビットカードを使って支払う

Billing and Cost Management コンソールを使用して、 AWS インドの請求書を支払うことができます。クレジットカードまたはデビットカードを使って支払う場合は、次の手順に従います。

クレジットカードまたはデビットカードを使って支払うには

1. https://console.aws.amazon.com/billing/ AWS Billing and Cost Management でコンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで [支払い] を選択します。

   [Payments due] (お支払い期限) テーブルには、未処理の請求書がすべて一覧表示されます。請求書が表示されない場合、必要な操作はありません。
3. [お支払い期限] テーブルで、支払う請求書を選択します。
4. [Complete payment (支払いを完了)] を選択します。
5. [お支払いを完了する] ページの [要約] セクションにカードの CVV を入力し、[確認して支払う] を選択します。
6. Visa、Mastercard、アメリカンエキスプレス、 RuPay および支払い方法については、支払いを確認するために銀行にリダイレクトされます。

   支払いが確認されると、[Payments] (支払い) ページにリダイレクトされます。請求書は、銀行が支払いを処理するまで [Payments due] (お支払い期限) テーブルに残ります。

クレジットカードまたはデビットカードの詳細情報を保存する

インド準備銀行 (RBI) のガイドラインに従い、クレジットカードまたはデビットカードの詳細をカードネットワークに保存して、 AWS 次回以降の請求書支払いに使用することができます。

デビットカードまたはクレジットカードの詳細情報を保存する

1. https://console.aws.amazon.com/billing/ AWS Billing and Cost Management でコンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで [Payment preferences] (お支払いの詳細設定) を選択します。
3. [Add payment method] (支払い方法を追加) を選択します。
4. [クレジット/デビットカード] を選択します。
5. カード番号、有効期限、セキュリティコード (CVV)、およびカード所有者の名前を入力します。
6. [今後の支払いのためにカード情報を保存する] に同意します。
7. [請求先住所情報] のセクションに、ご自身の名前、請求先住所、電話番号を入力します。
8. カード情報を確認してから、[お支払い方法を追加] を選択します。

クレジットカードを認証するために銀行のウェブサイトにリダイレクトされ、2 インドルピー (INR) が課金されます。この料金は、5～7 営業日以内にカードに返金されます。

カードが正常に認証されると、カードの詳細情報が AWS アカウントに保存されます。

支払い時にカードの詳細情報を追加する

クレジットカードまたはデビットカードの詳細情報は、請求書の支払い時に追加することもできます。支払い方法としてカードを追加すると、この手順を繰り返す必要がなくなります。

支払い時にカードの詳細情報を追加する

1. https://console.aws.amazon.com/billing/ AWS Billing and Cost Management でコンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで [支払い] を選択します。

   [Payments due] (お支払い期限) テーブルには、未処理の請求書がすべて一覧表示されます。請求書が表示されない場合、必要な操作はありません。
3. [お支払い期限] テーブルで、支払い対象の請求書を選択します。
4. [支払う] を選択します。
5. [お支払い方法を追加] を選択し、[クレジット/デビットカード] を選択します。
6. カード番号、有効期限、セキュリティコード (CVV)、およびカード所有者の名前を入力します。
7. [今後の支払いのためにカード情報を保存する] に同意します。
8. [請求先住所情報] のセクションに、ご自身の名前、請求先住所、電話番号を入力します。
9. カード情報を確認してから、[お支払い方法を追加] を選択します。

   請求書の支払い概要にリダイレクトされ、その画面で支払いを行うように求められます。

   支払いが正常に完了すると、カードの詳細情報が AWS アカウントに保存されます。

クレジットカードまたはデビットカードを削除する

クレジットカードまたはデビットカードを削除する前に、 AWS アカウント 別の有効な支払い方法がデフォルトとして設定されていることを確認してください。

クレジットカードまたはデビットカードを削除する

1. https://console.aws.amazon.com/billing/ AWS Billing and Cost Management でコンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで [Payment preferences] (お支払いの詳細設定) を選択します。自分に関連する支払い方法が [支払い方法] AWS アカウント セクションに表示されます。
3. 削除する支払い方法を選択して、[削除] を選択します。
4. [この支払い方法を削除しますか] のダイアログボックスで、[削除] を選択します。

ネットバンキングアカウントの追加

支払い方法へのインターネットバンキング (ネットバンキング) 口座の追加は、Billing and Cost Management コンソールから行えます。この支払い方法は、 AWS インドのすべてのお客様が利用できます。

ネットバンキングの口座を追加するには

1. https://console.aws.amazon.com/billing/ AWS Billing and Cost Management でコンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで [Payment preferences] (お支払いの詳細設定) を選択します。
3. [Add payment method] (支払い方法を追加) を選択します。
4. [Net Banking] (ネットバンキング) を選択します。
5. [ネットバンキングに関する情報] で銀行名を選択します。
6. [請求先住所情報] のセクションに、ご自身の名前、請求先住所、電話番号を入力します。
7. [Add payment method] (支払い方法を追加) を選択します。

ネットバンキング口座を使って支払う

Billing and Cost Management コンソールを使用して、 AWS インドの請求書を支払うことができます。ネットバンキングで支払いを行うときは、次の手順に従います。

> **Note**
>
> AWS 現在のインドの規制により、 AWS 支払いのたびに請求を承認する銀行にリダイレクトされます。ネットバンキングは、自動支払いには使用できません。

ネットバンキングを使って支払いを行うには

1. https://console.aws.amazon.com/billing/ AWS Billing and Cost Management でコンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで [支払い] を選択します。

   [Payments due] (お支払い期限) テーブルには、未処理の請求書がすべて一覧表示されます。請求書が表示されない場合、必要な操作はありません。
3. [お支払い期限] テーブルで、支払う請求書を選択します。
4. [Complete payment (支払いを完了)] を選択します。
5. [お支払いの完了] ページで、保存したネットバンキング口座がデフォルトで選択されます。別のネットバンキング口座を使用するには、[支払い方法を追加] を選択し、[ネットバンキング] を選択します。
6. 要約を確認し、[確認して支払う] を選択します。
7. 支払いを検証するために、銀行のウェブサイトにリダイレクトされます。銀行のアカウントにサインインして、画面の指示に従って支払を承認します。

   支払いが確認されると、[Payments] (支払い) ページにリダイレクトされます。処理が正常に完了したことを示すメッセージがページの上部に表示されます。

ネットバンキングアカウントの削除

AWS アカウントからネットバンキングの口座を削除する場合、Billing and Cost Management コンソールから行います。

ネットバンキング口座を削除するには

1. https://console.aws.amazon.com/billing/ AWS Billing and Cost Management でコンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで [Payment preferences] (お支払いの詳細設定) を選択します。自分に関連する支払い方法は、「支払い方法」 AWS アカウント セクションに一覧表示されます。
3. 別の有効な支払い方法がデフォルトとして設定されていることを確認してください。 AWS アカウント
4. 削除する支払い方法を選択し、[削除] を選択します。
5. [Delete payment method] (支払方法を削除) ダイアログボックスで [Delete] (削除) を選択します。

統合決済インターフェース (UPI) を使用して支払いを行います。

AWS 請求コンソールを使用してインドの請求書を支払うことができます。統一決済インターフェース (UPI) で支払いを行うには、以下の手順に従ってください。

> **Note**
>
> UPI 取引を承認するために、有効な UPI ID と請求先住所を入力すると、 AWS インドは指定した UPI ID に関連付けられた UPI アプリケーション (アプリ) にリクエストを送信します。支払いを完了するには、UPI アプリを開いて 10 分以内に取引を承認してください。10 分以内に取引が承認されない場合、リクエストは期限切れになり、請求コンソールから支払いを再試行する必要があります。

UPI を使用して支払いを行うには

1. https://console.aws.amazon.com/billing/ AWS Billing and Cost Management でコンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで [支払い] を選択します。

   [Payments due] (お支払い期限) テーブルには、未処理の請求書がすべて一覧表示されます。請求書が表示されない場合、必要な操作はありません。
3. [お支払い期限] テーブルで、支払う請求書を選択します。
4. [Complete payment (支払いを完了)] を選択します。
5. 「支払いを完了する」ページで、「支払い方法を追加」を選択し、次に「統合決済インターフェイス (UPI)」を選択します。
6. UPI ID を入力し、[確認] を選択します。
7. 成功したら、請求先住所を入力するか、既存の住所を使用してください。
8. [Add payment method] (支払い方法を追加) を選択します。
9. 支払いページにリダイレクトされたら、概要を確認して [確認して支払い] を選択します。

   支払いを承認するために必要な手順が記載された中間ページにリダイレクトされます。支払いが確認されると、ペイメントページにリダイレクトされ、ページ上部に成功メッセージが表示されます。

AWS ヨーロッパでの支払い管理

AWS アカウントがヨーロッパの場合は、このセクションの手順に従って支払い方法とお支払いを管理してください。

トピック

- AWS ヨーロッパでの支払い方法の管理
- ヨーロッパでの支払い、未払いの残高の確認、 AWS 支払い履歴の確認
- AWS ヨーロッパのクレジットカード決済方法の管理
- AWS ヨーロッパのクレジットカードによる支払い確認の管理
- SEPA 口座振替の支払い方法の管理

AWS ヨーロッパでの支払い方法の管理

AWS Billing and Cost Management コンソールの「支払い設定」 ページでは、すべての支払いタイプについて以下のタスクを実行できます。

- View payment methods associated with your account
- Designate a default payment method
- Remove a payment method from your AWS Europe account

さらに、 AWS Billing and Cost Management コンソールの「支払い設定」 ページを使用して、クレジットカードと自動引き落とし口座を管理できます。詳細については、クレジットカードと ACH の支払い方法の管理およびSEPA 口座振替の支払い方法の管理を参照してください。

AWS アカウント に関連付けられた支払い方法を表示するには

アカウントに関連付けられた支払い方法を表示するには、コンソールを使用できます。

1. AWS Management Console にサインインし、https://console.aws.amazon.com/billing/ AWS Billing and Cost Management にあるコンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで [Payment preferences] (お支払いの詳細設定) を選択します。

自分に関連する支払い方法は、「支払い方法」 AWS アカウント セクションに一覧表示されます。

デフォルトの支払い方法を指定するには

1. AWS Management Console にサインインし、https://console.aws.amazon.com/billing/ AWS Billing and Cost Management にあるコンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで [Payment preferences] (お支払いの詳細設定) を選択します。

   自分に関連する支払い方法は、「支払い方法」 AWS アカウント セクションに一覧表示されます。
3. デフォルトで使用する支払い方法を選択して、[Set as default] (デフォルトとして設定) を選択します。

AWS ヨーロッパのアカウントから支払い方法を削除するには

コンソールを使用して、アカウントから支払い方法を削除できます。

1. AWS Management Console にサインインし、https://console.aws.amazon.com/billing/ AWS Billing and Cost Management でコンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで [Payment preferences] (お支払いの詳細設定) を選択します。

   自分に関連する支払い方法は、「支払い方法」 AWS アカウント セクションに一覧表示されます。
3. アカウントにそのほかのお支払い方法がデフォルトとして設定されていることを確認します。
4. 削除する支払い方法を選択し、[Delete] (削除) を選択します。
5. [Delete payment method] (支払方法を削除) ダイアログボックスで [Delete] (削除) を選択します。

ヨーロッパでの支払い、未払いの残高の確認、 AWS 支払い履歴の確認

AWS Billing and Cost Management コンソールの「支払い」ページでは、すべての支払いタイプについて以下のタスクを実行できます。

- Make a payment
- View outstanding invoices
- View unapplied funds
- View payment history

支払いをする

AWS ヨーロッパでは、毎月初めにデフォルトのお支払い方法で自動的に請求されます。その料金が正常に処理されない場合は、コンソールを使用して支払い方法を更新し、支払いを行うことができます。

> **Note**
>
> SEPA 口座振替でお支払いの場合は、 AWS 翌日または請求書の期日のいずれか遅い方に、請求書が送付され、お支払い方法への請求が開始されます。支払いが処理されるまで最大 5 営業日かかる場合があります。詳しくは、「SEPA 口座振替の支払い方法の管理」を参照してください。

支払いを行う前に、今後自動的に請求される支払い方法がデフォルトの支払い方法として設定されていることを確認します。クレジットカードを使用している場合は、カードが有効期限内であることを確認してください。詳細については、Designate a default payment methodおよびAWS ヨーロッパのクレジットカード決済方法の管理を参照してください。

支払いを行うには

1. https://console.aws.amazon.com/billing/ でコンソールを開きます。 AWS Billing and Cost Management
2. ナビゲーションペインで [支払い] を選択します。

   [支払い期限] テーブルには、未処理の請求書がすべて一覧表示されます。請求書が表示されない場合、現時点で必要な操作はありません。
3. 未処理の請求書がある場合は、支払う請求書を [支払い期限] テーブルで選択してから、[支払いを完了する] を選択します。
4. [支払いを完了する] ページで、請求書の支払いに使用できる場合は、デフォルトの支払い方法が選択されます。別の支払い方法を使用する場合、または使用できる支払い方法を選択する場合は、[変更] を選択します。
5. 概要が支払う金額と一致していることを確認し、[確認と支払い] を選択します。

   銀行で支払いが処理されると、[支払い] ページにリダイレクトされます。

SEPA 口座振替で支払いをしていて、 AWS AWS ヨーロッパから銀行口座への請求ができないというメールが届いたとします。もう一度やり直します。銀行に連絡して問題を確認してください。

または、 AWS 前回ヨーロッパが銀行口座への請求に失敗したというメールを受け取ったとします。コンソールで [確認して支払う] を選択して支払いを行ってください。銀行口座への請求や、未払い金の支払いに関してご質問がある場合は、サポートセンターでケースを作成します。

海外送金で支払うが、使用料の支払期限が超過している場合は、サポートセンターでケースを作成します。

残りの請求書、未適用の資金、支払い履歴を表示する

[支払い期限]、[未適用の資金]、および [支払い履歴] テーブルは、次の手順で説明されているように、検索およびフィルタリングできます。歯車アイコンを選択して、デフォルトの列を変更し、その他のテーブル設定をカスタマイズします。適切な ID を選択して項目を個別にダウンロードするか、[ダウンロード] を選択してから、[CSV のダウンロード] を選択して、レポートの目的でテーブルの CSV ファイルをダウンロードします。

残りの請求書を表示するには

1. https://console.aws.amazon.com/billing/ AWS Billing and Cost Management でコンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで [支払い] を選択します。
3. [支払い期限] タブを選択して、[支払い期限] テーブルを表示します。

   [お支払い期限] テーブルには、残りの請求書がすべて一覧表示されます。テーブルには、請求書の合計金額と残高が表示されます。

   このテーブルには、以下のステータスが含まれます。

   - [期限] — 支払い期日が近づいている未処理の請求書。
   - [期限経過] — 支払い期日までに支払いが行われていない未処理の請求書。
   - [予定] — 今後の支払い予定がある請求書。
   - [処理中] — 現在支払いが予定されている請求書。

未適用の資金を表示するには

1. https://console.aws.amazon.com/billing/ AWS Billing and Cost Management でコンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで [Payment] を選択します。
3. [未適用の資金] タブを選択して、[未適用の資金] テーブルを表示します。

   [未適用資金] テーブルには、未適用のすべてのクレジットメモが一覧表示されます。テーブルには、請求書の合計金額と残高が表示されます。

支払い履歴を表示するには

1. https://console.aws.amazon.com/billing/ AWS Billing and Cost Management でコンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで [Payment] を選択します。
3. [トランザクション] タブを選択して、[トランザクション] テーブルを表示します。

   Transactions テーブルには、との完了したすべてのトランザクションが一覧表示されます AWS。

AWS ヨーロッパのクレジットカード決済方法の管理

AWS Billing and Cost Management コンソールの「支払い設定」 ページを使用して、以下のクレジットカードタスクを実行できます。

- Add a credit card to your AWS Europe account
- Update your credit card
- Confirm that your credit card is up to date

AWS ヨーロッパのアカウントにクレジットカードを追加するには

コンソールを使用して、アカウントにクレジットカードを追加できます。

1. AWS Management Console にサインインし、https://console.aws.amazon.com/billing/ AWS Billing and Cost Management でコンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで [Payment Methods] を選択します。

3. [Add a card] を選択します。
4. クレジットカードフィールドに情報を入力し、[Continue (続行)] を選択します。
5. クレジットカード情報フィールドに、カードの請求連絡先を入力します。
6. [Continue] を選択します。

クレジットカードを更新するには

クレジットカードに関連付けられた名前、住所、電話番号は更新できます。

1. AWS Management Console にサインインし、https://console.aws.amazon.com/billing/ AWS Billing and Cost Management でコンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで [Payment Methods] を選択します。
3. 編集するクレジットカードの横にある [編集] を選択します。
4. 変更するフィールドを更新します。
5. ページの最下部にある [更新] を選択します。

クレジットカードが最新であることを確認するには

支払いを行うには、期限切れでない有効なクレジットカードが登録されている必要があります。

1. AWS Management Console にサインインし、https://console.aws.amazon.com/billing/ AWS Billing and Cost Management でコンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで [Payment Methods] を選択します。
3. カードの有効期限日が将来の日付であることを確認します。カードが期限切れの場合は、新しいカードを追加するか、現在のカードを更新します。

AWS ヨーロッパのクレジットカードによる支払い確認の管理

最近の EU の規制に準拠するため、 AWS クレジットカードを使用してオンラインでの支払い、クレジットカードの追加や更新、 AWS アカウントまたは新規登録を行うたびに、銀行から確認を求められる場合があります。銀行は通常、オンライン購入が完了する前に、一意のセキュリティコードをクレジットカード所有者にオンラインで送信します。銀行が支払いの確認を必要とする場合は、からメールが届きます AWS。確認後、Web AWS サイトにリダイレクトされます。

支払いの検証を行いたくない場合は、支払い方法として銀行口座を登録してください。銀行デビット支払いの利用資格に関する詳細については、「」を参照してください。

EU の規制に関する詳細については、欧州委員会のウェブサイト（英語）を参照してください。

-
-
-
-
-

検証のベストプラクティス

- クレジットカード情報が最新であることを確認します。銀行は登録されたカード所有者にのみ検証コードを送信します。
- 最新のコードを入力します。認証ポータルを閉じた場合や新しいコードをリクエストした場合は、最新のコードの受信が遅れることがあります。
- 指示に従ってコードを入力します。コードの送信元の電話番号を入力しないでください。

支払いの検証

AWS Billing and Cost Management コンソールを使用して、支払いに確認が必要かどうかを確認したり、失敗した支払いを再試行したりできます。

支払いを検証するには

1. AWS Management Console にサインインし、https://console.aws.amazon.com/billing/ AWS Billing and Cost Management にあるコンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで [Orders and invoices (注文と請求書)] を選択します。
3. [Payments due (支払い期限)] で支払う請求書を見つけ、[Verify and pay (検証して支払い)] を選択します。
4. [Payment preferences] (お支払いの詳細設定) ページで、使用する支払い方法を選択します。
5. [Complete payment (支払いを完了)] を選択します。
6. 支払いを検証する必要がある場合は、銀行のウェブサイトにリダイレクトされます。検証を完了するには、表示される指示に従ってください。

銀行での支払いが処理されると、[注文と請求書] ページにリダイレクトされます。

> **Note**
>
> 銀行で支払い処理が完了するまで、請求書は [支払い処理中] というステータスで表示されます。

支払いの検証のトラブルシューティング

検証が正しく完了しなかった場合は、次のいずれかのアクションを取ることをお勧めします。

- 銀行に連絡して、自分の連絡先情報が最新であることを確認します。
- 銀行に連絡して、検証が失敗した理由の詳細を確認します。
- キャッシュと cookie を消去するか、別のブラウザを使用します。
- AWS Billing and Cost Management コンソールの「支払い設定」ページに移動し、請求先情報を更新します。

AWS Organizations

のメンバーアカウントの場合 AWS Organizations、前払いが必要な購入済みサービスは、管理アカウントのユーザーが支払いを確認するまで有効にならない場合があります。確認が必要な場合は、AWS 管理アカウントの請求担当者にメールで通知します。

管理アカウントとメンバーアカウント間の連絡プロセスを確立してください。支払い方法を変更するには、「」を参照してください。

サブスクリプションの購入

複数のサブスクリプションを一度に (一括で) 購入し、銀行から確認を求められたとします。その後、銀行から個々の購入の確認を求められる場合があります。

サブスクリプションには、リザーブドインスタンス、ビジネスサポートプラン、Route 53 ドメインなどの即時購入が含まれる場合があります。サブスクリプションには料金は含まれていません。AWS Marketplace

すべての購入について検証を完了させるか、支払い方法として銀行口座を登録してください。銀行デビット支払いの利用資格に関する詳細については、「」を参照してください。

SEPA 口座振替の支払い方法の管理

AWS ヨーロッパのお客様は、銀行口座を追加して SEPA 口座引き落としによる支払いが可能になります。個人用口座またはビジネス用口座のいずれも使用できます。ただし、SEPA がサポートされている国の支店に口座があり、ユーロでのお支払いの場合に限ります。

SEPA 口座振替でお支払いの場合は、 AWS 翌日または請求書の期日のいずれか遅い方に、請求書が送付され、お支払い方法への請求が開始されます。 AWS Billing コンソールの支払い欄に [Succeeded] (成功) と表示されている場合でも、支払いが完了するまでに最大 5 営業日かかります。

AWS 請求コンソールの支払い設定ページを使用して、次の SEPA 口座振替タスクを実行できます。

目次

- 銀行口座を確認し、 AWS ヨーロッパのお支払い方法にリンクしてください。
- AWS ヨーロッパのお支払い方法に口座振替口座を手動で追加してください。
- 振替口座情報を更新する

銀行口座を確認し、 AWS ヨーロッパのお支払い方法にリンクしてください。

> **メモ**
>
> - この機能は請求情報とコスト管理のプレビューリリースであり、変更される可能性があります。
> - この機能を使用するには、ドイツの請求先住所が必要です。請求先住所を変更するには、「振替口座情報を更新する」を参照してください。

AWS アカウント 銀行口座にサインインすることで、SEPA 口座振替口座を確認してアカウントにリンクできます。本人確認と銀行口座名義を確認を行うために、銀行口座へのサインインをお願いしています。

AWS TrueLayerを使用して銀行に接続し、銀行口座の所有権を安全に認証します。この 1 回限りの認証プロセスの間、 end-to-end お客様の情報は暗号化された接続で保護されます。個人データは、接続された銀行口座の名義人であることを確認する目的以外に共有されることや使用されることはありません。

銀行口座のサインイン認証情報にアクセスできない場合は、銀行口座名義人用の IAM エンティティ (ユーザーやロールなど) を作成して、請求コンソールへのアクセスを許可することができます。その

後、 AWS アカウント 支払い方法を更新できます。口座のユーザー名、パスワード、支払い方法などの機密情報は共有しないことをお勧めします。詳細については、次のトピックを参照してください。

- アクセス許可の管理の概要
- 「AWS Account Management リファレンスガイド」のアカウントのルートユーザーを保護するためのベストプラクティス

銀行口座の確認とリンクを行うには

1. AWS Management Console にサインインし、https://console.aws.amazon.com/billing/ AWS Billing and Cost Management でコンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで [Payment preferences] (お支払いの詳細設定) を選択します。
3. [Add payment method] (支払い方法を追加) を選択します。
4. [銀行口座] を選択します。
5. [銀行にサインイン] を選択します。
6. [銀行口座をリンク] を選択します。
7. 銀行名を選択します。
8. [Allow] (許可) を選択します。共有した情報は、銀行口座名義の確認と詐欺防止にのみ使用されます。
9. 銀行口座にサインインします。銀行口座の認証情報を使用します (AWS アカウントの認証情報ではありません)。接続は暗号化され、認証情報は保護されます。 AWS オンラインバンキングの認証情報にアクセスしたり、保存したりすることはありません。

   > **Note**
   >
   > 銀行では、多要素認証 (MFA) による口座へのサインインが要求される場合があります。

10. [請求先住所情報] に主要口座名義人の請求連絡先を入力します。
11. [銀行口座を追加] を選択し、[利用規約] に同意して、銀行引き落とし口座を追加します。銀行口座が認証され、 AWS ヨーロッパのお支払い方法に追加されました。

> **Note**
>
> AWS オンラインバンキングの認証情報にアクセスしたり、保存したりできなくなります。AWS 利用者の明示的な同意を求め、以下の情報のみを銀行に要求します。
>
> - 口座名義人の名前
> - アカウント番号
>
> 銀行によっては、追加情報の共有についてお客様の同意が求められる場合があります。ただし、 AWSその他の情報は共有されません。 AWS この情報を最初に収集した後に、お客様の銀行口座の所有権を確認し、お客様の銀行口座に請求することができます。 AWS この情報へのアクセスは、現地の規制と銀行の方針に基づいて失効します。
> 口座振替による支払いを削除するには、「支払い方法の削除」を参照してください。 AWS 銀行情報へのデータアクセスを削除するには、TrueLayerドキュメントを参照してください。

AWS ヨーロッパのお支払い方法に口座振替口座を手動で追加してください。

振替口座を手動で追加するには、次の要件が満たされている必要があります。

- 過去 12 か月間に 1 件以上の請求書を全額支払っている
- 過去 2 か月間に少なくとも累計 100 USD または 100 EUR を支払った。

支払い方法を追加する前に、次の情報が必要です。

- Bank Identifier Code (BIC)
- 銀行口座の支店コード (IBAN)
- 銀行を口座と関連付けるアドレス

SEPA 振替口座を手動で追加するには

1. AWS Management Console にサインインし、https://console.aws.amazon.com/billing/ AWS Billing and Cost Management にあるコンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで [Payment preferences] (お支払いの詳細設定) を選択します。
3. [Add payment method] (支払い方法を追加) を選択します。

4. [銀行口座] を選択します。
5. [Account Holder Name (口座名義)] に、プリンシパルアカウントの名義を入力します。
6. [BIC (SWIFT code)] (BIC (SWIFT コード)) に、8 桁または 11 桁の番号を入力します。ルーティング番号は、8 桁または 11 桁です。
7. [Confirm BIC (Swift コード) (BIC (Swift コード) の確認)] に、BIC を再入力します。コピーアンドペーストしないでください。
8. [IBAN] に、IBAN の数字を入力します。
9. [Reenter IBAN] (IBAN を再入力) で、IBAN の数字を再入力します。コピーアンドペーストしないでください。
10. [Make Default (支払い方法に設定する)] で、この銀行デビット口座をデフォルトの支払い方法にするかどうかを選択します。
11. [Billing Address information] (請求先住所情報) に、主要口座名義人の請求連絡先を入力します。
12. [Add bank account] (銀行口座を追加) を選択し、[Terms and Conditions] (利用規約) に同意して、銀行デビット口座を追加します。

振替口座情報を更新する

銀行デビット口座に関連付けられた名前、住所、または電話番号は更新することができます。

振替口座情報を更新するには

1. AWS Management Console にサインインし、https://console.aws.amazon.com/billing/ AWS Billing and Cost Management でコンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで [Payment preferences] (お支払いの詳細設定) を選択します。

   自分に関連する支払い方法は、「支払い方法」 AWS アカウント セクションに一覧表示されます。
3. 編集する銀行デビット口座を選択し [Edit] (編集) を選択します。
4. 変更するフィールドを更新します。
5. ダイアログボックスの最下部で [Save changes] (変更の保存) を選択します。

支払い方法に関して質問がある場合は、「AWS 請求のヘルプを利用する」を参照してください。

支払いプロファイルを管理する

支払いプロファイルを使用すると、デフォルトの支払い方法とは異なる支払い方法を割り当てて、請求の自動支払いを行うことができます。複数の AWS サービスプロバイダー (「登録販売者」) から請求がある場合は、支払いプロファイルを使用して、それぞれに固有の支払い方法を割り当てます。

サービスプロバイダーの支払いプロファイルを作成すると、支払いプロファイルが請求書と同じ通貨を使用し、選択した支払い方法が自動支払いの対象である限り、支払いプロファイルは指定した支払い方法を使用して自動的に AWS 請求を支払います。

たとえば、AWS Europe から 100 Euro (EUR) の請求書が届いたとします。AWS Europe の支払いプロファイルを作成して EUR 通貨を選択すると、支払いプロファイルで選択した支払い方法を使用して、支払いプロファイルは AWS Europe からの請求を自動的に支払います。

支払いプロファイルの通貨が請求書と同じでない場合は、AWS は支払いプロファイルを無視し、代わりにデフォルトの支払い方法で請求します。

支払いプロファイルは、有効なデフォルトの支払い方法があるにもかかわらず発生してしまう支払い漏れ、サブスクリプション購入の失敗、未処理の契約更新などを回避するのに役立ちます。支払いプロファイルを使用すると、次のことを実行できます。

- 異なる AWS のサービス のプロバイダーに対して異なる支払い方法を使用する
- 異なるサービスプロバイダーを使用する AWS Organizations メンバーアカウントの支払い詳細設定をカスタマイズする
- 有効な支払い方法により一貫して請求の自動支払いを行う
- サービスの中断や残高不足を回避する

> **Note**
>
> 国や技術上の制限により、すべての支払い方法をすべてのプロバイダーに適用できるわけではありません。デフォルトの支払い方法がサービスプロバイダーに対して有効でない場合は、そのサービスプロバイダーに適用できる支払い方法を使用して支払いプロファイルを作成してください。詳細については、「支払いプロファイルの作成」を参照してください。

トピック

- 支払いプロファイルの作成

- 支払いプロファイルの編集
- 支払いプロファイルの削除

支払いプロファイルの作成

請求情報とコスト管理コンソールから次の手順によって、新しいカスタムプロファイルを作成できます。

支払いプロファイルを作成するには

1. AWS Management Console にサインインして AWS Billing and Cost Management コンソール (https://console.aws.amazon.com/billing/) を開きます。
2. ナビゲーションペインの [Preferences (設定)] の下で、[支払い方法] を選択します。
3. [Payment profiles] (支払いプロファイル) セクションの下で、[Visit payment profiles] (支払いプロファイルの表示) を選択します。
4. [Payment profiles] (支払いプロファイル) セクションの下で、[Create payment profiles] (支払いプロファイルの作成) を選択します。
5. 請求を受けるサービスプロバイダーを選択します。
6. サービスプロバイダーからの請求と一致する支払い通貨を選択します。
7. (オプション) 支払いプロファイルの名前を入力します。
8. [Payment method] (支払い方法) セクションの下で、指定したサービスプロバイダーに対して対応する通貨で支払いを行う支払い方法を選択します。
    - 新しい支払い方法の追加
        a. [Add a new payment method] (新しい支払い方法の追加) を選択し、新しいタブを開きます。
        b. アカウントに新しい支払い方法を追加します。詳しくは、「Managing Your Payments」を参照してください。
        c. Create payment profile (支払いプロファイルの作成) タブに戻ります。
        d. [Payment method] (支払い方法) セクションの下で、更新アイコンを選択します。
        e. 作成した新しい支払い方法を選択します。
9. [Create payment profile] (支払いプロファイルの作成) を選択します。

> **Note**
>
> 支払いプロファイルの通貨がサービスプロバイダーの請求書の通貨と一致していることを確認します。

例: AWS Inc. の請求用の支払いプロファイルの作成

このセクションでは、AWS Inc. サービスプロバイダーから受ける請求用の支払いプロファイルを作成する方法の例を示します。この例では、AWS Organizations 管理アカウントの販売者は AWS 欧州 (サービスプロバイダーに「AWS EMEA SARL」と表示) です。デフォルトの支払い通貨はユーロ (EUR) です。

有効なデフォルトの支払い方法が登録されている場合は、AWS 欧州からの請求は自動的に支払い処理されます。有効な支払い方法の例として、クレジットカードおよび SEPA 銀行デビットロ座があります。詳しくは、「AWS ヨーロッパでの支払い管理」を参照してください。

AWS Inc. からの請求については、AWS Inc. に対応しているユーロ通貨のクレジットカードを使用して支払いプロファイルを作成できます。

この AWS Inc. の例の支払いプロファイルを作成するには

1. AWS Billing and Cost Management コンソール https://console.aws.amazon.com/billing/ を開きます。
2. ナビゲーションペインの [Preferences (設定)] の下で、[支払い方法] を選択します。
3. [Payment profiles] (支払いプロファイル) セクションの下で、[Visit payment profiles] (支払いプロファイルの表示) を選択します。
4. [支払いプロファイルの作成] を選択します。
5. [Service provider] (サービスプロバイダー) で、`AWS Inc` を選択します。
6. [Currency] (通貨) で、`EUR - Euro` を選択します。
7. (オプション) 支払いプロファイルの名前を入力します (例: `My AWS Inc. payment profile`)。
8. [Payment method] (支払い方法) セクションの下で、指定したサービスプロバイダーに対して対応する通貨で支払いを行う支払い方法を選択します。
9. [Create payment profile] (支払いプロファイルの作成) を選択します。

この支払いプロファイルを作成した後は、AWSInc. からの請求は、指定したユーロ通貨と支払い方法を使用して自動的に支払い処理されます。

例: AWS 欧州の請求用の支払いプロファイルの作成

このセクションでは、AWS 欧州 (「AWS EMEA SARL」) サービスプロバイダーから受ける請求用の支払いプロファイルを作成する方法の例を示します。この例では、AWS Organizations 管理アカウントの販売者は AWS Inc. です。デフォルトの支払い通貨は、米ドル (USD) です。

有効なデフォルトの支払い方法が登録されている場合は、AWS Inc. からの請求は自動的に支払い処理されます。有効な支払い方法の例として、クレジットカードおよび ACH 銀行デビットとしての米国銀行口座があります。詳細については、「Managing Your Payments」を参照してください。

AWS 欧州からの請求については、AWS 欧州に対応している米ドル通貨のクレジットカードを使用して支払いプロファイルを作成できます。

この AWS 欧州の例の支払いプロファイルを作成するには

1. AWS Billing and Cost Management コンソール https://console.aws.amazon.com/billing/ を開きます。
2. ナビゲーションペインの [Preferences (設定)] の下で、[支払い方法] を選択します。
3. [Payment profiles] (支払いプロファイル) セクションの下で、[Visit payment profiles] (支払いプロファイルの表示) を選択します。
4. [支払いプロファイルの作成] を選択します。
5. [Service provider] (サービスプロバイダー) で、`AWS EMEA SARL` を選択します。
6. [Currency] (通貨) で、`USD - US dollar` を選択します。
7. (オプション) 支払いプロファイルの名前を入力します (例: `My AWS Europe payment profile`)。
8. [Payment method] (支払い方法) セクションの下で、指定したサービスプロバイダーに対して対応する通貨で支払いを行う支払い方法を選択します。
9. [Create payment profile] (支払いプロファイルの作成) を選択します。

例: AWS ブラジルの請求用の支払いプロファイルの作成

このセクションでは、AWS Brazil ("Amazon Web Services"/> Serviços Brasil Ltda.」) のサービスプロバイダーから受ける請求用の支払いプロファイルを作成する方法の例を示します。この例では、AWS Organizations 管理アカウントの販売者は AWS Inc. です。デフォルトの支払い通貨は、米ドル (USD) です。

有効なデフォルトの支払い方法が登録されている場合は、AWS Inc. からの請求は自動的に支払い処理されます。有効な支払い方法の例として、クレジットカードおよび ACH 銀行デビットとしての米国銀行口座があります。詳細については、「Managing Your Payments」を参照してください。

AWS ブラジルからの請求については、AWS ブラジルに対応しているブラジルレアル (BRL) 通貨のクレジットカードを使用して支払いプロファイルを作成できます。

この AWS ブラジルの例の支払いプロファイルを作成するには

1. AWS Billing and Cost Management コンソール https://console.aws.amazon.com/billing/ を開きます。
2. ナビゲーションペインの [Preferences (設定)] の下で、[支払い方法] を選択します。
3. [Payment profiles] (支払いプロファイル) セクションの下で、[Visit payment profiles] (支払いプロファイルの表示) を選択します。
4. [支払いプロファイルの作成] を選択します。
5. [Service provider] (サービスプロバイダー) で、`Amazon Web Services"/> Serviços Brasil Ltda` を選択します。
6. [Currency] (通貨) で、`BRL - Brazilian real` を選択します。
7. (オプション) 支払いプロファイルの名前を入力します (例: `My AWS Brazil payment profile`)。
8. [Payment method] (支払い方法) セクションの下で、指定したサービスプロバイダーに対して対応する通貨で支払いを行う支払い方法を選択します。
9. [Create payment profile] (支払いプロファイルの作成) を選択します。

支払いプロファイルの編集

支払いプロファイルを作成した後は、請求情報とコスト管理コンソールを使用していつでも詳細を編集できます。

支払いプロファイルを編集するには

1. AWS Billing and Cost Management コンソール https://console.aws.amazon.com/billing/ を開きます。
2. ナビゲーションペインの [設定] の下で、[支払い方法] を選択します。
3. [Payment profiles] (支払いプロファイル) セクションの下で、支払いプロファイルを選択し、[Edit] (編集) を選択します。

4. 支払いプロファイルを更新して、[Save changes] (変更の保存) を選択します。

支払いプロファイルの削除

支払いプロファイルは、請求情報とコスト管理コンソールを使用していつでも削除できます。

支払いプロファイルを削除するには

1. AWS Billing and Cost Management コンソール https://console.aws.amazon.com/billing/ を開きます。
2. ナビゲーションペインの [設定] の下で、[支払い方法] を選択します。
3. [Payment profiles] (支払いプロファイル) セクションの下で、[Visit payment profiles] (支払いプロファイルの表示) を選択します。
4. 支払いプロファイルを選択し、[削除] を選択します。

AWS 支払いの詳細設定の管理

すべての支払い方法の種類で次のタスクを実行するには、AWS Billing and Cost Management コンソールの [お支払いの詳細設定] ページを使用します。

トピック

- 支払い方法の表示
- デフォルトの支払い方法を指定する
- 支払い方法の削除
- 請求の支払い通貨の変更
- 追加の請求連絡先 E メールアドレスの設定

> **注意**
>
> - IAM ユーザーは、請求コンソールの一部のページにアクセスするために明示的なアクセス許可が必要です。詳細については、「アクセス許可の管理の概要」を参照してください。
> - [お支払いの詳細設定] ページを使用して、クレジットカードや銀行デビット口座を管理することもできます。詳細については、クレジットカードと ACH の支払い方法の管理 および ACH 銀行引き落としによる支払い方法を管理する を参照してください。

支払い方法の表示

アカウントに関連付けられた支払い方法を表示するには、コンソールを使用できます。

AWS アカウントに関連付けられた支払い方法を表示するには

1. AWS Management Console にサインインして AWS Billing and Cost Management コンソール (https://console.aws.amazon.com/billing/) を開きます。
2. ナビゲーションペインで [Payment preferences] (お支払いの詳細設定) を選択します。

AWS アカウント に関連付けられた支払い方法は、[支払い方法] セクションに表示されます。

デフォルトの支払い方法を指定する

コンソールを使用して、AWS アカウントのデフォルトの支払い方法を指定できます。

複数の AWS サービスプロバイダー (登録販売者 (SOR)) から請求書を受け取っている場合は、支払いプロファイルを使用して、それぞれに固有の支払い方法を割り当てることができます。詳細については、「支払いプロファイルを管理する」を参照してください。

デフォルトの支払い方法を指定するには

1. AWS Billing and Cost Management コンソール https://console.aws.amazon.com/billing/ を開きます。
2. ナビゲーションペインで [Payment preferences] (お支払いの詳細設定) を選択します。

   AWS アカウント に関連付けられた支払い方法は、[支払い方法] セクションに表示されます。
3. デフォルトで使用する支払い方法の横にある、[Set as default] (デフォルトとして設定) を選択します。

> **Note**
>
> 支払い方法によっては、さらなる情報やアクションが必要になる場合があります。さらなるアクションには、税登録情報の入力や、対応する支払い通貨の選択などがあります。

支払い方法の削除

コンソールを使用して、アカウントから支払い方法を削除できます。

AWS アカウントから支払い方法を削除するには

1. AWS Billing and Cost Management コンソール https://console.aws.amazon.com/billing/ を開きます。
2. ナビゲーションペインで [Payment preferences] (お支払いの詳細設定) を選択します。
3. アカウントにそのほかのお支払い方法がデフォルトとして設定されていることを確認します。
4. 削除する支払い方法を選択し、[Delete] (削除) を選択します。
5. [Delete payment method] (支払方法を削除) ダイアログボックスで [Delete] (削除) を選択します。

請求の支払い通貨の変更

請求のお支払いに使用する通貨を変更 (たとえば、デンマーククローネから南アフリカランドへ) するには、以下の手順を実行します。

アカウントに関連付けられた現地通貨を変更するには

1. AWS Management Console にサインインして AWS Billing and Cost Management コンソール (https://console.aws.amazon.com/billing/) を開きます。
2. 右上隅のナビゲーションバーで、アカウント名 (またはエイリアス) を選択し、アカウント を選択します。
3. ナビゲーションペインで [Payment preferences] (お支払いの詳細設定) を選択します。
4. [Default payment preferences] (デフォルトの支払いの詳細設定) セクションで、[Edit] (編集) を選択します。
5. [Payment currency] (支払い通貨) セクションで、支払い通貨を選択します。
6. [Save changes] (変更の保存) をクリックします。

追加の請求連絡先 E メールアドレスの設定

AWS アカウント に影響する請求関連の項目について別の担当者に問い合わせるには、追加の請求連絡先を利用します。追加の請求連絡先は、ルートアカウント連絡先および代替の請求連絡先と共に、請求イベントに関する連絡を受けます。

> **注意**
>
> - 支払い方法としてクレジットカードまたはデビットカードを使用する場合は、「代替連絡先の追加または更新」を参照してください。
> - 支払い方法として請求書払いの場合は、次の手順でメールを受信する請求連絡先を追加できます。

アカウントに追加の請求連絡先を設定するには

1. AWS Billing and Cost Management コンソール https://console.aws.amazon.com/billing/ を開きます。
2. ナビゲーションペインで [Payment preferences] (お支払いの詳細設定) を選択します。
3. [Default payment preferences] (デフォルトの支払いの詳細設定) セクションで、[Edit] (編集) を選択します。
4. [請求連絡先のメールアドレス]に、AWS から請求関連の E メール通知を送信する際の追加の請求連絡先 E メールアドレスを入力します。
5. [Save changes] (変更の保存) をクリックします。

Customer Carbon Footprint Tool の理解

Customer Carbon Footprint Tool を使用して、AWS 製品やサービスに関連する炭素排出量の見積もりを表示できます。

トピック

- Customer Carbon Footprint Tool の開始方法
- Customer Carbon Footprint Tool の理解の概要
- 炭素排出量の推定の理解

Customer Carbon Footprint Tool の開始方法

Customer Carbon Footprint Tool は、すべてのアカウントで使用できます。アカウントでレポートを利用できない場合、アカウントが作成されたのがあまりにも最近であるため、データを表示できないことを示唆している可能性があります。各月の経過後、AWS が炭素排出量の見積もりを表示できるようになるまでに、最長で 3 か月の遅れが発生する場合があります。

Customer Carbon Footprint Tool を使用するには

1. にサインインAWS Management Consoleし、https://console.aws.amazon.com/billing/ で AWS Billing and Cost Managementコンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで、[コストと使用状況レポート] を選択します。
3. [Customer Carbon Footprint Tool] で、[開始月] と [終了月] を選択します。

IAM ポリシー

Customer Carbon Footprint Tool とデータにアクセスするには、IAM 許可 `sustainability:GetCarbonFootprintSummary` が必要です。IAM 許可の詳細については、「AWS 請求用の Identity and Access Management」を参照してください。

AWS Organizations ユーザー

の管理アカウントとしてサインインしている場合AWS Organizations、Customer Carbon Footprint Tool ダッシュボードとスプレッドシートのダウンロードでは、そのメンバーアカウントが組織の一部であった期間中の統合メンバーアカウントデータがレポートされます。

メンバーアカウントの場合、Customer Carbon Footprint Tool は、すべての期間の排出データを報告します。これは、組織内のアカウントに関連付けられたメンバーシップに発生した可能性のある変更とは関係ありません。

Customer Carbon Footprint Tool の理解の概要

Customer Carbon Footprint Tool のページには、次のセクションが含まれています。提供された情報の詳細な理解が可能となるように、このページでは、コンソールの各セクションについて説明しています。

炭素排出量の測定単位は、業界標準の測定値である二酸化炭素換算トン (MTCO2e) です。この測定では、二酸化炭素、メタン、亜酸化窒素を含む複数の温室効果ガスを考慮します。すべての温室効果ガスの排出量は、同等の温暖化をもたらす二酸化炭素の量に変換されます。

炭素排出量のデータは、過去 36 か月間のデータを利用できます。新しいデータは毎月利用可能で、3 か月間の遅延があります。AWSは、炭素排出量の見積りを提供するために必要なデータを収集して処理します。Customer Carbon Footprint Tool のすべての値は、10 分の 1 トンの単位で最近接値に切り上げられます。排出量が 10 分の 1 トンに切り上げられない場合、レポートは 0 と表示されます。

炭素排出量の概要

このセクションでは、同等のオンプレミスワークロードと比較した、AWS 排出量の見積りと排出削減量の見積りを確認できます。これは、次の 2 つのカテゴリにまとめられています。

- AWS クラウドインフラストラクチャの効率による排出量の削減
- 再生可能エネルギーの AWS の購入による排出量の削減

場所別の排出量

このセクションでは、該当する各地理的場所に関連する炭素排出量を示します。この情報は、AWS リージョン ではなく、AMER、EMEA などの高レベルの地理的グループを示しています。

サービス別の排出量

このセクションでは、Amazon Elastic Compute Cloud (EC2)、Amazon Simple Storage Service (S3)、およびその他の AWS 製品とサービスの使用に起因する炭素排出量を確認できます。

炭素排出量の統計

このセクションでは、時間の経過に伴う炭素排出量の傾向を確認できます。1 か月ごと、四半期ごと、または 1 年ごとのビューを選択できます。

100% 再生可能エネルギーへの道

このグラフは、AWS が 100% 再生可能エネルギーで事業を遂行するという目標に向かって取り組みを進めるにつれて、炭素排出量が時間の経過とともにどのように変化するかを示しています。これらの数値は、現在の AWS 使用プロファイルに基づいています。

[100% 再生可能エネルギーへの道] のグラフは、[日付範囲] の選択による影響を受けません。

炭素排出量の推定の理解

Customer Carbon Footprint Tool の炭素排出量データは、温室効果ガスプロトコルと ISO に準拠しています。AWS のカーボンフットプリントの見積りには、スコープ 1 (事業遂行による直接排出) とスコープ 2 (電気の使用に伴う排出) のデータが含まれます。炭素排出量の詳細については、「EPA Scope 1 and Scope 2 Inventory Guidance」(EPA スコープ 1 およびスコープ 2 インベントリガイダンス) を参照してください。

見積りのスコープ 2 の部分は、GHGP マーケットベースの方法を使用して計算されます。これは、顧客のフットプリントが見積もられるグリッドで、Amazon による再生可能プロジェクトが考慮されることを意味します。マーケットベースの方法を使用してスコープ 2 の排出量を計算するため、ワークロードが稼働しているグリッドで購入された再生可能エネルギーのみが、カーボンフットプリントの見積りに含まれます。見積りでは、GHGP ガイダンスに従って、ワークロードを実行する場所の AWS リージョン のグリッドの混在が考慮されます。炭素排出量の見積りでは、データセンターの AWS 電力使用効率 (PUE) も考慮されます。

同等のオンプレミスのワークロードと比較して排出量の削減量を見積もるため、S&P Global Market Intelligence の一部である 451 Research のデータを使用します。この調査では、AWS は、調査対象の米国のエンタープライズデータセンターの中央値でワークロードのカーボンフットプリントを 88% 削減でき、欧州のデータエンタープライズセンターと比較して、AWS が 100% 再生可能エネルギーで電力を供給されると最大 96% になることがわかりました。2025 年までにこの目標を達成することを目指しています。詳細については、「AWS に移行して炭素を削減する」を参照してください。

リージョン、使用状況、および請求データの考慮要素

世界のさまざまな地域の電力グリッドでは、さまざまな電力源が使用されています。炭素に強烈な燃料 (石炭など) を使用するものもあれば、主に低炭素水素やその他の再生可能エネルギーを使用するものもあります。Amazon の再生可能エネルギープロジェクトの場所も重要な意味を有します。これらのプロジェクトによって生成されるエネルギーは、同じグリッド上のリージョンからの排出量に対

して考慮されるためです。結果として、すべての AWS リージョン が同じ炭素強度を持つわけではありません。

使用量が多いと排出量が比較的少なくなるリージョンもあります。使用量が少ないと排出量が増えるリージョンもあります。炭素レポートについては、EMEA リージョンは、見積りでは過小評価されて示されることがよくあります。これは、グリッド上に再生可能エネルギーがより多く存在しているためです。APAC リージョンは、見積りで過大評価されることがよくあります。これは、再生可能エネルギーの調達が難しいためです。炭素の見積りは使用量のみに基づいており、前払いでの Savings Plan の購入などの 1 回限りの料金は、同様の炭素排出量の増加を発生させるものではありません。

Customer Carbon Footprint Tool と Amazon のカーボンフットプリントレポート

Amazon のカーボンフットプリントレポートは、当社の年次サステナビリティレポートの一部です。これは、Amazon Web Services を含むすべての Amazon オペレーションにおけるスコープ 1～3 の排出量をカバーします。カスタマーカーボンフットプリントレポートでは、お客様自身の AWS の使用に起因する排出量を確認できます。詳細については、「Amazon Sustainability」(Amazon のサステナビリティ) を参照してください。

発注書を管理する

請求情報とコスト管理コンソールを使用して、発注書を管理し、発注書が請求書を反映するように設定できます 複数の明細項目がある複数の発注書を追加することもできます。設定に基づいて、請求書と最も一致する発注書が選択されます。通常のアカウントまたは AWS Organizations 管理 AWS アカウントを使用している場合は、発注書を管理できます。機能へのアクセスの詳細については、「アクセス許可の管理の概要」を参照してください。

各発注書には複数の明細項目があり、すべての明細項目が請求書との照合に使用されます。次のタイプの明細項目を使用できます。

- [すべて] — AWS アカウントでのすべての料金。
- AWS 毎月の使用量 – AWS 毎月の請求書料金。
- AWS サブスクリプション購入 – サブスクリプションの請求書料金。例えば、リザーブドインスタンス (RI) の前払い料金や AWS Support 料金などです。
- AWS Marketplace トランザクション – AWS Marketplace 契約サブスクリプションからの請求書料金の発注書明細項目。これは、レコードの販売者、 AWS Inc.、 AWS EMEA SARL、 AWS Australia、 AWS ニュージーランドからすべての AWS Marketplace 請求書が生成されるため、次のエンティティでのみ使用できます。現在、この項目は、通常の毎月の請求期間外の請求のみをサポートしています。
- AWS Marketplace 一括使用 – AWS Marketplace 請求書料金のデフォルトの発注書。これは、レコードの販売者、 AWS Inc.、 AWS EMEA SARL、 AWS Australia、 AWS ニュージーランドからすべての AWS Marketplace 請求書が生成されるため、次のエンティティでのみ使用できます。AWS Marketplace サブスクリプションを含むすべての請求書には、サブスクリプションにトランザクション固有の発注書がない限り、AWS Marketplace Blanket Usage 明細項目が含まれます。サブスクリプションにトランザクション固有の発注書がある場合、代わりに請求書にはAWS Marketplace トランザクション明細項目があります。

請求書の最適な発注書を決定するために、多くの条件とパラメータが使用されます。通常のアカウントまたは AWS Organizations 管理アカウントごとに最大 100 個の明細項目を含む、最大 100 個のアクティブな発注書を作成できます。

請求書が生成されると、管理アカウントに追加されたすべての発注書が関連付けの対象とみなされます。その後、有効期限切れまたは一時停止された発注書は除外され、アクティブな発注書のみが残されます。請求書の請求エンティティは、発注書の「請求元」エンティティと照合され、一致しないも

のは除外されます。例えば、 AWS Inc. エンティティ (PO_1) に発注書を追加し、 AWS EMEA SARL エンティティ (PO_2) に別の発注書を追加した場合です。リザーブドインスタンスを AWS 欧州から購入した場合、PO_2 のみが請求書の関連付けの対象となります。

次に、明細項目設定を評価して、請求書に最適な判断を行います。明細項目と照合するには、請求書の請求期間が明細項目の開始月から終了月内であり、かつ明細項目のタイプとも一致している必要があります。複数の明細項目が一致する場合は、最も具体的なタイプの明細項目が請求書の関連付けに使用されます。たとえば、RI 請求書がある場合、両方が設定されている場合は、ALL ではなくサブスクリプション明細項目が使用されます。

最後に、請求書金額をカバーするのに十分な残高がある明細項目が、残高不足明細項目の上に選択されます。複数の発注書に属する明細項目がすべての基準に正確に一致する場合は、最後に更新された発注書が請求書と一致するように使用されます。

トピック

- 発注書設定をセットアップする
- 発注書を追加する
- 発注書を編集する
- 発注書を削除する
- 発注書を表示する
- 発注書の詳細ページを読む
- 発注所の通知を有効にする
- タグを使用して発注書へのアクセスを管理する

発注書設定をセットアップする

発注書とその明細項目属性を使用して、ニーズに最適な設定を柔軟に定義できます。以下に、使用できる発注書の設定シナリオの例を示します。

異なる有効月と有効期限月を選択することで、異なる期間で個別の発注書を設定できます。

> **Note**
>
> 明細項目と照合するには、請求書の請求期間が明細項目の開始月から終了月内であり、かつ明細項目のタイプとも一致している必要があります。

Example 例 1

月別の発注書を使用する場合、各発注書に対して同じ有効月と有効期限月を選択することで、月別に 1 つの発注書を定義できます。発注書は、請求書の請求期間にのみ適用されます。

このセットアップで使用できる発注書設定を次に示します。

- PO #M1_2021 では、発効月を 2021 年 1 月、有効期限月を 2021 年 1 月に設定しています。
- PO #M2_2021 では、発効月を 2021 年 2 月、有効期限月を 2021 年 2 月に設定しています。
- PO #M3_2021 では、発効月を 2021 年 3 月、有効期限月を 2021 年 3 月に設定しています。

次に、特定の四半期、半年、または年全体の発注を定義する方法の例を示します。

- PO #Q4_2021 では、発効月を 2021 年 4 月、有効期限月を 2021 年 6 月に設定しています。
- PO #2H_2021 では、発効月を 2021 年 7 月、有効期限月を 2021 年 12 月に設定しています。
- PO #2022Y では、発効月を 2022 年 1 月、有効期限月を 2022 年 12 月に設定しています。

Example 例 2

明細項目設定を使用して、異なるタイプの請求書に対して個別の発注書を設定できます。

- PO #Anniversary_Q4_2021 では、発効月を 2021 年 4 月に、有効期限月を 2021 年 6 月、Line item type = AWS monthly usage に設定しています。
- PO #Subscriptions_Q4_2021 では、発効月を 2021 年 4 月に、有効期限月を 2021 年 6 月、Line item type = AWS Subscription Purchase に設定しています。
- PO #Marketplace_Q4_2021 では、発効月を 2021 年 4 月に、有効期限月を 2021 年 6 月、Line item type = AWS Marketplace Purchase に設定しています。

明細項目の開始月と終了月を細かく設定することで、異なる期間の特定の発注書の残高を追跡できます。

Example 例 3

発効月が 2021 年 4 月で有効期限月が 2021 年 6 月の例 1 から PO #Q4_2021 を検討します。次の明細項目をセットアップすることで、この発注書の残高を月単位で追跡できます。

- Line item #1 では、開始月 2021 年 4 月、終了月 2021 年 4 月、Line item type = ALL です。

- Line item #2 では、開始月 2021 年 5 月、終了月 2021 年 5 月、Line item type = ALL です。
- Line item #3 では、開始月 2021 年 6 月、終了月 2021 年 6 月、Line item type = ALL です。

または、同じ発注書と期間について、各明細項目タイプの残高を個別に追跡することもできます。

Example 例 4

例 1 からの同じ PO #Q4_2021 は、次の設定を使用して、異なる明細項目タイプの残高を個別に追跡するようにセットアップできます。

- Line item #1 では、開始月 2021 年 4 月、終了月 2021 年 6 月、Line item type = AWS monthly usage です。
- Line item #1.2 では、開始月 2021 年 4 月、終了月 2021 年 6 月、Line item type = AWS Subscription Purchase です。
- Line item #1.3 では、開始月 2021 年 4 月、終了月 2021 年 6 月、Line item type = AWS Marketplace Purchase です。

5 月と 6 月にこの設定を続行します。

Example 例 5

また、前の 2 つの設定を組み合わせて、異なる期間と明細項目タイプの残高を個別に追跡することもできます。

- Line item #1.1 では、開始月 2021 年 4 月、終了月 2021 年 4 月、Line item type = AWS monthly usage です。
- Line item #1.2 では、開始月 2021 年 4 月、終了月 2021 年 4 月、Line item type = AWS Subscription Purchase です。
- Line item #1.3 では、開始月 2021 年 4 月、終了月 2021 年 4 月、Line item type = AWS Marketplace Purchase です。

5 月と 6 月にこの設定を続行します。

発注書を追加する

請求情報とコスト管理コンソールを使用して、請求書で使用する発注書を追加できます。発注書の追加は、発注書と明細項目の設定を含む 2 段階のプロセスです。まず、発注書の詳細 (発注書 ID、配送先住所、有効期間および有効期限月など) を入力します。次に、発注書を請求書と照合するために使用される発注書明細項目の設定を定義します。複数の発注書を追加すると、生成される請求書と最も一致する明細項目がある発注書が使用されます。

発注書を追加するには

1. にサインイン AWS Management Console し、https://console.aws.amazon.com/billing/ で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで、 [発注書] を選択します。
3. [発注書の追加] を選択します。
4. [発注書 ID] では、発注書 ID の一意の ID を入力します。発注書 ID はアカウント内で一意でなければなりません。購入 ID の文字制限の詳細については、「発注書」を参照してください。
5. (オプション) [説明] で、参照用のメモを含め、発注書を記述します。
6. からの請求で、請求元の AWS 請求エンティティを選択します。

> **Note**
>
> [請求元] の場所ごとに、送金の詳細は各々異なります [請求元] を選択していることを確認してください。請求元の法人に対して支払いを行う必要があります。発注書で複数の [請求元] の場所を設定することはお勧めしません。

7. (オプション) 発注書が [Amazon Web Services EMEA SARL] 請求エンティティから請求されている場合: [税登録番号] で、発注書に関連付ける税登録番号を選択します。発注書は、選択した税登録番号に対して生成された請求書のみに関連付けられます。

> **Note**
>
> [税登録番号] の選択は、[Amazon Web Services EMEA SARL] 請求エンティティでのみ利用できます。税登録番号の設定の詳細については、「アカウントの管理」を参照してください。

8. [配送先] では、配送先住所を入力します。

(オプション) [請求先住所をコピー] を選択して、[請求先] フィールドから入力された住所をコピーして編集します。

9. [発効月] では、発注を開始する請求期間を選択します。発注書は、指定した請求期間以降の使用に関連する請求書の対象となります。
10. [有効期限月] では、発注を終了する請求期間を選択します。発注書は、指定された請求期間の終了時に失効します。請求期間を過ぎた使用に関連する請求書には使用されません。
11. (オプション) [発注書の連絡先] では、連絡先名、E メールアドレス、および電話番号を入力します。連絡先は最大 20 件まで追加できます。
12. (オプション) タグキーと値を入力します。最大 50 個のタグを追加できます。
13. [明細項目の設定] を選択します。
14. [明細項目番号] では、明細項目番号の一意の ID を入力します。
15. (オプション) [説明] では、明細項目の説明を入力します。
16. [明細項目タイプ] では、使用する明細項目タイプを選択します。各明細項目タイプの詳細な説明については、「Managing your purchase orders」を参照してください。
17. [開始月] では、明細項目を開始する月を選択します。この日付は発注書の [発効月] より前の日付にすることはできません。
18. [終了月] では、明細項目の終了月を選択します。この日付は発注書の [有効期限月] より後の日付にすることはできません。
19. (オプション) [残高追跡を有効にする] を選択して、明細項目の残高を追跡します。
20. [金額] では、発注書の明細項目の合計金額を入力します。
21. [数量] では、数量を入力します。
22. (オプション) [税金] では、税金の額を入力します。明細項目の金額の絶対値または割合 (%) を指定します。

    [税金タイプ] では、[金額の %] を選択してパーセンテージを入力するか、[USD での金額] を選択して絶対税額を入力します。
23. 他の明細項目を追加するには、[新しい明細項目の追加] を選択します。最大 100 個の明細項目を追加できます。
24. [発注書を送信] を選択します。

一部のフィールドは自動的に入力され、編集できません。以下に、自動フィールドが参照されている場所のリストを示します。

- [請求先] — 請求書の [請求先] 住所 このフィールドは、発注書の請求連絡先が請求書の請求連絡先と一致する必要があるため、参照として含まれます。
- [支払い条件] — 交渉された支払い条件。
- [通貨] — 希望する請求書の通貨。

発注書を編集する

請求情報とコスト管理コンソールを使用して、発注書、明細項目情報、およびステータスを編集できます。このプロセスでは、発注書 ID は変更できません。

発注書を編集するには

1. https://console.aws.amazon.com/billing/ で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで、 [発注書] を選択します。
3. 編集する発注書を選択します。
4. [発注書の編集] を選択します。
5. 任意のパラメータを変更します。発注書 ID は変更できません。
6. [明細項目の設定] を選択します。
7. [発注書を送信] を選択します。

連絡先を更新するには

1. https://console.aws.amazon.com/billing/ で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで、 [発注書] を選択します。
3. 編集する発注書を選択します。
4. [連絡先の管理] を選択します。
5. 必要に応じて、連絡先情報を変更します。
6. [変更の保存] をクリックします。

発注書のステータスを変更するには

1. https://console.aws.amazon.com/billing/ で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで、 [発注書] を選択します。
3. 編集する発注書を選択します。
4. [ステータスの変更] を選択します。
5. ステータスを選択します。
   - [一時停止] — 発注書は、請求書の関連付けに使用されなくなります。
   - [アクティブ] — 発注書は請求書の関連付けに使用されます。
6. [ステータスの変更] を選択します。

> **Note**
>
> 一時停止の発注書は、有効期限を過ぎて、[一時停止-期限切れ] ステータスに設定されている場合、請求書の関連付けのために使用できます。そのためには、ステータスを [期限切れ] に変更し、有効期限月を更新して [アクティブ] にします。明細項目の終了月を適宜更新してください。

明細項目を追加するには

1. https://console.aws.amazon.com/billing/ で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで、 [発注書] を選択します。
3. 編集する発注書を選択します。
4. [明細項目] セクションで、[明細項目の追加] を選択します。
5. 必要に応じて情報を変更します。
6. [明細項目の保存] を選択します。

明細項目を編集するには

1. https://console.aws.amazon.com/billing/ で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。

2. ナビゲーションペインで、 [発注書] を選択します。
3. 編集する発注書を選択します。
4. [明細項目] セクションで、[編集] を選択します。
5. 必要に応じて、明細項目の情報を変更します。
6. [明細項目の保存] を選択します。

明細項目を削除するには

1. https://console.aws.amazon.com/billing/ で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで、 [発注書] を選択します。
3. 編集する発注書を選択します。
4. 削除するすべての明細項目を [明細項目] セクションで選択します。
5. [削除] をクリックします。
6. [確認] を選択します。

以下の手順を使用して、発注書のタグを更新します。

発注書のタグを更新するには

1. https://console.aws.amazon.com/billing/ で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで、 [発注書] を選択します。
3. 編集する発注書を選択します。
4. [Manage tags (タグの管理)] を選択します。
5. 必要に応じてタグ情報を変更します。
6. [変更の保存] をクリックします。

発注書を削除する

請求情報とコスト管理コンソールを使用して、発注書をそのすべての通知および関連する連絡先とともに、いつでも削除できます。削除された発注書は復元できません。

発注書を削除するには

1. https://console.aws.amazon.com/billing/ で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで、 [発注書] を選択します。
3. 削除する発注書をすべて選択します。
4. [発注書を削除] を選択します。
5. [確認] を選択します。

発注書を表示する

請求情報とコスト管理コンソールの発注書ダッシュボードには、発注書のステータスの概要が表示されます。発注書は以下の情報とともにダッシュボードに一覧表示されます。

- [発注書 ID] — 発注書の一意の識別子。
- [値] — 発注書の金額。これは、すべての明細項目金額の合計。
- [残高] — 明細項目残高の合計。この合計は、請求書が関連付けられるときはいつでも更新されます。
- [発効] および [有効期限] — 発注書 ID の開始と終了。
- [ステータス] — 発注書の現在のステータス。
- [更新日] — 発注書を更新した最新の日付。

発注書を表示するには

1. https://console.aws.amazon.com/billing/ で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで、 [発注書] を選択します。
3. 発注書を選択して、[購入の詳細] ページを参照します。

発注書の詳細ページを読む

個々の発注書のコンテンツは、最急情報とコスト管理コンソールの [購入の詳細] ページで確認できます。

発注書または明細項目を変更するには、「発注書を編集する」を参照してください。

- [請求先] — 請求書に反映される住所。請求連絡先を変更するには、[支払い方法] からの情報を更新します。
- [配送先] — 発注書の配送先住所。
- 請求元 – 請求元の AWS 法人。
- [税登録番号] — 発注書に対して選択した税登録番号。発注書は、これらの税登録番号に対して生成された請求書に関連付けられています。

> **Note**
>
> [税登録番号] の選択は、[Amazon Web Services EMEA SARL] 請求エンティティでのみ利用できます。税登録番号の設定の詳細については、「アカウントの管理」を参照してください。

- 支払い条件 – ネゴシエートされた AWS 支払い条件。
- [通貨] — 希望する請求書の支払い通貨。
- [発効月] — 発注書が有効になった時点以降の請求期間。発注書は、指定した請求期間以降の使用に関連する請求書の対象となります。
- [有効期限月] — 発注書が失効する請求期間。発注書は現在の請求期間の請求書にのみ使用されます。指定された請求期間を過ぎた使用に関連する請求書には使用されません。
- [連絡先] — この発注書のすべての連絡先のリスト。[連絡先の管理] を選択して、すべてのリストを表示します。
- [ステータス] — 発注書の現在のステータス。
  - [アクティブ] — 請求書の関連付けの対象となります。
  - [一時停止] — 請求書の関連付けの対象外です。アクティブな発注書または期限切れの発注書を一時停止できます。
  - [期限切れ] — 有効期限を過ぎて、請求書の関連付けの対象になっていない発注書。
  - [一時停止-期限切れ] — 有効期限も過ぎている一時停止された発注書。
- [残高金額] — 発注書で残っている残高。これは、発注書で設定されているすべての明細項目の合計残高です。
- [合計金額] — 発注書で設定されているすべての明細項目の合計値の合計。
- [明細項目] — 発注書を追加するときに使用した明細項目の詳細。
  - [数] — 明細項目の一意の識別子。
  - [タイプ] — 明細項目のタイプ。

- [開始月] — 項目が発効する月。明細項目は、この月からの請求書の関連付けの対象となります。
- [終了月] — 明細項目の有効期限が切れる月。この明細項目は、今月末には請求書の関連付けの対象になりません。
- [金額] — 単位の金額。
- [数量] — 単位の数。
- [税金] — 税金の額。
- [合計値] — 特定の明細項目の金額の合計値。
- [現在の残高] — この明細項目と照合されたすべての請求書の合計金額を差し引いた後の残りの残高。この明細項目に一致するすべての請求書の詳細を表示するには、請求書のテーブルを参照してください。

- [請求書] — 発注書に関連付けられているすべての請求書。
  - [発行日] — 請求書が発行された日付。
  - [タイプ] — 請求書のタイプ。たとえば、請求書とクレジットメモ。
  - [ID] — 請求書の一意な識別子。
  - [明細項目番号] — 請求書に関連付けられている発注書の明細項目番号。
  - [金額] — 請求書の金額。
  - [支払期日] — 請求書の支払期限日。

発注所の通知を有効にする

請求情報とコスト管理コンソールで E メール通知を有効にするには、発注書に連絡先を追加します。通知を受信するには、少なくとも 1 つの発注書連絡先が追加されている必要があります。

通知は、有効期限切れ、または残高不足の発注書に対して積極的にアクションを取るのに役立ちます。これにより、遅滞なく支払いを行うことができます。連絡先情報を更新するには、「発注書を編集する」を参照してください。

発注書の通知は、次のシナリオで連絡先に送信されます。

- 残高の追跡 — 発注書の明細項目の残高が 75% のしきい値を下回ったとき。発注書の残高は明細項目レベルで追跡され、各レベルで有効にする必要があります。
- 有効期限の追跡 — 発注書の有効期限が近づいているとき。連絡先は、有効期限に到達するまで通知を受け取ります。発注書の有効期限が 1 か月未満の場合、通知は 1 週間前と有効期限日に送信

されます。有効期限が 1～3 か月先の場合は、有効期限の 1 か月前に通知が送信されます。有効期限が 3 か月より先の場合は、有効期限の 2 か月前に通知が送信されます。

タグを使用して発注書へのアクセスを管理する

属性ベースのアクセス制御 (ABAC) を使用して、発注書へのアクセスを管理できます。発注書を作成する際、キーと値のペアでタグ付けできます。その後、IAM ポリシーを作成し、タグを指定できます。たとえば、`project` キーを追加してそのキーに `test` という値を割り当てると、IAM ポリシーによってこのタグの付いた発注書へのアクセスを明示的に許可または拒否できます。

新しい発注書にタグを追加したり、既存の注文を更新したりするには、「発注書を追加する」と「発注書を編集する」を参照してください。

Example 例: タグを使用してアクセスを許可する

以下のポリシーにより、IAM エンティティは、`project` キーと `test` の値を持つ発注書を追加、変更、またはタグ付けできます。

```
{
    "Version": "2012-10-17",
    "Statement": [{
        "Effect": "Allow",
        "Action": [
            "purchase-orders:AddPurchaseOrder",
            "purchase-orders:TagResource",
            "purchase-orders:ModifyPurchaseOrders"
        ],
        "Resource": "arn:aws:purchase-orders::*:purchase-order/*",
        "Condition": {
            "StringEquals": {
                "aws:RequestTag/project": "test"
            },
            "ForAllValues:StringEquals": {
                "aws:TagKeys": "project"
            }
        }
    }]
}
```

Example 例: タグを使用してアクセスを拒否する

次のポリシーでは、project キーと値が test である発注書に対して IAM エンティティが発注アクションを完了することを拒否します。

```
{
    "Version": "2012-10-17",
    "Statement": [{
        "Effect": "Deny",
        "Action": "purchase-orders:*",
        "Resource": "arn:aws:purchase-orders::*:purchase-order/*",
        "Condition": {
            "StringEquals": {
                "aws:ResourceTag/Project": "test"
            }
        }
    }]
}
```

詳細については、IAM ユーザーガイドにある下記のトピックを参照してください。

- の ABAC とは AWS
- タグを使用した AWS リソースへのアクセスの制御

AWS Cost Categories によるコストの管理

コスト配分は、組織内で誰が何に費やしているかを特定するのに役立ちます。Cost Categories は、コストを独自の内部ビジネス構造にマッピングするのに役立つ AWS コスト配分サービスです。

コストカテゴリでは、コストを意味のあるカテゴリにグループ化するルールを作成します。

Example シナリオ例 1

ビジネスが複数のチーム、 *Team1*、 *Team2* などに整理されているとします。チームはビジネス AWS アカウント で 10 を使用します。これらのチーム間でコストが割り当てられるように、コストを AWS グループ化するルールを定義できます。

1. Team for your business という名前のコストカテゴリを作成しました。
2. このコストカテゴリでは、次のルールを定義しました。
   - アカウント 1 ~ 3 のすべてのコストは、*### : Team1* に分類されます。
   - アカウント 4 ~ 5 のすべてのコストは、*### : Team2* に分類されます。
   - 他のすべてのアカウントでは、すべてのコストは *Team : Team3* に分類されます。
3. このルールを使用すると、アカウント 6 のすべてのコスト明細項目がコストカテゴリ値 *Team3* で分類されます。これらの分類は、次の例のように AWS Cost and Usage Report （ AWS CUR) の列として表示されます。ルールに基づいて、アカウント 3 のコストは *Team1* に分類され、アカウント 6 のコストは *Team3* に割り当てられます。

リソース ID	AccountID	LineItemType	UsageType	非ブレンドコスト	NetUnblended コスト	ResourceTag/ プロジェクト	costCategory/Team
i-11223	3	使用方法	BoxUsage: c1.xlarge	3.36	3.36	ベータ	*Team1*
i-12345	6	SavingsPlanCovered Usage	BoxUsage: m5.xl	150	140	[Alpha] (アルファ)	*Team3*

これらのカテゴリは、 AWS Billing and Cost Management コンソールの複数の製品でも使用できます。これには、 AWS Cost Explorer 、 AWS Budgets、 AWS CUR、および AWS コスト異常検出が含まれます。例えば、Cost Explorer の *Team1* に割り当てられたコストをフィルタリングできます。Team という名前のコストカテゴリ`value = Team 1`にフィルター を適用します。

また、コストカテゴリ間に複数レベルの階層関係を作成して、組織構造を複製することもできます。

Example シナリオ例 2

1. 複数のチームのグループ化*BusinessUnit*を含む という名前の別のコストカテゴリを作成します。
2. 次に、*BU1* という名前のコストカテゴリ値を定義します。このコストカテゴリ値では、チームコストカテゴリからチーム *1* と*### 2* を選択します。
3. 次に、*BU2* という名前のコストカテゴリ値を定義します。このコストカテゴリ値では、チームコストカテゴリからチーム *3* と*### 4* を選択します。

この例は、次に示すように、コストと使用状況レポートに表示されます。

リソース ID	AccountID	LineItemType	UsageTyp	非ブレンドコスト	NetUnbleded コスト	Resourceag/ プロジェクト	costCategory/Team	costCategoryBusinessUnit/
i-11223	3	使用方法	BoxUsage c1.xlarge	3.36	3.36	ベータ	*Team1*	*BU1*
i-12345	6	SavingsPlanCovered Usage	BoxUsage m5.xl	150	140	[Alpha] (アルファ)	*Team3*	*BU2*

コストカテゴリを作成すると、Cost Explorer 、 AWS Budgets、 AWS CUR、およびコスト異常検出に表示されます。Cost Explorer と AWS Budgets では、コストカテゴリが追加の請求ディメンションとして表示されます。これを使用して、特定のコストカテゴリ値でフィルタリングしたり、コストカテゴリ別にグループ化したりできます。 AWS CUR では、コストカテゴリは、各行にコストカテゴリ値を含む新しい列として表示されます。コスト異常検出では、コストカテゴリをモニタータイプとして使用して、指定したコストカテゴリ値での合計コストをモニタリングできます。

メモ

- リソースに適用される AWS キーと値のペアであるリソースタグと同様に、コストカテゴリはすべてのコスト明細項目に適用されるキーと値のペアです。キーはコストカテゴリ名です。値はコストカテゴリ値です。前の例では、これはコストカテゴリ名 *Team* がキーであることを意味します。*Team1*、 *Team2*、および *Team3* がコストカテゴリ値です。
- Cost Categories は、当月の初めから有効になります。月の途中でコストカテゴリを作成または更新すると、その月の始めからのコストと使用状況に変更が自動的に適用されます。例えば、10 月 15 日にコストカテゴリのルールを更新した場合、10 月 1 日以降のすべてのコストと使用量は更新されたルールを使用します。
- コストカテゴリを作成および管理できるのは、 AWS Organizations または個々のアカウントの管理アカウントのみです。

トピック

- サポートされているディメンション
- サポートされているオペレーション
- サポートされているルールの種類
- デフォルト値
- ステータス
- クォータ
- 用語の比較
- コストカテゴリを作成する
- コストカテゴリのタグ付け
- コストカテゴリを表示する
- コストカテゴリを編集する
- コストカテゴリを削除する
- コストカテゴリ内で料金を分割する

サポートされているディメンション

請求ディメンションのリストから選択して、コストカテゴリルールを作成できます。これらの請求ディメンションは、データをグループ化するために使用されます。たとえば、アカウントセットをグ

ループ化してチームを形成するとします。アカウント請求ディメンションを選択し、チームに含めるアカウントのリストを選択する必要があります。

次の請求ディメンションがサポートされています。

アカウント

オペレーションに応じて、 AWS アカウント名またはアカウント ID を指定できます。完全一致オペレーション (`is` または `is not`) を使用している場合、アカウントはそのアカウント ID を参照します。部分一致オペレーション (`starts with`、`ends with`、または `contains`) を使用している場合、アカウントはアカウント名を参照します。

Charge Type (料金タイプ)

明細項目の詳細に基づく料金のタイプ。また、Cost Explorer API では `RECORD_TYPE` と言います。詳細については、「用語の比較」を参照してください。

コストカテゴリ

別のコストカテゴリのディメンション。コストカテゴリをディメンションとして使用すると、カテゴリのレベルを分類できます。

リージョン

がリソースを AWS ホストする地理的エリア。

サービス

Amazon EC2、Amazon RDS、Amazon S3 などのAWS のサービス。

タグキー

リソースで指定されているコスト配分タグキー。詳細については、「AWS コスト配分タグの使用」を参照してください。

使用タイプ

使用タイプは、各サービスが特定タイプのリソースの使用量を測定するために使用する単位です。例えば、BoxUsage:t2.micro(Hrs) 使用タイプは Amazon EC2 t2.micro インスタンスの実行時間に基づいてフィルタリングします。

サポートされているオペレーション

これらのオペレーションを使用して、コストカテゴリルールを作成するときにフィルター式を作成できます。

以下のオペレーションがサポートされています。

Is

指定されている正確な値をフィルタリングするために使用される完全一致オペレーション。

Is not

指定されていない正確な値をフィルタリングするために使用される完全一致オペレーション。

Is absent

この値に一致するタグキーを除外するために使用される完全一致オペレーション。

を含む

この値を含むテキスト文字列をフィルタリングするために使用される部分一致。この値では、大文字と小文字が区別されます。

で始まる

この値で始まるテキスト文字列をフィルタリングするために使用される部分一致。この値では、大文字と小文字が区別されます。

で終わる

この値で終わるテキスト文字列をフィルタリングするために使用される部分一致。この値では、大文字と小文字が区別されます。

サポートされているルールの種類

コストの分類に使用するコストカテゴリ値を定義するには、ルールタイプを使用します。

以下のルールタイプがサポートされています。

通常ルール

このルールタイプは、定義されたディメンションルールに基づいてディメンションを分類する静的に定義されたコストカテゴリ値を追加します。

継承された値

このルールタイプは、定義されたディメンション値からコストカテゴリ値を動的に継承するルールを定義する柔軟性を追加します。たとえば、特定のタグキーの値に基づいてコストを動的にグループ化するとします。継承された値のルールタイプを選択してから、Tag ディメンションを選択し、使用するタグキーを指定する必要があります。オプションで、タグキー teams を使

用して、リソースにタグ付けできます。それらは、alpha、beta、および gamma のような値でタグ付けできます。次に、継承された値ルールを用いて、Tag をディメンションとして選択し、teams をタグキーとして使用することができます。これにより、alpha、beta、および gamma の動的コストカテゴリ値が生成されます。

デフォルト値

オプションで、コストカテゴリに一致するルールがない場合は、この値を代わりに使用するように定義できます。

ステータス

コンソールを使用して、コストカテゴリがコストおよび使用状況情報の処理を完了したかどうかのステータスを確認できます。コストカテゴリを作成または編集した後、コストと使用状況レポート、Cost Explorer、およびその他のコスト管理製品で AWS コストと使用状況の情報を分類するまでに、最大 24 時間かかる場合があります。 Cost Explorer

ステータス状態は 2 つあります。

申請済み

Cost Categories は処理を完了し、 AWS コストと使用状況レポート、Cost Explorer、およびその他のコスト管理製品の情報は新しいルールで最新です。

Processing

コストカテゴリの更新はまだ進行中です。

クォータ

コストカテゴリクォータの詳細については、「クォータと制限」を参照してください。

用語の比較

CHARGE_TYPE は、コストカテゴリの式でサポートされているディメンションです。それは、Cost Explorer API にある RECORD_TYPE 値です。このディメンションでは、コンソールを使用しているか、API/JSON エディタを使用しているかによって、異なる用語を使用します。両方のシナリオで使用される用語の比較表を次に示します。

用語の比較

API または JSON エディタの値	コンソールで使用される名前
クレジット	クレジット
DiscountedUsage	予約が適用される使用
料金	料金
返金	返金
RIFee	定期的な予約料金
SavingsPlanCoveredUsage	Savings Plan の対象となる使用
SavingsPlanNegation	Savings Plan の否定
SavingsPlanRecurringFee	Savings Plan 定期料金
SavingsPlanUpfrontFee	Savings Plan 前払い料金
税金	税金
使用方法	使用方法

コストカテゴリを作成する

コスト配分は、組織内の正しいグループに AWS クラウド コストをマッピングして割り当てるのに役立ちます。これらのコストを割り当てるには、コストカテゴリを作成します。コストカテゴリはルールで構成されます。

ルールには 2 つのタイプがあります。

1. コストをグループ化するルール
2. コストを分割するルール

コストをグループ化するルール

次の 1 つ以上のディメンションを使用して、コストをグループ化するルールを定義します。

- アカウント
- コスト配分タグ
- クレジットや返金などの料金タイプ
- サービス
- リージョン
- などの使用タイプ BoxUsage:t2.micro

ルールは、定義された順序で評価されます。

Example 例: コストをグループ化するルール

エンジニアリング部門にはプロジェクト *Alpha* と *Beta* があり、マーケティング部門にはプロジェクト *Gamma* があります。

Project*:Alpha#Project* : *Beta*、*Project:Gamma* など、すべてのリソースには、使用されているプロジェクト名でタグ付けされます。

Department という名前のコストカテゴリを作成して、マーケティングおよび*########*部門にコストを割り当てます。*##*コストカテゴリでは、ルールを次のように定義します。

- ルール 1: コストに *Project:Alpha* または *Project:Beta* のコスト配分タグがある場合は、コストを *Department:Engineering* に割り当てます。
- ルール 2: コストに *Project:Gamma* のコスト配分タグがある場合は、*Department:Marketing* にコストを割り当てます。

分類されていないコストのデフォルト名を指定することもできます。この例では、タグ付けされていないリソースに関連するコストを *IT* 部門に割り当てる必要があります。

- ルール 1: コストに *Project:Alpha* または *Project:Beta* のコスト配分タグがある場合は、コストを *Department:Engineering* に割り当てます。
- ルール 2: コストに *Project:Gamma* のコスト配分タグがある場合は、*Department:Marketing* にコストを割り当てます。
- その他のコストについては、*Department:IT* に割り当てます。

この例では、コストカテゴリ名は *Department* です。コストカテゴリ値は、*########* 、*### ####* 、*IT* です。

コストを分割するルール

1 つのコストカテゴリ値に割り当てられるコストは、他のコストカテゴリ値に分割できます。この例では、*IT* コストを*########*部門と*#######*部門の間で 70:30 の割合で分割する必要がある場合、その配分を実行する分割料金ルールを定義できます。

コストカテゴリを作成するときに、次のような追加の詳細を指定できます。

- Effective Date – コストカテゴリの開始日を設定します。デフォルトでは、この日付は当月に設定されます。前月を選択した場合、コストカテゴリルールはその日付を遡及して適用されます。
- タグ – このコストカテゴリを編集できるユーザーへのアクセスを制御するには、コストカテゴリにタグを追加します。次に、IAM ポリシーを更新して、そのコストカテゴリへのアクセスを許可または拒否します。例えば、コストカテゴリに *Role:Administrator* タグを追加し、そのタグを持つコストカテゴリへのアクセスを特定のロールに明示的に許可するように IAM ポリシーを更新できます。

デフォルトの通常のアカウントと の管理アカウントには、コストカテゴリを作成するためのアクセス権 AWS Organizations があります。

> **Tip**
>
> コストと使用状況レポートで AWS コストデータのバックフィルをリクエストするには、サポートケースを作成します。サポートケースでは、バックフィルするレポート名と請求期間を指定します。詳細については、「に連絡する AWS Support」を参照してください。

以下の手順に従ってコストカテゴリを作成します。コストカテゴリを作成したら、使用状況レコードがコストカテゴリ値で更新されるまで最大 24 時間待ちます。

コストカテゴリを作成するには

1. にサインイン AWS Management Console し、https://console.aws.amazon.com/billing/ で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで、[Cost Categories] を選択します。
3. [コストカテゴリの作成] を選択します。ルールを更新するときに、コストプレビューパネルをリファレンスとして使用できます。

4. コストをグループ化 の横に、コストカテゴリの名前を入力します。コストカテゴリ名はアカウント内で一意にする必要があります。
5. [ルールビルダー] または [JSON エディタ] を使用して、コストカテゴリを定義します。

   JSON リクエスト構文の詳細については、AWS Billing and Cost Management 「 API リファレンス」の「コストカテゴリ」セクションを参照してください。
6. Rule Builder で、ルールの追加を選択します。
7. ルールタイプ を選択します。コストのグループ化方法を手動で定義するか (ルール) 、アカウントまたはタグでコストを自動的にグループ化するか (継承ルール) のいずれかを選択します。
8. 通常のルールでは、コストがすべてまたはいずれかの条件を満たすかどうかを選択します。
9. リストから請求の [ディメンション] を選択します。

   a. 通常のルールタイプでは、アカウント 、サービス 、料金タイプ (###### ##) 、タグキー 、リージョン 、使用タイプ 、または Cost Category を選択できます。([Cost Category] を選択して、コストカテゴリ間の階層関係を作成できます)。

   b. 継承された値のルールタイプでは、アカウントキーまたはタグキー (コスト配分タグキー) を選択できます。
10. 通常のルールタイプでは、ドロップダウンリストから [演算子] を選択します。オプションは、[Is]、[Contains]、[Starts with]、および [Ends with] です。

    > **Note**
    >
    > [Contains]、[Starts with]、および [Ends with] は、アカウントとタグのディメンションでのみサポートされています。これらの演算子をアカウントで使用すると、エンジンはアカウント ID ではなくアカウント名と照合して評価を行います。
11. フィルタリングされた値を選択するか、属性セレクタにディメンションの独自の値を入力します。

    > **Note**
    >
    > [アカウント] ディメンションでは、継承されたコストカテゴリ値のアカウント ID ではなく、アカウント名を使用します。
12. 必要に応じて条件を追加を選択し、ステップ 9 ~ 11 を繰り返します。
13. としてコストをグループ化するには、コストカテゴリ値を入力します。

14. [ルールの作成] を選択します。
15. (オプション) デフォルト値を追加します。これは、すべての一致しないコストをこの値に分類します。
16. (オプション) ルールの順序を変更するには、矢印を使用するか、各ルールの右上にある番号を変更します。

    ルールは順番に処理されます。明細項目に一致するルールが複数ある場合は、最初に一致したルールを使用してコストカテゴリ値が決定されます。
17. (オプション) ルールを削除するには、ルールを選択し、削除を選択します。
18. [次へ] を選択します。
19. (オプション) コストを分割するには、分割料金を追加を選択します。分割料金ルールの詳細については、「コストカテゴリ内で料金を分割する」を参照してください。

    a. [分割料金の追加] を選択します。
    b. [ソース値] の下で、コストカテゴリ値を選択します。
    c. [ターゲット値] の下で、分割料金を配分する 1 つ以上のコストカテゴリ値を選択します。
    d. [料金配分方法] の下で、コストを配分する方法を選択します。選択肢は、[比例]、[固定]、および [等分] です。
    e. [固定] 料金配分では、各ターゲットコストカテゴリ値を配分するパーセント額を入力します。
    f. 必要に応じてステップ 19 を繰り返します。
20. [次へ] を選択します。
21. (オプション) コストカテゴリルールのルックバック期間を追加するには、ルールを遡及的に適用する月を選択します。
22. (オプション) タグを追加するには、[Add new resource tag] (新しいリソースタグを追加) を選択し、キーと値を入力します。
23. [コストカテゴリの作成] を選択します。

コストプレビューパネルについて

コストプレビューパネルには、コストカテゴリルールを作成または更新するときに、コストがどのようにグループ化または分割されるかがリアルタイムで表示されます。コストプレビューパネルに表示される結果は、 month-to-date 純償却コストに基づく見積もりです。

コストプレビューパネルを使用する際に留意すべき点をいくつか紹介します。

- ルールの条件が複雑な場合、コストプレビューの結果が正確ではない可能性があります。例えば、Contains、、 Starts WithEnds With演算子と一致する値が多すぎます。

  より正確な結果を得るには、ルールを保存し、コストカテゴリの詳細ページを確認してください。
- コストカテゴリに、アカウントまたはタグ (継承ルール) でコストを自動的にグループ化するルールがある場合、プレビューにはコストの内訳は表示されません。ただし、コストカテゴリの可能な値が表示されます。
- ルールが複雑すぎる場合、またはリアルタイムでの計算に時間がかかりすぎる場合、プレビューにはコストの内訳は表示されません。

コストカテゴリのタグ付け

コストカテゴリへのタグ付けは、コストカテゴリへのアクセスを制御するのに便利です。詳細については、「IAM ユーザーガイド」の「タグを使用した AWS リソースへのアクセスの制御」を参照してください。

次の手順を使用して、既存のコストカテゴリにタグを付けられます。

コストカテゴリにタグ付けするには

1. にサインイン AWS Management Console し、https://console.aws.amazon.com/billing/ で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで、[Cost Categories] を選択します。
3. タグ付けするコストカテゴリを選択します。
4. [Resource tags] (リソースタグ) セクションに移動します。
5. [Manage resource tags] (リソースタグを管理) を選択します。
6. [Add new resource tag] (新しいリソースタグを追加) を選択します。
7. [Key] (キー) と [Value] (値) を入力します。
8. タグを設定したら、[Save changes] (変更の保存) を選択します。

コストカテゴリを表示する

のコストカテゴリダッシュボードから AWS Billing and Cost Management、詳細ページに移動します。カテゴリの詳細と値に関する包括的な情報が表示されます。

トピック

- コストカテゴリの詳細ページへ移動する
- コストカテゴリの詳細ページを理解する
- コストカテゴリのmonth-to-date 分類
- コストカテゴリ値をダウンロードする
- コストタイプを変更する

コストカテゴリの詳細ページへ移動する

請求情報とコスト管理コンソールで任意のコストカテゴリ名を選択して、詳細ページを開くことができます。詳細ページは、コストカテゴリを追加または編集するときにも表示されます。

コストカテゴリの詳細ページを表示するには

1. にサインイン AWS Management Console し、https://console.aws.amazon.com/billing/ で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで、[コストカテゴリ] を選択します。
3. [コストカテゴリ] 列の下で、コストカテゴリ名を選択します。

コストカテゴリの詳細ページを理解する

コストカテゴリの詳細ページでは、カテゴリの詳細セクションとカテゴリ値セクションを使用して month-to-date コスト配分を分類します。

- ページの右上にある [月セレクタ] を使用して、表示している月を変更します。コストカテゴリ内のコストカテゴリ値コスト配分の詳細な内容を表示できます。
- Category details セクションでは、現在のステータス 、デフォルト値 、値数、合計 month-to-date 純償却コストを表示できます。
- [分類されたコスト] の下のグラフは、月額支出のコストカテゴリ値の配分を示します。未分類のコストは [未分類] として表示されます。

コストカテゴリのmonth-to-date 分類

カテゴリ値セクションでは、設定された各コストカテゴリ値の支出を確認できます month-to-date。表示される額は、正味償却コストです。

コストをさらに調べるには、[AWS Cost Explorerで表示] を選択して Cost Explorer を開きます。

コストカテゴリ値をダウンロードする

month-to-date コストカテゴリの支出のオフラインコピーをダウンロードできます。

コストカテゴリの詳細ページをダウンロードするには

1. https://console.aws.amazon.com/billing/ で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで、[コストカテゴリ] を選択します。
3. [コストカテゴリ] 列の下で、コストカテゴリ名を選択します。
4. [CSVをダウンロード] を選択して、カンマ区切り値のファイルをダウンロードします。

コストタイプを変更する

コストカテゴリは、さまざまなコストタイプを使用して表示することができます。以下のオプションを選択できます。

- 非ブレンドコスト
- 償却コスト
- ブレンドコスト
- 非ブレンド純コスト
- 償却純コスト

これらのコストタイプの詳細については、「AWS Cost Management ユーザーガイド」の「Cost Explorer を使用してデータを探索する」を参照してください。

コストカテゴリのタイプを変更する

1. https://console.aws.amazon.com/billing/ で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで、[コストカテゴリ] を選択します。
3. [コストカテゴリ] 列の下で、コストカテゴリ名を選択します。現在、コストカテゴリのコストタイプは一度に 1 つしか変更できません。
4. ページの右上隅にある設定アイコン
   (
)
   を選択します。

5. [コストカテゴリ設定] ダイアログボックスで、コストの集計方法を選択します。
6. [確認] を選択します。新しいコストタイプを用いてページが更新されます。

コストカテゴリを編集する

次の手順を使用して、コストカテゴリを編集できます。コストカテゴリ名は編集できません。分割料金を使用している場合は、現時点のソース値として[未分類] コストを選択します。

コストカテゴリを編集するには

1. にサインイン AWS Management Console し、https://console.aws.amazon.com/billing/ で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで、[コストカテゴリ] を選択します。
3. 編集するコストカテゴリを選択します。
4. [Edit cost category (コストカテゴリを編集する)] を選択します。
5. 変更を前の日付から遡って適用したい場合は、パラメータの変更を適用する月を選択します。
6. パラメータを変更し、[Confirm cost category (コストカテゴリを確認する)] を選択します。

コストカテゴリを削除する

次の手順を使用して、コストカテゴリを削除できます。

コストカテゴリを削除するには

1. にサインイン AWS Management Console し、https://console.aws.amazon.com/billing/ で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで、[コストカテゴリ] を選択します。
3. 削除するコストカテゴリを選択します。
4. [Delete cost category (コストカテゴリを削除する)] を選択します。

> **Note**
>
> 削除したコストカテゴリは、指定した日付範囲に応じて、最大 12 か月間レポートに引き続き表示されることがあります。例えば、9 月 15 日に *CostCategoryA* を削除したとしま

す。10 月 1 日から 12 月 31 日までの AWS Cost Explorer レポートを作成すると、このコストカテゴリはレポートに表示されません。

コストカテゴリ内で料金を分割する

分割料金ルールを使用して、コストカテゴリ値の間で料金を配分できます。分割料金は、1 人の所有者に直接帰属されていないコストがある場合に便利です。したがって、コストを 1 つのコストカテゴリ値に分類することはできません。たとえば、データ転送コスト、エンタープライズサポート、および運用コストが発生する、複数のチーム、事業部門、財務所有者が共有する一連のコストがあります。コストカテゴリを作成または編集するときに、分割料金ルールを定義できます。これらのプロセスの詳細については、「コストカテゴリを作成する および コストカテゴリを編集する」を参照してください。

これは、分割料金を設定するときに表示される用語のリストです。

ソース

分割する共有コストのグループ。ソースには、既存のコストカテゴリ値のいずれかを指定できます。

ターゲット

ソースによって定義された、全体でコストを分割するコストカテゴリ値。

配分方法

ソースコストをターゲット間で分割する方法。以下の方法から選択できます。

[比例] - 各ターゲットの比例加重コストに基づいて、ターゲット全体にコストを配分します。

[固定] - 定義された配分率に基づいて、ターゲット全体にコストを配分します。

[等分] - すべてのターゲット全体に等分にコストを配分します。

前提条件

分割料金ルールを定義する前に、コストを適切なコストカテゴリ値に分類する必要があります。

Example 例

値 engineering、marketing、および FinOps を用いた Business unit コストカテゴリを使用して、組織の事業部門ビューを定義します。組織は、エンジニアリングおよびマーケティングビジネスユニットをサポートする共有インフラストラクチャプラットフォームも運用しています。

この共有インフラストラクチャプラットフォームのコストをターゲットの事業部門に配分するには、適切な [ディメンション] を使用して、そのコストを新しいコストカテゴリ値 Infrastructure Platform に分類します。

共有コストを含むコストカテゴリ値をルールリストのトップに移動することをお勧めします。コストカテゴリルールはトップダウン順に評価されるため、共有コストは個々の事業部門が分類される前に分類されます。これらの共有コストを分類した後、各事業部門全体に分割することができます。

分割料金のベストプラクティスを理解する

分割料金を設定する手順については、「コストカテゴリを作成する ステップ 15」を参照してください。分割料金ルールを定義した後、コンソールの [コストカテゴリの詳細] ページで、分割および配分されたコストを表示できます。詳細ページには、各コストカテゴリ値のコストの概要が表示されます。これには、分割料金を計算する前後のコストが含まれます。詳細ページから CSV レポートをダウンロードすることもできます。

分割料金を設定する場合は、次のシナリオに注意してください。

- コストカテゴリ値は、すべての分割料金ルール全体で 1 回だけソースとして使用できます。これは、値がソースとして使用されている場合、ターゲットとして使用することはできないことを意味します。値がターゲットとして使用されている場合、ソースとして使用することはできません。値は、複数の分割料金ルールでターゲットとして使用できます。
- コストカテゴリ値が [継承された値] ルールから作成された際に、その値をソースまたは分割料金ターゲットとして使用する場合は、[コストカテゴリステータス] が [適用済み] に変わるまで待つ必要があります。
- 分割料金ルールと合計配分コストは、[コストカテゴリの詳細] ページでのみ提示されます。これらのコストは表示されず、 AWS コストと使用状況レポート、Cost Explorer、その他の AWS コスト管理ツールにも影響しません。
- 1 つのコストカテゴリに対して最大 10 個の分割料金ルールを定義できます。

コストカテゴリクォータの詳細については、「コストカテゴリ」を参照してください。

AWS コスト配分タグの使用

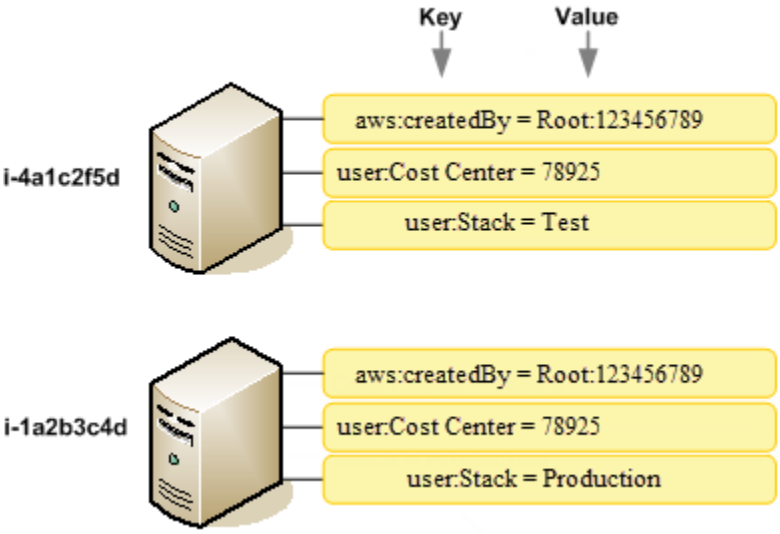
AWS 請求書に関する質問や請求に対する異議申し立てについては、 AWS Support すぐに連絡してください。サポートが必要な場合は、「AWS 請求のヘルプを利用する」を参照してください。請求書ページの内容を理解するには、「[請求] ページを使って月額料金と請求書を理解する」を参照してください。

タグは、 AWS AWS リソースにユーザーまたは割り当てるラベルです。各タグは、キーと値から構成されます。タグキーは、リソースごとにそれぞれ一意である必要があります。また、各タグキーに設定できる値は 1 つのみです。タグを使用してリソースを整理し、 AWS コスト配分タグを使用してコストを詳細に追跡できます。コスト配分タグを有効にすると、 AWS コスト配分タグを使用してコスト配分レポート上のリソースコストを整理し、 AWS コストの分類と追跡が容易になります。

AWS には、AWS生成タグとユーザー定義タグの 2 種類のコスト配分タグが用意されています。

AWS、または AWS Marketplace ISV AWSが自動生成タグを定義、作成、適用し、ユーザー定義タグを定義、作成、適用します。Cost Explorer またはコスト配分レポートで使用するには、事前に両方のタイプのタグを別々にアクティブ化しておく必要があります。

以下の図に、そのコンセプトを示します。この例では、2 つの Amazon EC2 インスタンスにタグ (Cost Center と Stack) を割り当ててアクティブ化しています。各タグには値が関連付けられています。また、createdByこれらのリソースを作成する前に、 AWS生成されたタグをアクティブ化しました。createdBy タグは、リソースの作成者を追跡します。userユーザー定義タグはプレフィックスを使用し、 AWS-generatedタグはプレフィックスを使用します。aws:



AWS リソース (Amazon EC2 インスタンス、Amazon S3 バケットなど) AWS にタグを適用または適用し、Billing and Cost Management コンソールでタグを有効にすると、使用状況とコストをアクティブなタグでグループ化したコンマ区切り値 (CSV ファイル) AWS としてコスト配分レポートが生成されます。自社のカテゴリ たとえばコストセンター、アプリケーション名、所有者を表すタグを適用すると、複数のサービスにわたってコストを分類することができます。

コスト配分レポートには、 AWS 各請求期間のすべての費用が含まれます。タグ付きとタグなしのどちらのリソースもこのレポートに出力されるので、リソース別の請求額を明確に分類できます。たとえば、リソースにアプリケーション名のタグを付けると、1 つのアプリケーションが実行されているすべてのリソースのコスト総額がわかります。次に示すスクリーンショットは、各タグの列が表示されているレポートの一部です。

Total Cost	user:Owner	user:Stack	user:Cost Center	user:Application
0.95	DbAdmin	Test	80432	Widget2
0.01	DbAdmin	Test	80432	Widget2
3.84	DbAdmin	Prod	80432	Widget2
6.00	DbAdmin	Test	78925	Widget1
234.63	SysEng	Prod	78925	Widget1
0.73	DbAdmin	Test	78925	Widget1
0.00	DbAdmin	Prod	80432	Portal
2.47	DbAdmin	Prod	78925	Portal

請求サイクルの終了時点では、コスト配分タグのある請求レポートの請求額合計 (タグ付きとタグなし) は、[請求書] ページの請求額の合計と同じ期間のその他の請求レポートの請求額の合計に等しくなります。

タグは、Cost Explorer の表示をフィルタリングするために使用することもできます。Cost Explorer の詳細については、「 AWS Cost Explorer によるコストの分析」を参照してください。

AWS生成されたタグを有効化する方法の詳細については、を参照してください。AWS 生成されたコスト配分タグを有効にします。ユーザー定義タグの適用とアクティブ化については、「ユーザー定義のコスト配分タグ」を参照してください。すべてのタグが請求情報とコスト管理コンソールに表示されるまでに最大 24 時間かかる場合があります。

> メモ
>
> - ベストプラクティスとして、タグには秘密情報を保存しないでください。
> - 請求コンソールの [cost allocation tags] マネージャーにアクセスできるのは、組織の管理アカウントおよび組織のメンバーではない単一のアカウントのみです。
> - タグを作成および更新するには、 AWS Tag Editor を使用してください。Tag Editor の詳細については、「 AWS リソースユーザーガイドのタグ付け」の「Tag Editor の使用」をご覧ください。

トピック

- AWS 生成されたコスト配分タグ
- ユーザー定義のコスト配分タグ
- バックフィルコスト配分タグ
- 毎月のコスト配分レポート
- コスト配分タグの日付を理解する

AWS 生成されたコスト配分タグ

AWS-generated `createdBy` タグは、コスト配分を目的として、 AWS AWS サポートされているリソースを定義して適用するタグです。 AWS-generated タグを使用するには、管理アカウント所有者がBilling and Cost Management コンソールでタグを有効化する必要があります。管理アカウントの所有者がタグをアクティブ化すると、タグはすべてのメンバーアカウントに対しても有効になります。タグがアクティブ化されると、 AWS-generated AWS タグがアクティブ化された後に作成されたリソースへのタグの適用を開始します。 AWS-generated タグは Billing and Cost Management コンソールとレポートでのみ使用でき、 AWS AWS タグエディタを含むコンソールの他の場所には表示されません。`createdBy` タグは、リソースクォータあたりのタグ数には影響しません。

aws:createdByタグは次の場合にのみ入力されます。 AWS リージョン

- ap-northeast-1
- ap-northeast-2
- ap-south-1
- ap-southeast-1
- ap-southeast-2
- cn-north-1
- eu-central-1
- eu-west-1
- sa-east-1
- us-east-1
- us-east-2
- us-gov-west-1
- us-west-1
- us-west-2

これら以外で作成されたリソースには、 AWS リージョン このタグは自動入力されません。

createdBy タグでは、次のキー値定義が使用されます。

```
key = aws:createdBy
```

```
value = account-type:account-ID or access-key:user-name or role session name
```

すべての値に、すべての値パラメーターが含まれるわけではありません。例えば、ルートアカウント用の AWS生成のタグの値には、ユーザー名がないこともあります。

account-type の有効値は、Root、IAMUser、AssumedRole、FederatedUser です。

タグに account-ID がある場合、*account-id* はリソースを作成したルートアカウントまたはフェデレーティッドユーザーのアカウント番号を追跡します。タグにアクセスキーがある場合、*access-key* は使用された IAM アクセスキーを追跡します。該当する場合はセッションロール名も追跡されます。

user-name は、ユーザー名です (使用可能な場合)。

タグ値の例を次に示します。

```
Root:1234567890
Root: 111122223333 :exampleUser
IAMUser: AIDACKCEVSQ6C2EXAMPLE :exampleUser
AssumedRole: AKIAIOSFODNN7EXAMPLE :exampleRole
FederatedUser:1234567890:exampleUser
```

IAM ユーザー、ロール、およびフェデレーションの詳細については、「IAM ユーザーガイド」を参照してください。

AWS 生成されたコスト配分タグはベストエフォート方式で適用されます。たとえば、 AWS-generated タグが依存するサービスに問題があると CloudTrail、タグ付けにギャップが生じる可能性があります。

createdBy タグは次のイベントの後、次のサービスおよびリソースにのみ適用されます。

AWS 製品	API イベントまたはコンソール イベント	リソースタイプ
AWS CloudFormation (AWS CloudFormation)	CreateStack	スタック
AWS Data Pipeline (AWS Data Pipeline)	CreatePipeline	パイプライン
Amazon Elastic Compute Cloud (Amazon EC2)	CreateCustomerGateway	カスタマーゲートウェイ
	CreateDhcpOptions	DHCP オプション
	CreateImage	イメージ
	CreateInternetGateway	インターネットゲートウェイ
	CreateNetworkAcl	ネットワーク ACL
	CreateNetworkInterface	ネットワークインターフェイス

AWS 製品	API イベントまたはコンソール イベント	リソースタイプ
	CreateRouteTable	ルートテーブル
	CreateSecurityGroup	セキュリティグループ
	CreateSnapshot	Snapshot
	CreateSubnet	サブネット
	CreateVolume	ボリューム
	CreateVpc	VPC
	CreateVpcPeeringConnection	VPC ピア接続
	CreateVpnConnection	VPN 接続
	CreateVpnGateway	VPN ゲートウェイ
	PurchaseReservedInstancesOffering	リザーブドインスタンス
	RequestSpotInstances	S pot-instance-request
	RunInstances	インスタンス
Amazon ElastiCache (ElastiCache)	CreateSnapshot	Snapshot
	CreateCacheCluster	クラスター
AWS Elastic Beanstalk (Elastic Beanstalk)	CreateEnvironment	環境
	CreateApplication	アプリケーション
Elastic Load Balancing (Elastic Load Balancing)	CreateLoadBalancer	ロードバランサー

AWS 製品	API イベントまたはコンソール イベント	リソースタイプ
Amazon S3 Glacier (S3 Glacier)	CreateVault	ボールト
Amazon Kinesis (Kinesis)	CreateStream	ストリーム
Amazon Relational Database Service (Amazon RDS)	CreateDBInstanceReadReplica	データベース
	CreateDBParameterGroup	ParameterGroup
	CreateDBSnapshot	Snapshot
	CreateDBSubnetGroup	SubnetGroup
	CreateEventSubscription	EventSubscription
	CreateOptionGroup	OptionGroup
	PurchaseReservedDBInstancesOffering	ReservedDBInstance
	CreateDBInstance	データベース
Amazon Redshift (Amazon Redshift)	CreateClusterParameterGroup	ParameterGroup
	CreateClusterSnapshot	Snapshot
	CreateClusterSubnetGroup	SubnetGroup
	CreateCluster	クラスター
Amazon Route 53 (Route 53)	CreateHealthCheck	HealthCheck

AWS 製品	API イベントまたはコンソール イベント	リソースタイプ
	`CreatedHostedZone`	HostedZone
Amazon Simple Storage Service (Amazon S3)	`CreateBucket`	バケット
AWS Storage Gateway (Storage Gateway)	`ActivateGateway`	ゲートウェイ

> **Note**
>
> `CreateDBSnapshot` タグは、スナップショットのバックアップストレージには適用されません。

AWS Marketplace ベンダー提供のタグ

AWS Marketplace 特定のベンダーは、タグを作成してソフトウェアの使用状況に関連付けることができます。これらのタグには、プレフィックス `aws:marketplace:isv:` があります。タグを使用するには、管理アカウントの所有者が請求情報とコスト管理コンソールでタグをアクティブ化する必要があります。管理アカウントの所有者がタグをアクティブ化すると、タグはすべてのメンバーアカウントに対しても有効になります。`aws:createdBy` タグと同様に、これらのタグは請求情報とコスト管理コンソールにのみ表示され、リソースクォータあたりのタグ数には影響しません。製品に適用されるタグキーは、AWS Marketplace 製品ページにあります。

AWS 生成されたコスト配分タグを有効にします。

管理アカウントの所有者は、 AWS Billing and Cost Management コンソールで生成されたタグを有効化できます。管理アカウントの所有者がタグをアクティブ化すると、タグはすべてのメンバーアカウントに対しても有効になります。このタグは、請求情報とコスト管理コンソールとレポートにのみ表示されます。

> **Note**
>
> `createdBy` タグは、請求情報とコスト管理コンソールでアクティブ化できます。 AWS リージョンこのタグは特定の用途で使用できます。詳細については、「AWS 生成されたコスト配分タグ」を参照してください。

AWS生成されたタグを有効化するには

1. AWS Management Console にサインインし、https://console.aws.amazon.com/billing/ AWS Billing and Cost Management のコンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで、[Cost Allocation Tags] (コスト配分タグ) を選択します。
3. [AWS-generated cost allocation tags] で、`createdBy` タグを選択します。
4. [アクティブ化] を選択します。タグが有効になるまでに最大 24 時間かかることがあります。

AWS 生成されたコスト配分タグを非アクティブ化します。

管理アカウントオーナーは、 AWS Billing and Cost Management コンソールで生成されたタグを非アクティブ化できます。管理アカウントの所有者がタグを非アクティブ化すると、タグはすべてのメンバーアカウントに対しても非アクティブ化されます。 AWS生成されたタグを非アクティブ化すると、 AWS そのタグは新しいリソースには適用されなくなります。それまでにタグ付けされたリソースのタグは、そのまま残ります。

生成されたタグを非アクティブ化するには AWS

1. AWS Management Console にサインインし、https://console.aws.amazon.com/billing/ AWS Billing and Cost Management のコンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで、[Cost Allocation Tags] (コスト配分タグ) を選択します。
3. [AWS-generated cost allocation tags] で、[Deactivate] を選択します。

タグが非アクティブになるまでに最大 24 時間かかることがあります。

AWS 生成されたコスト配分タグに関する制限

AWS生成されたタグには以下の制限が適用されます。

- AWS生成されたタグを有効化できるのは管理アカウントだけです。

- AWS生成されたタグは更新、編集、削除できません。
- AWS 生成されたコスト配分タグは、タグがアクティブ化される前に作成されたリソースには適用されません。
- 請求情報とコスト管理レポートのアクティブなタグキーの最大数は 500 個です。
- AWS CloudTrail -生成されたタグはログを使用して作成されます。 CloudTrail ログが特定のサイズを超えると、 AWS生成タグの作成は失敗します。
- 予約済みのプレフィックスは `aws:` です。

  AWS`aws:`-生成されたタグの名前と値には自動的にプレフィックスが割り当てられますが、これを割り当てることはできません。 AWS-生成されたタグ名は、ユーザー定義のリソースタグクォータの 50 個にはカウントされません。ユーザー定義タグの名前は、`user:` というプレフィックスを付けてコスト配分レポートに表示されます。
- NULL タグ値は、Cost Explorer AWS と予算には表示されません。同じく NULL のタグ値が 1 つしかない場合、そのタグキーはCost Explorer AWS または予算にも表示されません。

ユーザー定義のコスト配分タグ

ユーザー定義タグは、ユーザーが定義、作成し、リソースに適用するタグです。ユーザー定義タグを作成して適用すると、請求情報とコスト管理コンソールを使用してコスト配分の追跡をアクティブ化できます。コスト配分タグは、Cost Explorer、Budgets、 AWS コストと使用状況レポート、または従来のレポートを有効にした後、コンソールに表示されます。 AWS のサービスをアクティブ化すると、コスト配分レポートに表示されます。そうすれば、 AWS コスト配分レポートのタグを使用してコストを追跡できます。タグは、そのタグが作成される前に作成されたリソースには適用されません。

> **Note**
>
> - ベストプラクティスとして、組織を移動するときにコスト配分タグを再度アクティブ化します。アカウントがメンバーとして別の組織に移動すると、そのアカウントの以前にアクティブ化されたコスト配分タグは「アクティブ」状態を失い、新しい管理アカウントによって再度アクティブ化する必要があります。
> - ベストプラクティスとして、タグには秘密情報を保存しないでください。
> - 請求情報とコスト管理コンソールの [cost allocation tags] マネージャーにアクセスできるのは、組織の管理アカウントおよび組織のメンバーではない単一のアカウントのみです。

ユーザー定義のコスト配分タグの適用

使いやすく最良の結果を得るには、 AWS タグエディターを使用してユーザー定義のタグを作成して適用してください。Tag Editor では、統一された方法で一元的にユーザー定義タグを作成および管理できます。詳細については、AWS Resource Groups ユーザーガイドの「タグエディタの使用」を参照してください。

サポートされるサービスでは、API または AWS Management Consoleを使用してリソースにタグを適用できます。 AWS 各サービスには独自のタグ実装があります。これらの実装を個々に使用するか、タグエディターを使用してこのプロセスを簡素化することができます。タグをサポートするサービスの完全リストについては、「タグベースのグループでサポートされているリソース」および「リソースグループのタグ付け API リファレンス」を参照してください。

> **Note**
>
> AWS コスト配分タグの動作はサービスによって異なります。サポートされているサービスのコスト配分タグの動作の詳細については、サービスのドキュメントを参照してください。たとえば、Amazon ECS でのコスト配分タグの使用の詳細については、Amazon Elastic Container Service デベロッパーガイドの「Amazon ECS リソースのタグ付け」を参照してください。

作成および適用したユーザー定義タグは、コスト配分用にアクティブ化できます。コスト配分用にタグをアクティブ化する場合は、コストの整理方法に応じた一連のタグキーを設定するようお勧めします。コスト配分レポートにタグキーが列として追加され、各行の該当する値が表示されるため、タグキーのセットを一貫して使用すると、コスト追跡が容易になります。

Amazon EMR が EC2 インスタンスを起動するなど、 AWS サービスが使用する他のリソースを起動するサービスもあります。補足サービス (EC2) でタグ付けがサポートされている場合、補足リソース (関連する Amazon EC2 インスタンスなど) にレポート用のタグを付けることができます。タグを付けることができるリソースの詳細なリストについては、Tag Editor を使用して検索してください。Tag Editor を使用してリソースを検索する方法の詳細については、「タグ付けするリソースの検索」を参照してください。

> **メモ**
>
> - AWS Marketplace 行項目には、関連する Amazon EC2 インスタンスタグが付けられます。

- `awsApplication` タグは、 AWS Service Catalog AppRegistryで設定されるアプリケーションに関連付けられるすべてのリソースに自動的に追加されます。このタグはコスト配分タグとして自動的に有効化されます。自動的に有効化されたタグは、コスト配分タグのクォータにはカウントされません。詳細については、「クォータと制限」を参照してください。

ユーザー定義のコスト配分タグのアクティブ化

請求レポートにタグを表示するには、タグをアクティブ化する必要があります。ユーザー定義のコスト配分タグはタグキーを表し、請求情報とコスト管理コンソールで有効にします。タグキーをアクティブ化または非アクティブ化すると、同じタグキーを共有するすべてのタグ値に影響します。タグキーには複数のタグ値を設定できます。`UpdateCostAllocationTagsStatus` API オペレーションを使用しても、タグを設定できます。詳細については、「APIリファレンスAWS Billing and Cost Management」を参照してください。

タグキーをアクティブ化するには

1. AWS Management Console にサインインし、https://console.aws.amazon.com/billing/ AWS Billing and Cost Management のコンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで、[Cost Allocation Tags] (コスト配分タグ) を選択します。
3. アクティブ化するタグキーを選択します。
4. [アクティブ化] を選択します。

ユーザー定義のタグを作成してリソースに適用した後、アクティブ化のためにタグキーがコスト配分タグページに表示されるまでに最大で 24 時間かかる場合があります。タグキーがアクティブ化されるまでに最大 24 時間かかることがあります。

コスト配分タグのある請求レポートでのタグキーの表示例については、「コスト配分レポートの表示」を参照してください。

`awsApplication` タグについて

`awsApplication`タグは、でセットアップされたアプリケーションに関連するすべてのリソースに自動的に追加されます AWS Service Catalog AppRegistry。このタグはコスト配分タグとして自動的に有効化されます。このタグを使用して、アプリケーションとそのリソースのコスト傾向を分析します。

awsApplication タグは無効化できますが、アプリケーションのコストレポートに影響します。タグを非アクティブ化した場合、再び自動的にアクティブ化されることはありません。タグを手動で有効化するには、請求コンソールまたは UpdateCostAllocationTagsStatusAPI オペレーションを使用してください。

awsApplication タグは、コスト配分タグのクォータにはカウントされません。コスト配分タグのクォータと制限の詳細については、クォータと制限 を参照してください。詳細については AppRegistry、『AWS Service Catalog AppRegistry 管理者ガイド』を参照してください。

ユーザー定義タグの制限

基本的なタグの制限については、Amazon EC2 ユーザーガイドの「タグの制限」を参照してください。

コスト配分のユーザー定義タグに適用されるタグは次のとおりです。

- 予約済みのプレフィックスは aws: です。

  AWS生成のタグの名前と値には aws: プレフィックスが自動的に割り当てられますが、これをユーザーが割り当てることはできません。ユーザー定義タグの名前は、user: というプレフィックスを付けてコスト配分レポートに表示されます。
- 各キーは、各リソースに対して 1 回だけ使用してください。同じキーを同じリソースに対して 2 回使用しようとすると、リクエストが却下されます。
- 一部のサービスでは、作成時にリソースにタグ付けすることができます。詳細については、リソースにタグ付けするサービスに関するドキュメントを参照してください。
- 過去にさかのぼってタグを適用することはできません。つまり、タグは適用後にのみコスト配分レポートに表示され、それより前のレポートには表示されません。
- 「タグの制限」に一覧表示されている文字以外の文字が必要な場合は、タグに標準 Base-64 エンコーディングを適用できます。請求情報とコスト管理では自動的にタグがエンコードまたはデコードされません。
- 非従量制サービスのユーザー定義のタグを有効にできます (アカウントのタグ付けなど)。ただし、それらのサービスは従量制ではないため、これらのタグはコスト管理スイートでは設定されません。

バックフィルコスト配分タグ

管理アカウントユーザーは、最大 12 か月間コスト配分タグのバックフィルをリクエストできます。バックフィルをリクエストすると、選択した期間、タグの現在のアクティベーションステータスがバックフィルされます。

たとえば、Projectこのタグは 2023 年 11 月に有効化されました。2023 年 12 月に、2023 年 1 月からのタグのバックフィルをリクエストします。その結果、Projectタグは 2023 年 1 月から 12 月までの前の月にさかのぼって有効になります。タグに対応するタグ値は、Projectバックフィルの完了後にコストデータとともに使用できるようになります。

バックフィルを使用してタグを非アクティブ化して位置合わせすることもできます。たとえば、Team前の月には有効だったタグが、inactive現在はステータスに設定されているとします。バックフィルを行うと、Teamそのタグは無効になり、前月のコストデータから削除されます。

> **Note**
>
> - バックフィルが進行中の場合は、新しいバックフィルリクエストを送信することはできません。
> - 新しいバックフィルリクエストは 24 時間に 1 回のみ送信できます。

コスト配分タグのバックフィルをリクエストするには

1. AWS Management Console にサインインし、https://console.aws.amazon.com/billing/ AWS Billing and Cost Management のコンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで、[Cost Allocation Tags] (コスト配分タグ) を選択します。
3. ページの右上にある [タグをバックフィルする] を選択します。
4. バックフィルタグダイアログボックスで、バックフィルを開始する月を選択します。
5. [確認] を選択します。

バックフィルによるCost Explorer 更新

バックフィルはCost Explorer を自動的に更新します。Cost Explorer は 24 時間に 1 回データを更新するため、バックフィルは成功してもすぐには更新されません。詳細については、『AWS コスト管理ユーザーガイド』の「Cost Explorer」を参照してください。

AWS Cost and Usage Report バックフィルによるアップデート

AWS Cost and Usage Report バックフィルは自動的には更新されません。 AWS Cost and Usage Report バックフィルされたタグで更新するには、『AWS コストと使用状況レポート』ユーザーガイドの「レポートの設定を変更したので、データをバックフィルしたい」を参照してください。

毎月のコスト配分レポート

月次コスト配分レポートには、 AWS アカウントの使用量が製品カテゴリ別および連結アカウントユーザー別に一覧表示されます。このレポートには、詳細な AWS Cost and Usage Reportと同じ明細項目、およびタグキーの追加列が含まれます。 AWS Cost and Usage Report 代わりに使用することをおすすめします。

月次配分レポートの詳細については、次のトピックを参照してください。

トピック

- 月別コスト配分レポートの設定
- 時間別コスト配分レポートの取得
- コスト配分レポートの表示

月別コスト配分レポートの設定

デフォルトでは、API AWS Management Console またはを使用して追加した新しいタグキーは、コスト配分レポートから自動的に除外されます。このトピックに記載されている手順を使用してこれらを追加できます。

タグキーをコスト配分レポートに表示することを選ぶと、キーごとに 1 列追加され、対応する明細項目の値が表示されます。コスト配分レポートの元来の目的以外で他のタグを利用する可能性があるため (セキュリティまたは運用上の理由から追加するタグなど)、タグキーは個別にレポートに含めたり除外したりすることができます。このため、コストの整理に役立つ意味のある請求書情報が表示されるようになります。少数のタグキーを一貫して使用すると、コストの追跡がより容易になります。詳細については、「コスト配分レポートの表示」を参照してください。

> **Note**
>
> AWS 請求レポートは、ユーザーが作成して所有する Amazon S3 バケットに格納されます。これらのレポートは、Amazon S3 API、Amazon S3、 AWS Management Console または

を使用してバケットから取得できます AWS Command Line Interface。コスト配分レポートは、請求情報とコスト管理コンソールの [アカウントアクティビティ] ページからはダウンロードできません。

コスト配分レポートを設定し、タグをアクティブ化するには

1. AWS Management Console にサインインし、https://console.aws.amazon.com/billing/ AWS Billing and Cost Management のコンソールを開きます。
2. [請求明細レポート (レガシー)] で [編集] を選択し、次に [S3 へのレガシーレポート配信] を選択します。
3. [S3 バケットをアクティブ化する] を選択し、レポートの配信先を指定します。
4. [S3 バケットの設定] ダイアログボックスで、次のいずれかを選択します。
   - 既存の S3 バケットを使用するときは、[既存の S3 バケットを使用] を選択して、S3 バケットを選択します。
   - 新しい S3 バケットを作成するときは、[新しい S3 バケットを作成] を選択し、[S3 バケット名] に名前を入力して、[リージョン] を選択します。
5. [次へ] を選択します。
6. デフォルトの IAM ポリシーを読み、[このポリシーが正しいことを確認しました] を選択します。
7. [保存] を選択します。
8. [レポート] リストで、[コスト割り当てレポート] のチェックボックスを選択して [有効化] を選択します。
9. [レポートタグの管理] を選択します。

   このページには、API または該当する AWS のサービスのコンソールを使用して作成したタグのリストが表示されます。現在レポートに表示されているタグキーが選択されています。除外されているタグキーは選択されていません。
10. ドロップダウンリストで [非アクティブ] のタグをフィルタリングして、レポートで有効にするタグを選択できます。
11. [アクティブ化] を選択します。

組織内で管理アカウントを所有している場合、コスト配分レポートには、メンバーアカウントのすべての使用量、コスト、タグが含まれます。デフォルトでは、メンバーアカウントで登録されたすべて

のキーが表示され、レポートに表示するか除外するかを指定できます。リソースとタグを含む請求明細レポートには、前のステップを使用して選択するコスト配分タグキーも含まれます。

時間別コスト配分レポートの取得

コスト配分レポートは、Amazon S3 バケットに 1 AWS 日に数回発行される複数のレポートの 1 つです。

> **Note**
>
> 現在の請求期間 (毎月) に、 AWS 推定コスト配分レポートを生成します。その月のファイルは、請求期間が終了するまでの間、繰り返し上書きされ、請求期間終了時に最終的なレポートが生成されます。その後で、次の請求期間の新しいファイルが作成されます。過去の月のレポートは、指定された Amazon S3 バケットに残ります。

コスト配分レポートの表示

次の例は、さまざまなコストセンターとアプリケーションの請求額を追跡するためのものです。リソース (Amazon EC2 インスタンスや Amazon S3 バケットなど) には、"Cost Center"="78925" や "Application"="Widget1" のようなタグが割り当てられています。コスト配分レポートでは、useruser:Cost Centeruser:Applicationユーザー定義のタグキーにはやなどのプレフィックスが付きます。 AWS-生成されたタグキーにはプレフィックスが付きます。awsキーは列見出しとして表示され、その下にタグ付きの明細項目の値 (たとえば 78925) が表示されます。

Total Cost	user:Owner	user:Stack	user:Cost Center	user:Application
0.95	DbAdmin	Test	80432	Widget2
0.01	DbAdmin	Test	80432	Widget2
3.84	DbAdmin	Prod	80432	Widget2
6.00	DbAdmin	Test	78925	Widget1
234.63	SysEng	Prod	78925	Widget1
0.73	DbAdmin	Test	78925	Widget1
0.00	DbAdmin	Prod	80432	Portal
2.47	DbAdmin	Prod	78925	Portal

キーを選択するときは、値の階層が統一されるように注意して選択してください。そのようになっていない場合は、レポートのコストが効果的にグループ化されず、多数の明細項目が出力されます。

> **Note**
>
> 請求期間の途中でリソースのタグを追加または変更した場合は、コストが分割され、2 つの明細項目としてコスト配分レポートに表示されます。1 行目は更新前のコストを示し、2 行目は更新後のコストを示します。

レポート内の未配分リソース

コスト配分レポートの中に、タグでグループ化できない請求額がある場合は、デフォルトでは標準の請求額集計方法が適用され (アカウント/製品/明細項目で分類)、レポートに表示されます。未配分のコストが発生する状況としては、次のようなものがあります。

- 月の途中でコスト配分レポートにサインアップした。
- 一部のリソースに、請求期間の一時期または全体にわたってタグが付けられていなかった。
- 使用しているサービスが現時点ではタグをサポートしていない。
- AWS Support AWS Marketplace 月額料金などのサブスクリプションベースの料金は割り当てられません。
- 1 回だけ支払う料金 (たとえば Amazon EC2 リザーブドインスタンスの前払い料金) は配分できません。

タグ付けされたリソースに関連する想定外のコスト

コスト配分タグを使用して、使用量およびコストの割合が高いリソースを確認できますが、リソースを削除または非アクティベートすれば、必ずしもコストが削減できるとは限りません。予想外のコストの削減に関する詳細については、「予想外の料金について」を参照してください。

コスト配分タグの日付を理解する

> **前提条件**
>
> AWS Billing and Cost Management コンソールの [コスト配分タグ] のページでこれらの日付を確認するには、`ce:ListCostAllocationTags` のアクセス許可が必要です。
> AWS Identity and Access Management (IAM) ポリシーの更新に関する詳細については、「」を参照してください。アクセス許可の管理

コスト配分タグを使用する場合、次のメタデータフィールドを使用して、タグが最後に使用された日または最後に更新された日を確認できます。

- [最終更新日] — コスト配分のためにタグキーがアクティブ化または非アクティブ化された最後の日付。

  例えば、タグキー `lambda:createdby` が 2023 年 7 月 1 日に非アクティブからアクティブに変更されたとします。この場合、[最終更新日] の列には 2023 年 7 月 1 日が表示されます。
- 最終使用月 — AWS リソースでタグキーが使用された最後の月。

  例えば、タグキー `lambda:createdby` が最後に使用されたのが 2023 年 4 月 であるとします。この場合、[最終使用月] の列には 2023 年 4 月が表示されます。これは、その日付以降、タグキーはどのリソースにも関連付けされていないことを意味します。

> **メモ**
>
> - [最終更新日] の列には、新しく作成されたタグキーがアクティブ化されていない場合、何も表示されません。
> - [最終使用月] の列では、2023 年 4 月以前に使用され、現在どのリソースにも関連付けされていないタグキーについては [2023 年 4 月以前] と表示されます。

AWS 無料利用枠 の使用

AWS アカウントを作成すると、一部の AWS サービスを無料でお試しいただけます (制限あり)。

AWS 無料利用枠には以下の 3 種類があります。

常に無料

この無料利用枠は有効期限がなく、すべての AWS のお客様がご利用可能です。

12 か月間無料

AWS に初めてサインアップした日から 12 か月間、ご利用が可能です。

短期トライアル

無料利用枠の上限までを毎月、12 か月以内でご利用可能です。ほとんどの短期無料トライアルは、特定のサービスをアクティブ化した日から開始します。

AWS 無料利用枠の特典、種類、使用制限を提供するサービスを見つけるには

1. AWS 無料利用枠 ページに移動します。
2. 「無料利用枠の詳細」セクションで、フィルターを選択して利用枠タイプと製品カテゴリを検索します。

   例えば、[常に無料] を選択し、[コンピューティング] を選択すると、AWS Lambda (Lambda) で利用できる無料リクエストの数を確認できます。

AWS 無料利用枠の詳細と、利用対象期間に請求を回避する方法については、次のトピックを参照してください。

トピック

- AWS 無料利用枠の利用資格
- AWS 無料利用枠後の予期しない請求額の回避
- AWS 無料利用枠使用状況の追跡
- 無料利用枠 API を使用する

AWS 無料利用枠の利用資格

以下の条件がすべて満たされた場合、AWS 使用量は AWS 無料利用枠の制限内にとどまります。

- 現在、お客様のアカウントでは AWS 無料利用枠のトライアル期間が有効になっています。例えば、Amazon Elastic Compute Cloud (Amazon EC2) などのサービスの 12 か月間無料プログラムを利用している最中だとします。
- AWS 無料利用枠の特典を提供する AWS のサービスのみご利用いただけます。
- 使用量は、これらのサービスの AWS 無料利用枠制限内にとどまります。

AWS のサービスをこれらの条件の 1 つ以上で使用する場合、無料利用枠の制限を超える使用量に対して標準の AWS 請求レートで請求されます。

AWS 無料利用枠制限の詳細については、「AWS 無料利用枠」を参照してください。

> **Note**
>
> AWS Organizations の場合、すべてのメンバーアカウントの AWS 無料利用枠対象は、管理アカウントが作成された日から始まります。詳細については、AWS Organizations ユーザーガイドを参照してください。

AWS 無料利用枠後の予期しない請求額の回避

AWS 無料利用枠が用意されている 12 か月間無料サービスの利用資格は、AWS アカウントがアクティブになってから 12 か月後に期限が切れます。この期間以降は、無料利用枠の資格を延長することはできません。

> **Note**
>
> AWS 無料利用枠の利用資格期限が切れた後も、「常に無料」のオファーを引き続きご利用いただけます。利用可能な「常に無料」オファーの詳細については、「AWS 無料利用枠」を参照してください。

AWS 無料利用枠の利用資格期限が近づいたら、不要なリソースをすべてシャットダウンまたは削除することをお勧めします。資格の有効期限が切れると、標準の AWS 請求レートで使用量が請求されます。

短期トライアルの場合、サービスの有効期限が通知されることはありません。無料利用枠のアラートが通知されるのは、トライアル期間中のみです。短期トライアルで予期せぬ費用が発生しないよう、トライアル期間が終了する前に、これらのリソースをオフにします。

アカウントに定期的なログインをしていなくても、アクティブなリソースが実行されている可能性があります。次の手順で、アカウントのアクティブなリソースを確認します。

> **Note**
>
> `GetFreeTierUsage` API オペレーションを使用して無料利用枠を使用することもできます。無料利用枠 API に関する詳細については、「AWS Billing and Cost Management API Reference」を参照してください。

AWS 請求を使用してアクティブなリソースを確認するには

1. AWS Management Console にサインインして https://console.aws.amazon.com/billing/ で請求コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで [Bills] を選択します。
3. [サービス別料金] タブで、[すべて展開] を選択します。
4. アクティブなリソースのあるサービスと AWS リージョン 別のサービス、および各リソースの料金をリストで確認します。

AWS Cost Explorer を使用してアクティブなリソースを確認するには

1. AWS Management Console にサインインして AWS コスト管理 (https://console.aws.amazon.com/cost-management/home) を開きます。
2. ナビゲーションペインで、[Cost Explorer] を選択します。
3. [コストと使用量のグラフ] で、不要なリソースのあるサービスと AWS リージョン をメモします。これらのリソースをシャットダウンまたは削除する方法の手順については、当該サービスのドキュメントを参照してください。

   例えば、Amazon EC2 Linux インスタンスを終了するには、「Amazon EC2 Linux インスタンス用ユーザーガイド」を参照してください。

> **Tip**
>
> AWS アカウント を閉じることもできます。詳細と重要な考慮事項については、「AWS Account Management リファレンスガイド」の「アカウントの閉鎖」を参照してください。

AWS 無料利用枠使用状況の追跡

AWS 無料利用枠の使用状況は、以下の方法で追跡できます。

- [請求の設定] で、無料利用枠の使用アラートをオンにします。デフォルトでは、お客様の使用量が各サービスの無料利用枠の 85% に達すると、AWS 無料利用枠の使用状況アラートがメールで自動的に送信されます。使用量を、無料利用枠の上限 100% まで追跡するように、AWS Budgets を設定することも可能です。
- AWS 無料利用枠 の使用状況を、Billing and Cost Management コンソールの [無料利用枠] ページで確認します。

トピック

- AWS 無料利用枠使用状況アラートの使用
- 無料利用枠の推奨アクション
- 追跡可能な AWS 無料利用枠サービス

AWS 無料利用枠使用状況アラートの使用

AWS 無料利用枠の使用状況アラートを使用すれば、コストと使用量を追跡して対策を講じることができます。この機能の詳細については、AWS Budgets によるコスト 管理を参照してください。

お客様の使用量が各サービスの無料利用枠の 85% に達すると、AWS 無料利用枠の使用状況アラートがメールで自動的に送信されます。さらに追跡を行うときは、テンプレートを使用して `zero spend budget` を指定し、無料利用枠の 100% に達するまで使用量を追跡するように、AWS Budgets を設定します。予算をフィルタリングして個々のサービスを追跡することも可能です。

例えば、Amazon Elastic Block Store の無料利用枠の上限の 100% を超えることが予測されたときに、アラートを送信する予算を設定できます。使用量予算の設定方法については、「予算の作成」を参照してください。

AWS 無料利用枠 使用状況アラートは、Amazon DynamoDB ストレージの最初の 25 GB や Amazon メトリクスの最初の 10 のカスタム CloudWatchメトリクスなど、当月にアクティブになった 無料利用枠のサービスを対象としています。通常、最初の 12 か月間は、3 種類の AWS 無料利用枠のサービスすべてがアクティブ化されています。

例えば、Amazon EC2、Amazon SageMaker、Amazon S3 を使用します。それぞれの種類における無料利用枠の使用状況は、Billing and Cost Management コンソールの [無料利用枠] ページで確認できます。を SageMaker 2 か月間使用すると、Amazon EC2 と Amazon S3 が継続している間、短期トライアルは終了します。Amazon EC2 は、アカウント作成日から 12 か月が経過すると 12 か月間無料の期間が終了しますが、Amazon S3 は、無料利用枠が常に無料で提供されているため、使用を継続できます。

サービスの無料利用枠の制限を超えた場合は、AWS から、アカウント (AWS アカウントのルートユーザー) の作成に使用したメールアドレスにメールが送信されます。AWS 無料利用枠の使用状況アラートのメールアドレスを変更するには、以下の手順を実行します。

AWS 無料利用枠の使用状況アラートのメールアドレスを変更するには

1. AWS Management Console にサインインして https://console.aws.amazon.com/billing/ で請求コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインの [設定] で、[請求設定] を選択します。
3. [アラート設定] で [編集] を選択します。
4. 使用状況アラートを受信するメールアドレスを入力します。
5. [更新] を選択します。

無料利用枠上限の 85% に関する AWS Budgets の使用状況アラートは、すべての AWS アカウントに対して個々に自動的にアクティブ化されますが、AWS Organizations の管理アカウントに対してはアクティブ化されません。管理アカウントを所有している場合は、AWS 無料利用枠の使用状況アラートを受け取るようにオプトインする必要があります。次の手順を使用して、無料利用枠使用状況アラートをオプトインまたはオプトアウトします。

AWS 無料利用枠の使用状況アラートをオプトインまたはオプトアウトするには

1. AWS Management Console にサインインして https://console.aws.amazon.com/billing/ で請求コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインの [設定] で、[請求設定] を選択します。
3. [アラート設定] で [編集] を選択します。

4. [AWS 無料利用枠アラートを受信する] を選択して、無料利用枠の使用状況アラートをオプトインします。オプトアウトするには、[AWS 無料利用枠アラートを受信する] のチェックボックスをクリアします。
5. [更新] を選択します。

無料利用枠の推奨アクション

AWS 無料利用枠 が利用可能で、無料利用枠オファーを使用している場合、Billing and Cost Management ホームページの推奨されるアクションウイジェットで、使用量を追跡できます。このウィジェットには、使用量がいずれかのサービスに設定された無料利用枠使用制限の 85% を超えた場合の推奨事項が表示されます。

AWS 無料利用枠 データの表示は、以下の条件により制限されることがあります。

- ご利用の AWS のサービス が無料利用枠の対象外の場合
- 無料利用枠の資格が終了している場合
- AWS Organizations を通じて AWS にアクセスしています
- （ AWS GovCloud 米国西部) または AWS GovCloud （ 米国東部) リージョンAWS のサービスで を使用している

詳細については、「推奨されるアクション」を参照してください。

追跡可能な AWS 無料利用枠サービス

AWS により、AWS 無料利用枠サービスをどれだけ使用したか、どのサービスの使用タイプを使用したかを追跡できます。使用タイプは、AWS が追跡する特定の使用タイプです。例えば、使用タイプ `BoxUsage:freetier.micro` とは、ユーザーが Amazon EC2 マイクロインスタンスを使用したという意味です。

AWS 無料利用枠の使用状況アラートと [使用状況別の上位の AWS 無料利用枠サービス] 表は、有効期限がある AWS 無料利用枠製品、および有効期限のない当製品の両方に対応しています。以下のサービスや使用タイプを追跡できます。

サービス	使用タイプ	無料利用枠のタイプ
AWS Amplify	`BuildDuration`	12 か月間無料

サービス	使用タイプ	無料利用枠のタイプ
	DataStorage DataTransferOut HostingComputeRequestCount HostingComputeRequestDuration	
AWS AppSync	ConnectionDuration GraphQLInvocation GraphQLNotification ResponseData	12 か月間無料
AWS Audit Manager	Resource-Assessment-Collected	無料トライアル
AWS Budgets	ActionEnabledBudgetsUsage	常に無料
AWS CloudFormation	Resource-Invocation-Count-FreeTier	常に無料
AWS CodeArtifact	Requests TimedStorage-ByteHrs	常に無料
AWS CodeCommit	User-Month	常に無料
AWS CodePipeline	actionExecutionMinute activePipeline	常に無料

サービス	使用タイプ	無料利用枠のタイプ
AWS Data Pipeline	AWS-Activities-infreq AWS-Preconditions-infreq	12 か月間無料
AWS Data Transfer	DataTransfer-Out-Bytes DataTransfer-Regional-Bytes	常に無料
AWS Database Migration Service	InstanceUsg:dms.t2.micro InstanceUsg:dms.t3.micro	常に無料
AWS DeepRacer	ServiceUse-Train-Evaluate-Job TimedStorage-GigabyteHrs	無料トライアル
AWS Directory Service	MicrosoftAD-DC-Usage Small-Directory-Usage	無料トライアル
AWS Elemental MediaConnect	DataTransfer-Out-Bytes	常に無料
AWS Glue	Catalog-Request Catalog-Storage	常に無料
AWS IoT Greengrass	ActiveGGC-Devices	12 か月間無料

サービス	使用タイプ	無料利用枠のタイプ
AWS HealthImaging	API-Requests-Core EarlyDelete-ActiveByteHrs TimedStorage-ActiveByteHrs TimedStorage-ArchiveByteHrs	12 か月間無料
AWS IoT	ActionsExecuted ConnectionMinutes LoRaWAN-FUOTA Messages RegistryAndShadowOperations RulesTriggered Solved-Positions	12 か月間無料
AWS IoT Analytics	DataProcessing-Bytes DataScanned-TB ProcessedStorage-ByteHrs RawStorage-ByteHrs	12 か月間無料
AWS IoT Device Defender	Detect	無料トライアル
AWS IoT Device Management	JobExecutions	12 か月間無料

サービス	使用タイプ	無料利用枠のタイプ
AWS IoT Events	Messages	12 か月間無料
AWS IoT TwinMaker	IoTTwinMaker-BaseTier1-Queries IoTTwinMaker-BaseTier1-UnifiedDataAccess IoTTwinMaker-BaseTier2-Queries IoTTwinMaker-BaseTier2-UnifiedDataAccess IoTTwinMaker-BaseTier3-Queries IoTTwinMaker-BaseTier3-UnifiedDataAccess IoTTwinMaker-BaseTier4-Queries IoTTwinMaker-BaseTier4-UnifiedDataAccess IoTTwinMaker-UnifiedDataAccess	12 か月間無料
AWS Key Management Service	KMS-Requests	常に無料

サービス	使用タイプ	無料利用枠のタイプ
AWS Lambda	Lambda-GB-Second Lambda-Streaming-Response-Processed-Bytes Request	常に無料
AWS Migration Hub Refactor Spaces	API-Request EnvironmentHours	常に無料
AWS OpsWorks	OpsWorks-Chef-Automate OpsWorks-Puppet-Enterprise	12 か月間無料
AWS RoboMaker	SimulationUnitHour	無料トライアル
AWS Security Hub	OtherProduct:PaidFindingsIngestion RuleEvaluation	常に無料
AWS Service Catalog	SC-API-Calls	常に無料
AWS Step Functions	StateTransition	常に無料
AWS Storage Gateway	Uploaded-Bytes	常に無料
AWS Supply Chain	ADPSiteProductCount SiteProductCount StorageSize	無料トライアル

サービス	使用タイプ	無料利用枠のタイプ
AWS Systems Manager	AWS-Auto-ScriptDuration-Tier3 AWS-Auto-Steps-Tier1 IM-Notifications-Tier1	常に無料
Amazon Virtual Private Cloud	PublicIPv4:InUseAddress	12 か月間無料
AWS WAF	AMR-BotControl-Request AMR-BotControl-Targeted-Request AMR-FraudControl-Request ShieldProtected-AMR-BotControl-Request ShieldProtected-AMR-BotControl-Targeted-Request ShieldProtected-AMR-FraudControl-Request	常に無料
AWS X-Ray	XRay-TracesAccessed XRay-TracesStored	常に無料

サービス	使用タイプ	無料利用枠のタイプ
Amazon API Gateway	ApiGatewayHttpRequest ApiGatewayMessage ApiGatewayMinute ApiGatewayRequest	12 か月間無料
Amazon AppStream	stream-hrs:720p:g2 stream.standard.large-ib	無料トライアル
Amazon Augmented AI	A2ICustom-Objects A2IRek-Objects A2ITextract-Objects	12 か月間無料
Amazon Braket	Simulators-Task	無料トライアル
Amazon Cloud Directory	Requests-Tier1 Requests-Tier2 TimedStorage-ByteHrs	12 か月間無料
Amazon CloudFront	DataTransfer-Out-Bytes Executions-CloudFrontFunctions Invalidations Requests-Tier1	常に無料

サービス	使用タイプ	無料利用枠のタイプ
Amazon CloudSearch	DocumentBatchUpload IndexDocuments SearchInstance:m1.large SearchInstance:m1.small SearchInstance:m2.2xlarge SearchInstance:m2.xlarge SearchInstance:m3.2xlarge SearchInstance:m3.large SearchInstance:m3.medium SearchInstance:m3.xlarge SearchInstance:m4.2xlarge SearchInstance:m4.large SearchInstance:m4.xlarge SearchInstance:search.2xlarge	無料トライアル

サービス	使用タイプ	無料利用枠のタイプ
	SearchInstance:search.large SearchInstance:search.medium SearchInstance:search.previousgeneration.2xlarge SearchInstance:search.previousgeneration.large SearchInstance:search.previousgeneration.small SearchInstance:search.previousgeneration.xlarge SearchInstance:search.small SearchInstance:search.xlarge	
Amazon Cognito	CognitoEnterpriseMAU CognitoUserPoolMAU	常に無料
Amazon Cognito Sync	CognitoSyncOperation TimedStorage-ByteHrs	常に無料

サービス	使用タイプ	無料利用枠のタイプ
Amazon Comprehend	Comprehend-DC-Custom Comprehend-DE-Custom Comprehend-EA Comprehend-KP Comprehend-LD Comprehend-SA Comprehend-Syntax ContainsPiiEntities DetectEvents DetectPiiEntities DetectTgtSentiment DetectTopics DocClassification-INSURANCE DocClassification-MORTGAGE DocClassification-PromptSafety	12 か月間無料
Amazon Connect	chat-message end-customer-mins tasks	12 か月間無料

サービス	使用タイプ	無料利用枠のタイプ
Amazon Connect Customer Profiles	MonthlyConnectBaseProfiles MonthlyProfiles	12 か月間無料
Amazon Connect Voice ID	Authentication Enrollment FraudDetection	12 か月間無料
Amazon DataZone	DataZoneCompute DataZoneRequests DataZoneStorage DataZoneUsers	無料トライアル
Amazon DevOpsGuru	DevOpsGuru-APICalls ResourceGroup-A-usagehours ResourceGroup-B-usagehours	無料トライアル
Amazon DocumentDB (MongoDB 互換性)	BackupUsage InstanceUsage:db.t3.medium StorageIOUsage StorageUsage	無料トライアル

サービス	使用タイプ	無料利用枠のタイプ

Amazon DynamoDB	`ReadCapacityUnit-Hrs`
	
	`ReplWriteCapacityUnit-Hrs`
	
	`Streams-Requests`
	
	`TimedStorage-ByteHrs`
	
	`WriteCapacityUnit-Hrs`
		常に無料

Amazon Elastic Container Registry	`TimedStorage-ByteHrs`	12 か月間無料
Amazon ElastiCache	`NodeUsage:cache.t1.micro`	12 か月間無料

サービス	使用タイプ	無料利用枠のタイプ
Amazon Elastic Compute Cloud	BoxUsage:freetier.micro BoxUsage:freetrial CW:AlarmMonitorUsage CW:MetricMonitorUsage CW:Requests CarrierIP:IdleAddress CarrierIP:Remap DataProcessing-Bytes DataTransfer-Out-Bytes DataTransfer-Regional-Bytes EBS:SnapshotUsage EBS:VolumeIOUsage EBS:VolumeUsage ElasticIP:IdleAddress ElasticIP:Remap LCUUsage LoadBalancerUsage	12 か月間無料

サービス	使用タイプ	無料利用枠のタイプ
Amazon Elastic Container Registry Public	`Internet-ECRPublic-Out-Bytes` `TimedStorage-ByteHrs`	12 か月間無料
Amazon Elastic Container Service	`ECS-Anywhere-Instance-hours-WithFree`	無料トライアル
Amazon Elastic File System	`TimedStorage-ByteHrs`	12 か月間無料

Amazon Elastic Transcoder	`ets-audio-success`
	`ets-hd-success`
	`ets-sd-success`
		12 か月間無料

Amazon Forecast	`DataInjection`
	`ForecastDataPoints`
	`TrainingHours`
		無料トライアル

サービス	使用タイプ	無料利用枠のタイプ
Amazon Fraud Detector	FraudPrediction-AccountTakeoverInsights FraudPrediction-OnlineFraudInsights FraudPrediction-RulesOnly FraudPrediction-TransactionFraudInsights HostingHrs StoredDataset TrainingHrs	無料トライアル
Amazon GameLift	BoxUsage:c3.large DailyActiveUser FlexMatchMatchmakingHrs FlexMatchPlayerPackages GLAGameSessionsPlaced GLAServerProcessConnMin	12 か月間無料

サービス	使用タイプ	無料利用枠のタイプ
AWS HealthLake	FHIRDataStorage FHIRQueries	常に無料
Amazon IVS Chat	Messaging-Deliveries Messaging-Requests	12 か月間無料
Amazon Interactive Video Service	Input-Basic-Hours Output-SD-Hours Real-Time-Encode-Hours Real-Time-Hours Stages-Participant-Hours	12 か月間無料
Amazon Kendra	KendraDeveloperEdition KendraIntelligentRanking-BaseCapacity	無料トライアル
Amazon Keyspaces (Apache Cassandra 向け)	ReadRequestUnits TimedStorage-ByteHrs WriteRequestUnits	無料トライアル
Amazon Lex	Speech-Requests Text-Requests botdesign	12 か月間無料

サービス	使用タイプ	無料利用枠のタイプ
Amazon Lightsail	BundleUsage:0.5GB BundleUsage:0.5GB_win BundleUsage:1GB BundleUsage:1GB_win BundleUsage:2GB BundleUsage:2GB_win ContainerSvcUsage:Micro-0.25CPU-1GB-Free DNS-Queries DatabaseUsage:1GB UnusedStaticIP	無料トライアル

サービス	使用タイプ	無料利用枠のタイプ
Amazon Location Service	DeviceDelete Geocode GeofenceCreateReadUpdateDelete GeofenceList MapTile PositionEvaluation PositionRead PositionWrite ResourceCreateReadUpdateDelete ReverseGeocode Route Suggest	無料トライアル
Amazon Lookout for Equipment	Inference-Hours-L4E Ingestion-GB-L4E Training-Hours-L4E	無料トライアル
Amazon Lookout for Metrics	ANOMALY_DETECTION	無料トライアル

サービス	使用タイプ	無料利用枠のタイプ
Amazon Lookout for Vision	EdgeInference Free-Inference Free-Training Inference Training	無料トライアル
Amazon MQ	InstanceUsage:mq.t2.micro MQ:RabbitStorageUsage MQ:StorageUsage	12 か月間無料
Amazon Macie	EventsProcessing S3ContentClassification SensitiveDataDiscovery	無料トライアル
Amazon Managed Service for Prometheus	AMP:MetricSampleCount AMP:MetricStorageByteHrs AMP:QuerySamplesProcessed	常に無料
Amazon MemoryDB	DataWritten NodeUsage:db.t4g.small	無料トライアル

サービス	使用タイプ	無料利用枠のタイプ
Amazon Mobile Analytics	EventsRecorded	12 か月間無料
Amazon Neptune	BackupUsage DataTransfer-Out-Bytes InstanceUsage:db.t3.medium StorageIOUsage StorageUsage	無料トライアル

サービス	使用タイプ	無料利用枠のタイプ
AWS HealthOmics	AnalyticsType:Annotation-Bytes-hour AnalyticsType:Variant-Bytes-hour StorageClass:Active-Gigabase-hour StorageClass:Archive-Gigabase-hour WorkflowType:Private-RunStorage-GB-hour WorkflowType:Private-omics.c.12xlarge-hours WorkflowType:Private-omics.c.16xlarge-hours WorkflowType:Private-omics.c.24xlarge-hours WorkflowType:Private-omics.c.2xlarge-hours WorkflowType:Private-omics.c.4xlarge-hours	無料トライアル

サービス	使用タイプ	無料利用枠のタイプ
	WorkflowType:Private-omics.c.8xlarge-hours WorkflowType:Private-omics.c.large-hours WorkflowType:Private-omics.c.xlarge-hours WorkflowType:Private-omics.m.12xlarge-hours WorkflowType:Private-omics.m.16xlarge-hours WorkflowType:Private-omics.m.24xlarge-hours WorkflowType:Private-omics.m.2xlarge-hours WorkflowType:Private-omics.m.4xlarge-hours WorkflowType:Private-omics.m.8xlarge-hours	

サービス	使用タイプ	無料利用枠のタイプ
	WorkflowType:Private-omics.m.large-hours WorkflowType:Private-omics.m.xlarge-hours WorkflowType:Private-omics.r.12xlarge-hours WorkflowType:Private-omics.r.16xlarge-hours WorkflowType:Private-omics.r.24xlarge-hours WorkflowType:Private-omics.r.2xlarge-hours WorkflowType:Private-omics.r.4xlarge-hours WorkflowType:Private-omics.r.8xlarge-hours WorkflowType:Private-omics.r.large-hours	

サービス	使用タイプ	無料利用枠のタイプ
	WorkflowType:Private-omics.r.xlarge-hours	
Amazon OpenSearch サービス	ES:freetier-Storage ES:freetier-gp3-Storage ESInstance:freetier.micro ESInstance:t3.small	12 か月間無料
Amazon Personalize	DataIngestion TPS-hours TrainingHour	無料トライアル
Amazon Pinpoint	Domain-Inboxplacement EventsRecorded InAppMessageRequests MonthlyTargetedAudience Pinpoint_DeliveryAttempts Pinpoint_MonthlyTargetedAudience Predictive-Tests	12 か月間無料

サービス	使用タイプ	無料利用枠のタイプ
Amazon Polly	SynthesizeSpeech-Chars SynthesizeSpeechLongForm-Characters SynthesizeSpeechNeural-Characters	12 か月間無料
Amazon QuickSight	QS-ENT-Alerts-FreeTrial	無料トライアル
Amazon Redshift	Node:dc2.large Node:dw2.large	無料トライアル
Amazon Rekognition	FaceVectorsStored Group1-ImagesProcessed Group2-ImagesProcessed ImagesProcessed MinsOfLiveVideoProcessed MinutesOfVideoProcessed UserVectorsStored inferenceminutes minutestrained	12 か月間無料

サービス	使用タイプ	無料利用枠のタイプ

Amazon Relational Database Service	`InstanceUsage:db.t1.micro`
	`PI_API`
	`RDS:StorageIOUsage`
	`RDS:StorageUsage`
		12 か月間無料

Amazon Route 53	`Cidr-Blocks` `Health-Check-AWS`	常に無料

サービス	使用タイプ	無料利用枠のタイプ
Amazon SageMaker ランタイム	A2ICustom-Objects A2IRek-Objects A2ITextract-Objects AsyncInf:ml.m.xlarge-AsyncInfParent Autopilot-RedshiftML:CreateModelRequest-Tier0-Parent Canvas:CreateModelRequest-Tier0-Parent Canvas:Session-Hrs-Parent DataWrangler:ml.m.xlarge-Parent FeatureStore:ReadRequestUnitsParent FeatureStore:TimedAndPITRStorageParent FeatureStore:WriteRequestUnitsParent FreeMonitorParent FreeServerlessParent Geospatial:NotebookCompute	無料トライアル

サービス	使用タイプ	無料利用枠のタイプ
	Geospatial:TimedStorage Host:ml.m.xlarge-HostingParent LabeledObject Notebk:ml.t.medium-NotebookParent RStudio:RSessionGateway-ml.t3.medium-RSessionGatewayParent Rstudio:Rsession-ml.t3.medium-RSessionParent Train:ml.m.xlarge-TrainingParent	
Amazon Simple Email Service	Message MessageUnits Recipients-EC2 Recipients-MailboxSim-EC2 VirtDelivMgr	常に無料

サービス	使用タイプ	無料利用枠のタイプ
Amazon Simple Notification Service	DeliveryAttempts-HTTP DeliveryAttempts-SMS DeliveryAttempts-SMTP Notifications-Mobile Requests-Tier1 SMS-Price-US	常に無料
Amazon Simple Queue Service	Requests	常に無料
Amazon Simple Storage Service	Requests-Tier1 Requests-Tier2 TimedStorage-ByteHrs	12 か月間無料
Amazon Simple Workflow Service	AggregateInitiatedActions AggregateInitiatedWorkflows AggregateWorkflowDays	常に無料
Amazon SimpleDB	BoxUsage TimedStorage-ByteHrs	常に無料

サービス	使用タイプ	無料利用枠のタイプ
Amazon Textract	PagesForLayout PagesForSignatures PagesforAnalyzeDocForms PagesforAnalyzeDocQueries PagesforAnalyzeDocTables PagesforAnalyzeExpense PagesforAnalyzeLending PagesforDocumentText SyncExpensePagesProcessed SyncIDPagesProcessed	無料トライアル
Amazon Timestream	DataIngestion-Bytes DataScanned-Bytes MagneticStore-ByteHrs MemoryStore-ByteHrs	無料トライアル

サービス	使用タイプ	無料利用枠のタイプ
Amazon Transcribe	CallAnalyticsStreamingAudio CallAnalyticsTranscribeAudio HealthScribeBatch MedicalStreamingAudio MedicalTranscribeAudio StreamingAudio TranscribeAudio	12 か月間無料
Amazon Translate	ActiveCustomTranslationJob TranslateText	12 か月間無料
Amazon WorkSpaces	AW-HW-1-AutoStop-Usage AW-HW-1-AutoStop-User AW-HWU-3-AutoStop-Usage AW-HWU-3-AutoStop-User	無料トライアル

サービス	使用タイプ	無料利用枠のタイプ
Amazon CloudWatch	CW:AlarmMonitorUsage CW:Canary-runs CW:ContributorInsightEvents CW:ContributorInsightRules CW:InternetMonitor-CityNetwork CW:MetricMonitorUsage CW:Requests DashboardsUsageHour-Basic DataDelivery-Bytes DataProcessing-Bytes DataScanned-Bytes Logs-LiveTail TimedStorage-ByteHrs	常に無料
CloudWatch イベント	Event-8K-Chunks ScheduledInvocation	常に無料
CodeBuild	Build-Min:Linux:g1.small Build-Sec:Lambda.1GB	常に無料

サービス	使用タイプ	無料利用枠のタイプ
CodeCatalyst	Compute DevEnvironment-Compute DevEnvironment-Storage Package-Storage Repo-Storage	常に無料
CodeGuru	Profiler-Lambda-Sampling-Hour	無料トライアル
Amazon Comprehend Medical	ComprehendMedical-Batching DetectEntities DetectPHI InferICD10CM InferRxNorm InferSNOMEDCT	無料トライアル

サービス	使用タイプ	無料利用枠のタイプ
Contact Center Telecommunications (service sold by AMCS, LLC)	did-inbound-mins did-numbers outbound-mins tollfree-inbound-mins tollfree-numbers tollfree-numbers-STD	12 か月間無料
Contact Center Telecommunications Korea	did-inbound-mins did-numbers	12 か月間無料
Contact Center Telecommunications South Africa	did-inbound-mins did-numbers	12 か月間無料
Contact Lens for Amazon Connect	ChatAnalytics VoiceAnalytics	12 か月間無料
Elastic Load Balancing	DataProcessing-Bytes LCUUsage LoadBalancerUsage	12 か月間無料

無料利用枠 API を使用する

AWS 無料利用枠 では、AWS のサービス と製品を毎月無料で使用できます。無料利用枠 API を使用すると、無料利用枠の使用状況をプログラムで月間使用量の上限と照らし合わせて追跡できます。

API を使用して、毎月の無料利用から従量制料金のシステムに変更されるタイミングを確認します。これにより、その月における各サービスの予測使用量と無料利用枠の上限を比較できるため、意図しない課金を回避できます。例えば、使用量が AWS Glue の無料利用の上限を超えるタイミングを確

認する場合、API を使用して AWS アカウント の使用状況を追跡できます。その後、無料利用枠の制限が終了する前に、サービスを維持するか、変更を加えるかを決定できます。

API を使用してビジュアライゼーションを作成したり、API レスポンスに基づいて AWS リソースの変更を自動化するスクリプトを記述したりすることもできます。

Example 例: AWS Glue の無料利用枠のオファーを検索する

次の AWS Command Line Interface (AWS CLI) コマンドは、`GetFreeTierUsage` API オペレーションを使用して、AWS Glue の無料利用枠の使用量でフィルタリングを実行します。

リクエスト

```
aws freetier get-free-tier-usage --filter '{"Dimensions": {"Key": "SERVICE", "Values":
 ["Glue"], "MatchOptions": ["CONTAINS"]}}'
```

レスポンス

次のレスポンスでは、AWS Glue からの 2 つの `Always Free` オファーが返されます。

```
{
    "freeTierUsages": [
        {
            "actualUsageAmount": 287.0,
            "description": "1000000.0 Request are always free per month as part of AWS
 Free Usage Tier (Global-Catalog-Request)",
            "forecastedUsageAmount": 2224.25,
            "freeTierType": "Always Free",
            "limit": 1000000.0,
            "operation": "Request",
            "region": "global",
            "service": "AWS Glue",
            "unit": "Request",
            "usageType": "Catalog-Request"
        },
        {
            "actualUsageAmount": 176.36827958,
            "description": "1000000.0 Obj-Month are always free per month as part of
 AWS Free Usage Tier (Global-Catalog-Storage)",
            "forecastedUsageAmount": 1366.8541667450002,
            "freeTierType": "Always Free",
            "limit": 1000000.0,
            "operation": "Storage",
```

```
            "region": "global",
            "service": "AWS Glue",
            "unit": "Obj-Month",
            "usageType": "Catalog-Storage"
        }
    ]
}
```

Example 例: Amazon Elastic Compute Cloud の無料利用枠のオファーを検索する

次の AWS CLI コマンドは、GetFreeTierUsage API オペレーションを使用して、Amazon EC2 の無料利用枠の使用量でフィルタリングを実行します。

リクエスト

```
aws freetier get-free-tier-usage --filter '{"Dimensions": {"Key": "SERVICE", "Values":
 ["EC2"], "MatchOptions": ["CONTAINS"]}}'
```

レスポンス

次のレスポンスでは、Amazon EC2 からの 2 つの 12 Months Free オファーが返されます。

```
{
    "freeTierUsages": [
        {
            "actualUsageAmount": 15.97777618,
            "description": "30.0 GB-Mo for free for 12 months as part of AWS Free Usage
 Tier (Global-EBS:VolumeUsage)",
            "forecastedUsageAmount": 23.96666427,
            "freeTierType": "12 Months Free",
            "limit": 30.0,
            "operation": "",
            "region": "global",
            "service": "Amazon Elastic Compute Cloud",
            "unit": "GB-Mo",
            "usageType": "EBS:VolumeUsage"
        },
        {
            "actualUsageAmount": 750.0,
            "description": "750.0 Hrs for free for 12 months as part of AWS Free Usage
 Tier (Global-BoxUsage:freetier.micro)",
            "forecastedUsageAmount": 1125.0,
            "freeTierType": "12 Months Free",
```

```
            "limit": 750.0,
            "operation": "RunInstances",
            "region": "global",
            "service": "Amazon Elastic Compute Cloud",
            "unit": "Hrs",
            "usageType": "BoxUsage:freetier.micro"
        }
    ]
}
```

関連リソース

AWS CLI および AWS Software Development Kit (SDK) には無料利用枠 API のサポートが含まれています。無料利用枠 API をサポートする言語のリストについては、オペレーション名を選択し、[次も参照してください:] セクションで目的の言語を選択します。

無料利用枠 API に関する詳細については、「AWS Billing and Cost Management API Reference」を参照してください。

AWS Billing and Cost Management コンソールを使用して無料利用枠の使用状況 (E メールアラートの受信など) を追跡する方法については、「AWS 無料利用枠使用状況の追跡」を参照してください。

Amazon EC2 での無料利用枠の詳細については、「Linux インスタンス用 Amazon EC2 ユーザーガイド」の「チュートリアル: Amazon EC2 Linux インスタンスの開始方法」を参照してください。

また、AWS コストの予算を作成し、予算がコストと使用量を上回るか、超えると予測される場合に通知とアラートを設定することもできます。詳細については、「AWS コスト管理ユーザーガイド」の「AWS Budgets を用いてコストを管理する」を参照してください。

AWS の料金表 の概要

AWS の料金表 に関するフィードバックをお寄せいただく場合は、こちらの簡単なアンケートにご回答ください。回答者は匿名になります。注: このアンケートは英語にのみ対応しています。

AWS の料金表 には AWS で購入できる AWS のサービスの製品と料金のカタログが表示されます。

このカタログには、AWS 無料利用枠の「常に無料」サービスが含まれています。このカタログには、期間限定または固定使用量ベースの無料利用枠製品は含まれていません。無料利用枠の詳細については、「AWS 無料利用枠 の使用」を参照してください。また、このカタログには、Amazon Elastic Compute Cloud (Amazon EC2) スポットインスタンスは含まれていません。Amazon EC2 スポットインスタンスの詳細については、「Amazon EC2 スポットインスタンス」を参照してください。

AWS の料金表 を使用する際に役立つ主要な概念は次のとおりです。

サービス

Amazon EC2 や Savings Plans などの AWS のサービス。例えば、Amazon EC2 の Savings Plans は `AWSComputeSavingsPlan`、機械学習 (ML) の Savings Plans は `AWSMachineLearningSavingsPlans` などです。

製品

AWS のサービスが販売するエンティティ。料金表ファイルでは、製品は固有の在庫保持単位 (SKU) によってインデックス付けされます。

属性

製品に関連するプロパティ。このプロパティは `AttributeName` と `AttributeValue` から構成されます。製品には複数の属性があります。各属性には `AttributeName` が 1 つと該当する `AttributeValues` のリストがあります。

以下の AWS の料金表 API を使用できます。

AWS Price List Query API

この API は、プログラムで AWS のサービス、製品、および料金情報のクエリを一元的に便利に行うことができます。

Price List Service API は、製品属性を使用して、SKU レベルの料金を取得できます。この API を使用すると、コスト管理とシナリオ計画ツールの構築、請求データの照合、予算計画のための将来の使用料金の予測を行うことができ、AWS を使用する内部ワークロードを比較して、コスト利点の分析を行うことができます。

> **Note**
>
> Price List Query API は Savings Plans の料金をサポートしていません。

AWS Price List Bulk API

この API では、料金表ファイルを使用して、現在の AWS のサービスや製品に関する最新の料金情報をプログラムで一括して取得できます。料金表ファイルは JSON 形式と CSV 形式で提供されています。料金表ファイルは、AWS のサービスと AWS リージョンで構成されています。

> **Note**
>
> Price List Query API および Price List Bulk API で取得された料金詳細情報は、情報提供のみを目的としています。料金表ファイルとサービス料金ページの間に不一致がある場合、AWS はサービス料金ページに表示されている料金を請求します。
> AWS のサービス の料金の詳細については、「AWS の料金」を参照してください。

AWS の料金表 API を呼び出すには、ご使用のプログラミング言語をサポートする AWS SDK を使用することをお勧めします。AWSSDK を使用すると、時間を節約し、署名リクエストのプロセスを簡素化できます。AWS SDK と開発環境を統合して、関連コマンドへアクセスすることもできます。

詳細については、次のトピックを参照してください。

- AWS Billing and Cost Management API リファレンス
- 各言語用の AWS SDK
- Amazon Web Services のツール

AWS Price List Query API を使用する

AWS の料金表 に関するフィードバックをお寄せいただく場合は、こちらの簡単なアンケートにご回答ください。回答者は匿名になります。注: このアンケートは英語にのみ対応しています。

次のような場合は、Price List Query API を使用することをお勧めします。

- 製品の料金情報を検索する。
- フィルタに一致する製品と料金を検索する。
- フロントエンド環境など、リソースが限られているアプリケーションを開発している場合に必要な製品および料金を迅速に見つける。

トピック

- IAM アクセス許可
- エンドポイント
- クォータ
- サービスおよび製品の検索

IAM アクセス許可

ユーザーやロールなどの AWS Identity and Access Management (IAM) ID には、Price List Query API を使用するアクセス許可が必要です。アクセスを許可するには、次の IAM ポリシーを使用します。

```
{
    "Version": "2012-10-17",
    "Statement": [
        {
            "Effect": "Allow",
            "Action": [
                "pricing:DescribeServices",
                "pricing:GetAttributeValues",
                "pricing:GetProducts"
            ],
            "Resource": [
                "*"
```

```
            ]
        }
    ]
}
```

> **Note**
>
> このポリシーでは、Price List Query API へのアクセスのみが許可されます。AWS Price List Bulk API へのアクセスも許可する場合は、製品と価格の検索 ポリシーの例を参照してください。

エンドポイント

Price List Query API には、次のエンドポイントが用意されています。

- https://api.pricing.us-east-1.amazonaws.com
- https://api.pricing.eu-central-1.amazonaws.com
- https://api.pricing.ap-south-1.amazonaws.com

AWS リージョンは Price List Query API の API エンドポイントです。エンドポイントは製品やサービスの属性とは関係ありません。

Price List Query API を呼び出す場合は、以下の例を参照してください。

Java

次の例では、*region_name* を指定し、それを使用して PricingClient を作成します。

```
public class Main {
    public static void main(String[] args) {

        // Create pricing client
        PricingClient client = PricingClient.builder()
                .region(Region.US_EAST_1)// or Region.AP_SOUTH_1
                .credentialsProvider(DefaultCredentialsProvider.builder().build())
                .build();
        );
    }
```

```
}
```

AWS Command Line Interface

次のコマンドでリージョンを指定します。

```
aws pricing describe-services --region us-east-1
```

クォータ

一部の Price List Query API オペレーションは、サービスの可用性を維持するため、トークンバケットスキームを使用してスロットリングされます。これらのクォータは、リージョン別の AWS アカウントごとに適用されます。各 API オペレーションのクォータを以下の表に示します。

API オペレーション	トークンバケットサイズ	補充レート/秒
DescribeServices	10	5
GetAttributeValues	10	5
GetProducts	10	5

Service Quotas (以前の名称は制限) については、AWS 全般のリファレンスの「AWS のサービスクォータ」を参照してください。

サービスおよび製品の検索

AWS の料金表 に関するフィードバックをお寄せいただく場合は、こちらの簡単なアンケートにご回答ください。回答者は匿名になります。注: このアンケートは英語にのみ対応しています。

AWS のサービス、その製品、および製品の属性と料金を検索するには、次の手順を参照してください。

トピック

- ステップ 1: 利用可能な AWS のサービスの検索

- ステップ 2: 属性に使用可能な値の検索
- ステップ 3: 属性からの製品の検索

ステップ 1: 利用可能な AWS のサービスの検索

AWS の料金表 に関するフィードバックをお寄せいただく場合は、こちらの簡単なアンケートにご回答ください。回答者は匿名になります。注: このアンケートは英語にのみ対応しています。

サービスを見つけたら、DescribeServices API オペレーションを使用してその属性を取得できます。サービスコードがわかっている場合は、AWS Price List Query API を使用してサービスの属性を取得することもできます。次に、サービス属性を使用して、属性値に基づいて要件を満たす製品を検索できます。

例: サービスの検索

次の AWS Command Line Interface (AWS CLI) コマンドは、サービスを検索する方法を示しています。

Example 例: すべてのサービスの検索

```
aws pricing describe-services --region us-east-1
```

レスポンス

```
{
    "FormatVersion": "aws_v1",
    "NextToken": "abcdefg123",
    "Services": [
        {
            "AttributeNames": [
                "volumeType",
                "maxIopsvolume",
                "instanceCapacity10xlarge",
                "locationType",
                "operation"
            ],
            "ServiceCode": "AmazonEC2"
        },
```

```
        {
            "AttributeNames": [
                "productFamily",
                "volumeType",
                "engineCode",
                "memory"
            ],
            "ServiceCode": "AmazonRDS"
        },
        {...}
    ]
}
```

Example 例: Amazon Elastic Compute Cloud (Amazon EC2) のサービスメタデータの検索

次のコマンドは、Amazon EC2 のサービスメタデータを検索する方法を示しています。

```
aws pricing describe-services --region us-east-1 --service-code AmazonEC2
```

レスポンス

```
{
    "FormatVersion": "aws_v1",
    "NextToken": "abcdefg123",
    "Services": [
        {
            "AttributeNames": [
                "productFamily",
                "volumeType",
                "engineCode",
                "memory"
            ],
            "ServiceCode": "AmazonEC2"
        }
    ]
}
```

AWS リージョンは Price List Query API の API エンドポイントです。エンドポイントは製品やサービスの属性とは関係ありません。

詳細については、AWS Billing and Cost Management API リファレンスの「DescribeServices」を参照してください。

ステップ 2: 属性に使用可能な値の検索

AWS の料金表 に関するフィードバックをお寄せいただく場合は、こちらの簡単なアンケートにご回答ください。回答者は匿名になります。注: このアンケートは英語にのみ対応しています。

ステップ 1 では、AWS のサービスの属性リストを取得しました。このステップでは、これらの属性を使用して製品を検索します。ステップ 3 では、これらの属性に使用可能な値が必要です。

属性の値を見つけるには、`GetAttributeValues` API オペレーションを使用します。API を呼び出すには、`AttributeName` および `ServiceCode` パラメータを指定します。

例: 属性値の取得

次の AWS Command Line Interface (AWS CLI) コマンドは、AWS のサービスの属性値を取得する方法を示しています。

Example 例: Amazon Relational Database Service (Amazon RDS) の属性値の検索

```
aws pricing get-attribute-values --service-code AmazonRDS --attribute-name operation --
region us-east-1
```

レスポンス

```
{
    "AttributeValues": [
        {
            "Value": "CreateDBInstance:0002"
        },
        {
            "Value": "CreateDBInstance:0003"
        },
        {
            "Value": "CreateDBInstance:0004"
        },
        {
            "Value": "CreateDBInstance:0005"
        }
    ],
    "NextToken": "abcdefg123"
}
```

AWS リージョンは Price List Query API の API エンドポイントです。エンドポイントは製品やサービスの属性とは関係ありません。

詳細については、AWS Billing and Cost Management API リファレンスの「GetAttributeValues」および「各言語の AWS SDK」を参照してください。

ステップ 3: 属性からの製品の検索

AWS の料金表 に関するフィードバックをお寄せいただく場合は、こちらの簡単なアンケートにご回答ください。回答者は匿名になります。注: このアンケートは英語にのみ対応しています。

このステップでは、ステップ 1 とステップ 2 の情報を使用して製品とその条件を検索します。製品に関する情報を取得するには、`GetProducts` API オペレーションを使用します。フィルタのリストを指定して、必要な製品を返すことができます。

> **Note**
>
> Price List Query API は `"AND"` 一致のみをサポートします。コマンドのレスポンスには、指定したすべてのフィルタに一致する製品のみが含まれます。

例: 属性からの製品の検索

次の AWS Command Line Interface (AWS CLI) コマンドは、属性を使用して製品を検索する方法を示しています。

Example 例: フィルタを指定した製品の検索

次のコマンドは、Amazon Relational Database Service (Amazon RDS) のフィルタを指定する方法を示しています。

```
aws pricing get-products --service-code AmazonRDS --region us-east-1 --filters
 Type=TERM_MATCH,Field=operation,Value="CreateDBInstance:0002"
```

レスポンス

```
{
    "FormatVersion": "aws_v1",
    "PriceList": ["{
```

```
        \"product\":{
            \"productFamily\":\"Database Instance\",
            \"attributes\":{
                \"engineCode\":\"2\",
                \"enhancedNetworkingSupported\":\"Yes\",
                \"memory\":\"64 GiB\",
                \"dedicatedEbsThroughput\":\"2000 Mbps\",
                \"vcpu\":\"16\",
                \"locationType\":\"AWS Region\",
                \"storage\":\"EBS Only\",
                \"instanceFamily\":\"General purpose\",
                \"regionCode\":\"us-east-1\",
                \"operation\":\"CreateDBInstance:0002\",
                ...
            },
            \"sku\":\"22ANV4NNQP3UUCWY\"},
            \"serviceCode\":\"AmazonRDS\",
            \"terms\":{...}"
    ],
    "NextToken": "abcd1234"
}
```

Example 例: **filters.json** ファイルを使用したフィルタの指定

次のコマンドは、すべてのフィルタを記載した JSON ファイルを指定する方法を示しています。

```
aws pricing get-products --service-code AmazonRDS --region us-east-1 --filters file://
filters.json
```

例えば、filters.json ファイルには以下のフィルタが含まれる場合があります。

```
[
  {
    "Type": "TERM_MATCH",
    "Field": "operation",
    "Value": "CreateDBInstance:0002"
  }
]
```

次の例は、複数のフィルタを指定する方法を示しています。

```
[
  {
```

```
    "Type": "TERM_MATCH",
    "Field": "AttributeName1",
    "Value": "AttributeValue1"
  },
  {
    "Type": "TERM_MATCH",
    "Field": "AttributeName2",
    "Value": "AttributeValue2"
  },
  ...
]
```

レスポンス

```
{
    "FormatVersion": "aws_v1",
    "PriceList": ["{
        \"product\":{
            \"productFamily\":\"Database Instance\",
            \"attributes\":{
                \"engineCode\":\"2\",
                \"enhancedNetworkingSupported\":\"Yes\",
                \"memory\":\"64 GiB\",
                \"dedicatedEbsThroughput\":\"2000 Mbps\",
                \"vcpu\":\"16\",
                \"locationType\":\"AWS Region\",
                \"storage\":\"EBS Only\",
                \"instanceFamily\":\"General purpose\",
                \"regionCode\":\"us-east-1\",
                \"operation\":\"CreateDBInstance:0002\",
                ...
            },
            \"sku\":\"22ANV4NNQP3UUCWY\"},
            \"serviceCode\":\"AmazonRDS\",
            \"terms\":{...}"
    ],
    "NextToken": "abcd1234"
}
```

詳細については、次のトピックを参照してください。

- AWS Billing and Cost Management API リファレンスの「GetProducts」および「各言語の AWS SDK」

- サービス料金表ファイルの読み取り
- サービス料金表ファイルでの料金の確認

AWS Price List Bulk API を使用する

AWS の料金表 に関するフィードバックをお寄せいただく場合は、こちらの簡単なアンケートにご回答ください。回答者は匿名になります。注: このアンケートは英語にのみ対応しています。

以下のタスクを実行する場合は、Price List Bulk API を使用することをお勧めします。

- AWS のサービスの製品情報や料金情報を大量に処理する。
- 一括処理など、AWS のサービスで高スループットで製品および料金情報を処理する。

また、Price List Query API ではユースケースに十分なスループットとクォータが得られない場合は、Price List Bulk API を使用します。

トピック

- IAM アクセス許可
- エンドポイント
- クォータ
- 料金表ファイルの取得
- 料金表ファイルの手動取得
- 料金表ファイルの読み取り
- サービス料金表ファイルでの料金の確認

IAM アクセス許可

ユーザーやロールなどの AWS Identity and Access Management (IAM) ID には、Price List Bulk API を使用するアクセス許可が必要です。アクセスを許可するには、次の IAM ポリシーを使用します。

```
{
    "Version": "2012-10-17",
    "Statement": [
```

```
        {
            "Effect": "Allow",
            "Action": [
                "pricing:DescribeServices",
                "pricing:GetPriceListFileUrl",
                "pricing:ListPriceLists"
            ],
            "Resource": [
                "*"
            ]
        }
    ]
}
```

> **Note**
>
> このポリシーでは、Price List Bulk API へのアクセスのみが許可されます。Price List Query API へのアクセスも許可するには、製品と価格の検索 IAM ポリシーの例を参照してください。

エンドポイント

Price List Bulk API には、次のエンドポイントが用意されています。

- https://api.pricing.us-east-1.amazonaws.com
- https://api.pricing.eu-central-1.amazonaws.com
- https://api.pricing.ap-south-1.amazonaws.com

AWS リージョンは Price List Bulk API の API エンドポイントです。エンドポイントは製品やサービスの属性とは関係ありません。

Price List Bulk API を呼び出す場合は、以下の例を参照してください。

Java

次の例では、*region_name* を指定し、それを使用して `PricingClient` を作成します。

```
public class Main {
    public static void main(String[] args) {
```

```
        // Create pricing client
        PricingClient client = PricingClient.builder()
                .region(Region.US_EAST_1)// or Region.AP_SOUTH_1
                .credentialsProvider(DefaultCredentialsProvider.builder().build())
                .build();
        );
    }
}
```

AWS Command Line Interface

次のコマンドでリージョンを指定します。

```
aws pricing describe-services --region us-east-1
```

クォータ

一部の Price List Bulk API オペレーションは、サービスの可用性を維持するため、トークンバケットスキームを使用してスロットリングされます。これらのクォータは、リージョン別の AWS アカウントごとに適用されます。各 API オペレーションのクォータを以下の表に示します。

API オペレーション	トークンバケットサイズ	補充レート/秒
DescribeServices	10	5
GetPriceListFileUrl	10	5
ListPriceLists	10	5

Service Quotas (以前の名称は制限) については、AWS 全般のリファレンスの「AWS のサービスクォータ」を参照してください。

料金表ファイルの取得

に関するフィードバックを提供するには AWS の料金表、この簡単なアンケートに回答してください。回答者は匿名になります。注: このアンケートは英語にのみ対応しています。

AWS 価格表の一括APIを使用して、価格表ファイルをプログラムで検索してダウンロードすることをおすすめします。

料金表ファイルの URL を取得するには、次の手順を参照してください。

トピック

- ステップ 1: 在庫があるか確認する AWS のサービス
- ステップ 2: 利用可能な商品の価格表ファイルを検索する AWS のサービス
- ステップ 3: 特定の料金表ファイルの取得

AWS 価格表一括APIを使用したくない場合は、価格表ファイルを手動でダウンロードできます。詳細については、「料金表ファイルの手動取得」を参照してください。

ステップ 1: 在庫があるか確認する AWS のサービス

に関するフィードバックを提供するには AWS の料金表、この簡単なアンケートに回答してください。回答者は匿名になります。注: このアンケートは英語にのみ対応しています。

`DescribeServices` API オペレーションを使用して、Price List Bulk API がサポートする利用可能な AWS のサービス をすべて検索します。この API オペレーションは、サービスのリストから `ServiceCode` 値を返します。後でこの値を使用して、関連する料金表ファイルを検索します。

Example 例: 利用可能なサービスの検索

次のコマンドは、利用可能な AWS のサービスの検索方法を示しています。

```
aws pricing describe-services --region us-east-1
```

AWS リージョン は価格表バルク API の API エンドポイントです。エンドポイントは製品やサービスの属性とは関係ありません。

レスポンス

```
{
    "FormatVersion": "aws_v1",
    "NextToken": "abcdefg123",
```

```
    "Services": [
        {
            "AttributeNames": [
                "volumeType",
                "maxIopsvolume",
                "instanceCapacity10xlarge",
                "locationType",
                "operation"
            ],
            "ServiceCode": "AmazonEC2"
        },
        {
            "AttributeNames": [
                "productFamily",
                "volumeType",
                "engineCode",
                "memory"
            ],
            "ServiceCode": "AmazonRDS"
        },
        {...}
    ]
}
```

この API オペレーションの詳細については、API リファレンスの「DescribeServicesおよび言語固有の AWS SDK」を参照してください。AWS Billing and Cost Management

ステップ 2: 利用可能な商品の価格表ファイルを検索する AWS のサービス

に関するフィードバックを提供するには AWS の料金表、この簡単なアンケートに回答してください。回答者は匿名になります。注: このアンケートは英語にのみ対応しています。

ListPriceLists API オペレーションを使用して、表示権限のある料金表参照リストを取得します。結果を絞り込む場合は、ServiceCode、CurrencyCode、および EffectiveDate パラメータを指定します。

AWS リージョン は価格表バルク API の API エンドポイントです。エンドポイントは製品やサービスの属性とは関係ありません。

料金表ファイルの検索例

Example 例:すべての価格表ファイルを検索する AWS リージョン

--region-code パラメータを指定しない場合、API オペレーションは利用可能なすべての AWS リージョンから料金表ファイル参照を返します。

```
aws pricing list-price-lists --service-code AmazonRDS --currency-code USD --effective-
date "2023-04-03 00:00"
```

レスポンス

```
{
   "NextToken": "abcd1234",
   "PriceLists": [
      {
         "CurrencyCode": "USD",
         "FileFormats": [ "json", "csv" ],
         "PriceListArn": "arn:aws:pricing:::price-list/aws/AmazonRDS/
USD/20230328234721/us-east-1",
         "RegionCode": "us-east-1"
      },
      {
         "CurrencyCode": "USD",
         "FileFormats": [ "json", "csv" ],
         "PriceListArn": "arn:aws:pricing:::price-list/aws/AmazonRDS/
USD/20230328234721/us-west-2",
         "RegionCode": "us-west-2"
      },
      ...
   ]
}
```

Example 例: 特定リージョンの料金表ファイルを検索する

RegionCode パラメータを指定すると、API オペレーションは、そのリージョンのみの料金表ファイル参照を返します。過去の料金表ファイルを検索するには、EffectiveDate パラメータを使用します。例えば、過去の日付を指定して特定の料金表ファイルを検索できます。

レスポンスから得た PriceListArn 値を GetPriceListFileUrl API オペレーションで使用して、目的の料金表ファイルを取得できます。

```
aws pricing list-price-lists --service-code AmazonRDS --currency-code USD --region-
code us-west-2 --effective-date "2023-04-03 00:00"
```

レスポンス

```
{
   "PriceLists": [
      {
         "CurrencyCode": "USD",
         "FileFormats": [ "json", "csv" ],
         "PriceListArn": "arn:aws:pricing:::price-list/aws/AmazonRDS/
USD/20230328234721/us-west-2",
         "RegionCode": "us-west-2"
      }
   ]
}
```

この API オペレーションの詳細については、API リファレンスの「ListPriceListsおよび言語固有の AWS SDK」を参照してください。AWS Billing and Cost Management

ステップ 3: 特定の料金表ファイルの取得

に関するフィードバックを提供するには AWS の料金表、この簡単なアンケートに回答してください。回答者は匿名になります。注: このアンケートは英語にのみ対応しています。

`GetPriceListFileUrl` API オペレーションを使用して、料金表ファイルの URL を取得します。この URL は、ステップ 1 とステップ 2 の `ListPriceLists` レスポンスから取得した `PriceListArn` と `FileFormats` の値に基づいています。

Example 例: 特定の料金表ファイルを取得する

次のコマンドは、Amazon RDS の特定の料金表ファイルの URL を取得します。

```
aws pricing get-price-list-file-url --price-list-arn arn:aws:pricing:::price-list/aws/
AmazonRDS/USD/20230328234721/us-east-1 --file-format json --region us-east-1
```

レスポンス

```
{
```

```
    "Url": "https://pricing.us-east-1.amazonaws.com/offers/v1.0/aws/
AmazonRDS/20230328234721/us-east-1/index.json"
}
```

レスポンスから取得した URL を使用して料金表ファイルをダウンロードできます。

この API オペレーションの詳細については、次のトピックを参照してください。

- GetPriceListFileUrlまた、API AWS リファレンスにある言語固有の SDK もあります。AWS Billing and Cost Management
- 料金表ファイルの読み取り

料金表ファイルの手動取得

AWS の料金表 に関するフィードバックをお寄せいただく場合は、こちらの簡単なアンケートにご回答ください。回答者は匿名になります。注: このアンケートは英語にのみ対応しています。

AWS Price List Bulk API を使用して、料金表ファイルをプログラムで検索してダウンロードすることをお勧めします。詳細については、「料金表ファイルの取得」を参照してください。

AWS Price List Bulk API を使用しない場合は、料金表ファイルを手動でダウンロードできます。必要な情報を入手済みの場合は、関連するトピックにスキップできます。

トピック

- ステップ 1: 利用可能な AWS のサービスの検索
- ステップ 2: AWS のサービスの利用可能なバージョンの検索
- ステップ 3: AWS のサービスのバージョンで利用可能な AWS リージョンの検索
- ステップ 4: AWS のサービスの AWS リージョンとバージョンで利用可能な料金表の検索

ステップ 1: 利用可能な AWS のサービスの検索

AWS の料金表 に関するフィードバックをお寄せいただく場合は、こちらの簡単なアンケートにご回答ください。回答者は匿名になります。注: このアンケートは英語にのみ対応しています。

サービスインデックスファイルを使用して、AWS Price List Bulk API で提供される利用可能な AWS のサービスと Savings Plans を検索できます。

サービスインデックスファイルをダウンロードするには、次の URL にアクセスしてください。

```
https://pricing.us-east-1.amazonaws.com/offers/v1.0/aws/index.json
```

サービスインデックスファイルでは、サービスの料金を検索できます。各サービスの料金表ファイルをダウンロードするには、`offerCode` または `serviceCode` を使用します。

詳細については、次のトピックを参照してください。

- サービスインデックスファイルの読み取り
- サービスおよび製品の検索

ステップ 2: AWS のサービスの利用可能なバージョンの検索

> AWS の料金表 に関するフィードバックをお寄せいただく場合は、こちらの簡単なアンケートにご回答ください。回答者は匿名になります。注: このアンケートは英語にのみ対応しています。

ステップ 1 で取得した AWS のサービスまたは Savings Plans については、サービスバージョンインデックスファイルを使用して料金表の過去のバージョンをすべて検索できます。

サービスバージョンインデックスファイルをダウンロードするには、`serviceCode` または `savingsPlanCode` を使用します。`serviceCode` および `savingsPlanCode` の値を確認する場合は、「サービスおよび製品の検索」を参照してください。

AWS のサービスのサービスバージョンインデックスファイルをダウンロードするには、次の URL にアクセスします。*<serviceCode>* を、自分の情報に置き換えます。

```
https://pricing.us-east-1.amazonaws.com/offers/v1.0/aws/<serviceCode>/index.json
```

例えば、Amazon Elastic Compute Cloud (Amazon EC2) の場合は、次のような URL になります。

```
https://pricing.us-east-1.amazonaws.com/offers/v1.0/aws/AmazonEC2/index.json
```

> **Note**
>
> サービスバージョンインデックスファイルのバージョンに加えて、current という名前の別のバージョンがあります。current バージョンは、特定の AWS のサービスの料金表ファイルの最新バージョンを指します。

Savings Plans の最新サービスバージョンインデックスファイルをダウンロードするには、URL で savingsPlanCode と current を指定します。*<savingsPlanCode>* を自分の情報に置き換えます。

```
https://pricing.us-east-1.amazonaws.com/savingsPlan/v1.0/aws/<savingsPlanCode>/current/index.json
```

例えば、AWSComputeSavingsPlan および AWSMachineLearningSavingsPlans の現在のバージョンは、次の URL のように指定します。

```
https://pricing.us-east-1.amazonaws.com/savingsPlan/v1.0/aws/AWSComputeSavingsPlan/current/index.json
```

```
https://pricing.us-east-1.amazonaws.com/savingsPlan/v1.0/aws/AWSMachineLearningSavingsPlans/current/index.json
```

詳細については、「サービスインデックスファイルの読み取り」を参照してください。

ステップ 3: AWS のサービスのバージョンで利用可能な AWS リージョンの検索

AWS の料金表 に関するフィードバックをお寄せいただく場合は、こちらの簡単なアンケートにご回答ください。回答者は匿名になります。注: このアンケートは英語にのみ対応しています。

前のステップの AWS のサービスまたは Savings Plans のバージョンについては、AWS のサービスで製品が購入できる AWS リージョンおよびエッジロケーションのすべてを検索できます。

AWS のサービスのサービスリージョンインデックスファイルをダウンロードするには、次の URL にアクセスします。*<serviceCode>* と *<version>* を自分の情報に置き換えてください。

```
https://pricing.us-east-1.amazonaws.com/offers/v1.0/aws/<serviceCode>/<version>/
region_index.json
```

例えば、サービスコードが AmazonRDS、バージョンが current の場合、URL は次のようになります。

```
https://pricing.us-east-1.amazonaws.com/offers/v1.0/aws/AmazonRDS/current/
region_index.json
```

Savings Plans のサービスリージョンインデックスファイルをダウンロードするには、次の URL にアクセスします。*<savingsPlanCode>* を自分の情報に置き換えます。

```
https://pricing.us-east-1.amazonaws.com/savingsPlan/v1.0/aws/<savingsPlanCode>/current/
region_index.json
```

例えば、Savings Plans が AWSComputeSavingsPlan、バージョンが current の場合、URL は次のようになります。

```
https://pricing.us-east-1.amazonaws.com/savingsPlan/v1.0/aws/AWSComputeSavingsPlan/
current/region_index.json
```

詳細については、「サービスリージョンインデックスファイルの読み取り」を参照してください。

ステップ 4: AWS のサービスの AWS リージョンとバージョンで利用可能な料金表の検索

AWS の料金表 に関するフィードバックをお寄せいただく場合は、こちらの簡単なアンケートにご回答ください。回答者は匿名になります。注: このアンケートは英語にのみ対応しています。

前のステップでは、AWS のサービスに関する以下の情報を取得しました。

- サービスコード
- Savings Plans コード
- バージョン
- AWS リージョン

次に、この情報を使用して、サービス料金表ファイル内の料金を検索できます。これらのファイルは JSON 形式と CSV 形式で入手できます。

目次

- サービス料金表ファイルの検索
- Savings Plans のサービス料金表ファイルの検索

サービス料金表ファイルの検索

サービス料金表ファイルには、次のようなサービス関連の詳細情報が記載されています。

- そのファイル内の料金の発効日
- サービス料金表のバージョン
- 提供されている製品とその詳細のリストおよび料金 (JSON および CSV 形式)

次の URL では、URL を変更して必要な形式 (JSON または CSV) を指定できます。

サービス料金表ファイルをダウンロードするには、次の URL にアクセスします。各*##########*を独自の情報に置き換えます。

```
https://pricing.us-east-1.amazonaws.com/offers/
v1.0/aws/<serviceCode>/<version>/<regionCode>/index.<format>
```

次に Amazon Relational Database Service (Amazon RDS) の例を示します。このサービスは URL に AmazonRDS を指定します。

Example 例: Amazon RDS の料金表ファイルの最新バージョン

米国東部 (オハイオ) リージョンの Amazon RDS の料金表ファイルの最新バージョンは、次の URL から取得できます。

CSV 形式

```
https://pricing.us-east-1.amazonaws.com/offers/v1.0/aws/AmazonRDS/current/us-east-2/
index.csv
```

JSON 形式

```
https://pricing.us-east-1.amazonaws.com/offers/v1.0/aws/AmazonRDS/current/us-east-2/
index.json
```

Example 例: Amazon RDS の特定のバージョンの料金表ファイル

米国東部 (オハイオ) リージョンの Amazon RDS の料金表ファイルの特定バージョンは、次の URL から取得できます。

CSV 形式

```
https://pricing.us-east-1.amazonaws.com/offers/v1.0/aws/AmazonRDS/20230328234721/us-
east-2/index.csv
```

JSON 形式

```
https://pricing.us-east-1.amazonaws.com/offers/v1.0/aws/AmazonRDS/20230328234721/us-
east-2/index.json
```

Savings Plans のサービス料金表ファイルの検索

Savings Plans のサービス料金表ファイルには、次のような Savings Plans 関連の詳細情報が記載されています。

- そのファイル内の料金の発効日
- サービス料金表のバージョン
- 提供されている製品とその詳細のリストおよび料金 (JSON および CSV 形式)

次の URL では、URL を変更して必要な形式 (JSON または CSV) を指定できます。

Savings Plans のサービス料金表ファイルをダウンロードするには、次の URL を使用します。各*##########*を独自の情報に置き換えます。

```
https://pricing.us-east-1.amazonaws.com/savingsPlan/
v1.0/aws/<savingsPlanCode>/<version>/<regionCode>/index.json
```

Example 例: Amazon SageMaker のサービス料金表ファイル

米国東部 (オハイオ) リージョンの SageMaker (AWSComputeSavingsPlan) 用の料金表ファイルの特定バージョン (20230509202901) は、次の URL から取得できます。

CSV 形式

```
https://pricing.us-east-1.amazonaws.com/savingsPlan/v1.0/aws/
AWSComputeSavingsPlan/20230509202901/us-east-2/index.csv
```

JSON 形式

```
https://pricing.us-east-1.amazonaws.com/savingsPlan/v1.0/aws/
AWSComputeSavingsPlan/20230509202901/us-east-2/index.json
```

詳細については、「サービス料金表ファイルの読み取り」を参照してください。

料金表ファイルの読み取り

AWS の料金表 に関するフィードバックをお寄せいただく場合は、こちらの簡単なアンケートにご回答ください。回答者は匿名になります。注: このアンケートは英語にのみ対応しています。

料金表ファイルに関する詳細は、次のトピックをご確認ください。

トピック

- サービスインデックスファイルの読み取り
- サービスバージョンインデックスファイルの読み取り
- サービスリージョンインデックスファイルの読み取り
- サービス料金表ファイルの読み取り

サービスインデックスファイルの読み取り

AWS の料金表 に関するフィードバックをお寄せいただく場合は、こちらの簡単なアンケートにご回答ください。回答者は匿名になります。注: このアンケートは英語にのみ対応しています。

サービスインデックスファイルを入手したら、それを使用してサービス料金表ファイルを検索できます。

サービスインデックスファイルは、JSON ファイルとして入手できます。ファイルを読み取るには、テキストアプリケーションまたは JSON を解析するプログラムを使用できます。

サービスインデックスファイルには主に以下の 2 つのセクションがあります。

- サービスインデックスファイルに関するメタデータ
- AWS が提供するサービスのリスト (サービスインデックスファイルの場合) およびサービスが提供される AWS リージョンのリスト (サービスリージョンインデックスファイルの場合)

サービスインデックスファイルに関する情報には、料金をダウンロードできる URL と、そのサービスのサービスリージョンインデックスファイルの URL が含まれています。

目次

- 例: サービスインデックスファイル
- サービスインデックスファイルの定義

例: サービスインデックスファイル

サービスインデックスファイルは次のようになります。

```
{
   "formatVersion":"The version number for the offer index format",
   "disclaimer":"The disclaimers for this offer index",
   "publicationDate":"The publication date of this offer index",
   "offers":{
      "firstService":{
         "offerCode":"The service that this price list is for",
         "currentVersionUrl":"The URL for this offer file",
         "currentRegionIndexUrl":"The URL for the regional offer index file",
         "savingsPlanVersionIndexUrl":"The URL for the Savings Plan index file (if
 applicable)"
      },
      "secondService":{
         "offerCode": ...,
         "currentVersionUrl": ...,
         "currentRegionIndexUrl": ...,
         "savingsPlanVersionIndexUrl":...
      },
      ...
   },
}
```

サービスインデックスファイルの定義

以下は、サービスインデックスファイルで使用する条件の定義です。

FormatVersion

サービスバージョンインデックスファイルがどの形式バージョンにあるかを追跡する属性。ファイルの `formatVersion` は、構造が変更されたときに更新されます。例えば、バージョンが `v1` から `v2` に変更されるとき。

Disclaimer

サービスバージョンインデックスファイルに適用される免責事項。

PublicationDate

サービスバージョンインデックスファイルが公開された UTC 形式の日付と時刻。例えば、`2015-04-09T02:22:05Z` や `2015-09-10T18:21:05Z` などです。

Offers

利用可能なサービス料金表ファイルのリスト。

Offers:OfferCode

AWS サービスの製品の一意のコード。例えば、`AmazonEC2` や `AmazonS3` などです。`OfferCode` は、インデックスのルックアップキーとして使用されます。

Offers:CurrentVersionUrl

最新のサービス料金表ファイルをダウンロードできる URL。

Offers:currentRegionIndexUrl

利用可能なサービス料金表ファイルのリージョン別のリスト。

Offers:savingsPlanVersionIndexUrl

適用可能な Savings Plans オファーのリスト。

サービスバージョンインデックスファイルの読み取り

AWS の料金表 に関するフィードバックをお寄せいただく場合は、こちらの簡単なアンケートにご回答ください。回答者は匿名になります。注: このアンケートは英語にのみ対応しています。

サービスバージョンインデックスファイルは JSON 形式で入手できます。ファイルを読み取るには、テキストプログラムまたは JSON を解析するアプリケーションを使用できます。

サービスバージョンインデックスファイルは以下の 2 つの主要セクションで構成されています。

- サービスバージョンインデックスファイルに関するメタデータ
- AWS のサービスで利用可能な料金表ファイルの全バージョンのリスト

サービスバージョンに関する情報には、指定期間におけるそのサービスの料金をダウンロードするための URL が含まれます。

トピック

- AWS のサービスのサービスバージョンインデックスファイル
- Savings Plans のサービスバージョンインデックスファイル

AWS のサービスのサービスバージョンインデックスファイル

> AWS の料金表 に関するフィードバックをお寄せいただく場合は、こちらの簡単なアンケートにご回答ください。回答者は匿名になります。注: このアンケートは英語にのみ対応しています。

サービスバージョンインデックスファイルについては、以下の参考資料を参照してください。

トピック

- 例: サービスのサービスバージョンインデックスファイル
- サービスバージョンインデックスファイルの定義

例: サービスのサービスバージョンインデックスファイル

サービスバージョンインデックスファイルは次のようになります。

```
{
   "formatVersion":"The version number for the service version index format",
   "disclaimer":"The disclaimers for this service version index",
   "publicationDate":"The publication date of this service version index",
   "offerCode": "The service code/Savings Plan code",
   "currentVersion": "The latest version of the service"
   "versions":{
```

```
      "firstVersion":{
         "versionEffectiveBeginDate":"The date starting which this version is
 effective",
         "versionEffectiveEndDate":"The date until which this version is effective",
         "offerVersionUrl":"The relative URL for the service price list file of this
 version"
      },
      "secondVersion":{
         "versionEffectiveBeginDate": ...,
         "versionEffectiveEndDate": ...,
         "offerVersionUrl": ...
      },
      ...
   },
}
```

サービスバージョンインデックスファイルの定義

以下は、サービスバージョンインデックスファイルの条件の定義です。

formatVersion

サービスバージョンインデックスファイルがどの形式バージョンにあるかを追跡する属性。ファイルの formatVersion は、構造が変更されたときに更新されます。例えば、バージョンが v1 から v2 に変更されるとき。

disclaimer

サービスバージョンインデックスファイルに適用される免責事項。

publicationDate

サービスバージョンインデックスファイルが公開された UTC 形式の日付と時刻。例えば、2023-03-28T23:47:21Z です。

offerCode

AWS のサービスの製品の一意のコード。例えば、AmazonRDS、AmazonS3 などです。

CurrentVersion

AWS のサービスの最新バージョン番号。例えば、20230328234721 です。

versions

この AWS のサービスで利用可能なバージョンのリスト。

versions:version

AWS のサービスの料金表のバージョンを表す固有のコード。これはバージョンリストのルックアップキーとして使用されます。例えば、20230328234721 などです。

versions:version:versionEffectiveBeginDate

このバージョンの有効期間の開始日時 (UTC 形式) 例えば、2023-03-28T23:47:21Z です。

versions:version:versionEffectiveEndDate

このバージョンの有効期間の終了日時 (UTC 形式) 例えば、2023-03-28T23:47:21Z です。このプロパティが設定されていない場合は、このバージョンが現在アクティブなバージョンであることを意味します。

versions:version:offerVersionUrl

このバージョンのサービス料金表ファイルの相対 URL。例えば、/offers/v1.0/aws/AmazonRDS/20230328234721/index.json です。

Savings Plans のサービスバージョンインデックスファイル

AWS の料金表 に関するフィードバックをお寄せいただく場合は、こちらの簡単なアンケートにご回答ください。回答者は匿名になります。注: このアンケートは英語にのみ対応しています。

Savings Plans のサービスバージョンインデックスファイルを理解するには、次の参考資料を参照してください。

目次

- 例: Savings Plans のサービスバージョンインデックスファイル
- サービスバージョンインデックスの定義

例: Savings Plans のサービスバージョンインデックスファイル

Savings Plans のサービスバージョンインデックスファイルは次のようになります。

```
{
   "disclaimer":"The disclaimers for this service version index",
   "publicationDate":"The publication date of this service version index",
```

```
   "currentOfferVersionUrl" "The relative URL of region index file for latest version
 number of the service"
   "versions":[
      {
         "publicationDate":"The publication date of this version of service from which
 this version was effective",
         "offerVersionUrl":"The relative URL for the service region index file of this
 version"
      },
      {
         "publicationDate": ...,
         "offerVersionUrl": ...
      },
      ...
   ],
}
```

サービスバージョンインデックスの定義

以下は、サービスバージョンインデックスファイルの条件の定義です。

disclaimer

サービスバージョンインデックスファイルに適用される免責事項。

publicationDate

サービスバージョンインデックスファイルが公開された UTC 形式の日付と時刻。例えば、2023-03-28T23:47:21Z です。

currentOfferVersionUrl

サービスの最新バージョン番号のリージョンインデックスファイルの相対 URL。例えば、/savingsPlan/v1.0/aws/AWSComputeSavingsPlan/current/region_index.json です。

versions

この AWS のサービスで利用可能なバージョンのリスト。

versions:version:publicationDate

サービスバージョンインデックスファイルが公開された UTC 形式の日付と時刻。例えば、2023-04-07T14:57:05Z などです。

versions:version:offerVersionUrl

このバージョンのサービスリージョンインデックスファイルの相対 URL。例えば、`/savingsPlan/v1.0/aws/AWSComputeSavingsPlan/20230407145705/region_index.json` です。

サービスリージョンインデックスファイルの読み取り

AWS の料金表 に関するフィードバックをお寄せいただく場合は、こちらの簡単なアンケートにご回答ください。回答者は匿名になります。注: このアンケートは英語にのみ対応しています。

サービスリージョンインデックスファイルは JSON 形式で入手できます。ファイルを読み取るには、テキストプログラムまたは JSON を解析するアプリケーションを使用できます。

サービスリージョンインデックスファイルは以下の 2 つの主要セクションで構成されています。

- サービスリージョンインデックスファイルに関するメタデータ
- AWS のサービスまたは Savings Plans が利用可能なすべての AWS リージョンのリスト

サービスリージョンに関する情報には、指定期間およびリージョンにおけるそのサービスの料金をダウンロードするための URL が含まれます。

トピック

- AWS のサービスのサービスリージョンインデックスファイル
- Savings Plans のサービスリージョンインデックスファイル

AWS のサービスのサービスリージョンインデックスファイル

AWS の料金表 に関するフィードバックをお寄せいただく場合は、こちらの簡単なアンケートにご回答ください。回答者は匿名になります。注: このアンケートは英語にのみ対応しています。

AWS のサービスのサービスバージョンインデックスファイルについては、以下の参考資料を参照してください。

目次

- 例: AWS のサービスのサービスリージョンインデックスファイル
- サービスリージョンインデックスの定義

例: AWS のサービスのサービスリージョンインデックスファイル

AWS のサービスのサービスリージョンインデックスファイルは次のようになります。

```
{
   "formatVersion":"The version number for the service region index format",
   "disclaimer":"The disclaimers for this service region index",
   "publicationDate":"The publication date of this service region index",
   "regions":{
      "firstRegion":{
         "regionCode":"A unique identifier that identifies this region",
         "currentVersionUrl":"The relative URL for the service regional price list file
 of this version"
      },
      "secondRegion":{
         "regionCode": ...,
         "currentVersionUrl": ...
      },
      ...
   }
}
```

サービスリージョンインデックスの定義

以下は、サービスリージョンインデックスファイルの条件の定義です。

formatVersion

サービスリージョンインデックスファイルがどの形式バージョンにあるかを追跡する属性。ファイルの `formatVersion` は、構造が変更されたときに更新されます。例えば、バージョンが `v1` から `v2` に変更されるとき。

disclaimer

サービスリージョンインデックスファイルに適用される免責事項。

publicationDate

サービスリージョンインデックスファイルが公開された UTC 形式の日付と時刻。例えば、`2023-03-28T23:47:21Z` です。

regions

AWS のサービスで利用可能な AWS リージョンのリスト。

regions:regionCode

この AWS のサービスが提供されているリージョン固有のコード。これはリージョンリストのルックアップキーとして使用されます。例えば、米国東部 (オハイオ) リージョンの場合は、`us-east-2` を使用します。

regions:regionCode:currentVersionUrl

このバージョンのサービスリージョンインデックスファイルの相対 URL。例えば、`/offers/v1.0/aws/AmazonRDS/20230328234721/us-east-2/index.json` です。

Savings Plans のサービスリージョンインデックスファイル

AWS の料金表 に関するフィードバックをお寄せいただく場合は、こちらの簡単なアンケートにご回答ください。回答者は匿名になります。注: このアンケートは英語にのみ対応しています。

Savings Plans のサービスリージョンインデックスファイルについては、以下の参考資料を参照してください。

トピック

- 例: Savings Plans のサービスリージョンインデックスファイル
- サービスリージョンインデックスの定義

例: Savings Plans のサービスリージョンインデックスファイル

Savings Plans のサービスリージョンインデックスファイルは次のようになります。

```
{
   "disclaimer":"The disclaimers for this service version index",
   "publicationDate":"The publication date of this service region index",
   "regions":[
      {
         "regionCode":"A unique identifier that identifies this region",
         "versionUrl":"The relative URL for the service regional price list file of
 this version"
```

```
      },
      {
         "regionCode": ...,
         "versionUrl": ...
      },
      ...
   ]
}
```

サービスリージョンインデックスの定義

以下は、サービスリージョンインデックスファイルの条件の定義です。

disclaimer

サービスリージョンインデックスファイルに適用される免責事項。

publicationDate

サービスリージョンインデックスファイルが公開された UTC 形式の日付と時刻。例えば、`2023-03-28T23:47:21Z` です。

regions

AWS のサービスで利用可能な AWS リージョンのリスト。

regions:regionCode

この AWS のサービスが提供されているリージョン固有のコード。これはリージョンリストのルックアップキーとして使用されます。例えば、米国東部 (オハイオ) リージョンの場合は、`us-east-2` を使用します。

regions:versionUrl

このバージョンのサービスリージョンインデックスファイルの相対 URL。例えば、`/savingsPlan/v1.0/aws/AWSComputeSavingsPlan/20230407145705/us-east-2/index.json` です。

サービス料金表ファイルの読み取り

AWS の料金表 に関するフィードバックをお寄せいただく場合は、こちらの簡単なアンケートにご回答ください。回答者は匿名になります。注: このアンケートは英語にのみ対応しています。

サービス料金表ファイルには、すべての AWS リージョンにおける単一の AWS のサービスまたは Savings Plans、または特定のリージョンにおける 単一の AWS のサービスまたは Savings Plans の製品および料金が記載されています。

サービス料金表ファイルは、CSV か JSON 形式で入手できます。

ファイルを読み取るには、スプレッドシートプログラムを使用して CSV ファイルを読み取り、ソートするか、JSON ファイルを解析するアプリケーションを使用できます。

> **Note**
>
> CSV ファイルでは、製品詳細と料金詳細は 1 つのセクションにまとめられます。JSON ファイルでは、製品詳細と料金詳細がそれぞれのセクションに表示されます。

トピック

- AWS のサービスのサービス料金表ファイルの読み取り
- Savings Plans のサービス料金表ファイルの読み取り

AWS のサービスのサービス料金表ファイルの読み取り

AWS の料金表 に関するフィードバックをお寄せいただく場合は、こちらの簡単なアンケートにご回答ください。回答者は匿名になります。注: このアンケートは英語にのみ対応しています。

AWS のサービスのサービス料金表ファイルには、次の種類の情報が含まれています。

- サービス料金表ファイルの詳細 — 形式バージョン、公開日など、サービス料金表ファイルに関するメタデータ
- 製品詳細 — 製品と製品情報が記載されているサービス料金表ファイルの製品メタデータ
- 料金詳細 (terms) — このサービス料金表ファイルに含まれるすべての製品の料金

目次

- CSV ファイル
- JSON ファイル

- サービス料金表の定義
- 製品詳細 (products) の定義
- 製品詳細 (terms) の定義

CSV ファイル

CSV ファイルの最初の 5 行には、料金表ファイルのメタデータが含まれています。6 行目には、製品とその属性 (SKU、OfferTermCode、RateCode、TermType など) の列名が表示されます。

列数は、サービスによって異なります。最初のいくつかの列には料金詳細が表示され、残りの列にはサービスの製品詳細が表示されます。

JSON ファイル

製品詳細と料金詳細がそれぞれのセクションに表示されます。同じ製品が複数の条件で提供されたり、同じ条件が複数の製品に適用されたりする場合があります。

例えば、Amazon Elastic Compute Cloud (Amazon EC2) インスタンスは、Hourly または Reserved の条件で利用できます。製品に適用される条件を確認する場合は、製品の SKU を使用できます。

Example 例: JSON

```
{
   "formatVersion":"The version of the file format",
   "disclaimer":"The disclaimers for the price list file",
   "offerCode":"The code for the service",
   "version":"The version of the price list file",
   "publicationDate":"The publication date of the price list file",
   "products": {
      "sku": {
         "sku":"The SKU of the product",
         "productFamily":"The product family of the product",
         "attributes": {
            "attributeName":"attributeValue",
         }
      }
   },
   "terms": {
      "termType": {
         "sku": {
```

```
            "sku": {
               "offerTermCode":"The term code of the product",
               "sku":"The SKU of the product",
               "effectiveDate":"The effective date of the pricing details",
               "termAttributesType":"The attribute type of the terms",
               "termAttributes": {
                  "attributeName":"attributeValue",
               },
               "priceDimensions": {
                  "rateCode": {
                     "rateCode":"The rate code of the price",
                     "description":"The description of the term",
                     "unit":"The usage measurement unit for the price",
                     "startingRange":"The start range for the term",
                     "endingRange":"The end range for the term",
                     "pricePerUnit": {
                        "currencyCode":"currencyRate",
                     }
                  }
               }
            }
         }
      }
   }
}
```

サービス料金表の定義

以下は、サービス料金表ファイルの条件の定義です。

formatVersion

サービス料金表ファイルがどの形式バージョンにあるかを追跡する属性。ファイルの formatVersion は、構造が変更されたときに更新されます。例えば、バージョンが v1 から v2 に変更されるとき。

disclaimer

サービス料金表ファイルに適用されるすべての免責事項。

offerCode

AWS のサービスの製品の一意のコード。例えば、Amazon EC2 では AmazonEC2 または Amazon S3 では AmazonS3 です。

version

サービス料金表ファイルのバージョンを追跡する属性。新しいファイルが公開されるたびに、新しいバージョン番号が含まれます。例えば、20150409022205 と 20150910182105 です。

publicationDate

サービス料金表ファイルが公開された UTC 形式の日付と時刻。例えば、2015-04-09T02:22:05Z と 2015-09-10T18:21:05Z です。

製品詳細 (products) の定義

このセクションには、AWS のサービスのサービス料金表ファイルに含まれる製品の情報が表示されます。製品は SKU によってインデックスが作成されます。

products:sku

製品の一意のコード。SKU コードを使用して、製品の詳細と料金を関連付けます。

例えば、SKU が HCNSHWWAJSGVAHMH の製品は、HCNSHWWAJSGVAHMH が SKU として表示されている料金のみで利用可能です。

products:sku:productFamily

製品タイプのカテゴリ。例えば、Amazon EC2 では compute または Amazon S3 では storage です。

products:sku:attributes

すべての製品属性のリスト。

products:sku:attributes:Attribute Name

製品属性の名前。例えば、Instance Type、Processor、または OS などです。

products:sku:attributes:Attribute Value

製品属性の値。例えば、m1.small (インスタンスタイプ)、xen (プロセッサのタイプ)、Linux (OS のタイプ) などです。

製品詳細 (terms) の定義

このセクションには、AWS のサービスのサービス料金表ファイルに含まれる製品の料金情報が表示されます。

料金は、まず条件 (onDemand と reserved) によってインデックスが作成され、次に SKU によってインデックスが作成されます。

terms:termType

条件の定義が表す特定の条件のタイプ。有効な条件タイプは reserved および onDemand です。

terms:termType:SKU

製品の一意のコード。SKU コードを使用して、製品の詳細と料金を関連付けます。

例えば、SKU が HCNSHWWAJSGVAHMH の製品は、HCNSHWWAJSGVAHMH が SKU として表示されている料金のみで利用可能です。

terms:termType:sku:Offer Term Code

特定のタイプの条件の一意のコード。例えば、KCAKZHGHG です。

製品と料金の組み合わせは、ピリオドで区切った SKU コードと条件コードで参照されます。例えば、U7ADXS4BEK5XXHRU.KCAKZHGHG です。

terms:termType:sku:Effective Date

サービス料金表ファイルが有効になる日付。例えば、条件 EffectiveDate が 2017 年 11 月 1 日の場合、この日付より前では、この料金は有効ではありません。

terms:termType:sku:Term Attributes Type

条件が適用される製品および製品オファーを識別するための固有のコード。例えば、EC2-Reserved 属性タイプは、Amazon EC2 リザーブドホストに対して条件が使用可能であることを意味します。

terms:termType:sku:Term Attributes

条件タイプに適用可能なすべての属性のリスト。この形式は attribute-name: attribute-value になります。例えば、条件の期間、条件の適用対象になる購入のタイプなどです。

terms:termType:sku:Term Attributes:Attribute Name

TermAttribute の名前。これを使用して、特定の属性を検索できます。例えば、length または PurchaseOption で条件を検索できます。

terms:termType:sku:Term Attributes:Attribute Value

`TermAttribute` の値。例えば、条件の期間を 1 年に、購入オプションを `All Upfront` に設定できます。

terms:termType:sku:Price Dimensions

使用量の測定方法、支払いに使用できる通貨、料金枠の制限など、料金表ファイルの料金詳細。

terms:termType:sku:Price Dimensions:Rate Code

製品、オファー、および料金枠の組み合わせの一意のコード。製品および条件の組み合わせには、無料利用枠、低使用利用枠、高使用利用枠など、複数の料金ディメンションがあります。

terms:termType:sku:Price Dimensions:Rate Code:Description

料金またはレートの説明。

terms:termType:sku:Price Dimensions:Rate Code:Unit

各サービスが請求の使用量を測定するために使用する単位のタイプ。例えば、Amazon EC2 では時間単位、Amazon S3 では GB 単位などです。

terms:termType:sku:Price Dimensions:Rate Code:Starting Range

この料金でカバーされる料金枠の下限です。例えば、0 GB や 1,001 回の API オペレーションコールなどです。

terms:termType:sku:Price Dimensions:Rate Code:Ending Range

この料金でカバーされる料金枠の上限です。例えば、1,000 GB や 10,000 回の API オペレーションコールなどです。

terms:termType:sku:Price Dimensions:Rate Code:Price Per Unit

1 つの測定単位でのサービスコストの計算。

terms:termType:sku:Price Dimensions:Rate Code:Price Per Unit:Currency Code

特定の製品の料金の通貨を示すコード。

terms:termType:sku:Price Dimensions:Rate Code:Price Per Unit:Currency Rate

サポートされているさまざまな通貨での製品のレート。例えば、単位あたり 1.2536 USD です。

Savings Plans のサービス料金表ファイルの読み取り

AWS の料金表 に関するフィードバックをお寄せいただく場合は、こちらの簡単なアンケートにご回答ください。回答者は匿名になります。注: このアンケートは英語にのみ対応しています。

AWS のサービスのサービス料金表ファイルには、次の種類の情報が含まれています。

- サービス料金表ファイルの詳細 — バージョン、AWS リージョン、公開日など、サービス料金表ファイルに関するメタデータ
- 製品詳細 — 製品と製品情報が記載されているサービス料金表ファイルの製品メタデータ
- 料金詳細 (terms) — サービス料金表ファイルに含まれるすべての製品の料金

目次

- CSV ファイル
- JSON ファイル
- サービス料金表の定義
- 製品詳細 (products) の定義
- 料金詳細 (terms) の定義

CSV ファイル

CSV ファイルの最初の 5 行は、料金表ファイルのメタデータです。6 行目には、製品とその属性 (SKU、RateCode など) の列名が表示されます。

列数は Savings Plans によって異なります。最初のいくつかの列には料金詳細が表示され、残りの列には Savings Plans の製品詳細が表示されます。

JSON ファイル

製品詳細と料金詳細がそれぞれのセクションに表示されます。JSON サービス料金表ファイルは次の例のようになります。

```
{
   "version" : "The version of the price list file",
   "publicationDate" : "The publication date of the price list file",
   "regionCode" : "Region for which price list file is valid for",
   "products" : [
```

```
      {
         "sku" : "The SKU of the product",
         "productFamily" : "The product family of the product",
         "serviceCode" : "Savings plan code",
         "attributes" : {
            "attributeName":"attributeValue",
         }
      },
      ...
   ],
   "terms" : {
      "savingsPlan" : [
         {
            "sku" : "The SKU of the product",
            "description" : "Description of the product",
            "effectiveDate" : "The effective date of the pricing details",
            "leaseContractLength" : {
                "duration" : "Length of the lease contract - it is a number",
                "unit" : "Unit of the duration"
            },
            "rates" : [
                {
                    "discountedSku" : "The SKU of the discounted on demand product",
                    "discountedUsageType" : "Usage type of the discounted product",
                    "discountedOperation" : "Operation of the discounted product",
                    "discountedServiceCode" : "Service code of the discounted product",
                    "rateCode" : "The rate code of this price detail",
                    "unit" : "Unit used to measure usage of the product",
                    "discountedRate" : {
                        "price" : "Price of the product",
                        "currency" : "Currency of the price"
                    }
                },
                ...
            ]
        },
        ...
      ]
   }
}
```

サービス料金表の定義

以下は、サービス料金表ファイルの条件の定義です。

regionCode

料金表が有効なリージョンのリージョンコード。

version

料金表ファイルのバージョンを追跡する属性。新しいファイルが公開されるたびに、新しいバージョン番号が含まれます。例えば、20150409022205 と 20150910182105 です。

publicationDate

サービス料金表ファイルが公開された UTC 形式の日付と時刻。例えば、2015-04-09T02:22:05Z と 2015-09-10T18:21:05Z です。

製品詳細 (products) の定義

このセクションには、Savings Plans の料金表ファイルに含まれる製品の情報が表示されます。製品は SKU によってインデックスが作成されます。

products:product:sku

製品の一意のコード。SKU コードを使用して、製品の詳細と料金を関連付けます。

例えば、SKU が HCNSHWWAJSGVAHMH の製品は、HCNSHWWAJSGVAHMH が SKU として表示されている料金のみで利用可能です。

products:product:productFamily

製品タイプのカテゴリ。例えば、Compute Savings Plans の場合は EC2InstanceSavingsPlans です。

products:product:serviceCode

Savings Plans のサービスコード。例えば、ComputeSavingsPlans です。

products:product:attributes

すべての製品属性のリスト。

products:product:attributes:attributeName

製品属性の名前。例えば、Instance Type、Location Type、または Purchase Option などです。

products:product:attributes:attributeValue

製品属性の値。例えば、m1.small (インスタンスタイプ)、AWS Local Zone (ロケーションのタイプ)、No Upfront (購入オプションのタイプ) などです。

料金詳細 (terms) の定義

このセクションには、Savings Plans の料金表ファイルに含まれる料金の情報が表示されます。

料金は、まず条件 (savingsPlan) によってインデックスが作成されます。

terms:termType

条件の定義が表す特定の条件のタイプ。有効な条件タイプは savingsPlan です。

terms:termType:sku

製品の一意のコード。SKU コードを使用して、製品の詳細と料金を関連付けます。

例えば、SKU が T496KPMD8YQ8RZNC の製品は、496KPMD8YQ8RZNC が SKU として表示されている料金のみで利用可能です。

terms:termType:sku:description

製品の説明。

terms:termType:sku:effectiveDate

サービス料金表ファイルが有効になる日付。例えば、条件 EffectiveDate が 2017 年 11 月 1 日の場合、この日付より前では、この料金は有効ではありません。

terms:termType:sku:leaseContractLength:duration

リース契約の期間。この値は数値です。例えば、1 や 3 と指定します。

terms:termType:sku:rates

Savings Plans 製品に適用されるすべての割引料金のリスト。Savings Plans 製品は、他のサービスの複数の製品を組み合わせたもので、その組み合わせに適用される複数の料金が含まれています。

terms:termType:sku:rates:discountedSku

割引対象オンデマンド製品の SKU。

terms:termType:sku:rates:discountedUsageType

割引対象オンデマンド製品の使用タイプ。

terms:termType:sku:rates:discountedOperation

割引対象オンデマンド製品のオペレーション。

terms:termType:sku:rates:discountedServiceCode

割引対象オンデマンド製品のサービスコード。

terms:termType:sku:rates:rateCode

Savings Plans 製品で提供される料金の料金コード。例えば、`T496KPMD8YQ8RZNC.26PW7ZDSYZZ6YBTZ` などです

terms:termType:sku:rates:unit

製品の使用量を測定するために使用される単位。例えば、Amazon EC2 インスタンスの場合は `Hrs` です。

terms:termType:sku:rates:discountedRate:price

Savings Plans 製品で提供される割引対象製品の料金。例えば、`3.434` です。

terms:termType:sku:rates:discountedRate:currency

Savings Plans 製品で提供される割引対象製品の料金の通貨。例えば、`USD` です。

サービス料金表ファイルでの料金の確認

AWS の料金表 に関するフィードバックをお寄せいただく場合は、こちらの簡単なアンケートにご回答ください。回答者は匿名になります。注: このアンケートは英語にのみ対応しています。

AWS Price List Bulk API は、オンデマンド料金やリザーブドインスタンス料金も含めて、すべての AWS 製品の料金を参考情報として提供します。

特定の製品の料金と条件を確認するには、オファーファイルを使用します。例えば、Amazon Elastic Compute Cloud (Amazon EC2) インスタンスの料金のリストを確認できます。

> **Note**
>
> AWS Price List Bulk API は、AWS 無料利用枠の料金など、期間限定オファーの包括的なソースではありません。無料利用枠の料金については、「AWS 無料利用枠」を参照してください。

関心がある製品の料金を確認するには

目次

- サービスのオンデマンド料金の確認
- サービスの階層化された料金を確認する
- 無料利用枠があるサービスの階層化された料金を確認する
  - 例
- リザーブドインスタンスがあるサービスの料金を確認する

サービスのオンデマンド料金の確認

次の手順では、AWS のサービス (Amazon EC2 など) のオンデマンド料金を確認する方法を示します。

CSV または JSON ファイルを取得するには、「料金表ファイルの取得」または「料金表ファイルの手動取得」の手順に従います。

CSV ファイルを使用してオンデマンド料金を確認するには

1. サービスの CSV ファイルをダウンロードします。
2. CSV ファイルを任意のアプリケーションで開きます。
3. [TermType] 列をフィルタリングして [OnDemand] を表示します。
4. 目的の使用タイプとオペレーションを検索します。
5. [PricePerUnit] 列で、対応する料金を確認します。

JSON ファイルを使用してオンデマンド料金を確認するには

1. サービスの JSON ファイルをダウンロードします。
2. 任意のアプリケーションで JSON ファイルを開きます。

3. [terms] と [On-Demand] で、目的の SKU を見つけます。

   SKU がわからない場合は、[products (製品)] で [usage type (使用タイプ)] と [operation (オペレーション)] を検索します。

4. [pricePerUnit] を参照して、SKU の対応するオンデマンド料金を確認します。

サービスの階層化された料金を確認する

次の手順では、サービス (Amazon Simple Storage Service (Amazon S3) など) の階層化された料金を確認する方法を示します。

CSV ファイルを使用してサービスの階層化された料金を確認するには

1. サービスの CSV ファイルをダウンロードします。
2. 任意のアプリケーションで CSV ファイルを開きます。
3. [TermType] 列をフィルタリングして [OnDemand] を表示します。
4. 目的の使用タイプとオペレーションを検索します。
5. [PricePerUnit] 列で、[StartingRange] と [EndingRange] それぞれの対応する料金を確認します。

JSON ファイルを使用してサービスの階層化された料金を確認するには

1. JSON ファイルをダウンロードします。
2. 任意のアプリケーションで JSON ファイルを開きます。
3. [terms] と [On-Demand] で、目的の SKU を見つけます。

   SKU がわからない場合は、[products (製品)] で [usage type (使用タイプ)] と [operation (オペレーション)] を検索します。

4. [beginRange] と [endRange] で、[pricePerUnit] を参照して対応する階層化された料金を確認します。

無料利用枠があるサービスの階層化された料金を確認する

次の手順は、AWS Price List Bulk API で無料利用枠の料金を公開する AWS のサービス (AWS Lambda など) を検索する方法を示しています。

すべての無料利用枠の料金には、「AWS 無料利用枠」に記載されている条件が適用されます。

CSV ファイルを使用して無料利用枠があるサービスの料金を確認するには

1. サービスの CSV ファイルをダウンロードします。
2. CSV ファイルを任意のアプリケーションで開きます。
3. [TermType] 列をフィルタリングして [OnDemand] を表示します。
4. [Location] 列をフィルタリングして [Any] を表示します。

   [Any] は、このシナリオのすべての AWS リージョンを表すわけではありません。これは、CSV ファイル内の他の行項目によって定義されたリージョンのサブセットであり、[RelatedTo] 列はロケーションの [Any] エントリの SKU と一致します。
5. 特定の無料利用枠 SKU の対象となる、すべてのロケーションと製品のリストを検索するには、[RelatedTo] 列で無料利用枠 SKU を見つけます。
6. 対象となるすべての場所で、無料利用枠でカバーされる使用状況を確認するには、[任意] の場所について「StartingRange」および「EndingRange」を参照してください

例

この例では、料金ファイルに [RelatedTo] が SKU ABCD と等しいエントリがないことを前提としています。

次の表に示すように、SKU が ABCD の無料利用枠オファーは、Asia Pacific (Singapore) および US East (Ohio) リージョンでは有効ですが、AWS GovCloud (US) では有効ではありません。無料利用枠によってカバーされる使用量は合計 400,000 秒で、両方の対象リージョンで使用されます。

SKU	StartingRage	EndingRange	単位	RelatedTo	ロケーション
ABCD	0	400000	seconds		Any
QWER	0	Inf	seconds	ABCD	Asia Pacific (Singapore)
WERT	0	Inf	seconds	ABCD	US East (Ohio)

SKU	StartingRage	EndingRange	単位	RelatedTo	ロケーション
ERTY	0	Inf	seconds		AWS GovCloud (US)

JSON ファイルを使用して無料利用枠があるサービスの階層化された料金を確認するには

1. サービスの JSON ファイルをダウンロードします。
2. 任意のアプリケーションで JSON ファイルを開きます。
3. [製品] の下で、リージョンの接頭辞 [Global] がある [usagetype] を見つけます。
4. その SKU を書き留めて、同じ SKU を [terms] と [OnDemand] で探します。
5. 無料利用枠の使用量については、[BeginRange] と [EndRange] を確認します。

   無料利用枠の対象となる製品とリージョンのリストについては、[appliesTo] を確認します。

リザーブドインスタンスがあるサービスの料金を確認する

次の手順では、リザーブドインスタンスがあるサービス (Amazon Relational Database Service (Amazon RDS) など) の料金を確認する方法を示します。

CSV ファイルを使用してリザーブドインスタンスの料金を確認するには

1. Amazon EC2 CSV ファイルをダウンロードします。
2. CSV ファイルを任意のアプリケーションで開きます。
3. [TermType] 列をフィルタリングして [reserved] を表示します。
4. 目的の使用タイプとオペレーションを検索します。
5. [LeaseContractLength]、[PurchaseOption]、および [OfferingClass] のそれぞれで、[PricePerUnit] 列の対応する料金を確認します。

JSON ファイルを使用してリザーブドインスタンスの料金を確認するには

1. サービスの JSON ファイルをダウンロードします。
2. 任意のアプリケーションで JSON ファイルを開きます。
3. [terms] と [Reserved] で、目的の SKU を見つけます。

SKU がわからない場合は、[products (製品)] で [usage type (使用タイプ)] と [operation (オペレーション)] を検索します。

同じ製品の [LeaseContractLength]、[PurchaseOption]、および [OfferingClass] で料金を確認できます。

料金更新通知の設定

AWS の料金表 に関するフィードバックをお寄せいただく場合は、こちらの簡単なアンケートにご回答ください。回答者は匿名になります。注: このアンケートは英語にのみ対応しています。

料金表ファイルは随時変更されます。料金表ファイルが更新されると、Amazon Simple Notification Service (Amazon SNS) 通知が送信されます。AWS の料金が下がったときや、新しい製品やサービスが開始されたときなど、料金が変わったときに通知を受け取るように設定できます。

料金が変わるたびに通知を受け取るか、1 日 1 回通知を受け取ることができます。1 日 1 回の通知を受け取るように選択した場合、通知には前日に適用されたすべての料金変更が含まれます。通知を設定して、変更が発生したときに最新のファイルを入手することをお勧めします。

目次

- Amazon SNS 通知の設定
- AWS のサービスの通知の構造
- Savings Plans の通知の構造

Amazon SNS 通知の設定

AWS Management Consoleを使用して Amazon SNS の通知を受けるよう登録できます。

料金表ファイルの更新に関する Amazon SNS 通知を設定するには

1. AWS Management Console にサインインし、Amazon SNS コンソール (https://console.aws.amazon.com/sns/v3/home) を開きます。
2. Amazon SNS を初めて使用する場合、[今すぐ始める] を選択します。
3. 必要に応じて、ナビゲーションバーの AWS リージョンを [米国東部 (バージニア北部)] に変更します。

4. ナビゲーションペインで [Subscriptions] を選択します。
5. [Create subscription] (サブスクリプションの作成) を選択します。
6. [トピック ARN] には、必要に応じて以下を入力します。

   - サービス料金の場合
     - 料金が変更されるたびに通知を受けるには、`arn:aws:sns:us-east-1:278350005181:price-list-api` と入力します。
     - 料金変更の通知を 1 日に 1 回受け取るには、`arn:aws:sns:us-east-1:278350005181:daily-aggregated-price-list-api` と入力します。
   - Savings Plans 料金の場合は、`arn:aws:sns:us-east-1:626627529009:SavingsPlanPublishNotifications` と入力します。
7. [Protocol (プロトコル)] では、デフォルトの HTTP 設定を使用します。
8. [エンドポイント] には、Amazon Simple Queue Service (Amazon SQS)、AWS Lambda、E メールなど、通知を受け取る形式を指定します。
9. [Create subscription] (サブスクリプションの作成) を選択します。

   料金が変更されると、ステップ 8 で指定した形式で通知が届きます。

> **Important**
>
> 次のエラーメッセージが表示された場合: サブスクリプションを作成できませんでした。エラーコード: InvalidParameter - エラーメッセージ: 無効なパラメータ: TopicArn、米国東部 (バージニア北部) リージョンを使用していない可能性があります。請求メトリクスデータは、リソースが他のリージョンにある場合でも、このリージョンに保存されます。ステップ 3 に戻り、以降の手順を完了します。

AWS のサービスの通知の構造

料金更新通知の件名は次の形式です。

```
[Pricing Update] New <serviceCode> offer file available.
```

Example 例: 件名

Amazon Relational Database Service (Amazon RDS) の料金更新通知は次のようになります。

```
[Pricing Update] New AmazonRDS offer file available.
```

Example 例: 通知メッセージ

Amazon SQS、Lambda、その他のサービスなどの AWS のサービスを登録している場合、料金更新通知メッセージ本文の構造は次のようになります。

```
{
    "formatVersion":"v1.0",
    "offerCode":"<serviceCode>",
    "version":"<Version number of this new price list>",
    "timeStamp":"<Publish date of this new price list>",
    "url":{
        "JSON":"<JSON URL of the current version price list>",
        "CSV":"<CSV URL of the current version price list>"
    },
    "regionIndex":"<Region index url of the current version price list>",
    "operation":"Publish"
}
```

例えば、Amazon RDS の通知メッセージは次のようになります。

```
{
    "formatVersion":"v1.0",
    "offerCode":"AmazonRDS",
    "version":"20230328234721",
    "timeStamp":"2023-03-28T23:47:21Z",
    "url":{
        "JSON":"https://pricing.us-east-1.amazonaws.com/offers/v1.0/aws/AmazonRDS/
current/index.json",
        "CSV":"https://pricing.us-east-1.amazonaws.com/offers/v1.0/aws/AmazonRDS/
current/index.csv"
    },
    "regionIndex":"https://pricing.us-east-1.amazonaws.com/offers/v1.0/aws/AmazonRDS/
current/region_index.json",
    "operation":"Publish"
}
```

Example 例: E メール通知

E メールに登録した場合、料金更新 E メールメッセージ本文の構造は次のようになります。

```
Hello,
You've received this notification because you subscribed to receiving updates from SNS
 topic arn:aws:sns:us-east-1:278350005181:price-list-api.

We've published a new version of the offer file for Service <serviceCode>. To download
 the offer file, use the following URLs:
  - JSON format : <JSON URL of the current version price list>
  - CSV format : <CSV URL url of the current version price list>

To download the index for the region-specific offer files, use the following URL:
   - RegionIndexUrl : <Region index URL of the current version price list>

To get a daily email that shows all price changes made the previous day, subscribe to
 the following SNS topic: arn:aws:sns:us-east-1:278350005181:daily-aggregated-price-
list-api.

To learn more about offer files and index files, see  http://docs.aws.amazon.com/
awsaccountbilling/latest/aboutv2/price-changes.html.

Thank You,
Amazon Web Services Team
```

Amazon RDS の E メールメッセージの例は次のようになります。

```
Hello,
You've received this notification because you subscribed to receiving updates from SNS
 topic arn:aws:sns:us-east-1:278350005181:price-list-api.

We've published a new version of the offer file for Service AmazonRDS. To download the
 offer file, use the following URLs:
  - JSON format : https://pricing.us-east-1.amazonaws.com/offers/v1.0/aws/AmazonRDS/
current/index.json
  - CSV format : https://pricing.us-east-1.amazonaws.com/offers/v1.0/aws/AmazonRDS/
current/index.csv

To download the index for the region-specific offer files, use the following URL:
   - RegionIndexUrl : https://pricing.us-east-1.amazonaws.com/offers/v1.0/aws/
AmazonRDS/current/region_index.json

To get a daily email that shows all price changes made the previous day, subscribe to
 the following SNS topic: arn:aws:sns:us-east-1:278350005181:daily-aggregated-price-
list-api.
```

```
To learn more about offer files and index files, see  http://docs.aws.amazon.com/
awsaccountbilling/latest/aboutv2/price-changes.html.

Thank You,
Amazon Web Services Team
```

Savings Plans の通知の構造

料金更新通知の件名は次の形式です。

```
[Pricing Update] New <Savings Plan name> is available.
```

Example 例: Savings Plans の件名

Savings Plans の件名は次のようになります。

```
[Pricing Update] New AWS Compute Savings Plan is available.
```

Example 例: 通知メッセージ

Amazon SQS、Lambda、その他のサービスなどの AWS のサービスを登録している場合、料金更新通知メッセージ本文の構造は次のようになります。

```
{
  "version":"<Version number of this new price list>",
  "offerCode":"<savingsPlanCode which can be used as input to API calls>",
  "savingsPlanCode":"<savingsPlan Name>",
  "topicArn":"arn:aws:sns:us-east-1:626627529009:SavingsPlanPublishNotifications",
  "versionIndex":"<version index url of the version price list>",
  "regionIndex":"<Region index URL of the version price list>"
}
```

例えば、ComputeSavingsPlans の通知は次のようになります。

```
{
  "version":"20230509202901",
  "offerCode":"AWSComputeSavingsPlan",
  "savingsPlanCode":"ComputeSavingsPlans",
  "topicArn":"arn:aws:sns:us-east-1:626627529009:SavingsPlanPublishNotifications",
  "versionIndex":"https://pricing.us-east-1.amazonaws.com/savingsPlan/v1.0/aws/
AWSComputeSavingsPlan/20230509202901/index.json",
```

```
  "regionIndex":"https://pricing.us-east-1.amazonaws.com/savingsPlan/v1.0/aws/
AWSComputeSavingsPlan/20230509202901/region_index.json"
}
```

Example 例: E メール通知

E メールを登録した場合、料金更新 E メール本文の構造は次のようになります。

```
Hello,

You've received this notification because you subscribed to receiving updates from SNS
 topic arn:aws:sns:us-east-1:626627529009:SavingsPlanPublishNotifications.

We've published a new version of <Savings Plan name>.

To download the index of current region specific savings plans, use the following URL:
  - <Region index URL of the version price list>

To download the index of previous versions of savings plans, use the following URL:
  - <version index URL of the version price list>

To learn more about Savings Plans, see http://docs.aws.amazon.com/awsaccountbilling/
latest/aboutv2/price-changes.html.
To learn about finding Savings Plan prices in an offer file, see https://
docs.aws.amazon.com/awsaccountbilling/latest/aboutv2/sp-offer-file.html

Thank You,
Amazon Web Services Team
```

例えば、Savings Plans の E メール本文は次のようになります。

```
Hello,

You've received this notification because you subscribed to receiving updates from SNS
 topic arn:aws:sns:us-east-1:626627529009:SavingsPlanPublishNotifications.

We've published a new version of Compute Savings Plans.

To download the index of current region specific savings plans, use the following URL:
  - https://pricing.us-east-1.amazonaws.com/savingsPlan/v1.0/aws/
AWSComputeSavingsPlan/20230509202901/region_index.json

To download the index of previous versions of savings plans, use the following URL:
```

```
  - https://pricing.us-east-1.amazonaws.com/savingsPlan/v1.0/aws/
AWSComputeSavingsPlan/20230509202901/index.json

To learn more about savings plans, see http://docs.aws.amazon.com/awsaccountbilling/
latest/aboutv2/price-changes.html.
To learn about finding Savings Plan prices in an offer file, see https://
docs.aws.amazon.com/awsaccountbilling/latest/aboutv2/sp-offer-file.html

Thank You,
Amazon Web Services Team
```

の一括請求 AWS Organizations

の一括請求機能を使用して、 AWS アカウント 複数の Amazon Web Services India Private Limited (AWS インド) アカウントの請求と支払いを統合できます。 AWS Organizations AWS Organizations のすべての組織には、すべてのメンバーアカウントの料金を支払う管理アカウントがあります。組織の詳細については、「AWS Organizations ユーザーガイド」を参照してください。

一括請求には次の利点があります。

- 1 つの請求書 – 複数のアカウントに対して 1 つの請求書を受け取るだけで済みます。
- 簡単な追跡 – 複数のアカウントでの料金を追跡し、コストと使用状況の統合データをダウンロードできます。
- 使用状況の結合 – 組織内のすべてのアカウントの使用量を結合し、料金のボリューム割引、リザーブドインスタンスの割引、および Savings Plans を共有できます。その結果、会社、部門、またはプロジェクトでの料金が個々のスタンドアロンアカウントと比較して低くなります。詳細については、「従量制割引」を参照してください。
- 追加料金なし – 一括請求は追加コストなしで提供されます。

> **Note**
>
> メンバーアカウント請求書は情報の提供のみに使用されます。管理アカウントは、各アカウントで利用できる追加のボリューム割引、リザーブドインスタンスの割引、または Savings Plans を再割り当てする場合があります。

管理アカウントへのアクセス権がある場合は、メンバーアカウントで発生した AWS 料金をまとめて確認できます。また、各メンバーアカウントのコストレポートも取得できます。

AWS また、 AWS インドのアカウントを統合することはできません。連絡先の住所がインドにある場合は、 AWS Organizations AWS を使用して組織内のインドのアカウントを統合できます。

> **Important**
>
> メンバーアカウントが組織を離れた場合、そのメンバーアカウントは、組織にいたときに生成された Cost Explorer データにアクセスできなくなります。このデータは削除されず、組

織の管理アカウントは引き続きデータにアクセスできます。再度組織に加わったメンバーアカウントは再びデータにアクセスできます。

トピック

- 一括請求 (コンソリデーティッドビリング) の処理
- EMEA AWS での一括請求
- インドでの一括請求 (コンソリデーティッドビリング)
- 請求発効日、アカウントアクティビティ、数量割引
- AWS クレジット
- リザーブドインスタンス
- 一括請求について
- 短いバージョンの PDF 請求書のリクエスト
- AWS Support のアカウントの料金 AWS Organizations

一括請求 (コンソリデーティッドビリング) の処理

AWS Organizations 一括請求が可能なため、組織内のすべてのメンバーアカウントの合計費用を追跡できます。次のステップは、組織を作成し、一括請求を確認するプロセスの概要を説明します。

1. AWS Organizations コンソールまたは AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。 AWS Billing and Cost Management コンソールを開いている場合は、[Consolidated Billing (一括請求)]、[Get started (今すぐ始める)] の順に選択します。 AWS Organizations コンソールにリダイレクトされます。
2. コンソールで、[Create organization AWS Organizations] を選択します。
3. 新しい組織の管理アカウントになるアカウントから、組織を作成します。詳細については、組織の作成を参照してください。管理アカウントは、すべてのメンバーアカウントの料金の支払い責任を負います。
4. (オプション) 組織のメンバーのアカウントを自動で作成します。詳細については、「AWS アカウント 組織内でのアカウント作成」を参照してください。
5. (オプション) 既存のアカウントを招待して組織に統合します。詳細については、「組織への AWS アカウント の招待」を参照してください。
6. 毎月、 AWS すべてのメンバーアカウントの料金を管理アカウントに一括請求します。

メンバーアカウントのすべての料金が管理アカウントに請求されます。しかし、組織内で (一括請求のみではなく) 機能をすべてサポートするように組織が変更されない限り、また、ポリシーによりメンバーアカウントが明示的に制限されない限り、各メンバーアカウントは他のメンバーアカウントから独立しています。たとえば、メンバーアカウントの所有者は、管理アカウントでそれらの操作が制限されていない限り、 AWS サービスにサインアップ、リソースへのアクセス、 AWS プレミアム Support の使用を行うことができます。各アカウントの所有者は引き続き、自分のサインイン認証情報を使用し、組織内の他のアカウントとは独立して割り当てられたアカウント許可を持ちます。

一括請求管理アカウントのセキュリティを確保する

組織内の管理アカウントの所有者は、AWS Multi-Factor Authentication (多要素認証) と強力なパスワードを使用してアカウントを安全に保ってください。パスワードには 8 文字以上で、大文字と小文字の両方、1 つ以上の数字、1 つ以上の特殊文字を含めてください。パスワードの変更は、AWS セキュリティ認証情報のページで行います。

EMEA AWS での一括請求

一括日次請求書機能で請求額を合算すると、1 日に受け取る請求書の数を減らすことができます。次の要件が満たされている場合、この機能は自動的にオプトインされます。

- Amazon Web Services EMEA SARL (ヨーロッパ) エンティティを通じて請求書が発行されます。 AWS アカウント AWS 詳細については、「AWS ヨーロッパでの支払い管理」を参照してください。
- 請求書による支払いの支払い方法を使用している。この機能は、クレジットカードまたは自動引き落としによる支払い方法では利用できません。

この機能では以下の項目が統合されます。

- 毎日のサブスクリプションと請求書が 1 つの請求書にまとめられます。 out-of-cycle
- 複数のクレジットメモが 1 つの請求書に統合されます。

例えば、今日、リザーブドインスタンスを 3 つ購入し、2 つのクレジットメモを受け取った場合、その日の終わりに合計 2 つの請求書が届きます。1 つの請求書にはリザーブドインスタンスの購入が含まれ、もう 1 つにはクレジットメモが含まれます。

統合期間

AWS UTC の深夜 23:59 から 24:00 までの間に、サブスクリプションの請求書と返金を処理します。AWS 次に、過去 24 時間の一括請求書とクレジットメモを生成します。一括請求は数分以内に利用可能になります。

対象サービス

日次請求書には、 AWS のサービス 購読、 out-of-cycle 購入、クレジットメモが含まれます。この機能には以下は含まれません。

- AWS Marketplace 購入品
- AWS 毎月のサービスと記念日の請求書
- 複数の異なる元の請求書に対して発行されたクレジットメモ

  例えば、元の請求書 ID 123 のクレジットメモ A を受け取り、元の請求書 ID 456 に対して別のクレジットメモ B を受け取ったとします。同じ日に発行されたものであっても 2 つの クレジットメモは統合されません。クレジットメモは、元の請求書 ID と同じものに対して発行された場合にのみ統合されます。
- AWS Support 購入 (AWS Support プラン変更など)
- 一部の Amazon Route 53 サービス (ドメイン名の購入など)、 AWS Partner Network AWS Managed Services、および re: Invent や re: Inforce AWS などのカンファレンスの料金

通貨と外国為替レート

クレジットメモでは、元の請求書と同じ通貨と為替レートが使用されます。

サブスクリプション請求書の場合、過去 24 時間以内に処理されたすべての 1 AWS 回限りの料金に最新の通貨設定を適用します。たとえば、午前中にリザーブドインスタンスを購入し、午後に希望通貨を変更した場合、 AWS 午前中に購入する通貨が新しい優先通貨に換算されます。この更新は、その日に生成された一括請求書に表示されます。

AWS Cost and Usage Report への変更

一括請求では、1 AWS 回限りの請求を処理してから、 AWS AWS 予算を使用して設定したコストと使用状況レポート (AWS CUR)、Cost Explorer、またはコスト予算アラートに表示されるまでに最大 24 時間かかることがあります。

償却後の 1 回限りの前払いリザーブドインスタンス料金は、引き続き AWS CUR、Cost Explorer、または Budgets で確認できます。

一括請求機能の無効化

既定では、この機能はお客様のアカウントに対して有効になります。この機能が不要な場合は、次に説明する手順に従います。

一括請求を無効にするには

1. AWS Support Center Consoleにサインインします。
2. アカウントと請求のサポートケースを作成します。
3. [サービス] で [請求] を選択します。
4. [カテゴリ] で、[一括請求] を選択します。
5. プロンプトに従ってケースを作成します。

> **Note**
>
> 一括請求を後でもう一度有効にする場合は、この手順を繰り返します。

インドでの一括請求 (コンソリデーティッドビリング)

新しいアカウントにサインアップし、連絡先住所としてインドを選択した場合、 AWS ユーザー契約はインドのローカルセラーであるAmazon Web Services インディアプライベートリミテッド (AWS インド) との間になります。 AWS 請求はインドが管理し、請求総額はドルではなくルピーで表示されます。 AWS インドでアカウントを作成した後は、連絡先情報の国を変更することはできません。

インドの住所を持つ既存のアカウントをお持ちの場合、アカウントは、アカウントを開設した時期に応じて、 AWS AWS インドかインドのどちらかになります。 AWS AWS アカウントがウィズかインドかについては、を参照してください登録販売者の検索。 AWS 既存のお客様であれば、引き続きご利用いただけます AWS アカウント。 AWS AWS アカウントとインドアカウントの両方を持つこともできますが、同じ組織に統合することはできません。(現在、 AWS AWS 既存のアカウントをインドからインドに移行することはできません)。 AWS インドの組織に所属している場合、管理アカウントはすべてのメンバーアカウントの PAN 番号を編集できます。

インドの管理アカウントから組織を作成した場合、 AWS AWS 他のインドのアカウントのみを組織に招待できます。 AWS アカウントは招待できません。

が付いた管理アカウントから組織を作成した場合 AWS、 AWS アカウント その組織に招待できるのは他のユーザーだけです。 AWS インドのアカウントは招待できません。

請求発効日、アカウントアクティビティ、数量割引

お客様が組織に参加するリクエストを、アカウント所有者が受け入れると、メンバーアカウントの料金は即座にお客様の責任となります。メンバーアカウントが月の途中で参加した場合、管理アカウントはその月の後半分のみ請求されます。

たとえば、メンバーアカウントが 3 月 10 AWS 日に組織に加入した場合、3 月 10 日から始まるメンバーアカウントの使用期間を管理アカウントに請求します。それが発生する前の月の部分はメンバーアカウントの元の所有者に請求されます。

請求およびアカウントアクティビティ

毎月、メンバーアカウントの所有者ではなく、 AWS 管理アカウントの所有者に請求されます。組織内のすべてのアカウントの合計使用量を表示するには、管理アカウントの [Bills] ページを参照してください。 AWS は日に複数回、ページを更新します。さらに、 AWS ダウンロード可能なコストレポートを毎日利用できるようにします。

メンバーアカウントの所有者には請求は行われませんが、請求ページにアクセスすると使用量や料金を確認できます。 AWS メンバーアカウント所有者は、請求書にある管理アカウントや他のメンバーアカウントのデータを表示したり取得したりすることはできません。

従量制割引

請求に関しては、組織内のすべてのアカウントを 1 AWS つのアカウントとして扱います。 AWS Data Transfer や Amazon S3 などの一部のサービスには、特定の使用範囲にわたるボリューム価格帯があり、サービスを利用すればするほど価格が下がります。一括請求 (コンソリデーティッドビリング) では、 AWS すべてのアカウントの使用量を合算して適用するボリューム価格帯を決定し、可能な限り全体的価格を下げます。 AWS 次に、各メンバーアカウントに、アカウントの使用状況に基づいて総ボリュームdiscount の一部を割り当てます。

たとえば、ボブの一括請求には、ボブ自身のアカウントとスーザンのアカウントの両方が含まれているとします。ボブのアカウントは管理アカウントであるため、自分自身とスーザンの両方の料金を支払います。

月単位で、ボブは 8 TB、スーザンは 4 TB のデータを転送しています。

この例では、転送された最初の 10 TB のデータには 1 GB あたり 0.17 USD、次の 40 TB には 0.13 USD AWS が課金されます。これは換算すると、最初の 10 TB に対して TB 当たり 174.08 USD (= 0.17 × 1024)、次の 40 TB に対して TB 当たり 133.12 USD (= 0.13 × 1024) になります。1 TB = 1024 GB です。

ボブとスーザンが使用した 12 TB は、ボブの管理アカウントに対して、次のように請求されます。(174.08 USD × 10 TB) + (133.12 USD × 2 TB) = 1,740.80 USD + 266.24 USD = 2,007.04 USD

一括請求での階層化というメリットがなければ、ボブとスーザンは、それぞれの使用量に対して TB あたり 174.08 USD、合計で 2,088.96 AWS ドルを請求することになります。

料金の詳細については、「AWS の料金」を参照してください。

AWS 無料利用枠 AWS Organizations

Amazon EC2 のように無料利用枠をサポートしているサービスの場合、 AWS AWS 無料利用枠は組織内のすべてのアカウントの合計使用量に適用されます。 AWS 無料利用枠は各アカウントに個別には適用されません。

AWS 無料利用枠の制限を超えているのか、それとも無料利用枠の制限を超えると予測されるのかを追跡する予算を提供します。組織の無料利用枠の予算はデフォルトでは有効になっていません。管理アカウントでは、請求情報とコスト管理コンソールを使用して無料利用枠使用状況アラートをオプトインすることができます。無料利用枠使用状況アラートは、個々のメンバーアカウントでは使用できません。

無料利用枠の詳細については、「AWS 無料利用枠のよくある質問」を参照してください。 AWS Budgets AWS とオプトインによる無料利用枠の使用状況アラートについて詳しくは、を参照してください。AWS 無料利用枠使用状況アラートの使用

AWS クレジット

AWS クレジットは請求書に自動的に適用され、対象となるサービスに関連する費用を賄うのに役立ちます。対象サービスの詳細については、「AWS プロモーションクレジットの利用」を参照してください。クレジットは、なくなるか期限切れになるまで適用されます。

AWS クレジット全般に関するご質問や、すでに有効期限が切れているクレジットに関するご質問は、お問い合わせください。 AWS Support問い合わせ方法の詳細については AWS Support、を参照してくださいAWS 請求のヘルプを利用する。

AWS クレジットを閲覧する

- 前回の請求日以降のクレジット残高を表示するには、[請求] コンソールの [クレジット] ページに移動します。クレジット残高は [残高] 列で確認できます。クレジット残高は毎月、現在の請求サイクルの終了時に更新されます。たとえば、今月の請求書に既にクレジットを適用している場合、[残高] 列はその請求サイクルの終了時に更新されます。
- 当月の推定クレジット残高を表示するには、[請求] コンソールの [請求書] ページに移動し、[削減額] タブを選択します。このクレジット残高は 24 時間ごとに更新され、最新の推定クレジット残高が表示されます。

トピック

- ステップ 1 : 適用するクレジットの選択
- ステップ 2: クレジット適用先の選択
- ステップ 3:1 AWS つのアカウントと複数のアカウントにクレジットを適用する
- ステップ 4: クレジットの共有 AWS

ステップ 1 : 適用するクレジットの選択

このセクションでは、 AWS AWS アカウントクレジットがシングルまたはスタンドアロンでどのように適用されるかを説明します。 AWS アカウント に複数のクレジットがある場合、利用可能なクレジットは次の順序で適用されます。

AWS アカウント に複数のクレジットがある場合のクレジットの適用順序

1. 全体の中で残りの有効期限が最も短いクレジット
2. 対象サービスの数が最も少ないクレジット
3. 全体の中で最も古いクレジット

たとえば、ジョージが 2 つのクレジットを使用できる場合を考えます。クレジット 1 は、2019 年 1 月期限の 10 USD 相当で、Amazon S3 にも Amazon EC2 にも利用でき ます。クレジット 2 は、2019 年 12 月期限の 5 USD 相当で、Amazon EC2 のみで使用できます。Jorge には、 AWS すべてのクレジットを適用するのに十分な料金がかかります。 AWS クレジット 1 はクレジット 2 よりも早く有効期限が切れるため、最初に申請用にクレジット1を選択します。

Note

- クレジットを消費した後も有効な使用量が残っている場合は、クレジットがすべて消費されるか、使用量が満たされるまで、このプロセスが繰り返されます。
- クレジットは、最も高額のサービス料金 (例えば、Amazon EC2、Amazon S3 など) に適用されます。その後、クレジットは、料金が高いサービスから低いサービスに向け順に消費されます。
- クレジットは、請求プロセス中に顧客が選択しなくても適用できます。 AWS 対象となるクレジットは、該当するサービスに自動的に適用されます。

ステップ 2: クレジット適用先の選択

このセクションでは、 AWS AWS Organizations クレジットシェアリングがオンになっている場合とクレジットシェアリングが有効になっている場合のクレジットの適用方法を示します。

クレジットが適用される順序と、 AWS Organizations クレジットシェアリングがアクティブになったときのクレジットの適用順序

1. クレジットを所有するアカウントでは、サービスの利用料金が補償されます。
2. AWS アカウント クレジットは支出が最も多い人に適用されます。
3. 連結アカウントでは、請求は特定のフィールドごとにグループ化され、クレジットは請求額が最も高いグループに適用されます。
4. このグループ内で、クレジットが最も高い料金に最初に適用されます

このプロセスは、クレジットがすべて消費されるか、お客様のために補償するべき支出がなくなるまで継続します。

AWS 対象となるすべての記録上の出品者のうち、利用可能な最大の請求額にクレジットを適用します。つまり、 AWS 有効期限が切れる前にクレジットを適用しようとします。したがって、特定のサービスに対して一般的なクレジットを使用する可能性があります。

たとえば、ジョージが 2 つのクレジットを使用できる場合を考えます。クレジット 1 は、2019 年 1 月期限の 10 USD 相当で、Amazon S3 にも Amazon EC2 にも利用でき ます。クレジット 2 は、2019 年 12 月期限の 5 USD 相当で、Amazon EC2 のみで使用できます。Jorge さんには、Amazon EC2 が 100 ドルで、Amazon S3 が 50 AWS ドルという料金の 2 つがあります。 AWS 1月に期限が切れるクレジット1をAmazon EC2の請求に適用します。これにより、彼には90ドルの

Amazon EC2料金と50ドルのAmazon S3 料金がかかります。 AWS 残りの 90 ドルの Amazon EC2 使用分にクレジット 2 を適用し、ホルへは Amazon EC2 に 85 ドル、Amazon S3 に 50 ドルを支払う必要があります。彼は今、自分のクレジットのすべてを使用しました。

ステップ 3:1 AWS つのアカウントと複数のアカウントにクレジットを適用する

以下のルールでは、 AWS 単一アカウントと組織の請求書にデフォルトでクレジットを適用する方法を指定しています (クレジットシェアリングが有効)。

- 請求サイクルは毎月の初日に始まります。
- 組織のメンバーではない個人が月の初日に所有したとします。 AWS アカウント 同じ月の後半に、この個人のアカウントが組織に追加されたとします。このような場合は、 AWS その個人のクレジットをその月の利用料金に充当します。つまり、 AWS その個人が組織に加入した日までにクレジットが適用されます。

  > **Note**
  >
  > 個人のアカウントのクレジットは、その個人が組織に追加された日から同月末までの、アカウントでの使用をカバーしません。この期間は、個人のアカウントのクレジットは請求に適用されません。ただし、翌月から、 AWS 個人のアカウントクレジットが組織に適用されます。

- アカウントが組織によってその月の最初の日時点で所有されている場合、 AWS は、そのアカウントが同じ月に組織を離れた場合でも、支払人アカウントまたはリンクされたアカウントが償還したクレジットを組織の請求書に適用します。月の始まりは 0:00 UTC+0 の 1 秒後に始まります。例えば、あるアカウントが 8 月 1 日に組織を離れるとします。このアカウントはその暦月中は組織に属していたため、組織の請求に、アカウントが償還した 8 月のクレジットが AWS により適用されます。
- その月の間に個人が組織を退職した場合、 AWS 翌月の初日に個人のアカウントにクレジットの適用が開始されます。
- クレジットは、該当月の任意の時点で組織に加入するすべてのアカウントと共有されます。ただし、組織の共有クレジットプールは、月の最初の日から組織の一員となっているアカウントからのクレジットのみで構成されます。

例えば、スーザンが月の最初の日に単一のアカウントを所有していて、その月に組織に加わるとします。また、その人が組織に入会した翌日にクレジットを引き換えると仮定します。 AWS その月の初

めから組織に加入した日までに発生した使用量に対して、クレジットを自分のアカウントに適用します。ただし、次の月の最初の日以降は、組織の請求にクレジットが AWS により適用されます。スーザンが組織を離れた場合、スーザンが請求したクレジットは、離脱の翌月 1 日まで組織の請求書に適用されます。彼女が離れた後の月から開始し、組織の請求の代わりに彼女の請求にスーザンのクレジットが AWS により適用されます。

別の例では、スーザンは 1 月 1 日に単一のアカウントを所有していて、1 月 11 日に組織に加わったとします。Susan が 1 月 18 日に 100 ドルのクレジットを引き換えたら、 AWS そのクレジットを 1 月に発生した使用量のアカウントに充当します。2 月 1 日以降から、スーザンのクレジットは組織の一括請求に適用されます。スーザンのクレジットが 50 USD で 4 月 16 日に組織を離れた場合は、スーザンのクレジットは組織の 4 月度の一括請求に適用されます。5 月から、スーザンのクレジットは自身のアカウントに適用されます。

ステップ 4: クレジットの共有 AWS

Billing and Cost Management コンソールの [請求設定] ページで、クレジット共有を無効化できます。次のルールでは、クレジット共有を無効化した場合の、単一のアカウントおよび組織の請求へのクレジットの適用方法を指定します。

- 請求サイクルは毎月の初日に始まります。
- クレジットは、クレジットを受け取ったアカウントのみに適用されます。
- 請求書は、月の最終日にアクティブになっているクレジット共有設定を使用して計算されます。
- 組織内では、支払者アカウントのみがクレジット共有の有効化または無効化を切り替えることができます。支払いアカウントのユーザーは、クレジットを共有できるアカウントを選択することもできます。

クレジット共有設定

このセクションで、請求ファミリーのメンバーアカウント間でクレジット共有を有効にできます。特定のアカウントを選択することも、すべてのアカウントで共有を有効にすることもできます。

> **Note**
>
> このセクションは、の一部として管理口座 (支払い口座) でのみ利用できます。 AWS Organizations

メンバーアカウントのクレジット共有を管理するには

1. https://console.aws.amazon.com/billing/ AWS Billing and Cost Management でコンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで、[請求設定] を選択します。
3. [クレジットの共有設定] セクションで、[編集] を選択します。
4. 特定のアカウントのクレジット共有を有効または無効にするには、表からアカウントを選択し、[有効化] または [無効化] を選択します。
5. すべてのアカウントのクレジット共有を有効または無効にするには、[アクション] を選択し、[すべて有効化] または [すべて無効化] を選択します。
6. [更新] を選択します。

> **Tip**
>
> - 組織に加入する新しいアカウントのクレジット共有を有効にするには、[新しく作成したメンバーアカウントのデフォルト共有] を選択します。
> - クレジット共有設定の履歴をダウンロードするには、[設定履歴 (CSV) をダウンロード] を選択します。

リザーブドインスタンス

請求に関しては、の一括請求機能では組織内のすべてのアカウントが 1 AWS Organizations つのアカウントとして扱われます。これは、組織内のすべてのアカウントは、他のアカウントで購入したリザーブドインスタンスの時間単位のコスト利点を受けることができるということを意味しています。

請求情報とコスト管理コンソールの [設定] ページで、リザーブドインスタンスの共有の割引を無効化することができます。詳細については、「the section called “リザーブドインスタンスと Savings Plans の割引共有”」を参照してください。

トピック

- 特定のサービスの請求例
- リザーブドインスタンスと Savings Plans の割引共有

特定のサービスの請求例

AWSの一括請求がの特定のサービスでどのように機能するかについては、他にも知っておくべきことがいくつかあります。

Amazon EC2 リザーブドインスタンス

たとえば、Amazon EC2 リザーブド DB インスタンスの例として、ボブとスーザンが組織内でそれぞれアカウントを持っているとします。スーザンは 5 つの同じタイプのリザーブドインスタンスを持っていて、ボブは何も持っていません。組織の一括請求では、1 時間に Susan が 3 つ、Bob が 6 つのインスタンスを使用しているため、合計 9 つのインスタンスが使用されます。 AWS 5 つのインスタンスをリザーブドインスタンスとして、残りの 4 つのインスタンスを通常のインスタンスとして請求します。

スーザンがリザーブドインスタンスを購入したのと同じ利用可能ゾーンでボブがインスタンスを起動する場合にのみ、ボブはスーザンのリザーブドインスタンスのコスト利点を受けることができます。たとえば、スーザンがリザーブドインスタンス購入の際に `us-west-2a` を指定した場合、ボブが組織の一括請求でコストメリットを得るためには、ボブは自分のインスタンス起動時に `us-west-2a` を指定する必要があります。しかし、Availability Zone の実際の口ケーションは、アカウント間で独立しています。たとえば、ボブのアカウントの `us-west-2a` アベイラビリティーゾーンは、スーザンのアカウントの口ケーションとは異なる口ケーションにある可能性があります。

Amazon RDS リザーブド DB インスタンス

たとえば、Amazon RDS リザーブド DB インスタンスの例として、ボブとスーザンが組織内でそれぞれアカウントを持っているとします。スーザンが 5 つのリザーブド DB インスタンスを持っていて、ボブは何も持っていないとします。1 時間の間に、スーザンは 3 つの DB インスタンス、ボブは 6 つの DB インスタンスを使用します。つまり、一括請求では合計 9 つの DB インスタンスが使用されます。 AWS 請求では、5 つをリザーブド DB インスタンスとして、残りの 4 つをオンデマンド DB インスタンスとして請求します (Amazon RDS リザーブド DB インスタンスの料金については、料金ページを参照してください)。スーザンがリザーブド DB インスタンスを購入したのと同じリージョンでボブが DB インスタンスを起動する場合にのみ、ボブはスーザンのリザーブド DB インスタンスのコスト利点を受けることができます。

また、「リザーブド DB インスタンス」で説明されているように、Susan のリザーブド DB インスタンスのすべての関連属性が、Bob によって起動された DB インスタンスの属性と一致する必要があります。たとえば、スーザンが以下の属性で、`us-west-2` でリザーブド DB インスタンスを購入したとします。

- DB エンジン: Oracle
- DB インスタンスのクラス: `m1.xlarge`
- デプロイのタイプ: Multi-AZ

これは、ボブが組織の一括請求においてコストメリットを得るためには、正確に同じ属性を持つ自身の DB インスタンスを `us-west-2` で起動する必要があることを意味しています。

Amazon ElastiCache リザーブドノードインスタンス

Amazon ElastiCache リザーブドノードの例として、Bob と Susan がそれぞれ組織にアカウントを持っているとします。スーザンが 5 つのリザーブドノードを持っていて、ボブは何も持っていないとします。ある特定の 1 時間の内に、スーザンは 3 つのノードを使用し、ボブは 6 つ使用します。これにより、合計 9 個のノードが一括請求に使用されます。

AWS 5 つをリザーブドノードとして請求します。 AWS 残りの 4 つをオンデマンドノードとして請求します。(Amazon ElastiCache リザーブドノードの料金については、Amazon ElastiCache 料金表を参照してください)。スーザンがリザーブドノードを購入したのと同じリージョンでボブがオンデマンドノードを起動する場合にのみ、ボブはスーザンのリザーブドノードのコスト利点を受けることができます。

また、スーザンのリザーブドノードのコスト利点を受けるには、ボブのノードの全属性が、スーザンが起動したノードの属性と一致する必要があります。たとえば、スーザンが以下の属性で、`us-west-2` でリザーブドノードを購入したとします。

- キャッシュエンジン: Redis
- ノードの種類: `cache.r3.large`

`us-west-2`組織の一括請求で費用対効果を得るには、 ElastiCache ボブは同じ属性でノードを起動する必要があります。

Amazon OpenSearch サービスリザーブドインスタンス

Amazon OpenSearch Service リザーブドノードの例として、Bob と Susan がそれぞれ組織にアカウントを持っているとします。スーザンが 5 つのリザーブド インスタンスを持っていて、ボブは何も持っていないとします。ある特定の 1 時間の内に、スーザンは 3 つのインスタンスを使用し、ボブは 6 つ使用します。これにより、合計 9 個のインスタンスが一括請求に使用されます。

AWS 5 つをリザーブドインスタンスとして請求します。 AWS 残りの 4 つをオンデマンドインスタンスとして請求します。(Amazon OpenSearch サービスのリザーブドインスタンス料金については、Amazon OpenSearch サービスの料金表を参照してください)。スーザンがリザーブドインスタンスを購入したのと同じ AWS リージョン でボブがオンデマンドインスタンスを起動する場合にのみ、ボブはスーザンのリザーブドインスタンスのコスト利点を受けることができます。

スーザンのリザーブドインスタンスのコスト利点を受けるには、スーザンが予約したものと同じインスタンスタイプをボブも使用する必要があります。たとえば、スーザンが us-west-2 で m4.large.elasticsearch インスタンスを購入したとします。ボブは、us-west-2組織の一括請求で費用対効果を得るために、同じインスタンスタイプで Amazon OpenSearch Service ドメインを起動する必要があります。

リザーブドインスタンスと Savings Plans の割引共有

組織の管理アカウントは、組織内のすべてのアカウント (管理アカウントを含む) においてリザーブドインスタンスの割引と Savings Plans の割引の共有を無効にすることができます。つまり、リザーブドインスタンスと Savings Plans の割引は、共有を無効にしたすべてのアカウント間で共有されなくなります。

アカウントでリザーブドインスタンスまたは Savings Plans の割引を共有するには、両方のアカウントで共有を有効にする必要があります。設定はいつでも変更できます。各請求見積りは、最後の設定のセットを使用して計算されます。月の最終請求額は、月の最終日の午後 11 時 59 分 59 秒 (UTC 時) に指定されている設定に基づいて計算されます。

> **Important**
>
> リザーブドインスタンスと Savings Plans の割引共有を無効にすると、毎月の請求額が高くなる可能性があります。

トピック

- 共有リザーブドインスタンスと Savings Plans の割引の無効化
- 共有リザーブドインスタンスと Savings Plans の割引の有効化

共有リザーブドインスタンスと Savings Plans の割引の無効化

個々のメンバーアカウントの共有割引を無効にすることができます。

共有リザーブドインスタンスと Savings Plans の割引を無効にするには

1. AWS Management Console にサインインし、https://console.aws.amazon.com/billing/ AWS Billing and Cost Management のコンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで、[請求設定] を選択します。
3. [リザーブドインスタンスと Savings Plans のアカウント別の割引共有設定] で、割引共有を無効にするアカウントを選択します。
4. [無効化] を選択します。
5. [リザーブドインスタンスと Savings Plans の共有の無効化] ダイアログボックスで [無効化] を選択します。

> **Tip**
>
> [アクション] を選択してから [すべて無効化] を選択して、すべてのアカウントのリザーブドインスタンスと Savings Plans の共有を無効にすることもできます。

共有リザーブドインスタンスと Savings Plans の割引の有効化

コンソールを使用して、アカウントのリザーブドインスタンス共有割引を有効にできます。

アカウントセットで Savings Plans を共有することができます。特典を他のアカウントと共有しないか、アカウントの統合された請求ファミリー全体のラインアイテムの利用資格をオープンするかを選択できます。

共有リザーブドインスタンスと Savings Plans の割引を有効にするには

1. AWS Management Console にサインインし、https://console.aws.amazon.com/billing/ AWS Billing and Cost Management でコンソールを開きます。

   > **Note**
   >
   > AWS Organizationsの管理アカウントにログインしていることを確認します。

2. ナビゲーションペインで、[請求設定] を選択します。
3. [リザーブドインスタンスと Savings Plans のアカウント別の割引共有設定] で、割引共有を有効にするアカウントを選択します。

4. [アクティブ化] を選択します。
5. [リザーブドインスタンスと Savings Plans の共有の有効化] ダイアログボックスで、[有効化] を選択します。

> **Tip**
>
> [アクション] を選択してから [すべて有効化] を選択して、すべてのアカウントのリザーブドインスタンスと Savings Plans の共有を有効にすることもできます。

一括請求について

で組織を管理している場合は AWS Organizations、一括請求を使用して組織内のアカウントの使用コストを集計して表示できます。一括請求 (コンソリデーティッドビリング) はコスト削減にも役立ちます。たとえば、 AWS 製品やサービスの価格を可能な限り低く抑えるために、使用量が多くなると、インスタンスの事前購入 (予約またはリザーブドインスタンスと呼ばれる) AWS の割引価格や割引料金が適用される価格帯を用意しています。一括請求 (コンソリデーティッドビリング) を使用して、複数のアカウントの使用量を 1 つの請求書にまとめて、より安価な階層により迅速に達することができます。また、あるアカウントの未使用の予約を別のアカウントのインスタンス使用量に適用することもできます。

トピック

- 一括請求の計算方法
- 料金階層
- リザーブドインスタンス
- Savings Plans
- ブレンドレートとコスト

一括請求の計算方法

組織内では、管理アカウントがメンバーアカウントで発生したすべての料金を支払います。管理アカウントの管理者であり、適切な権限を持っている場合、すべてのメンバーアカウントのリザーブドインスタンス割引とボリューム階層の合計使用コストを表示できます。 AWS アカウントの使用状況に基づいてメンバーアカウントごとに個別の請求書が作成されるため、個々のメンバーアカウントに発生する料金を確認することもできます。 AWS 管理アカウントの請求書には、各アカウントの請求書

の概要も含まれています。は、 AWS 請求期間ごとに予想請求額を毎日数回計算するので、組織で発生した費用を追跡できます。請求書は翌月の月初までは確定されません。

> **Note**
>
> メンバーアカウントと同様に、管理アカウントにも利用料金が発生する可能性があります。ただし、ベストプラクティスとして、管理アカウントを使用してサービスを実行しないでください。 AWS 例外は、組織自体を管理するために必要なサービスおよびリソースの場合です。たとえば、一括請求の管理の一環として、管理アカウントに S3 AWS バケットを作成してコストと使用状況レポートを保存することができます。

料金階層

AWS サービスの中には、 AWS 定義した使用量の単位コストを指定する階層単位で価格設定されているものもあります。使用量が増えてしきい値を超えると、1 か月の追加使用量についてさらに安い単価を指定する新しい料金階層に移行します。 AWS 使用量は毎月測定されます。使用量を測定するには、組織内のすべてのアカウントを 1 AWS つのアカウントとして扱います。メンバーアカウントが個別に階層の限度に達することはありません。代わりに、組織でのすべての使用量がサービスごとに集計され、より安い価格階層がより迅速に適用されます。毎月の初めに、サービスの使用量がゼロにリセットされます。

AWS 各サービスは個別に価格情報を公開します。すべての個別の料金表ページには、AWS 料金のページからアクセスできます。

Amazon S3 Standard ストレージのコストの計算

次の表は、料金範囲の例を示しています (コストが異なる場合があります)。詳細については、「Amazon S3 の料金」を参照してください。

Amazon S3 の料金階層

階層の説明	GB あたりの料金	GB あたりの料金
最初の 1 TB/月	0.10 USD	100.00 ドル
次の 49 TB/月	$0.08	80.00 ドル
次の 450 TB/月	0.06 USD	60 ドル

次のテーブルでは、管理アカウントと 3 つのメンバーアカウントを含む、組織の Amazon S3 の使用状況を示しています。

S3 使用量のブレンドコストの例

アカウント	階層	ストレージ量 (GB)	ストレージ量 (TB)	非ブレンドレート (/GB)	非ブレンドレート (/TB)	非ブレンドコスト
管理	最初の 1 TB/月	1,000	1	0.10 USD	100	100.00 ドル
	次の 49 TB/月	49,000	49	$0.08	80	3,920.00 ドル
	次の 450 TB/月	45,000	45	0.06 USD	60	2,700.00 ドル
合計		95,000	95			6,720.00 ドル

アカウント	階層	ストレージ量 (GB)	ストレージ量 (TB)	非ブレンドレート (/GB)	非ブレンドレート (/TB)	非ブレンドコスト	ブレンドレート (/GB) (=6,720/95,000 USD)	ブレンドレート (/TB) (=6,720/95 USD)	ブレンドコスト (= ブレンドレート * ストレージ)
メンバー 1	最初の 1 TB/月	1,000	1	0.10 USD	100	100.00 ドル	0.070737	70.737	70.37 ドル

アカウント	階層	ストレージ量 (GB)	ストレージ量 (TB)	非ブレンドレート (/GB)	非ブレンドレート (/TB)	非ブレンドコスト	ブレンドレート (/GB) (=6,720/5,000 USD)	ブレンドレート (/TB) (=6,720/5 USD)	ブレンドコスト (= ブレンドレート * ストレージ)
	次の 49 TB/月	14,000	14	$0.08	80	1,120.00 ドル	0.070737	70.737	990.318 ドル
	次の 450 TB/月	15,000	15	0.06 USD	60	900.00 ドル	0.070737	70.737	1,061.055

アカウント	階層	ストレージ量 (GB)	ストレージ量 (TB)	非ブレンドレート (/GB)	非ブレンドレート (/TB)	非ブレンドコスト	ブレンドレート (/GB) (=6,720/5,000 USD)	ブレンドレート (/TB) (=6,720/5 USD)	ブレンドコスト (= ブレンドレート * ストレージ)
メンバー 2	次の 49 TB/月	20,000	20	$0.08	80	1,600.00 ドル	0.070737	70.737	1,414.74 ドル

アカウント	階層	ストレージ量 (GB)	ストレージ量 (TB)	非ブレンドレート (/GB)	非ブレンドレート (/TB)	非ブレンドコスト	ブレンドレート (/GB) (=6,720/9 5,000 USD)	ブレンドレート (/TB) (=6,720/9 5 USD)	ブレンドコスト (= ブレンドレート * ストレージ)
	次の 450 TB/月	15,000	15	0.06 USD	60	900.00 ドル	0.070737	70.737	1,061.55

アカウント	階層	ストレージ量 (GB)	ストレージ量 (TB)	非ブレンドレート (/GB)	非ブレンドレート (/TB)	非ブレンドコスト	ブレンドレート (/GB) (=6,720/9 5,000 USD)	ブレンドレート (/TB) (=6,720/9 5 USD)	ブレンドコスト (= ブレンドレート * ストレージ)
メンバー 3	次の 49 TB/月	15,000	15	$0.08	80	1,200.00 ドル	0.070737	70.737	1,061.55
	次の 450 TB/月	15,000	15	0.06 USD	60	900.00 ドル	0.070737	70.737	1,061.55

上記の表の費用は次のように計算されます。

1. 組織の全使用量は合計 95 TB (95,000 GB) です。これは、管理アカウントの記録用に加算されます。管理アカウントそのものの使用量はありません。使用料は、メンバーアカウントにのみ発生します。メンバー 1 は、1 TB のストレージを使用しています。この場合、組織の最初の料金範囲を満たしています。2 番目の料金範囲は、3 つのメンバーアカウント (メンバー 1 の 14 TB + メンバー 2 の 20 TB + メンバー 3 の 15 TB = 49 TB) によって満たされています。3 番目の料金範囲は、49 TB を超える使用量に適用されます。この例では、3 番目の料金範囲は、合計使用量が 45 TB のメンバーアカウントに適用されます。
2. 合計コストは、最初の 1 TB のコスト (1,000 GB x 0.10 USD = 100.00 USD) を、次の 49 TB のコスト (49,000 GB x 0.08 USD = 3,920 USD) と残りの 45 TB のコスト (45,000 GB x 0.06 USD = 2,700 USD) に加算して算出します。その結果、合計コストは、6,720 USD (100.00 USD + 3920.00 USD + 2700.00 USD = 6720.00 USD) になります。

上の例は、 AWS Organizations で一括請求を使用することでストレージにかかる月間全体のコストがどのように削減されるかを示しています。各メンバーアカウントのコストを個別に計算した場合、合計コストは 6,720 USD ではなく、7,660 USD です。3 つのアカウントの使用量を合計することで、より安い料金階層に、より早く移行することができます。最も高価なストレージ (最初の 1 TB) が最大料金で請求されるのは 1 回のみです。3 回請求されることはありません。たとえば、3 TB のストレージを最大レートの 100 USD/TB で使用すると、300 USD になります。このストレージについて、最初の 1 TB (100 USD) と、80 USD の追加の 2 TB (160 USD) で請求すると、合計請求額は 260 USD です。

リザーブドインスタンス

AWS また、前払い料金と期間契約と引き換えに、時間単位の料金が割引されます。

ゾーン リザーブドインスタンス

リザーブドインスタンスは、前払いの料金および期間契約と引き換えに、時間料金を割引する予約です。Amazon Elastic Compute Cloud (Amazon EC2) や Amazon Relational Database Service (Amazon RDS) などのサービスでは、このアプローチを使用して、予約されたキャパシティーをリザーブドインスタンスとして販売しています。仮想マシンではありません。リザーブドインスタンスは、特定の Amazon EC2 または Amazon RDS インスタンスについて事前に料金を支払うという約束です。見返りとして、オンデマンドインスタンスの使用状況と比較して、割引レートが適用されます。リザーブドインスタンスとオンデマンドインスタンスに技術的な違いはありません。インスタンスを起動すると、有効な予約に適用できる組織内のすべてのアカウントについて、 AWS 対象となる使用量が確認されます。詳細については、Linux インスタンス用 Amazon EC2 ユーザーガイドの

「リザーブドインスタンス」およびAmazon Relational Database Service デベロッパーガイドの「リザーブド DB インスタンスの使用」を参照してください。

リザーブドインスタンスで容量を予約すると、時間単位の使用量は、同じアベイラビリティーゾーン内の利用タイプが同じインスタンスに適用される割引レートで計算されます。

リージョン リザーブドインスタンス

リージョンリザーブドインスタンスは、キャパシティーを予約できません。その代わりに、アベイラビリティーゾーンの柔軟性と、場合によってはインスタンスサイズの柔軟性が提供されます。アベイラビリティーゾーンの柔軟性により、 AWS リザーブドリージョンのどのアベイラビリティーゾーンでも 1 つ以上のインスタンスを実行できます。リザーブドインスタンス割引は、すべてのアベイラビリティーゾーンのすべての使用量に適用されます。インスタンスサイズの柔軟性により、インスタンスファミリー内のインスタンスの使用に対して、サイズを問わず、リザーブドインスタンス割引が適用されます。インスタンスサイズの柔軟性は、デフォルトのテナンシーを持つ Linux/Unix プラットフォーム上のリザーブドインスタンスにのみ適用されます。リージョンリザーブドインスタンスの詳細については、このドキュメントにある「コストと使用状況レポートのユーザーガイド」の「予約の詳細」および「Amazon Elastic Compute Cloud Linux インスタンス用ユーザーガイド」の「リザーブドインスタンスの適用」を参照してください。

リザーブドインスタンスを使用した Amazon EC2 のコスト計算

AWS AWS 組織の特定のリージョンにおける特定のインスタンスタイプの EC2 使用量をすべて集計して、Amazon EC2 インスタンスの料金を計算します。

計算方法

AWS は、以下のロジックを使用して Amazon EC2 インスタンスの混合レートを計算します。

1. AWS その月または一部の月における組織内のすべてのアカウントの使用量を集計し、オンデマンドやリザーブドインスタンスの料金などの非混合レートに基づいてコストを計算します。これらの費用の明細項目は、管理アカウントに対して作成されます。この請求計算モデルは、各明細項目が条件を満たす最低の非ブレンドレートを適用することを目的としたものです。リザーブドインスタンス時間から始まり、無料利用枠の時間、残りの使用量に対するオンデマンドレートの順で適用されます。 AWS コストと使用状況レポートでは、これらの集計されたコストの明細項目を確認できます。
2. AWS AWS 各リージョンの各 Amazon EC2 使用タイプを識別し、集約された管理アカウントからのコストを、同じリージョンの同じ使用タイプに対応するメンバーアカウントの明細項目に割り当てます。 AWS コストと使用状況レポートの Unblended Rate 列には、各項目に適用された料金が表示されます。

> **Note**
>
> AWS メンバーアカウントにリザーブドインスタンス時間を割り当てると、必ず予約を購入したアカウントから開始されます。キャパシティー予約の時間が残っている場合は、AWS 同じアベイラビリティーゾーンで同じ使用タイプを使用する他のアカウントにその時間を適用します。
> AWS リージョン RI をインスタンスサイズごとに割り当てます。RI は、まずインスタンスファミリーの中で最小のインスタンスに適用され、次に 2 番目に小さいインスタンスに適用され、以降も同様に適用されます。 AWS インスタンスの正規化係数に基づいて RI または RI の一部を適用します。RI AWS を適用する順序は価格差にはなりません。

Savings Plans

Savings Plans は、 AWS 使用料金の削減に役立つ柔軟な価格設定モデルです。Compute Savings Plans を利用すると、1 時間あたりの金額を確定し、その金額までの Amazon EC2、Fargate、 AWS Lambda 使用量の割引を受けることができます。

Savings Plans によるコストの計算

AWS Amazon EC2、Fargate の料金を計算し、 AWS Lambda リザーブドインスタンスでカバーされていないすべての使用量を集計し、discount 率が最も高いものから順にSavings Plans の料金を適用します。

Savings Plans は、Savings Plans を所有するアカウントに適用されます。その後、組織内の他のアカウントと共有されます。 AWS 詳細については、Savings Plans ユーザーガイドの「Savings Plans の使用量への適用方法の理解」を参照してください。

ブレンドレートとコスト

混合料金は、組織のメンバーアカウントが使用するリザーブドインスタンスとオンデマンドインスタンスの平均料金です。 AWS Organizations AWS 各サービスの混合料金に、アカウントによるそのサービスの使用量を掛けて混合コストを計算します。

> **Note**
>
> - AWS 各メンバーアカウントの料金を非混合費用として表示します。 AWS の会員アカウントすべてに、予約や段階的価格などの一括請求特典のすべてを引き続き適用します。 AWS Organizations
> - Amazon EC2 のブレンドレートは、時間単位で計算されます。

このセクションには、 AWS 以下のサービスの混合料金の計算方法を示す例が含まれています。

- Amazon S3 Standard ストレージのブレンドレートの計算
- Amazon EC2 のブレンドレートの計算

Amazon S3 Standard ストレージのブレンドレートの計算

AWS ストレージの合計コストを 1 か月あたりに保存されるデータ量で割ることにより、Amazon S3 標準ストレージの混合料金を計算します。

管理アカウントおよび 3 つのメンバーアカウントのコスト 6,720 USD を計算した「一括請求の計算方法」の例を使用して、次のロジックでこれらのアカウントのブレンドレートを計算します。

1. ブレンドレートを GB 単位で算出するには、合計コスト (6,720 USD) をストレージ容量 (95,000 GB) で除算します。その結果、ブレンドレートは、1 GB 当たり 0.070737 USD になります。ブレンドレートを TB 単位で算出するには、合計コスト (6,720 USD) をストレージ容量 (95 TB) で除算します。その結果、ブレンドレートは、1 TB 当たり 70.737 USD になります。
2. 各メンバーアカウントのブレンドコストを配分するには、ブレンドレート (GB または TB) に使用量を乗算します。その結果、ブレンドコスト列に表示されている金額になります。たとえば、メンバー 1 は、ブレンドレート 0.070737 USD で 14,000 GB のストレージ (または 70.737 USD で 14 TB) を使用しており、ブレンドコストは 990.318 USD になります。

Amazon EC2 のブレンドレートの計算

一括請求ロジックは、管理アカウントに Amazon EC2 コストを集計してから、それを使用比率に基づいてメンバーアカウントに配分します。

この例では、すべての使用量が同じ使用タイプであり、同じアベイラビリティーゾーンで発生し、リザーブドインスタンスの期間が同じです。この例の対象は、完全な前払いと部分的な前払いのリザーブドインスタンスです。

次の表に、Amazon EC2 の月間 720 時間 (30 日) の使用についての明細項目の計算を表す明細項目を示します。各インスタンスは、同じアベイラビリティーゾーンで実行される同じ使用タイプ (t2.small) です。組織は、3 つのリザーブドインスタンスを 1 年分購入しています。メンバーアカウント 1 には 3 つのリザーブドインスタンスがあります。メンバーアカウント 2 にはリザーブドインスタンスはありませんが、オンデマンドのインスタンスを使用しています。

明細項目アカウント	請求タイプ	使用タイプ	前払い料金	月額コスト	使用可能な使用法	使用量	非ブレンドレート	非ブレンドコスト	ブレンドレート	ブレンドコスト
管理アカウント	RI、すべて前払い	t2.small	274.00 ドル	0.00 ドル	-	1440	-	-	-	-
	RI、一部前払い	t2.small	70.00 ドル	5.84 ドル	-	720	-	-	-	-
メンバーアカウント 1	RI 適用済み	t2.small	-	-	1440	1440	0.00 ドル	0.00 ドル	0.00575 ドル	8.28 ドル
	RI 適用済み	t2.small	-	-	720	720	0.00 ドル	0.00 ドル	0.00575 ドル	4.14 ドル
メンバーアカ	オンデマンド	t2.small	-	-	-	720	0.023	16.56 ドル	0.00575 ドル	4.14 ドル

明細項目アカウント	請求タイプ	使用タイプ	前払い料金	月額コスト	使用可能な使用法	使用量	非ブレンドレート	非ブレンドコスト	ブレンドレート	ブレンドコスト
ウント 2										
合計					2160	2880		16.56 ドル		16.56 ドル

前記の表のデータは、次の情報を表しています。

- 組織は、1,440 時間のリザーブドインスタンスキャパシティーを完全な前払いレートで購入しました (2 つの EC2 インスタンス)。
- 組織は、720 時間のリザーブドインスタンスキャパシティーを一部前払いレートで購入しました (1 つの EC2 インスタンス)。
- メンバーアカウント 1 は、2 つの完全な前払いリザーブドインスタンスおよび 1 つの部分的な前払いリザーブドインスタンスを合計 2,160 時間使用しています。メンバーアカウント 2 は、オンデマンドインスタンスを 720 時間使用しています。組織の合計使用量は、合計 2,880 時間 (2160 + 720 = 2,880) です。
- 3 つのリザーブドインスタンスの非ブレンドレートは、0.00 USD です。RI の料金はブレンドレートの計算には使用しないため、非ブレンドレートは常に 0.00 USD になります。
- オンデマンドインスタンスの非ブレンドレートは、0.023 USD です。非ブレンドレートは、製品の現在の価格に関連付けられます。前の表の情報を使用してこれらを検証することはできません。
- ブレンドレートを算出するには、合計コスト (16.56 USD) を Amazon EC2 の合計使用時間 (2,880 時間) で除算します。これにより、1 時間あたり 0.005750000 USD が発生します。

短いバージョンの PDF 請求書のリクエスト

AWS PDF 形式の請求書には、 AWS のサービス お客様の支払い口座 (管理口座) と関連する会員口座の料金が記載されています。 AWS Organizations

この AWS PDF 請求書には以下のセクションがあります。

1. 請求書全体の概要
2. AWS のサービス 全勘定科目の要約
3. メンバーアカウントのアクティビティ概要
4. メンバーアカウントの詳細なアクティビティ

アカウントでこの機能をリクエストすると、PDF 形式の請求書からメンバーアカウントの詳細が省略されるため、受け取る請求書のページ数が少なくなります。

> **Note**
>
> この機能では、PDF 請求書からメンバーアカウントの詳細のみが省略されます。この情報は Billing and Cost Management コンソールと AWS Cost Explorerで引き続き表示できます。

次の PDF 請求書の概要オプションをリクエストできます。

請求書概要オプション 1

オプション 1 には、次のセクションが含まれています。

1. 請求書全体の概要
2. AWS のサービス 全口座の要約
3. メンバーアカウントのアクティビティ概要

オプション 1 では、メンバーアカウントの詳細なアクティビティが省略されます。

請求書概要オプション 2

オプション 2 には、次のセクションが含まれています。

1. 請求書全体の概要
2. AWS のサービス 全口座の要約

オプション2 では、メンバーアカウントの概要アクティビティと詳細アクティビティが省略されます。

いずれかのオプションをリクエストするには、次の手順に従ってください。

短いバージョンの PDF 請求書をリクエストするには

1. 支払者アカウントとして AWS Support Center Console にサインインします。
2. アカウントと請求のサポートケースを作成します。
3. [サービス] で [請求] を選択します。
4. [カテゴリ] で、[一括請求] を選択します。
5. プロンプトに従ってケースを作成します。
6. ケースの詳細で、アカウントに使用する PDF 形式の請求書概要をオプション 1 またはオプション 2 で指定します。

   サポートエージェントがリクエストを完了すると、次回から請求書は、リクエストした請求書オプションで更新されます。この機能は、以前に生成された請求書には適用されません。

> **Note**
>
> 同じ手順で、メンバーアカウントに対して請求書概要オプションを変更したり、従来の PDF 請求書概要をリクエストすることもできます。

AWS Support のアカウントの料金 AWS Organizations

AWS AWS Support メンバーアカウントごとに個別に料金を計算します。通常、メンバーアカウントに対する AWS Support のサブスクリプションは、組織全体には適用されません。アカウントごとに個別にサブスクライブします。エンタープライズサポートプランをご契約の場合は、毎月の請求に複数のアカウントをまとめて含めることができます。デベロッパー、ビジネス、およびエンタープライズSupport プランの月額料金は、 AWS 各月の使用量に基づいており、毎月の最低額が適用されます。 AWS Support リザーブドインスタンスとSavings Plan の購入に関連する料金は、購入を行ったメンバーアカウントに適用されます。詳細については、「AWS Support のプランの料金」を参照してください。

のセキュリティ AWS Billing

AWS クラウドセキュリティは最優先事項です。 AWS 顧客は、最もセキュリティに敏感な組織の要件を満たすように構築されたデータセンターとネットワークアーキテクチャの恩恵を受けることができます。

セキュリティは、 AWS お客様とお客様との間で共有される責任です。責任共有モデルではこれを、クラウドのセキュリティ、およびクラウド内でのセキュリティと説明しています:

- クラウドのセキュリティ — AWS AWS AWS クラウド内でサービスを実行するインフラストラクチャを保護する責任があります。 AWS また、安全に使用できるサービスも提供します。第三者監査人は、AWS、当社のセキュリティの有効性を定期的にテストおよび検証しています。に適用されるコンプライアンスプログラムについては AWS Billing and Cost Management、「AWS コンプライアンスプログラム別の対象サービス」を参照してください。。
- クラウドにおけるセキュリティ — お客様の責任は、 AWS 使用するサービスによって決まります。また、お客様は、データの機密性、会社の要件、適用される法律や規制など、その他の要因についても責任を負います。

このドキュメントは、請求情報とコスト管理を使用する際に共有責任モデルを適用する方法を理解するのに役立ちます 以下のトピックでは、セキュリティおよびコンプライアンスの目的を達成するために請求情報とコスト管理を設定する方法を示します。また、Billing and Cost Management AWS リソースの監視と保護に役立つ他のサービスの使用方法についても学びます。

トピック

- におけるデータ保護 AWS Billing and Cost Management
- AWS 請求用の Identity and Access Management
- ログインとモニタリング AWS Billing and Cost Management
- のコンプライアンス検証 AWS Billing and Cost Management
- レジリエンスとは AWS Billing and Cost Management
- のインフラストラクチャーセキュリティ AWS Billing and Cost Management

におけるデータ保護 AWS Billing and Cost Management

AWS のデータ保護には、https://aws.amazon.com/compliance/shared-responsibility-model/、 (責任分担モデル) が適用されます AWS Billing and Cost Management。このモデルで説明したように、

AWS は、 AWS クラウドすべてを稼働させるグローバルインフラストラクチャを保護する責任があります。お客様は、このインフラストラクチャでホストされているコンテンツに対する管理を維持する責任があります。また、使用する AWS のサービス のセキュリティ設定と管理タスクもユーザーの責任となります。データプライバシーの詳細については、「データプライバシーのよくある質問」を参照してください。欧州でのデータ保護の詳細については、AWS セキュリティブログに投稿された記事「AWS 責任共有モデルおよび GDPR」を参照してください。

データ保護のため、 AWS アカウント 認証情報を保護し、 AWS IAM Identity Center または AWS Identity and Access Management (IAM) を使用して個々のユーザーを設定することをお勧めします。この方法により、それぞれのジョブを遂行するために必要な権限のみが各ユーザーに付与されます。また、次の方法でデータを保護することもお勧めします:

- 各アカウントで多要素認証 (MFA) を使用します。
- SSL/TLS を使用してリソースと通信します。 AWS TLS 1.2 は必須であり TLS 1.3 がお勧めです。
- を使用して API とユーザーアクティビティのロギングを設定します。 AWS CloudTrail
- AWS 暗号化ソリューションと、 AWS のサービスその中に含まれるデフォルトのセキュリティコントロールをすべて使用してください。
- Amazon Macie などの高度なマネージドセキュリティサービスを使用します。これらは、Amazon S3 に保存されている機密データの検出と保護を支援します。
- コマンドラインインターフェイスまたは API AWS を介してアクセスするときに FIPS 140-2 で検証された暗号モジュールが必要な場合は、FIPS エンドポイントを使用してください。利用可能な FIPS エンドポイントの詳細については、「連邦情報処理規格 (FIPS) 140-2」を参照してください。

お客様の E メールアドレスなどの極秘または機密情報は、タグ、または名前フィールドなどの自由形式のテキストフィールドに配置しないことを強くお勧めします。これには、コンソール、API AWS CLI、または AWS SDK AWS のサービス を使用してBilling and Cost Management やその他の作業を行う場合も含まれます。名前に使用する自由記述のテキストフィールドやタグに入力したデータは、課金や診断ログに使用される場合があります。外部サーバーへの URL を提供する場合は、そのサーバーへのリクエストを検証するための認証情報を URL に含めないように強くお勧めします。

AWS 請求用の Identity and Access Management

AWS Identity and Access Management (IAM) は、 AWS のサービス AWS 管理者がリソースへのアクセスを安全に制御できるようにするものです。IAM 管理者は、誰を認証 (サインイン) し、誰に課金

リソースの使用を許可 (許可を持たせる) するかを制御します。IAM AWS のサービス は追加料金なしで使用できるアプリです。

請求コンソールへのアクセス権のアクティベートを開始するには、「IAM ユーザーガイド」の「IAM チュートリアル: 請求コンソールへのアクセス権の付与」を参照してください。

トピック

- ユーザータイプと請求に対するアクセス許可
- アクセス許可の管理の概要
- 対象者
- アイデンティティを使用した認証
- ポリシーを使用したアクセスの管理
- AWS 請求と IAM の連携の仕組み
- 請求に関する ID ベースのポリシー AWS
- AWS 請求ポリシーの例
- AWS Billing向けのアクセスコントロールの移行
- AWS 管理ポリシー
- トラブルシューティング: AWS 請求 ID とアクセス

ユーザータイプと請求に対するアクセス許可

この表は、 請求で請求ユーザーの種類ごとに許可されるデフォルトのアクションをまとめたものです。

ユーザータイプと請求に対するアクセス許可

ユーザーのタイプ	説明	請求に対するアクセス許可
アカウント所有者	アカウント名として設定した名前を持つ人またはエンティティ。	• すべての請求情報とコスト管理リソースを完全に制御できます。 • 毎月の請求書が届きます。AWS
ユーザー	アカウント所有者または管理ユーザーによって、アカウン	• ユーザー単位またはユーザーグループ単位で明示的

ユーザーのタイプ	説明	請求に対するアクセス許可
	トのユーザーとして定義された人物またはアプリケーション。アカウントには、複数のユーザーを含めることができます。	に付与された権限を有します。 • 請求情報とコスト管理コンソールページを表示する許可を付与されることができます。詳細については、「アクセス許可の管理の概要」を参照してください。 • アカウントを解約することはできません。
組織管理アカウント所有者	AWS Organizations 管理アカウントに関連する個人または団体。管理アカウントは、AWS 組織のメンバーアカウントが使用した使用料を支払います。	• 管理アカウントについてのみ、すべての請求情報とコスト管理リソースを完全に制御できます。 • AWS 管理アカウントとメンバーアカウントの毎月の請求書を受け取ります。 • 管理アカウントの請求レポートで、メンバーアカウントのアクティビティを参照できます。

ユーザーのタイプ	説明	請求に対するアクセス許可
組織のメンバーアカウント所有者	AWS Organizations メンバーアカウントに関連する個人または団体。管理アカウントは、 AWS 組織のメンバーアカウントが使用した使用料を支払います。	• 使用状況レポートまたはアクティビティは、当のアカウントに関するもののみ参照できます。組織内の他のメンバーアカウントまたは管理アカウントの使用状況レポートやアカウントアクティビティにはアクセスできません。 • 請求レポートを表示する権限はありません。 • 当のアカウントに関する情報のみ更新できます。他のメンバーアカウントまたは管理アカウントにはアクセスできません。

アクセス許可の管理の概要

請求の情報およびツールへのアクセス許可

デフォルトでは、IAM ユーザーには AWS Billing and Cost Management コンソールへのアクセス権がありません。

を作成するときは AWS アカウント、 AWS のサービス アカウント内のすべてのリソースに完全にアクセスできる 1 つのサインイン ID から始めます。この ID は AWS アカウント root ユーザーと呼ばれ、アカウントの作成に使用したメールアドレスとパスワードでサインインすることでアクセスされます。日常的なタスクには、ルートユーザーを使用しないことを強くお勧めします。ルートユーザーの認証情報は保護し、ルートユーザーでしか実行できないタスクを実行するときに使用します。ルートユーザーとしてサインインする必要があるタスクの完全なリストについては、『IAM ユーザーガイド』の「ルートユーザー認証情報が必要なタスク」を参照してください。

管理者は、 AWS ユーザーが引き受けることができるロールを自分のアカウントの下に作成できます。ロールを作成したら、必要なアクセス権に基づいて IAM ポリシーをロールにアタッチできます。例えば、請求の情報とツールの一部にアクセスできる制限されたアクセス許可を一部のユーザー

に与え、すべての情報とツールに対する完全なアクセス許可を他のユーザーに与えることができます。

IAM エンティティにBilling and Cost Management コンソールへのアクセスを許可するには、以下を実行します。

- IAM Access AWS アカウント をルートユーザーとしてアクティベートします。アカウントでこのアクションを実行する必要があるのは 1 回だけです。
- ユーザー、グループ、ロールなどの IAM ID を作成します。
- AWS 管理ポリシーを使用するか、Billing and Cost Management コンソールの特定のアクションにアクセス権限を付与する顧客管理ポリシーを作成します。詳細については、「請求に ID ベースのポリシーを使用する」を参照してください。

詳細については、『IAM ユーザーガイド』の「IAM チュートリアル:請求コンソールへのアクセス権の付与」を参照してください。

> **Note**
>
> Cost Explorer の許可は、IAM ポリシーに関係なくすべてのアカウントとメンバーアカウントに適用されます。詳細については、「AWS Cost Explorer へのアクセスの制御」を参照してください。

請求情報とコスト管理コンソールへのアクセスをアクティベートする

の IAM ユーザーとロールは、デフォルトではBilling and Cost Management AWS アカウント コンソールにアクセスできません。これは、IAM ユーザーまたはロールに、特定の請求機能へのアクセス権を付与する IAM ポリシーがある場合でも当てはまります。 AWS アカウント ルートユーザーは Activate IAM Access 設定を使用してアクセスを許可できます。

を使用する場合 AWS Organizations、IAM ユーザーとロールに Billing and Cost Management コンソールへのアクセスを許可する各管理アカウントまたはメンバーアカウントでこの設定を有効にします。詳細については、「AWS Billing and Cost Management コンソールへの IAM アクセスのアクティブ化」を参照してください。

請求コンソールで、[IAM アクセスのアクティブ化] 設定により、以下のページへのアクセスを制御します。

- ホーム

- 予算
- Budgets レポート
- AWS コストと使用状況レポート
- Cost Categories
- コスト配分タグ
- 請求書
- 支払い
- クレジット
- 発注書
- 請求設定
- 支払い方法
- 税金設定

AWS コスト管理コンソールの「IAM アクセスの有効化」設定により、以下のページへのアクセスが制御されます。

- ホーム
- Cost Explorer
- レポート
- 適切なサイズ設定に関する推奨事項
- Savings Plans に関する推奨事項
- Savings Plans 使用率レポート
- Savings Plans カバレッジレポート
- 予約の概要
- 予約の推奨事項
- 予約使用率レポート
- 予約カバレッジレポート
- 設定

請求コンソールの [IAM アクセスをアクティベートする] 設定コントロールのページの一覧については、請求ユーザーガイドの「請求情報とコスト管理コンソールへのアクセスをアクティベートする」を参照してください。

> **Important**
>
> IAM アクセスをアクティベートするだけでは、これらの請求情報と予算管理コンソールページに必要な許可は、IAM ロールに付与されません。IAM アクセスのアクティベートに加えて、必要な IAM ポリシーをこれらのロールにアタッチする必要があります。詳細については、「請求に ID ベースのポリシーを使用する」を参照してください。

[IAM アクセスをアクティベートする] 設定では、次のページおよびリソースへのアクセスを制御しません。

- AWS コスト異常検知、Savings Plans の概要、Savings Plans インベントリ、Savings Plans の購入、Savings Plans カートのコンソールページ
- の「コスト管理」ビュー AWS Console Mobile Application
- Billing and Cost Management SDK API (AWS Cost Explorer、 AWS 予算、 AWS コストと使用状況レポート API)
- AWS Systems Manager アプリケーションマネージャ

対象者

AWS Identity and Access Management (IAM) の使用方法は、Billing で行う作業によって異なります。

サービスユーザー — 請求サービスを使用して業務を行う場合、管理者は必要な認証情報と権限を提供します。業務に課金機能を使用する回数が増えるにつれて、追加の権限が必要になることがあります。アクセスの管理方法を理解しておくと、管理者に適切な許可をリクエストするうえで役立ちます。Billing の機能にアクセスできない場合は、を参照してくださいトラブルシューティング: AWS 請求 ID とアクセス。

サービス管理者 — 会社で請求リソースを担当している場合は、おそらく請求機能にすべてアクセスできます。サービスユーザーがどの請求機能やリソースにアクセスすべきかを決めるのはあなたの仕事です。その後、IAM 管理者にリクエストを送信して、サービスユーザーの権限を変更する必要があります。このページの情報を点検して、IAM の基本概念を理解してください。会社が IAM を Billing と併用する方法の詳細については、「」を参照してくださいAWS 請求と IAM の連携の仕組み。

IAM 管理者 — IAM 管理者の方は、Billing へのアクセスを管理するポリシーを作成する方法の詳細を知りたいと思うかもしれません。IAM で使用できる請求 ID ベースのポリシーの例については、を参照してください。請求に関する ID ベースのポリシー AWS

アイデンティティを使用した認証

認証とは、ID AWS 認証情報を使用してサインインする方法です。IAM ユーザーとして AWS アカウントのルートユーザー、または IAM ロールを引き受けて認証 (サインイン AWS) する必要があります。

ID ソースを通じて提供された認証情報を使用して、フェデレーション ID AWS としてサインインできます。 AWS IAM Identity Center フェデレーテッド ID の例としては、(IAM Identity Center) ユーザー、会社のシングルサインオン認証、Google や Facebook の認証情報などがあります。フェデレーティッドアイデンティティとしてサインインする場合、IAM ロールを使用して、前もって管理者により ID フェデレーションが設定されています。 AWS フェデレーションを使用してアクセスすると、間接的にロールを引き継ぐことになります。

ユーザーのタイプによっては、 AWS Management Console AWS またはアクセスポータルにサインインできます。へのサインインについて詳しくは AWS、『AWS サインイン ユーザーガイド』の「AWS アカウントにサインインする方法」を参照してください。

AWS プログラムでアクセスする場合は、認証情報を使用してリクエストに暗号署名するためのソフトウェア開発キット (SDK) とコマンドラインインターフェイス (CLI) AWS を提供します。 AWS ツールを使用しない場合は、リクエストに自分で署名する必要があります。推奨方法を使用して自分でリクエストに署名する方法の詳細については、IAM ユーザーガイドの「 AWS API リクエストへの署名」を参照してください。

使用する認証方法を問わず、追加セキュリティ情報の提供をリクエストされる場合もあります。たとえば、アカウントのセキュリティを強化するために多要素認証 (MFA) AWS を使用することを推奨しています。詳細については、『AWS IAM Identity Center ユーザーガイド』の「Multi-factor authentication」(多要素認証) および『IAM ユーザーガイド』の「AWSにおける多要素認証 (MFA) の使用」を参照してください。

AWS アカウント root ユーザー

を作成するときは AWS アカウント、 AWS のサービス アカウント内のすべてのリソースに完全にアクセスできる 1 つのサインイン ID から始めます。この ID は AWS アカウント root ユーザーと呼ばれ、アカウントの作成に使用したメールアドレスとパスワードでサインインすることでアクセスされます。日常的なタスクには、ルートユーザーを使用しないことを強くお勧めします。ルートユーザーの認証情報は保護し、ルートユーザーでしか実行できないタスクを実行するときに使用します。ルー

トユーザーとしてサインインする必要があるタスクの完全なリストについては、『IAM ユーザーガイド』の「ルートユーザー認証情報が必要なタスク」を参照してください。

フェデレーティッドアイデンティティ

ベストプラクティスとして、管理者アクセスを必要とするユーザーを含む人間のユーザーに、ID AWS のサービス プロバイダーとのフェデレーションを使用して一時的な認証情報を使用してアクセスするように要求します。

フェデレーテッド ID とは、エンタープライズユーザーディレクトリ、ウェブ ID プロバイダー、Identity Center ディレクトリのユーザー、または ID AWS のサービス ソースを通じて提供された認証情報を使用してアクセスする任意のユーザーです。 AWS Directory Serviceフェデレーテッド ID がアクセスすると AWS アカウント、そのユーザーがロールを引き受け、そのロールが一時的な認証情報を提供します。

アクセスを一元管理する場合は、 AWS IAM Identity Centerを使用することをお勧めします。IAM Identity Center でユーザーとグループを作成したり、独自のアイデンティティソース内のユーザーやグループに接続して同期したりして、すべてのアプリケーションで使用することができます。 AWS アカウント IAM Identity Center の詳細については、『AWS IAM Identity Center ユーザーガイド』の「What is IAM Identity Center?」(IAM Identity Center とは) を参照してください。

IAM ユーザーとグループ

IAM ユーザーは、1 人のユーザーまたはアプリケーションに対して特定の権限を持つ社内の AWS アカウント ID です。可能であれば、パスワードやアクセスキーなどの長期的な認証情報を保有する IAM ユーザーを作成する代わりに、一時認証情報を使用することをお勧めします。ただし、IAM ユーザーでの長期的な認証情報が必要な特定のユースケースがある場合は、アクセスキーをローテーションすることをお勧めします。詳細については、『IAM ユーザーガイド』の「長期的な認証情報を必要とするユースケースのためにアクセスキーを定期的にローテーションする」を参照してください。

IAM グループは、IAM ユーザーの集団を指定するアイデンティティです。グループとしてサインインすることはできません。グループを使用して、複数のユーザーに対して一度に権限を指定できます。多数のユーザーグループがある場合、グループを使用することで権限の管理が容易になります。例えば、IAMAdmins という名前のグループを設定して、そのグループに IAM リソースを管理する権限を与えることができます。

ユーザーは、ロールとは異なります。ユーザーは 1 人の人または 1 つのアプリケーションに一意に関連付けられますが、ロールはそれを必要とする任意の人が引き受けるようになっています。ユーザーには永続的な長期の認証情報がありますが、ロールでは一時的な認証情報が提供されます。詳

細については、『IAM ユーザーガイド』の「IAM ユーザー (ロールではなく) の作成が適している場合」を参照してください。

IAM ロール

IAM ロールは、 AWS アカウント 特定の権限を持つ社内の ID です。これは IAM ユーザーに似ていますが、特定のユーザーには関連付けられていません。 AWS Management Console ロールを切り替えることで、の IAM ロールを一時的に引き受けることができます。 AWS CLI または AWS API オペレーションを呼び出すか、カスタム URL を使用してロールを引き受けることができます。ロールを使用する方法の詳細については、『IAM ユーザーガイド』の「IAM ロールの使用」を参照してください。

IAM ロールと一時的な認証情報は、次の状況で役立ちます:

- フェデレーションユーザーアクセス – フェデレーティッドアイデンティティに権限を割り当てるには、ロールを作成してそのロールの権限を定義します。フェデレーティッドアイデンティティが認証されると、そのアイデンティティはロールに関連付けられ、ロールで定義されている権限が付与されます。フェデレーションの詳細については、『IAM ユーザーガイド』の「サードパーティーアイデンティティプロバイダー向けロールの作成」 を参照してください。IAM アイデンティティセンターを使用する場合、権限セットを設定します。アイデンティティが認証後にアクセスできるものを制御するため、IAM Identity Center は、権限セットを IAM のロールに関連付けます。権限セットの詳細については、『AWS IAM Identity Center ユーザーガイド』の「権限セット」を参照してください。
- 一時的な IAM ユーザー権限 - IAM ユーザーまたはロールは、特定のタスクに対して複数の異なる権限を一時的に IAM ロールで引き受けることができます。
- クロスアカウントアクセス - IAM ロールを使用して、自分のアカウントのリソースにアクセスすることを、別のアカウントの人物 (信頼済みプリンシパル) に許可できます。クロスアカウントアクセス権を付与する主な方法は、ロールを使用することです。ただし、ロールをプロキシとして使用する代わりに AWS のサービス、ポリシーをリソースに直接アタッチできるものもあります。クロスアカウントアクセスにおけるロールとリソースベースのポリシーの違いについては、『IAM ユーザーガイド』の「IAM ロールとリソースベースのポリシーとの相違点」を参照してください。
- クロスサービスアクセス — AWS のサービス AWS のサービス他の機能を使用するものもあります。例えば、あるサービスで呼び出しを行うと、通常そのサービスによって Amazon EC2 でアプリケーションが実行されたり、Amazon S3 にオブジェクトが保存されたりします。サービスでは、呼び出し元プリンシパルの権限、サービスロール、またはサービスにリンクされたロールを使用してこれを行う場合があります。

- 転送アクセスセッション (FAS) — IAM ユーザーまたはロールを使用してアクションを実行する場合 AWS、あなたはプリンシパルと見なされます。一部のサービスを使用する際に、アクションを実行することで、別のサービスの別のアクションがトリガーされることがあります。FAS は、 AWS のサービス を呼び出すプリンシパルの権限をリクエスト元と組み合わせて使用して AWS のサービス、ダウンストリームサービスにリクエストを行います。FASリクエストは、AWS のサービス サービスが他のユーザーとのやりとりやリソースとのやり取りを必要とするリクエストを受信したときにのみ行われます。この場合、両方のアクションを実行するためのアクセス許可が必要です。FAS リクエストを行う際のポリシーの詳細については、「転送アクセスセッション」を参照してください。
- サービスロール - サービスがユーザーに代わってアクションを実行するために引き受ける IAM ロールです。IAM 管理者は、IAM 内からサービスロールを作成、変更、削除できます。詳細については、『IAM ユーザーガイド』の「AWS のサービスに権限を委任するロールの作成」を参照してください。
- サービスにリンクされたロール — サービスにリンクされたロールは、にリンクされているサービスロールの一種です。 AWS のサービスサービスは、ユーザーに代わってアクションを実行するロールを引き受けることができます。 AWS アカウント サービスにリンクされたロールはに表示され、そのサービスが所有します。IAM 管理者は、サービスにリンクされたロールの権限を表示できますが、編集することはできません。

- Amazon EC2 で実行されるアプリケーション — IAM ロールを使用して、EC2 インスタンスで実行され、 AWS API AWS CLI リクエストを行うアプリケーションの一時的な認証情報を管理できます。これは、EC2 インスタンス内でのアクセスキーの保存に推奨されます。EC2 AWS インスタンスにロールを割り当て、そのロールをそのすべてのアプリケーションで使用できるようにするには、インスタンスにアタッチされるインスタンスプロファイルを作成します。インスタンスプロファイルにはロールが含まれ、EC2 インスタンスで実行されるプログラムは一時的な認証情報を取得できます。詳細については、『IAM ユーザーガイド』の「Amazon EC2 インスタンスで実行されるアプリケーションに IAM ロールを使用して権限を付与する」を参照してください。

IAM ロールと IAM ユーザーのどちらを使用するかについては、『IAM ユーザーガイド』の「(IAM ユーザーではなく) IAM ロールをいつ作成したら良いのか?」を参照してください。

ポリシーを使用したアクセスの管理

AWS ポリシーを作成して AWS ID またはリソースにアタッチすることで、アクセスを制御します。ポリシーとは、ID またはリソースに関連付けると権限を定義するオブジェクトです。 AWS AWS プリンシパル (ユーザー、ルートユーザー、またはロールセッション) がリクエストを行うと、これらのポリシーを評価します。ポリシーでの権限により、リクエストが許可されるか拒否されるかが決

まります。ほとんどのポリシーは JSON AWS ドキュメントとして保存されます。JSON ポリシードキュメントの構造と内容の詳細については、『IAM ユーザーガイド』の「JSON ポリシー概要」を参照してください。

管理者は AWS JSON ポリシーを使用して、誰が何にアクセスできるかを指定できます。つまり、どのプリンシパルがどんなリソースにどんな条件でアクションを実行できるかということです。

デフォルトでは、ユーザーやロールに権限はありません。IAM 管理者は、リソースで必要なアクションを実行するための権限をユーザーに付与する IAM ポリシーを作成できます。その後、管理者はロールに IAM ポリシーを追加し、ユーザーはロールを引き継ぐことができます。

IAM ポリシーは、オペレーションの実行方法を問わず、アクションの権限を定義します。例えば、`iam:GetRole` アクションを許可するポリシーがあるとします。そのポリシーを持つユーザは AWS Management Console、、 AWS CLI、または AWS API からロール情報を取得できます。

アイデンティティベースのポリシー

アイデンティティベースポリシーは、IAM ユーザー、ユーザーのグループ、ロールなど、アイデンティティにアタッチできる JSON 権限ポリシードキュメントです。これらのポリシーは、ユーザーとロールが実行できるアクション、リソース、および条件をコントロールします。アイデンティティベースのポリシーを作成する方法については、『IAM ユーザーガイド』の「IAM ポリシーの作成」を参照してください。

アイデンティティベースポリシーは、さらにインラインポリシーまたはマネージドポリシーに分類できます。インラインポリシーは、単一のユーザー、グループ、またはロールに直接埋め込まれています。管理ポリシーは、内の複数のユーザ、グループ、およびロールにアタッチできるスタンドアロンポリシーです。 AWS アカウント管理ポリシーには、 AWS 管理ポリシーと顧客管理ポリシーが含まれます。マネージドポリシーまたはインラインポリシーのいずれかを選択する方法については、『IAM ユーザーガイド』の「マネージドポリシーとインラインポリシーの比較」を参照してください。

リソースベースのポリシー

リソースベースのポリシーは、リソースに添付する JSON ポリシードキュメントです。リソースベースのポリシーには例として、IAM ロールの信頼ポリシーや Amazon S3 バケットポリシーがあげられます。リソースベースのポリシーをサポートするサービスでは、サービス管理者はポリシーを使用して特定のリソースへのアクセスを制御できます。ポリシーがアタッチされているリソースの場合、指定されたプリンシパルがそのリソースに対して実行できるアクションと条件は、ポリシーによって定義されます。リソースベースのポリシーでは、プリンシパルを指定する必要があります。プ

リンシパルには、アカウント、ユーザ、ロール、フェデレーティッドユーザ、またはを含めることができます。 AWS のサービス

リソースベースのポリシーは、そのサービス内にあるインラインポリシーです。IAM AWS の管理ポリシーをリソースベースのポリシーで使用することはできません。

アクセスコントロールリスト (ACL)

アクセスコントロールリスト (ACL) は、どのプリンシパル (アカウントメンバー、ユーザー、またはロール) がリソースにアクセスするための権限を持つかをコントロールします。ACL はリソースベースのポリシーに似ていますが、JSON ポリシードキュメント形式は使用しません。

ACL をサポートするサービスの例としては AWS WAF、Amazon S3、、および Amazon VPC があります。ACL の詳細については、『Amazon Simple Storage Service デベロッパーガイド』の「アクセスコントロールリスト (ACL) の概要」を参照してください。

その他のポリシータイプ

AWS あまり一般的ではないポリシータイプもサポートしています。これらのポリシータイプでは、より一般的なポリシータイプで付与された最大の権限を設定できます。

- アクセス許可の境界 - アクセス許可の境界は、アイデンティティベースのポリシーによって IAM エンティティ (IAM ユーザーまたはロール) に付与できる権限の上限を設定する高度な機能です。エンティティにアクセス許可の境界を設定できます。結果として得られる権限は、エンティティのアイデンティティベースポリシーとそのアクセス許可の境界の共通部分になります。`Principal` フィールドでユーザーまたはロールを指定するリソースベースのポリシーでは、アクセス許可の境界は制限されません。これらのポリシーのいずれかを明示的に拒否した場合、権限は無効になります。アクセス許可の境界界の詳細については、『IAM ユーザーガイド』の「IAM エンティティのアクセス許可の境界」を参照してください。
- サービスコントロールポリシー (SCP) — SCP は、組織または組織単位 (OU) の最大権限を指定する JSON ポリシーです。 AWS Organizations AWS Organizations は、 AWS アカウント 企業が所有する複数のものをグループ化して一元管理するためのサービスです。組織内のすべての機能を有効にすると、サービスコントロールポリシー (SCP) を一部またはすべてのアカウントに適用できます。SCP は、メンバーアカウントのエンティティ (各エンティティを含む) の権限を制限します。 AWS アカウントのルートユーザー Organizations と SCP の詳細については、『AWS Organizations ユーザーガイド』の「SCP の仕組み」を参照してください。
- セッションポリシー - セッションポリシーは、ロールまたはフェデレーションユーザーの一時的なセッションをプログラムで作成する際にパラメータとして渡す高度なポリシーです。結果として

セッションの権限は、ユーザーまたはロールのアイデンティティベースポリシーとセッションポリシーの共通部分になります。また、リソースベースのポリシーから権限が派生する場合もあります。これらのポリシーのいずれかを明示的に拒否した場合、権限は無効になります。詳細については、『IAM ユーザーガイド』の「セッションポリシー」を参照してください。

複数のポリシータイプ

1 つのリクエストに複数のタイプのポリシーが適用されると、結果として作成される権限を理解するのがさらに難しくなります。 AWS 複数のポリシータイプが関係している場合にリクエストを許可するかどうかを決定する方法については、IAM ユーザーガイドの「ポリシー評価ロジック」を参照してください。

AWS 請求と IAM の連携の仕組み

Billing は AWS Identity and Access Management (IAM) サービスと統合されているため、組織内の誰が請求コンソールの特定のページにアクセスできるかを管理できます。請求書、および料金、アカウントアクティビティ、予算、支払い方法、クレジットに関する詳細情報へのアクセスを制御できます。

請求情報とコスト管理コンソールへのアクセスをアクティベートする方法の詳細については、IAM ユーザーガイドの「チュートリアル: 請求コンソールへのアクセス権の委任」を参照してください。

IAM を使用して Billing へのアクセスを管理する前に、Billing で使用できる IAM 機能について確認してください。

Billing で使用できる IAM 機能 AWS

IAM 機能	請求サポート
アイデンティティベースのポリシー	Yes
リソースベースのポリシー	No
ポリシーアクション	Yes
ポリシーリソース	部分的
ポリシー条件キー	Yes

IAM 機能	請求サポート
ACL	No
ABAC (ポリシー内のタグ)	部分的
一時的な認証情報	はい
転送アクセスセッション (FAS)	はい
サービスロール	あり
サービスリンクロール	[いいえ]

AWS 請求やその他のサービスがほとんどの IAM 機能でどのように機能するかを大まかに把握するには、IAM ユーザーガイドの「IAM AWS と連携するサービス」を参照してください。

ID ベースの請求ポリシー

アイデンティティベースポリシーをサポートする	Yes

アイデンティティベースポリシーは、IAM ユーザー、ユーザーグループ、ロールなど、アイデンティティにアタッチできる JSON 権限ポリシードキュメントです。これらのポリシーは、ユーザーとロールが実行できるアクション、リソース、および条件をコントロールします。アイデンティティベースのポリシーを作成する方法については、『IAM ユーザーガイド』の「IAM ポリシーの作成」を参照してください。

IAM アイデンティティベースのポリシーでは、許可または拒否するアクションとリソース、およびアクションを許可または拒否する条件を指定できます。プリンシパルは、それが添付されているユーザーまたはロールに適用されるため、アイデンティティベースのポリシーでは指定できません。JSON ポリシーで使用できるすべての要素については、「IAM ユーザーガイド」の「IAM JSON ポリシーの要素のリファレンス」を参照してください。

請求に関する ID ベースのポリシーの例

ID ベースの課金ポリシーの例については、を参照してください。請求に関する ID ベースのポリシー AWS

Billing 内のリソースベースのポリシー

リソースベースのポリシーのサポート	No

リソースベースのポリシーは、リソースに添付する JSON ポリシードキュメントです。リソースベースのポリシーには例として、IAM ロールの信頼ポリシーや Amazon S3 バケットポリシーがあげられます。リソースベースのポリシーをサポートするサービスでは、サービス管理者はポリシーを使用して特定のリソースへのアクセスを制御できます。ポリシーがアタッチされているリソースの場合、指定されたプリンシパルがそのリソースに対して実行できるアクションと条件は、ポリシーによって定義されます。リソースベースのポリシーでは、プリンシパルを指定する必要があります。プリンシパルには、アカウント、ユーザー、ロール、フェデレーティッドユーザー、またはを含めることができます。 AWS のサービス

クロスアカウントアクセスを有効にするには、アカウント全体、または別のアカウントの IAM エンティティをリソースベースのポリシーのプリンシパルとして指定します。リソースベースのポリシーにクロスアカウントのプリンシパルを追加しても、信頼関係は半分しか確立されない点に注意してください。プリンシパルとリソースが異なる場合 AWS アカウント、信頼されたアカウントの IAM 管理者は、プリンシパルエンティティ (ユーザーまたはロール) にリソースへのアクセス権限も付与する必要があります。IAM 管理者は、アイデンティティベースのポリシーをエンティティにアタッチすることで権限を付与します。ただし、リソースベースのポリシーで、同じアカウントのプリンシパルへのアクセス権が付与されている場合は、アイデンティティベースのポリシーを追加する必要はありません。詳細については、『IAM ユーザーガイド』の「IAM ロールとリソースベースのポリシーとの相違点」を参照してください。

請求に関するポリシーアクション

ポリシーアクションに対するサポート	はい

管理者は AWS JSON ポリシーを使用して、誰が何にアクセスできるかを指定できます。つまり、どのプリンシパルがどんなリソースにどんな条件でアクションを実行できるかということです。

JSON ポリシーの`Action`要素には、ポリシー内のアクセスを許可または拒否するために使用できるアクションが記述されます。ポリシーアクションは通常、関連する AWS API オペレーションと同じ名前です。一致する API オペレーションのない権限のみのアクションなど、いくつかの例外があります。また、ポリシーに複数アクションが必要なオペレーションもあります。これらの追加アクションは、 依存アクション と呼ばれます。

このアクションは、関連付けられたオペレーションを実行するための権限を付与するポリシーで使用されます。

請求アクションのリストについては、『サービス認証リファレンス』の「AWS Billing によって定義されるアクション」を参照してください。

Billing のポリシーアクションでは、アクションの前に次のプレフィックスを使用します。

```
billing
```

単一のステートメントで複数のアクションを指定するには、アクションをカンマで区切ります。

```
"Action": [
      "billing:action1",
      "billing:action2"
         ]
```

請求 ID ベースのポリシーの例については、を参照してください。請求に関する ID ベースのポリシー AWS

請求に関するポリシーリソース

ポリシーリソースに対するサポート	部分的

ポリシーリソースがサポートされるのは、モニター、サブスクリプション、およびコストカテゴリのみです。

管理者は AWS JSON ポリシーを使用して、誰が何にアクセスできるかを指定できます。つまり、どのプリンシパルがどんなリソースにどんな条件でアクションを実行できるかということです。

Resource JSON ポリシー要素は、アクションが適用されるオブジェクトを指定します。ステートメントには、Resource または NotResource要素を含める必要があります。ベストプラクティスとして、Amazon リソースネーム (ARN) を使用してリソースを指定します。これは、リソースレベルの権限と呼ばれる特定のリソースタイプをサポートするアクションに対して実行できます。

オペレーションのリスト化など、リソースレベルの権限をサポートしないアクションの場合は、ステートメントがすべてのリソースに適用されることを示すために、ワイルドカード (*) を使用します。

```
"Resource": "*"
```

AWS Cost Explorer リソースタイプのリストを確認するには、『サービス認証リファレンス』の「AWS Cost Explorer のアクション、リソース、および条件キー」を参照してください。

請求 ID ベースのポリシーの例については、を参照してください。請求に関する ID ベースのポリシー AWS

請求のポリシー条件キー

サービス固有のポリシー条件キーのサポート	はい

管理者は AWS JSON ポリシーを使用して、誰が何にアクセスできるかを指定できます。つまり、どのプリンシパルがどんなリソースにどんな条件でアクションを実行できるかということです。

Condition 要素 (または Condition ブロック) を使用すると、ステートメントが有効な条件を指定できます。Condition 要素はオプションです。イコールや未満などの 条件演算子 を使用して条件式を作成することで、ポリシーの条件とリクエスト内の値を一致させることができます。

1 つのステートメントに複数の Condition 要素を指定するか、1 つの Condition 要素に複数のキーを指定すると、 AWS は AND 論理演算子を使用してそれらを評価します。1 つの条件キーに複数の値を指定すると、 AWS OR論理演算を使用して条件を評価します。ステートメントの権限が付与される前にすべての条件が満たされる必要があります。

条件を指定する際にプレースホルダー変数も使用できます。例えば IAM ユーザーに、IAM ユーザー名がタグ付けされている場合のみリソースにアクセスできる権限を付与することができます。詳細については、『IAM ユーザーガイド』の「IAM ポリシーの要素: 変数およびタグ」を参照してください。

AWS グローバル条件キーとサービス固有の条件キーをサポートします。 AWS すべてのグローバル条件キーを確認するには、IAM ユーザーガイドの「AWS グローバル条件コンテキストキー」を参照してください。

請求条件キー、アクション、リソースの一覧については、『サービス認証リファレンス』の「AWS 請求の条件キー」を参照してください。

請求 ID ベースのポリシーの例については、を参照してください。請求に関する ID ベースのポリシー AWS

Billing のアクセス制御リスト (ACL)

ACL のサポート	No

アクセスコントロールリスト (ACL) は、どのプリンシパル (アカウントメンバー、ユーザー、またはロール) がリソースにアクセスするための権限を持つかを制御します。ACL はリソースベースのポリシーに似ていますが、JSON ポリシードキュメント形式は使用しません。

請求機能付き属性ベースのアクセス制御 (ABAC)

ABAC (ポリシー内のタグ) のサポート	部分的

ABAC (ポリシー内のタグ) がサポートされるのは、モニター、サブスクリプション、およびコストカテゴリのみです。

属性ベースのアクセス制御 (ABAC) は、属性に基づいて権限を定義する認可戦略です。では AWS、これらの属性はタグと呼ばれます。IAM エンティティ (ユーザーまたはロール) AWS や多くのリソースにタグを付けることができます。エンティティとリソースのタグ付けは、ABAC の最初の手順です。その後、プリンシパルのタグがアクセスしようとしているリソースのタグと一致した場合に操作を許可するように ABAC ポリシーを設計します。

ABAC は、急成長する環境やポリシー管理が煩雑になる状況で役立ちます。

タグに基づいてアクセスを管理するには、`aws:ResourceTag/key-name`、`aws:RequestTag/key-name`、または `aws:TagKeys` の条件キーを使用して、ポリシーの条件要素でタグ情報を提供します。

サービスがすべてのリソースタイプに対して 3 つの条件キーすべてをサポートする場合、そのサービスの値ははいです。サービスが一部のリソースタイプに対してのみ 3 つの条件キーのすべてをサポートする場合、値は「部分的」になります。

ABAC の詳細については、『IAM ユーザーガイド』の「ABAC とは?」を参照してください。ABAC をセットアップするステップを説明するチュートリアルについては、「IAM ユーザーガイド」の「属性に基づくアクセスコントロール (ABAC) を使用する」を参照してください。

Billing での一時的な認証情報の使用

一時的な認証情報のサポート	はい

AWS のサービス 一時的な認証情報を使用してログインすると機能しないものもあります。 AWS のサービス 一時的な認証情報で機能するものなど、追加情報については、『IAM ユーザーガイド』の「IAM と連携する」を参照してくださいAWS のサービス 。

ユーザー名とパスワード以外の方法でにサインインすると、 AWS Management Console 一時的な認証情報が使用されることになります。たとえば、会社のシングルサインオン (SSO) AWS リンクを使用してアクセスすると、そのプロセスによって一時的な認証情報が自動的に作成されます。また、ユーザーとしてコンソールにサインインしてからロールを切り替える場合も、一時的な認証情報が自動的に作成されます。ロールの切り替えに関する詳細については、『IAM ユーザーガイド』の「ロールへの切り替え (コンソール)」を参照してください。

または API を使用して一時的な認証情報を手動で作成できます。 AWS CLI AWS その後、その一時的な認証情報を使用してアクセスできます AWS。 AWS 長期アクセスキーを使用する代わりに、一時的な認証情報を動的に生成することをおすすめします。詳細については、「IAM の一時的セキュリティ認証情報」を参照してください。

Billing のアクセスセッションを転送する

フォワードアクセスセッション (FAS) をサポート	はい

IAM ユーザーまたはロールを使用してアクションを実行する場合 AWS、あなたはプリンシパルと見なされます。一部のサービスを使用する際に、アクションを実行することで、別のサービスの別のアクションがトリガーされることがあります。FASは、を呼び出したプリンシパルの権限と AWS のサービス、 AWS のサービス ダウンストリームサービスにリクエストを行うリクエストを組み合わせて使用します。FASリクエストは、 AWS のサービス サービスが他のユーザーとのやりとりやリソースとのやり取りを必要とするリクエストを受信したときにのみ行われます。この場合、両方のアクションを実行するためのアクセス許可が必要です。FAS リクエストを行う際のポリシーの詳細については、「転送アクセスセッション」を参照してください。

請求のサービスロール

サービスロールに対するサポート	あり

サービスロールとは、サービスがユーザーに代わってアクションを実行するために引き受ける IAM ロールです。IAM 管理者は、IAM 内からサービスロールを作成、変更、削除できます。詳細については、『IAM ユーザーガイド』の「AWS のサービスに権限を委任するロールの作成」を参照してください。

> **Warning**
>
> サービスロールの権限を変更すると、請求機能が動作しなくなる可能性があります。サービスロールの編集は、Billing がガイダンスを提供している場合にのみ行ってください。

Billing のサービスにリンクされたロール

サービスにリンクされたロールのサポート	[いいえ]

サービスにリンクされたロールは、にリンクされているサービスロールの一種です。 AWS のサービスサービスは、ユーザーに代わってアクションを実行するロールを引き受けることができます。AWS アカウント サービスにリンクされたロールはに表示され、そのサービスが所有します。IAM 管理者は、サービスにリンクされたロールの権限を表示できますが、編集することはできません。

サービスにリンクされたロールの作成または管理の詳細については、「IAM と提携するAWS のサービス」を参照してください。表の中から、[Service-linked role] (サービスにリンクされたロール) 列に Yes と記載されたサービスを見つけます。サービスにリンクされたロールに関するドキュメントをサービスで表示するには、[Yes] リンクを選択します。

請求に関する ID ベースのポリシー AWS

デフォルトでは、ユーザーとロールには請求リソースを作成または変更する権限がありません。また、 AWS Management Console、 AWS Command Line Interface (AWS CLI)、 AWS API を使用してタスクを実行することもできません。IAM 管理者は、リソースで必要なアクションを実行するための権限をユーザーに付与する IAM ポリシーを作成できます。その後、管理者はロールに IAM ポリシーを追加し、ユーザーはロールを引き受けることができます。

これらサンプルの JSON ポリシードキュメントを使用して、IAM アイデンティティベースのポリシーを作成する方法については、『IAM ユーザーガイド』の「IAM ポリシーの作成」を参照してください。

各リソースタイプの ARN の形式など、Billing が定義するアクションとリソースタイプの詳細については、『サービス認証リファレンス』の「AWS Billing のアクション、リソース、および条件キー」を参照してください。

トピック

- ポリシーのベストプラクティス
- 請求コンソールの使用
- 自分の権限の表示をユーザーに許可する
- 請求に ID ベースのポリシーを使用する

ポリシーのベストプラクティス

ID ベースのポリシーによって、アカウント内の請求リソースを第三者が作成、アクセス、削除できるかどうかが決まります。これらのアクションを実行すると、 AWS アカウントに料金が発生する可能性があります。アイデンティティベースポリシーを作成したり編集したりする際には、以下のガイドラインと推奨事項に従ってください:

- AWS 管理ポリシーから始めて、最小権限の権限に移行する — ユーザーとワークロードへのアクセス権限の付与を開始するには、AWS 多くの一般的なユースケースで権限を付与する管理ポリシーを使用してください。これらのポリシーは、で利用できます。 AWS アカウント AWS ユースケースに固有のカスタマー管理ポリシーを定義して、権限をさらに減らすことをお勧めします。詳細については、『IAM ユーザーガイド』の「AWS マネージドポリシー」または「AWS ジョブ機能の管理ポリシー」を参照してください。
- 最小特権を適用する – IAM ポリシーで権限を設定するときは、タスクの実行に必要な権限のみを付与します。これを行うには、特定の条件下で特定のリソースに対して実行できるアクションを定義します。これは、最小特権権限とも呼ばれています。IAM を使用して権限を適用する方法の詳細については、『IAM ユーザーガイド』の「IAM でのポリシーと権限」を参照してください。
- IAM ポリシーで条件を使用してアクセスをさらに制限する - ポリシーに条件を追加して、アクションやリソースへのアクセスを制限できます。例えば、ポリシー条件を記述して、すべてのリクエストを SSL を使用して送信するように指定できます。サービスアクションがなどの特定の用途で使用された場合は AWS のサービス、条件を使用してサービスアクションへのアクセスを許可する

こともできます AWS CloudFormation。詳細については、『IAM ユーザーガイド』の [IAM JSON policy elements: Condition] (IAM JSON ポリシー要素：条件) を参照してください。

- IAM Access Analyzer を使用して IAM ポリシーを検証し、安全で機能的な権限を確保する - IAM Access Analyzer は、新規および既存のポリシーを検証して、ポリシーが IAM ポリシー言語 (JSON) および IAM のベストプラクティスに準拠するようにします。IAM アクセスアナライザーは 100 を超えるポリシーチェックと実用的な推奨事項を提供し、安全で機能的なポリシーの作成をサポートします。詳細については、『IAM ユーザーガイド』の「IAM Access Analyzer ポリシーの検証」を参照してください。
- 多要素認証 (MFA) が必要 — IAM ユーザーまたは root ユーザーを必要とするシナリオがある場合は AWS アカウント、セキュリティを強化するために MFA をオンにしてください。API オペレーションが呼び出されるときに MFA を必須にするには、ポリシーに MFA 条件を追加します。詳細については、『IAM ユーザーガイド』の「MFA 保護 API アクセスの設定」を参照してください。

IAM でのベストプラクティスの詳細については、『IAM ユーザーガイド』の「IAM でのセキュリティのベストプラクティス」を参照してください。

請求コンソールの使用

AWS 請求コンソールにアクセスするには、最低限の権限が必要です。これらの権限により、内の請求リソースの詳細を一覧表示して表示できる必要があります AWS アカウント。最小限必要な許可よりも制限が厳しいアイデンティティベースのポリシーを作成すると、そのポリシーを持つエンティティ (ユーザーまたはロール) に対してコンソールが意図したとおりに機能しません。

AWS CLI または AWS API のみを呼び出すユーザーには、最低限のコンソール権限を付与する必要はありません。代わりに、実行しようとしている API オペレーションに一致するアクションのみへのアクセスが許可されます。

AWS 請求コンソールを有効にするために必要な権限、管理者アクセス、AWS 管理ポリシー読み取り専用アクセスなどのアクセス詳細はこのセクションで確認できます。

自分の権限の表示をユーザーに許可する

この例では、ユーザーアイデンティティにアタッチされたインラインおよびマネージドポリシーの表示を IAM ユーザーに許可するポリシーの作成方法を示します。このポリシーには、コンソールで、またはまたは API を使用してこのアクションをプログラムで実行するための権限が含まれています。 AWS CLI AWS

```
{
```

```
    "Version": "2012-10-17",
    "Statement": [
        {
            "Sid": "ViewOwnUserInfo",
            "Effect": "Allow",
            "Action": [
                "iam:GetUserPolicy",
                "iam:ListGroupsForUser",
                "iam:ListAttachedUserPolicies",
                "iam:ListUserPolicies",
                "iam:GetUser"
            ],
            "Resource": ["arn:aws:iam::*:user/${aws:username}"]
        },
        {
            "Sid": "NavigateInConsole",
            "Effect": "Allow",
            "Action": [
                "iam:GetGroupPolicy",
                "iam:GetPolicyVersion",
                "iam:GetPolicy",
                "iam:ListAttachedGroupPolicies",
                "iam:ListGroupPolicies",
                "iam:ListPolicyVersions",
                "iam:ListPolicies",
                "iam:ListUsers"
            ],
            "Resource": "*"
        }
    ]
}
```

請求に ID ベースのポリシーを使用する

> **Note**
>
> 次の AWS Identity and Access Management (IAM) アクションは、2023 年 7 月に標準サポートが終了しました。
>
> - *aws-portal* 名前空間
> - *purchase-orders:ViewPurchaseOrders*
> - *purchase-orders:ModifyPurchaseOrders*

を使用している場合は AWS Organizations、一括ポリシー移行スクリプトを使用して支払いアカウントからポリシーを更新できます。また、従来のアクションから詳細なアクションへのマッピングのリファレンスを使用して、追加する必要のある IAM アクションを検証することもできます。
詳細については、「AWS 請求、 AWS コスト管理、アカウントコンソールの権限の変更」ブログをご覧ください。
2023 年 3 月 6 日午前 11 時 (PDT) AWS Organizations 以降に作成された、または作成に参加している場合、詳細なアクションは組織ですでに実施されています。 AWS アカウント

Important

IAM ポリシーに加えて、[アカウント設定] コンソールページで請求情報とコスト管理コンソールへの IAM アクセスを付与する必要があります。
詳細については、次のトピックを参照してください。

- 請求情報とコスト管理コンソールへのアクセスをアクティベートする
- 「IAM ユーザーガイド」の「IAM チュートリアル: 請求コンソールへのアクセス権の付与」

このセクションでは、ID ベースのポリシーのアカウント管理者が IAM アイデンティティ (ロールとグループ) にアクセス権限ポリシーをアタッチし、請求リソースで操作を実行するためのアクセス権限を付与する方法をご覧ください。

AWS アカウント およびユーザーの詳細については、「IAM とは?」を参照してください。 『IAM ユーザーガイド』の。

カスタマーマネージドポリシーを更新する方法の詳細については、IAM ユーザーガイドの「カスタマーマネージドポリシーの編集 (コンソール)」を参照してください。

AWS 請求アクション

この表は、請求情報とツールへのアクセスを許可する権限をまとめたものです。これらのアクセス許可を使用するポリシーの例については、「AWS 請求ポリシーの例」を参照してください。

AWS コスト管理コンソールのアクションポリシーの一覧については、『AWSコスト管理ユーザーガイド』の「AWS コスト管理アクションポリシー」を参照してください。

アクセス許可名	説明
aws-portal:ViewBilling	Billing and Cost Management コンソールページを表示する権限を付与します。
aws-portal:ModifyBilling	以下のBilling and Cost Management コンソールページを変更する権限を付与します。 • 予算 • 一括請求 • 請求設定 • クレジット • 税金設定 • 支払い方法 • 発注書 • Cost Allocation Tags IAM ユーザーにこれらのコンソールページの変更を許可するには、ModifyBilling と ViewBilling の両方を許可する必要があります。ポリシーの例については、「請求情報の変更を IAM ユーザーに許可する」を参照してください。
aws-portal:ViewAccount	アカウント設定を表示する権限を付与します。
aws-portal:ModifyAccount	アカウント設定を変更する権限を付与します。 IAM ユーザーにアカウント設定の変更を許可するには、ModifyAccount と ViewAccount の両方を許可する必要があります。 [アカウント設定] コンソールページへのアクセスを IAM ユーザーに明示的に拒否するポリシーの例については、「アカウント設定へのアクセスは拒否するが、その他の請求および使用

アクセス許可名	説明
	情報へのフルアクセスは許可する」を参照してください。
aws-portal:ViewPaymentMethods	支払い方法を表示する権限を付与します。
aws-portal:ModifyPaymentMethods	支払い方法を変更する権限を付与します。 ユーザーに支払い方法の変更を許可するには、ModifyPaymentMethods と ViewPaymentMethods の両方を許可する必要があります。
billing:ListBillingViews	プロフォーマ請求グループの請求情報を取得する権限を付与します。これは、「請求書」ページの「 AWS 請求コンダクター」または「AWS コストと使用状況レポート」を使用して行われます。 請求グループに関する詳細な情報は、「AWS Billing Conductor ユーザーガイド」の「請求グループの詳細の表示」を参照してください。
sustainability:GetCarbonFootprintSummary	AWS お客様のカーボンフットプリントツールとデータを閲覧する権限を付与します。これには、Billing and AWS Cost Management コンソールのコストと使用状況レポートページからアクセスできます。 ポリシーの例については、「IAM ユーザーが請求情報とカーボンフットプリントレポートを表示できるようにする」を参照してください。

アクセス許可名	説明
cur:DescribeReportDefinitions	AWS コストと使用状況レポートを表示する権限を付与します。 AWS コストと使用状況レポートの権限は、AWS コストと使用状況レポートサービス API とBilling and Cost Management コンソールを使用して作成されたすべてのレポートに適用されます。請求情報とコスト管理コンソールを使用してレポートを作成する場合、IAM ユーザーの許可を更新することをお勧めします。許可を更新しないと、ユーザーがコンソールのレポートページでレポートの表示、編集、削除を行うアクセス権を失うことになります。 ポリシーの例については、「レポートコンソールページへのアクセスを IAM ユーザーに許可する」を参照してください。
cur:PutReportDefinition	AWS コストと使用状況レポートを作成する権限を付与します。 AWS コストと使用状況レポートの権限は、AWS コストと使用状況レポートサービス API とBilling and Cost Management コンソールを使用して作成されたすべてのレポートに適用されます。請求情報とコスト管理コンソールを使用してレポートを作成する場合、IAM ユーザーの許可を更新することをお勧めします。許可を更新しないと、ユーザーがコンソールのレポートページでレポートの表示、編集、削除を行うアクセス権を失うことになります。 ポリシーの例については、「レポートコンソールページへのアクセスを IAM ユーザーに許可する」を参照してください。

アクセス許可名	説明
cur:DeleteReportDefinition	AWS コストと使用状況レポートを削除する権限を付与します。 AWS コストと使用状況レポートの権限は、AWS コストと使用状況レポートサービス API とBilling and Cost Management コンソールを使用して作成されたすべてのレポートに適用されます。請求情報とコスト管理コンソールを使用してレポートを作成する場合、IAM ユーザーの許可を更新することをお勧めします。許可を更新しないと、ユーザーがコンソールのレポートページでレポートの表示、編集、削除を行うアクセス権を失うことになります。 ポリシーの例については、「AWS コストと使用状況レポートの作成、表示、編集、または削除」を参照してください。
cur:ModifyReportDefinition	AWS コストと使用状況レポートを変更する権限を付与します。 AWS コストと使用状況レポートの権限は、AWS コストと使用状況レポートサービス API とBilling and Cost Management コンソールを使用して作成されたすべてのレポートに適用されます。請求情報とコスト管理コンソールを使用してレポートを作成する場合、IAM ユーザーの許可を更新することをお勧めします。許可を更新しないと、ユーザーがコンソールのレポートページでレポートの表示、編集、削除を行うアクセス権を失うことになります。 ポリシーの例については、「AWS コストと使用状況レポートの作成、表示、編集、または削除」を参照してください。

アクセス許可名	説明
ce:CreateCostCategoryDefinition	コストカテゴリを作成する権限を付与します。 ポリシーの例については、「Cost Categories の表示と管理」を参照してください。
ce:DeleteCostCategoryDefinition	コストカテゴリを削除する権限を付与します。 ポリシーの例については、「Cost Categories の表示と管理」を参照してください。
ce:DescribeCostCategoryDefinition	コストカテゴリを表示する権限を付与します。 ポリシーの例については、「Cost Categories の表示と管理」を参照してください。
ce:ListCostCategoryDefinitions	コストカテゴリを一覧表示する権限を付与します。 ポリシーの例については、「Cost Categories の表示と管理」を参照してください。
ce:UpdateCostCategoryDefinition	コストカテゴリを更新する権限を付与します。 ポリシーの例については、「Cost Categories の表示と管理」を参照してください。
aws-portal:ViewUsage	AWS 使用状況レポートを閲覧する権限を付与します。 使用状況レポートの表示を IAM ユーザーに許可するには、ViewUsage と ViewBilling の両方を許可する必要があります。 ポリシーの例については、「レポートコンソールページへのアクセスを IAM ユーザーに許可する」を参照してください。

アクセス許可名	説明
pricing:DescribeServices	価格表サービス API AWS AWS を介してサービス製品および価格を表示する権限を付与します。 IAM AWS ユーザーが価格表サービス API を使用できるようにするには、DescribeServices GetAttributeValues 、GetProducts を許可する必要があります。 ポリシーの例については、「製品と価格の検索」を参照してください。
pricing:GetAttributeValues	価格表サービス API AWS AWS を介してサービス商品と価格を表示する権限を付与します。 IAM AWS ユーザーが価格表サービス API を使用できるようにするには、DescribeServices GetAttributeValues 、GetProducts を許可する必要があります。 ポリシーの例については、「製品と価格の検索」を参照してください。
pricing:GetProducts	価格表サービス API AWS AWS を介してサービス商品と価格を表示する権限を付与します。 IAM AWS ユーザーが価格表サービス API を使用できるようにするには、DescribeServices GetAttributeValues 、GetProducts を許可する必要があります。 ポリシーの例については、「製品と価格の検索」を参照してください。

アクセス許可名	説明
purchase-orders:ViewPurchaseOrders	発注書を閲覧する権限を付与します。 ポリシーの例については、「発注書の表示と管理」を参照してください。
purchase-orders:ModifyPurchaseOrders	発注書を変更する権限を付与します。 ポリシーの例については、「発注書の表示と管理」を参照してください。
tax:GetExemptions	税務コンソールごとに免除と免除タイプを表示するための読み取り専用アクセス権限を付与します。 ポリシーの例については、「IAM ユーザーが米国の免税状況を確認したり、ケースを作成したりできるようにします。 AWS Support」を参照してください。
tax:UpdateExemptions	米国免税コンソールに免除をアップロードする権限を付与します。 ポリシーの例については、「IAM ユーザーが米国の免税状況を確認したり、ケースを作成したりできるようにします。 AWS Support」を参照してください。
support:CreateCase	免税コンソールからの免除をアップロードするために必要な、サポートケースを提出する権限を付与します。 ポリシーの例については、「IAM ユーザーが米国の免税状況を確認したり、ケースを作成したりできるようにします。 AWS Support」を参照してください。

アクセス許可名	説明
support:AddAttachmentsToSet	免税証明書を免税コンソールにアップロードするために必要なドキュメントをサポートケースに添付する権限を付与します。 ポリシーの例については、「IAM ユーザーが米国の免税状況を確認したり、ケースを作成したりできるようにします。 AWS Support」を参照してください。
customer-verification:GetCustomerVerificationEligibility	(請求先住所または連絡先住所がインドのお客様のみ) 顧客認証資格を取得する権限を付与します。
customer-verification:GetCustomerVerificationDetails	(請求先住所または連絡先住所がインドのお客様のみ) 顧客検証データを取得する権限を付与します。
customer-verification:CreateCustomerVerificationDetails	(請求先住所または連絡先住所がインドのお客様のみ) 顧客検証データを作成する権限を付与します。
customer-verification:UpdateCustomerVerificationDetails	(請求先住所または連絡先住所がインドのお客様のみ) 顧客検証データを更新する権限を付与します。
mapcredit:ListAssociatedPrograms	Migration Acceleration Program支払いアカウントに関連する契約書とダッシュボードを表示する権限を付与します。
mapcredit:ListQuarterSpend	Migration Acceleration Program支払いアカウントの対象となる支出を閲覧する権限を付与します。

アクセス許可名	説明
`mapcredit:ListQuarterCredits`	Migration Acceleration Program支払いアカウントのクレジットを表示する権限を付与します。

AWS 請求ポリシーの例

> **Note**
>
> 次の AWS Identity and Access Management (IAM) アクションは 2023 年 7 月に標準サポートが終了しました。
>
> - *`aws-portal` 名前空間*
> - *`purchase-orders:ViewPurchaseOrders`*
> - *`purchase-orders:ModifyPurchaseOrders`*
>
> を使用している場合は AWS Organizations、一括ポリシー移行スクリプトを使用して支払いアカウントからポリシーを更新できます。また、従来のアクションから詳細なアクションへのマッピングのリファレンスを使用して、追加する必要のある IAM アクションを検証することもできます。
> 詳細については、「AWS 請求、 AWS コスト管理、アカウントコンソールの権限の変更」ブログをご覧ください。
> 2023 年 3 月 6 日午前 11 時 (PDT) AWS Organizations 以降に作成された、または作成に参加している場合、詳細なアクションは組織ですでに実施されています。 AWS アカウント

> **Important**
>
> - これらのポリシーを使用するには、コンソールの [Account Settings (アカウント設定)] ページで請求情報とコスト管理コンソールへの IAM アクセスをアクティベートする必要があります。詳細については、「請求情報とコスト管理コンソールへのアクセスをアクティベートする」を参照してください。
> - 管理ポリシーを使用するには、を参照してください。 AWS AWS 管理ポリシー

このトピックには、アカウントの請求の情報とツールへのアクセスを制御するために IAM ユーザーまたはグループに適用できるポリシーの例が含まれています。以下の基本ルールは、請求情報とコスト管理の IAM ポリシーに適用されます。

- `Version` は常に `2012-10-17` です。
- `Effect` は常に `Allow` または `Deny` です。
- `Action` はアクションまたはワイルドカード (*) の名前です。

  アクションプレフィックスは`budgets`、 AWS 予算、`cur` AWS コストおよび使用状況レポート、AWS 請求、`aws-portal`または`Cost Explorer` `ce` 用です。
- `Resource*` AWS 常に課金用です。

  `budget` リソースで実行されるアクションの場合、予算の Amazon リソースネーム (ARN) を指定します。
- 1 つのポリシーで複数のステートメントを使用できます。

AWS コスト管理コンソールのアクションポリシーの一覧については、『AWSコスト管理ユーザーガイド』の「AWS コスト管理ポリシーの例」を参照してください。

トピック

- 請求情報の表示を IAM ユーザーに許可する
- IAM ユーザーが請求情報とカーボンフットプリントレポートを表示できるようにする
- レポートコンソールページへのアクセスを IAM ユーザーに許可する
- 請求とコスト管理コンソールへの IAM ユーザーアクセスを拒否する
- AWS メンバーアカウントのコンソールのコストと使用状況ウィジェットへのアクセスを拒否します。
- AWS 特定の IAM ユーザーとロールによるコンソールのコストと使用状況ウィジェットへのアクセスを拒否します。
- IAM ユーザーが請求情報を表示することを許可するが、カーボンフットプリントレポートへのアクセスは拒否する
- IAM ユーザーがカーボンフットプリントレポートにアクセスすることを許可するが、請求情報へのアクセスは拒否する
- AWS サービスへのフルアクセスを許可するが、Billing and Cost Management コンソールへの IAM ユーザーアクセスは拒否する
- アカウント設定を除き、請求とコスト管理コンソールの表示を IAM ユーザーに許可する

- 請求情報の変更を IAM ユーザーに許可する
- アカウント設定へのアクセスは拒否するが、その他の請求および使用情報へのフルアクセスは許可する
- レポートを Amazon S3 バケットにデポジットする
- 製品と価格の検索
- コストと使用状況の表示
- リージョンを有効または無効にします AWS 。
- Cost Categories の表示と管理
- AWS コストと使用状況レポートの作成、表示、編集、または削除
- 発注書の表示と管理
- Cost Explorer 設定ページの表示と更新
- Cost Explorer レポートページを使用した表示、作成、更新、および削除
- 予約およびSavings Plans アラートの表示、作成、更新、および削除
- コスト異常検知への読み取り専用アクセスを許可する AWS
- AWS Budgets に IAM ポリシーと SCP の適用を許可します。
- AWS Budgets が IAM ポリシーと SCP を適用し、EC2 インスタンスと RDS インスタンスを対象とすることを許可します。
- IAM ユーザーが米国の免税状況を確認したり、ケースを作成したりできるようにします。 AWS Support
- (請求先住所または連絡先住所がインドにあるお客様向け) 顧客確認情報への読み取り専用アクセスを許可する
- (請求先住所または連絡先住所がインドにあるお客様向け) 顧客確認情報の表示、作成、更新を許可する
- 請求コンソールに情報を表示しますAWS Migration Acceleration Program。

請求情報の表示を IAM ユーザーに許可する

アカウントの機密扱い情報に対する IAM ユーザーアクセスを与えずに IAM ユーザーが請求情報を表示できるようにするには、次のサンプルポリシーのようなポリシーを使用します。このようなポリシーにより、ユーザーはパスワードおよびアカウントアクティビティレポートにアクセスできなくなります。このポリシーでは、次の請求情報とコスト管理コンソールページを表示する許可を IAM ユーザーに与えますが、アカウント設定コンソールページとレポートコンソールページに対するアクセス権は与えません。

- ダッシュボード
- Cost Explorer
- 請求書
- 注文と請求書
- 一括請求
- Preferences (設定)
- クレジット
- 前払い

```
{
    "Version": "2012-10-17",
    "Statement": [
        {
            "Effect": "Allow",
            "Action": "aws-portal:ViewBilling",
            "Resource": "*"
        }
    ]
}
```

IAM ユーザーが請求情報とカーボンフットプリントレポートを表示できるようにする

IAM ユーザーが請求情報とカーボンフットプリントレポートを表示することを許可するには、次の例のようなポリシーを使用します。このポリシーにより、ユーザーはパスワードおよびアカウントアクティビティレポートにアクセスできなくなります。このポリシーでは、次の請求情報とコスト管理コンソールページを表示する許可を IAM ユーザーに与えますが、アカウント設定コンソールページとレポートコンソールページに対するアクセス権は与えません。

- ダッシュボード
- Cost Explorer
- 請求書
- 注文と請求書
- 一括請求
- Preferences (設定)
- クレジット

- 前払い
- 「 AWS コストと使用状況レポート」 AWS ページのカスタマー・カーボン・フットプリント・ツール・セクション

```
{
    "Version": "2012-10-17",
    "Statement": [
        {"Effect": "Allow",
            "Action": "aws-portal:ViewBilling",
            "Resource": "*"
        },
        {"Effect": "Allow",
            "Action": "sustainability:GetCarbonFootprintSummary",
            "Resource": "*"
        }
    ]
}
```

レポートコンソールページへのアクセスを IAM ユーザーに許可する

コンソールの [Reports (レポート)] ページにアクセスして、アカウントアクティビティ情報が含まれている使用状況レポートを表示することを IAM ユーザーに許可するには、次の例のようなポリシーを使用します。

各アクションの定義については、「AWS 請求アクション」を参照してください。

```
{
    "Version": "2012-10-17",
    "Statement": [
        {
            "Effect": "Allow",
            "Action": [
                "aws-portal:ViewUsage",
                "aws-portal:ViewBilling",
                "cur:DescribeReportDefinitions",
                "cur:PutReportDefinition",
                "cur:DeleteReportDefinition",
                "cur:ModifyReportDefinition"
            ],
            "Resource": "*"
        }
```

```
    ]
}
```

請求とコスト管理コンソールへの IAM ユーザーアクセスを拒否する

すべての請求情報とコスト管理コンソールページへの IAM ユーザーアクセスを明示的に拒否するには、次の例のようなポリシーを使用します。

```
{
    "Version": "2012-10-17",
    "Statement": [
        {
            "Effect": "Deny",
            "Action": "aws-portal:*",
            "Resource": "*"
        }
    ]
}
```

AWS メンバーアカウントのコンソールのコストと使用状況ウィジェットへのアクセスを拒否します。

コストと使用状況のデータへのメンバーアカウント (連結アカウント) のアクセスを制限するには、管理アカウント (支払いアカウント) を使用して Cost Explorer の設定タブにアクセスし、[Linked Account Access] (連結アカウントのアクセス) のチェックを外します。これにより、メンバーアカウントの IAM ユーザーまたはロールが実行する IAM アクションに関係なく、AWS Cost Explorer (Cost Management) コンソール、Cost Explorer API、 AWS およびコンソールホームページのコストと使用状況ウィジェットからのコストと使用状況のデータへのアクセスが拒否されます。

AWS 特定の IAM ユーザーとロールによるコンソールのコストと使用状況ウィジェットへのアクセスを拒否します。

特定の IAM AWS ユーザーとロールのコンソールのコストと使用状況ウィジェットへのアクセスを拒否するには、以下のアクセス権限ポリシーを使用してください。

> **Note**
>
> このポリシーを IAM ユーザーまたはロールに追加すると、ユーザーは Cost Explorer (AWS コスト管理) コンソールと Cost Explorer API へのアクセスも拒否されます。

```
{
    "Version": "2012-10-17",
    "Statement": [
        {
            "Effect": "Deny",
            "Action": "ce:*",
            "Resource": "*"
        }
    ]
}
```

IAM ユーザーが請求情報を表示することを許可するが、カーボンフットプリントレポートへのアクセスは拒否する

IAM ユーザーが請求コンソールとコスト管理コンソールの両方の請求情報を確認できるようにするが、 AWS 顧客の二酸化炭素排出量ツールにはアクセスできないようにする。このツールは [AWS コストと使用状況レポート] ページにあります。

```
{
    "Version": "2012-10-17",
    "Statement": [
        {"Effect": "Allow",
            "Action": "aws-portal:ViewBilling",
            "Resource": "*"
        },
        {"Effect": "Deny",
            "Action": "sustainability:GetCarbonFootprintSummary",
            "Resource": "*"
        }
    ]
}
```

IAM ユーザーがカーボンフットプリントレポートにアクセスすることを許可するが、請求情報へのアクセスは拒否する

IAM ユーザーが [AWS コストと使用状況レポート] AWS ページのお客様の二酸化炭素排出量ツールにアクセスできるようにするが、請求およびコスト管理コンソールでの請求情報を表示するためのアクセスは拒否する。

```
{
```

```
    "Version": "2012-10-17",
    "Statement": [
        {"Effect": "Deny",
            "Action": "aws-portal:ViewBilling",
            "Resource": "*"
        },
        {"Effect": "Allow",
            "Action": "sustainability:GetCarbonFootprintSummary",
            "Resource": "*"
        }
    ]
}
```

AWS サービスへのフルアクセスを許可するが、Billing and Cost Management コンソールへの IAM ユーザーアクセスは拒否する

コンソールのすべてへの IAM ユーザーアクセスを拒否するには、次のポリシーを使用します。 AWS Identity and Access Management (IAM) へのユーザーアクセスを拒否して、請求情報やツールへのアクセスを制御するポリシーへのアクセスを防ぎます。

> **Important**
>
> このポリシーは、一切のアクションを許可しません。特定のアクションを許可する他のポリシーと組み合わせてこのポリシーを使用します。

```
{
    "Version": "2012-10-17",
    "Statement": [
        {
            "Effect": "Deny",
            "Action": [
                "aws-portal:*",
                "iam:*"
            ],
            "Resource": "*"
        }
    ]
}
```

アカウント設定を除き、請求とコスト管理コンソールの表示を IAM ユーザーに許可する

このポリシーでは、すべての請求情報とコスト管理コンソールへの読み取り専用アクセスを許可します。これには、支払い方法およびレポートコンソールページが含まれます。ただし、このポリシーは、アカウント設定ページへのアクセスを拒否します。これは、このポリシーがアカウントのパスワード、連絡先情報、およびセキュリティの質問を保護することを意味します。

```
{
    "Version": "2012-10-17",
    "Statement": [
        {
            "Effect": "Allow",
            "Action": "aws-portal:View*",
            "Resource": "*"
        },
        {
            "Effect": "Deny",
            "Action": "aws-portal:*Account",
            "Resource": "*"
        }
    ]
}
```

請求情報の変更を IAM ユーザーに許可する

請求情報とコスト管理コンソールのアカウント請求情報の変更を IAM ユーザーに許可するには、請求情報を表示する許可も IAM ユーザーに与える必要があります。次のポリシー例では、一括請求、設定、およびクレジットコンソールページの変更を IAM ユーザーに許可します。さらに、次の請求情報とコスト管理コンソールページを表示する許可も IAM ユーザーに与えます。

- ダッシュボード
- Cost Explorer
- 請求書
- 注文と請求書
- 前払い

```
{
```

```
    "Version": "2012-10-17",
    "Statement": [
        {
            "Effect": "Allow",
            "Action": "aws-portal:*Billing",
            "Resource": "*"
        }
    ]
}
```

アカウント設定へのアクセスは拒否するが、その他の請求および使用情報へのフルアクセスは許可する

アカウントのパスワード、連絡先情報、セキュリティの質問を保護するには、アカウント設定への IAM ユーザーのアクセスを拒否しますが、&AB; コンソールのその他の機能に対するフルアクセスは引き続き有効にできます。以下は、ポリシーの例です。

```
{
    "Version": "2012-10-17",
    "Statement": [
        {
            "Effect": "Allow",
            "Action": [
                "aws-portal:*Billing",
                "aws-portal:*Usage",
                "aws-portal:*PaymentMethods"
            ],
            "Resource": "*"
        },
        {
            "Effect": "Deny",
            "Action": "aws-portal:*Account",
            "Resource": "*"
        }
    ]
}
```

レポートを Amazon S3 バケットにデポジットする

以下のポリシーにより、 AWS アカウントと Amazon S3 バケットの両方を所有している場合、Billing and Cost Management AWS は詳細な請求書を Amazon S3 バケットに保存できます。このポリシーは、IAM ユーザーではなく Amazon S3 バケットに適用する必要があります。つまり、こ

れはリソースベースのポリシーであり、ユーザーベースのポリシーではないからです。請求書にアクセスする必要がない IAM ユーザーに対しては、バケットへの IAM ユーザーアクセスを拒否することをお勧めします。

DOC-EXAMPLE-BUCKET1 をバケットの名前に置き換えます。

詳細については、Amazon Simple Storage Service ユーザーガイドの「バケットポリシーとユーザーポリシーの使用」を参照してください。

```
{
  "Version": "2012-10-17",
  "Statement": [
  {
    "Effect": "Allow",
    "Principal": {
      "Service": "billingreports.amazonaws.com"
    },
    "Action": [
      "s3:GetBucketAcl",
      "s3:GetBucketPolicy"
    ],
    "Resource": "arn:aws:s3:::DOC-EXAMPLE-BUCKET1"
  },
  {
    "Effect": "Allow",
    "Principal": {
      "Service": "billingreports.amazonaws.com"
    },
    "Action": "s3:PutObject",
    "Resource": "arn:aws:s3:::DOC-EXAMPLE-BUCKET1/*"
  }
  ]
}
```

製品と価格の検索

IAM AWS ユーザーが価格表サービス API を使用できるようにするには、次のポリシーを使用してアクセス権を付与します。

このポリシーは、 AWS 価格表一括API、 AWS 価格表クエリ API の両方を使用する権限を付与します。

```
{
```

```
    "Version": "2012-10-17",
    "Statement": [
        {
            "Effect": "Allow",
            "Action": [
                "pricing:DescribeServices",
                "pricing:GetAttributeValues",
                "pricing:GetProducts",
                "pricing:GetPriceListFileUrl",
                "pricing:ListPriceLists"
            ],
            "Resource": [
                "*"
            ]
        }
    ]
}
```

コストと使用状況の表示

IAM ユーザーが AWS Cost Explorer API を使用できるようにするには、次のポリシーを使用してアクセス権を付与します。

```
{
  "Version": "2012-10-17",
  "Statement": [
    {
      "Effect": "Allow",
      "Action": [
        "ce:*"
      ],
      "Resource": [
        "*"
      ]
    }
  ]
}
```

リージョンを有効または無効にします AWS 。

ユーザーがリージョンを有効または無効にできるようにする IAM AWSポリシーの例については、『IAM ユーザーガイド』の「 AWS リージョンの有効化と無効化の許可」を参照してください。

Cost Categories の表示と管理

Cost Categories の使用、表示、および管理を IAM ユーザーに許可するには、次のポリシーを使用してアクセス権を付与します。

```
{
  "Version": "2012-10-17",
  "Statement": [
    {
      "Sid": "VisualEditor0",
      "Effect": "Allow",
      "Action": [
        "aws-portal:ViewBilling",
        "ce:GetCostAndUsage",
        "ce:DescribeCostCategoryDefinition",
        "ce:UpdateCostCategoryDefinition",
        "ce:CreateCostCategoryDefinition",
        "ce:DeleteCostCategoryDefinition",
        "ce:ListCostCategoryDefinitions",
        "ce:TagResource",
        "ce:UntagResource",
        "ce:ListTagsForResource",
        "pricing:DescribeServices"
      ],
      "Resource": "*"
    }
  ]
}
```

AWS コストと使用状況レポートの作成、表示、編集、または削除

このポリシーでは、API を使用した `sample-report` の作成、表示、編集、または削除を IAM ユーザーに許可します。

```
{
    "Version": "2012-10-17",
    "Statement": [
        {
            "Sid": "ManageSampleReport",
            "Effect": "Allow",
   "Action": [
                "cur:PutReportDefinition",
                "cur:DeleteReportDefinition",
```

```
                "cur:ModifyReportDefinition"
            ],
            "Resource": "arn:aws:cur:*:123456789012:definition/sample-report"
        },
        {
            "Sid": "DescribeReportDefs",
            "Effect": "Allow",
            "Action": "cur:DescribeReportDefinitions",
            "Resource": "*"
        }
    ]
}
```

発注書の表示と管理

このポリシーでは、発注書の表示と管理を IAM ユーザーに許可し、以下のポリシーを使用してアクセス権を付与します。

```
{
    "Version": "2012-10-17",
    "Statement": [
        {
            "Sid": "VisualEditor0",
            "Effect": "Allow",
            "Action": [
                "aws-portal:ViewBilling",
                "purchase-orders:*"
            ],
            "Resource": "*"
        }
    ]
}
```

Cost Explorer 設定ページの表示と更新

このポリシーでは、Cost Explorer 設定ページの表示と更新を IAM ユーザーに許可します。

```
{
  "Version": "2012-10-17",
  "Statement": [
    {
      "Sid": "VisualEditor0",
      "Effect": "Allow",
```

```
      "Action": [
        "aws-portal:ViewBilling",
        "ce:UpdatePreferences"
       ],
      "Resource": "*"
    }
  ]
}
```

次のポリシーでは、Cost Explorer の表示を IAM ユーザーに許可しますが、設定ページを表示または編集する許可は拒否します。

```
{
    "Version": "2012-10-17",
    "Statement": [
        {
            "Sid": "VisualEditor0",
            "Effect": "Allow",
            "Action": [
                "aws-portal:ViewBilling"
            ],
            "Resource": "*"
        },
        {
            "Sid": "VisualEditor1",
            "Effect": "Deny",
            "Action": [
                "ce:GetPreferences",
                "ce:UpdatePreferences"
            ],
            "Resource": "*"
        }
    ]
}
```

次のポリシーでは、Cost Explorer の表示を IAM ユーザーに許可しますが、設定ページを編集する許可は拒否します。

```
{
    "Version": "2012-10-17",
    "Statement": [
        {
```

```
            "Sid": "VisualEditor0",
            "Effect": "Allow",
            "Action": [
                "aws-portal:ViewBilling"
            ],
            "Resource": "*"
        },
        {
            "Sid": "VisualEditor1",
            "Effect": "Deny",
            "Action": [
                "ce:UpdatePreferences"
            ],
            "Resource": "*"
        }
    ]
}
```

Cost Explorer レポートページを使用した表示、作成、更新、および削除

このポリシーでは、Cost Explorer レポートページを使用した表示、作成、更新、および削除を IAM ユーザーに許可します。

```
{
  "Version": "2012-10-17",
  "Statement": [
    {
      "Sid": "VisualEditor0",
      "Effect": "Allow",
      "Action": [
        "aws-portal:ViewBilling",
        "ce:CreateReport",
        "ce:UpdateReport",
        "ce:DeleteReport"
       ],
      "Resource": "*"
    }
  ]
}
```

次のポリシーでは、Cost Explorer の表示を IAM ユーザーに許可しますが、レポートページを表示または編集する許可は拒否します。

```
{
    "Version": "2012-10-17",
    "Statement": [
        {
            "Sid": "VisualEditor0",
            "Effect": "Allow",
            "Action": [
                "aws-portal:ViewBilling"
            ],
            "Resource": "*"
        },
        {
            "Sid": "VisualEditor1",
            "Effect": "Deny",
            "Action": [
                "ce:DescribeReport",
                "ce:CreateReport",
                "ce:UpdateReport",
                "ce:DeleteReport"
            ],
            "Resource": "*"
        }
    ]
}
```

次のポリシーでは、Cost Explorer の表示を IAM ユーザーに許可しますが、レポートページを編集する許可は拒否します。

```
{
    "Version": "2012-10-17",
    "Statement": [
        {
            "Sid": "VisualEditor0",
            "Effect": "Allow",
            "Action": [
                "aws-portal:ViewBilling"
            ],
            "Resource": "*"
        },
        {
            "Sid": "VisualEditor1",
            "Effect": "Deny",
            "Action": [
```

```
                "ce:CreateReport",
                "ce:UpdateReport",
                "ce:DeleteReport"
            ],
            "Resource": "*"
        }
    ]
}
```

予約およびSavings Plans アラートの表示、作成、更新、および削除

このポリシーでは、予約の失効アラートおよびSavings Plansアラートの表示、作成、更新、および削除を IAM ユーザーに許可します。予約の失効アラートまたは Savings Plans アラートを編集するには、次の 3 つのきめ細かなアクションすべてが必要です: `ce:CreateNotificationSubscription`、`ce:UpdateNotificationSubscription`、および `ce:DeleteNotificationSubscription`。

```
{
  "Version": "2012-10-17",
  "Statement": [
    {
      "Sid": "VisualEditor0",
      "Effect": "Allow",
      "Action": [
        "aws-portal:ViewBilling",
        "ce:CreateNotificationSubscription",
        "ce:UpdateNotificationSubscription",
        "ce:DeleteNotificationSubscription"
       ],
      "Resource": "*"
    }
  ]
}
```

次のポリシーでは、Cost Explorer の表示を IAM ユーザーに許可しますが、予約の失効アラートおよびSavings Plansページを表示または編集する許可は拒否します。

```
{
    "Version": "2012-10-17",
    "Statement": [
        {
            "Sid": "VisualEditor0",
```

```
            "Effect": "Allow",
            "Action": [
                "aws-portal:ViewBilling"
            ],
            "Resource": "*"
        },
        {
            "Sid": "VisualEditor1",
            "Effect": "Deny",
            "Action": [
                "ce:DescribeNotificationSubscription",
                "ce:CreateNotificationSubscription",
                "ce:UpdateNotificationSubscription",
                "ce:DeleteNotificationSubscription"
            ],
            "Resource": "*"
        }
    ]
}
```

次のポリシーでは、Cost Explorer の表示を IAM ユーザーに許可しますが、予約の失効アラートおよび Savings Plans ページを編集する許可は拒否します。

```
{
    "Version": "2012-10-17",
    "Statement": [
        {
            "Sid": "VisualEditor0",
            "Effect": "Allow",
            "Action": [
                "aws-portal:ViewBilling"
            ],
            "Resource": "*"
        },
        {
            "Sid": "VisualEditor1",
            "Effect": "Deny",
            "Action": [
                "ce:CreateNotificationSubscription",
                "ce:UpdateNotificationSubscription",
                "ce:DeleteNotificationSubscription"
            ],
            "Resource": "*"
```

```
        }
    ]
}
```

コスト異常検知への読み取り専用アクセスを許可する AWS

IAM AWS ユーザーにコスト異常検知への読み取り専用アクセスを許可するには、次のポリシーを使用してアクセス権を付与します。 `ce:ProvideAnomalyFeedback`読み取り専用アクセスの一部としては省略可能です。

```
{
  "Version": "2012-10-17",
  "Statement": [
    {
      "Action": [
        "ce:Get*"
      ],
      "Effect": "Allow",
      "Resource": "*"
    }
  ]
}
```

AWS Budgets に IAM ポリシーと SCP の適用を許可します。

このポリシーにより、 AWS Budgets がユーザーに代わって IAM ポリシーとサービスコントロールポリシー (SCP) を適用できるようになります。

```
{
  "Version": "2012-10-17",
  "Statement": [
    {
      "Effect": "Allow",
      "Action": [
        "iam:AttachGroupPolicy",
        "iam:AttachRolePolicy",
        "iam:AttachUserPolicy",
        "iam:DetachGroupPolicy",
        "iam:DetachRolePolicy",
        "iam:DetachUserPolicy",
        "organizations:AttachPolicy",
```

```
        "organizations:DetachPolicy"
      ],
      "Resource": "*"
    }
  ]
}
```

AWS Budgets が IAM ポリシーと SCP を適用し、EC2 インスタンスと RDS インスタンスを対象とすることを許可します。

このポリシーにより、 AWS Budgets は IAM ポリシーとサービスコントロールポリシー (SCP) を適用し、ユーザーに代わって Amazon EC2 インスタンスと Amazon RDS インスタンスをターゲットにすることができます。

信頼ポリシー

```
{
  "Version": "2012-10-17",
  "Statement": [
    {
      "Effect": "Allow",
      "Principal": {
        "Service": "budgets.amazonaws.com"
      },
      "Action": "sts:AssumeRole"
    }
  ]
}
```

アクセス権限ポリシー

```
{
  "Version": "2012-10-17",
  "Statement": [
    {
      "Effect": "Allow",
      "Action": [
        "ec2:DescribeInstanceStatus",
        "ec2:StartInstances",
        "ec2:StopInstances",
        "iam:AttachGroupPolicy",
```

```
        "iam:AttachRolePolicy",
        "iam:AttachUserPolicy",
        "iam:DetachGroupPolicy",
        "iam:DetachRolePolicy",
        "iam:DetachUserPolicy",
        "organizations:AttachPolicy",
        "organizations:DetachPolicy",
        "rds:DescribeDBInstances",
        "rds:StartDBInstance",
        "rds:StopDBInstance",
        "ssm:StartAutomationExecution"
      ],
      "Resource": "*"
    }
  ]
}
```

IAM ユーザーが米国の免税状況を確認したり、ケースを作成したりできるようにします。 AWS Support

このポリシーにより、IAM ユーザーは米国の免税を確認したり、 AWS Support 免税コンソールに免除証明書をアップロードするケースを作成したりできます。

```
{
    "Version": "2012-10-17",
    "Statement": [
        {
            "Action": [
                "aws-portal:*",
                "tax:GetExemptions",
                "tax:UpdateExemptions",
                "support:CreateCase",
                "support:AddAttachmentsToSet"
            ],
            "Resource": [
                "*"
            ],
            "Effect": "Allow"
        }
    ]
}
```

(請求先住所または連絡先住所がインドにあるお客様向け) 顧客確認情報への読み取り専用アクセスを許可する

このポリシーでは、IAM ユーザーに顧客検証情報への読み取り専用アクセスを許可します。

各アクションの定義については、「AWS 請求アクション」を参照してください。

```
{
    "Version": "2012-10-17",
    "Statement": [{
        "Effect": "Allow",
        "Action": [
            "customer-verification:GetCustomerVerificationEligibility",
            "customer-verification:GetCustomerVerificationDetails"
        ],
        "Resource": "*"
    }]
}
```

(請求先住所または連絡先住所がインドにあるお客様向け) 顧客確認情報の表示、作成、更新を許可する

このポリシーでは、IAM ユーザーに顧客検証情報の管理を許可します。

各アクションの定義については、「AWS 請求アクション」を参照してください。

```
{
    "Version": "2012-10-17",
    "Statement": [{
        "Effect": "Allow",
        "Action": [
            "customer-verification:CreateCustomerVerificationDetails",
            "customer-verification:UpdateCustomerVerificationDetails",
            "customer-verification:GetCustomerVerificationEligibility",
            "customer-verification:GetCustomerVerificationDetails"
        ],
        "Resource": "*"
    }]
}
```

請求コンソールに情報を表示しますAWS Migration Acceleration Program。

このポリシーにより、IAM Migration Acceleration Program ユーザーは支払い者のアカウントの契約、クレジット、および対象となる支出を請求コンソールで確認できます。

各アクションの定義については、「AWS 請求アクション」を参照してください。

```
{
    "Version": "2012-10-17",
    "Statement": [{
        "Effect": "Allow",
        "Action": [
            "mapcredit:ListQuarterSpend",
            "mapcredit:ListQuarterCredits",
            "mapcredit:ListAssociatedPrograms"
        ],
        "Resource": "*"
    }]
}
```

AWS Billing向けのアクセスコントロールの移行

> **Note**
>
> 次の AWS Identity and Access Management (IAM) アクションは、2023 年 7 月に標準サポートが終了しました。
>
> - *aws-portal* 名前空間
> - *purchase-orders:ViewPurchaseOrders*
> - *purchase-orders:ModifyPurchaseOrders*
>
> を使用している場合は AWS Organizations、一括ポリシー移行スクリプトを使用して支払いアカウントからポリシーを更新できます。また、従来のアクションから詳細なアクションへのマッピングのリファレンスを使用して、追加する必要のある IAM アクションを検証することもできます。
> 詳細については、、、AWS Billingアカウントコンソール権限の変更に関するブログをご覧ください。 AWS Cost Management

2023 年 3 月 6 日午前 11 時 (PDT) AWS Organizations 以降に作成された、または CREATED に参加している場合、詳細なアクションはすでに組織内で実施されています。 AWS アカウント

きめ細かいアクセス制御を使用して、組織内の個人にサービスへのアクセスを提供できます。 AWS Billing and Cost Management 例えば、Billing and Cost Management コンソールへのアクセスを提供せずに Cost Explorer へのアクセスを提供できます。

きめ細かなアクセス制御を使用するには、ポリシーを `aws-portal` から新しい IAM アクションに移行する必要があります。

アクセス許可ポリシーまたはサービスコントロールポリシー (SCP) の次の IAM アクションは、この移行で更新する必要があります。

- `aws-portal:ViewAccount`
- `aws-portal:ViewBilling`
- `aws-portal:ViewPaymentMethods`
- `aws-portal:ViewUsage`
- `aws-portal:ModifyAccount`
- `aws-portal:ModifyBilling`
- `aws-portal:ModifyPaymentMethods`
- `purchase-orders:ViewPurchaseOrders`
- `purchase-orders:ModifyPurchaseOrders`

[Affected policies] (影響を受けるポリシー) ツールを使用して影響を受ける IAM ポリシーを特定する方法については、「影響を受けるポリシーツールの使用方法」を参照してください。

Note

コストレポート、使用状況レポート AWS Cost Explorer、 AWS AWS 予算への API アクセスは影響を受けません。
請求情報とコスト管理コンソールへのアクセスをアクティベートする 変更しないでください。

トピック

- アクセス許可の管理
- 影響を受けるポリシーツールの使用方法
- スクリプトを使用して詳細な IAM の アクションを使用するポリシーを一括移行する
- 詳細な IAM アクションのリファレンスのマッピング

アクセス許可の管理

AWS Billing は AWS Identity and Access Management (IAM) サービスと統合されているため、組織内の誰がBilling and Cost Management コンソールの特定のページにアクセスできるかを制御できます。この対象としては、支払い、請求、クレジット、無料利用枠、支払いの詳細設定、一括請求、税金設定、アカウントページなど各機能のページが含まれます。

Billing and Cost Management コンソールをきめ細かく制御するには、以下の IAM アクセス許可を使用してください。

アクセス許可を詳細に設定するには、`aws-portal` ポリシーを `account`、`billing`、`payments`、`freetier`、`invoicing`、`tax`、`consolidatedbilling` に置き換えて使用します。

加えて、`purchase-orders:ViewPurchaseOrders` および`purchase-orders:ModifyPurchaseOrders` は、`purchase-orders`、`account`、および `payments` での、きめ細かなアクションで置き換えます。

きめ細かいアクションを使用する AWS Billing

次の表では、請求の情報へのアクセスを、IAM ユーザーおよびロールに対し付与する (あるいは拒否する) ための許可をまとめています。これらのアクセス許可を使用するポリシーの例については、「AWS 請求ポリシーの例」を参照してください。

AWS Cost Management コンソールのアクションのリストについては、『ユーザーガイド』の「AWS Cost Management アクションポリシー」を参照してください。AWS Cost Management

Billing and Cost Management コンソールの機能名	IAM アクション	説明
請求ホーム	`account:GetAccount Information`	[ホーム] ページを閲覧するアクセス許可を付与します。こ

Billing and Cost Management コンソールの機能名	IAM アクション	説明
	billing:Get* payments:List* tax:List*	れらは読み取り専用のアクセス許可です。 Note これらはコンソール専用のアクセス許可です。これらのアクセス許可に対しては、API によりアクセスすることはできません。
請求書	account:GetAccountInformation billing:Get* consolidatedbilling:Get* consolidatedbilling:List* invoicing:List* payments:List*	[請求] ページを閲覧するアクセス許可を付与します。これらは読み取り専用のアクセス許可です。 Note これらはコンソール専用のアクセス許可です。これらのアクセス許可に対しては、API によりアクセスすることはできません。

Billing and Cost Management コンソールの機能名	IAM アクション	説明
	`invoicing:Get*`	[請求] ページから請求書をダウンロードするアクセス許可を付与します。 **Note** これはコンソール専用のアクセス許可です。このアクセス許可に対しては、API によりアクセスすることはできません。
	`cur:Get*`	[請求] ページから CSV レポートをダウンロードするアクセス許可を付与します。 **Note** これはコンソール専用のアクセス許可です。このアクセス許可に対しては、API によりアクセスすることはできません。

Billing and Cost Management コンソールの機能名	IAM アクション	説明
	`billing:ListBillingViews`	ARN AWS Billing Conductor 作成された各請求グループの説明を閲覧する権限を付与します。これは、特定のグループ向けのレポート設定を作成する際に必要です。 **Note** これはコンソール専用のアクセス許可です。このアクセス許可に対しては、API によりアクセスすることはできません。

支払い	`account:GetAccountInformation`
	
	`billing:Get*`
	
	`payments:Get*`
	
	`payments:List*`
		[支払い] ページを閲覧するアクセス許可を付与します。これらは、[支払期限]、[未適用資金]、[トランザクション]、および [前払い] タブに対する読み取り専用のアクセス許可です。
		
		Note
		これらはコンソール専用のアクセス許可です。これらのアクセス許可に対しては、API によりアクセスすることはできません。

Billing and Cost Management コンソールの機能名	IAM アクション	説明
	`invoicing:Get*`	[トランザクション] タブから請求書をダウンロードするアクセス許可 を付与します。 **Note** これはコンソール専用のアクセス許可です。このアクセス許可に対しては、API によりアクセスすることはできません。
	`payments:Update*`	前払いの使用、および支払いの詳細設定を行うアクションに必要なアクセス許可を付与します。

	`payments:Make*`
	
	`invoicing:Get*`
		前払いでの資金請求書類の作成、および支払いを行うためのアクセス許可を付与します。

クレジット	`billing:Get*`
	
	`account:GetAccount Information`
		[クレジット] ページを閲覧するアクセス許可を付与します。

	`billing:RedeemCred its`	クレジットを引き換えるアクセス許可を付与します。

Billing and Cost Management コンソールの機能名	IAM アクション	説明
発注書	account:GetAccountInformation account:GetContactInformation payments:Get* payments:List* purchase-orders:ListPurchaseOrders purchase-orders:ListPurchaseOrderInvoices tax:ListTaxRegistrations consolidatedbilling:GetAccountBillingRole	[発注書] ページを閲覧するアクセス許可を付与します。
	purchase-orders:GetPurchaseOrder	発注書の詳細を閲覧するアクセス許可を付与します。
	purchase-orders:AddPurchaseOrder	発注書を追加するアクセス許可を付与します。
	purchase-orders:DeletePurchaseOrder	発注書を削除するアクセス許可を付与します。

Billing and Cost Management コンソールの機能名	IAM アクション	説明

	`purchase-orders:UpdatePurchaseOrder`
	
	`purchase-orders:UpdatePurchaseOrderStatus`
		発注書と発注状況を更新するためのアクセス許可を付与します。

AWS コストと使用状況レポート	`cur:GetClassic*`
	
	`cur:DescribeReportDefinitions`
		AWS コストと使用状況レポートページの AWS CUR レポートのリストを表示する権限を付与します。
		
		Note
		`cur:GetClassic*` はコンソール専用のアクセス許可です。このアクセス許可に対しては、API によりアクセスすることはできません。

Billing and Cost Management コンソールの機能名	IAM アクション	説明
	`billing:ListBillingViews`	Billing Conductor AWS で作成された各請求グループの説明を閲覧する権限を付与します。ARNこれは、特定のグループ向けのレポート設定を作成する際に必要です。 **Note** これはコンソール専用のアクセス許可です。このアクセス許可に対しては、API によりアクセスすることはできません。

	`s3:ListAllMyBuckets`
	
	`s3:CreateBucket`
	
	`s3:PutBucketPolicy`
	
	`s3:GetBucketLocation`
	
	`cur:Validate*`
	
	`cur:PutReportDefinition`
		新しい AWS CUR レポートの作成に必要な権限アクションを付与します。
		
		Note
		`cur:Validate*` はコンソール専用のアクセス許可です。これらのアクセス許可に対しては、API によりアクセスすることはできません。

Billing and Cost Management コンソールの機能名	IAM アクション	説明

	`cur:Validate*`
	
	`s3:CreateBucket`
	
	`s3:ListAllMyBuckets`
	
	`s3:PutBucketPolicy`
	
	`s3:GetBucketLocation`
	
	`cur:ModifyReportDefinition`
		AWS CUR 定義を編集する権限を付与します。
		
		Note
		`cur:Validate*` はコンソール専用のアクセス許可です。これらのアクセス許可に対しては、API によりアクセスすることはできません。

	`cur:DeleteReportDefinition`	AWS CUR レポートを削除する権限を付与します。
	`cur:GetUsage*`	使用状況レポートをダウンロードするアクセス許可を付与します。
	`sustainability:GetCarbonFootprintSummary`	AWS アカウントのサステナビリティデータを閲覧するアクセス許可を付与します。

Billing and Cost Management コンソールの機能名	IAM アクション	説明
コストカテゴリ	account:GetAccountInformation ce:ListCostCategoryDefinitions ce:DescribeCostCategoryDefinition ce:GetCostAndUsage ce:ListTagsForResource consolidatedbilling:GetAccountBillingRole	コストカテゴリを閲覧するアクセス許可を付与します。 **Note** account:GetAccountInformation はコンソール専用のアクセス許可です。これらのアクセス許可に対しては、API によりアクセスすることはできません。

Billing and Cost Management コンソールの機能名	IAM アクション	説明
	billing:Get* ce:TagResource ce:ListCostAllocationTags consolidatedbilling:List* ce:CreateCostCategoryDefinition pricing:DescribeServices ce:GetDimensionValues ce:GetTags	コストカテゴリを作成するアクセス許可を付与します。 **Note** billing:Get* および consolidatedbilling:List* は、コンソール専用のアクセス許可です。これらのアクセス許可に対しては、API によりアクセスすることはできません。
	ce:UpdateCostCategoryDefinition ce:UntagResource	コストカテゴリを変更するアクセス許可を付与します。
	ce:DeleteCostCategoryDefinition	コストカテゴリを削除するアクセス許可を付与します。

Billing and Cost Management コンソールの機能名	IAM アクション	説明
コスト配分タグ	account:GetAccountInformation ce:ListCostAllocationTags consolidatedbilling:GetAccountBillingRole	コスト配分タグを表示するアクセス許可を付与します。
	ce:UpdateCostAllocationTagsStatus	コスト配分タグを有効または無効にするアクセス許可を付与します。
AWS Budgets	budgets:ViewBudget budgets:DescribeBudgetActionsForBudget budgets:DescribeBudgetAction budgets:DescribeBudgetActionsForAccount budgets:DescribeBudgetActionHistories	[予算] ページを閲覧するアクセス許可を付与します。

Billing and Cost Management コンソールの機能名	IAM アクション	説明
	budgets:CreateBudgetAction budgets:ExecuteBudgetAction budgets:DeleteBudgetAction budgets:UpdateBudgetAction budgets:ModifyBudget	予算および予算アクションを作成、削除、変更するアクセス許可を付与します。
無料利用枠	billing:Get* freetier:Get*	無料利用枠の使用制限と過去 1 か月の使用状況を閲覧するアクセス許可を付与します。
請求設定	account:GetAccountInformation billing:Get* consolidatedbilling:Get* consolidatedbilling:List* cur:GetClassic* cur:Validate* freetier:Get* invoicing:Get*	[請求の詳細設定] ページのすべてのセクションを表示するためのアクションに必要なアクセス許可を付与します。 **Note** これらはコンソール専用のアクセス許可です。これらのアクセス許可に対しては、API によりアクセスすることはできません。

Billing and Cost Management コンソールの機能名	IAM アクション	説明

	`billing:Update*`
	
	`freetier:Put*`
	
	`cur:PutClassic*`
	
	`s3:ListAllMyBuckets`
	
	`s3:CreateBucket`
	
	`s3:PutBucketPolicy`
	
	`s3:GetBucketLocation`
	
	`invoicing:Put*`
		[請求の詳細設定] ページで次の変更を行うためのアクセス許可を付与します。
		
		• RI または Savings Plans へのクレジット共有の有効化と無効化
		• [Free Tier Usage Alert] (無料利用枠の使用アラート) の設定
		• [detailed billing reports] (請求明細レポート) での配信および詳細の設定
		• [PDF invoice by email] (PDF 請求書のメール送信) の設定または更新
		
		Note
		`billing:Update*` 、`freetier:Put*` 、`cur:PutClassic*` はコンソール専用のアクセス許可です。これらのアクセス許可に対しては、API によりアクセスすることはできません。

Billing and Cost Management コンソールの機能名	IAM アクション	説明
支払いの詳細設定	account:GetAccountInformation billing:Get* payments:GetPaymentInstrument payments:List* payments:GetPaymentStatus	[支払いの詳細設定] ページを表示するアクセス許可を付与します。 **Note** これらはコンソール専用のアクセス許可です。これらのアクセス許可に対しては、API によりアクセスすることはできません。
	payments:Update* payments:Make* payments:CreatePaymentInstrument payments:DeletePaymentInstrument	支払い方法を作成または更新するアクセス許可を付与します。 **Note** payments:Make* は、支払い用のカードで多要素認証 (MFA) が要求される場合にのみ必要です。

Billing and Cost Management コンソールの機能名	IAM アクション	説明

	`tax:PutTaxRegistration`
	`tax:Delete*`
	`payments:UpdatePaymentPreferences`
	`payments:CreatePaymentInstrument`
		税登録番号を更新または削除するアクセス許可を付与します。

	`payments:Update*`	支払いプロファイルを更新するアクセス許可を付与します **Note** これはコンソール専用のアクセス許可です。このアクセス許可に対しては、API によりアクセスすることはできません。
税金設定	`tax:List*` `tax:Get*`	税金設定を表示するアクセス許可を付与します。
	`tax:BatchPut*`	税金設定を更新するアクションに必要なアクセス許可を付与します。
	`tax:Put*`	税継承を設定するアクセス許可を付与します。

Billing and Cost Management コンソールの機能名	IAM アクション	説明

	`tax:UpdateExemptions`
	
	`support:CreateCase`
	
	`support:AddAttachmentsToSet`
		免税を更新するアクセス許可を付与します。

アカウント	`account:Get*`
	
	`account:List*`
	
	`billing:Get*`
	
	`payments:List*`
		[アカウント設定] を表示するアクセス許可を付与します。
		
		Note
		`billing:Get*` はコンソール専用のアクセス許可です。このアクセス許可に対しては、API によりアクセスすることはできません。

	`account:CloseAccount`	AWS アカウント閉じる権限を付与します。 **Note** これはコンソール専用のアクセス許可です。このアクセス許可に対しては、API によりアクセスすることはできません。

Billing and Cost Management コンソールの機能名	IAM アクション	説明
	account:DisableRegion	AWS アカウントページでリージョンをオフにする権限を付与します。
	account:EnableRegion	AWS アカウントページでリージョンを有効にする権限を付与します。
	account:PutAlternateContact	アカウントの代替連絡先を登録するアクセス許可を付与します。
	account:PutChallengeQuestions	アカウントの秘密の質問を設定するアクセス許可を付与します。 **Note** このアクセス許可はコンソール専用です。このアクセス許可に対しては、API によりアクセスすることはできません。
	account:PutContactInformation	アカウント用に、住所など主な連絡先情報を設定または登録するためのアクションに必要なアクセス許可を付与します。

Billing and Cost Management コンソールの機能名	IAM アクション	説明
	`billing:PutContractInformation`	アカウントが公共機関の顧客へのサービスに使用される場合に、アカウント契約情報を設定するためのアクセス許可を付与します。取得可能な情報としては、エンドユーザーの組織名、契約番号、発注書番号などがあります。 **Note** このアクセス許可はコンソール専用です。このアクセス許可に対しては、API によりアクセスすることはできません。
	`billing:Update*`	[アカウント] ページの [IAM アクセスのアクティブ化] 設定で、有効化または無効化を行うアクションに必要なアクセス許可を付与します。
	`payments:Update*`	前払い、通貨設定、請求先の詳細と住所、支払い条件を設定するためのアクセス許可を付与します。

影響を受けるポリシーツールの使用方法

> **Note**
>
> 次の AWS Identity and Access Management (IAM) アクションは、2023 年 7 月に標準サポートが終了しました。
>
> - *aws-portal* 名前空間
> - *purchase-orders:ViewPurchaseOrders*
> - *purchase-orders:ModifyPurchaseOrders*
>
> を使用している場合は AWS Organizations、一括ポリシー移行スクリプトを使用して支払いアカウントからポリシーを更新できます。また、従来のアクションから詳細なアクションへのマッピングのリファレンスを使用して、追加する必要のある IAM アクションを検証することもできます。
> 詳細については、、、AWS Billingアカウントコンソール権限の変更に関するブログをご覧ください。 AWS Cost Management
> 2023 年 3 月 6 日午前 11 時 (PDT) AWS Organizations 以降に作成された、または CREATED に参加している場合、詳細なアクションはすでに組織内で実施されています。 AWS アカウント

請求コンソールの [影響を受けるポリシー] ツールを使用して IAM ポリシー (SCP を除く) を特定し、この移行によって影響を受ける IAM アクションを参照します。[影響を受けるポリシー] ツールを使用して、以下のタスクを実行します。

- IAM ポリシーを特定し、この移行によって影響を受ける IAM アクションを参照します。
- 更新したポリシーをクリップボードにコピーします。
- 影響を受けるポリシーを IAM ポリシーエディターで開きます。
- アカウントの更新したポリシーを保存します。
- 詳細な権限を有効にして、古いアクションを無効にします。

このツールはログインしているアカウントの範囲内で動作し、 AWS 他のアカウントに関する情報は公開されません。 AWS Organizations

影響を受けるポリシーツールを使用するには

1. AWS Management Console にサインインし、https://console.aws.amazon.com/billing/ AWS Billing にあるコンソールを開きます。
2. [Affected policies] (影響を受けるポリシー) ツールにアクセスするには、次の URL (https://console.aws.amazon.com/poliden/home?region=us-east-1#/) をブラウザに貼り付けます。

   > **Note**
   >
   > `iam:GetAccountAuthorizationDetails` アクセス許可は、このページを表示するために必要です。

3. 影響を受ける IAM ポリシーが記載されている表を確認します。ポリシーで参照されている特定の IAM アクションを確認するには、[Deprecated IAM actions] (廃止予定の IAM アクション) 列を使用してください。
4. [更新したポリシーをコピー] 列で [コピー] を選択し、更新したポリシーをクリップボードにコピーします。更新したポリシーには、既存のポリシーと、それに追加された詳細な推奨アクションが個別の `Sid` ブロックとして含まれます。このブロックには、ポリシーの末尾にプレフィックス `AffectedPoliciesMigrator` が付きます。
5. [IAM コンソールでポリシーを編集] 列で、[編集] を選択して IAM ポリシーエディターに移動します。既存のポリシーの JSON が表示されます。
6. 既存のポリシー全体を、ステップ 4 でコピーした更新済みのポリシーに置き換えます。必要に応じて他の変更を加えることができます。
7. [次へ]、[変更を保存] の順に選択します。
8. 影響を受けるすべてのポリシーについて、ステップ 3 ~ 7 を繰り返します。
9. ポリシーを更新したら、[影響を受けるポリシー] ツールを更新して、影響を受けるポリシーがリストにないことを確認します。すべてのポリシーの [新しい IAM アクションが見つかりました] 列に [はい] が表示され、[コピー] ボタンと [編集] ボタンは無効になります。影響を受けるポリシーが更新されます。

アカウントで詳細なアクションを有効にするには

ポリシーを更新したら、次の手順に従ってアカウントで詳細なアクションを有効にします。

[新しい IAM アクションを管理] セクションを使用できるのは、組織の管理アカウント (支払人) または個人アカウントだけです。個人アカウントは、新しいアクションを自分で有効にできます。管理

アカウントは、組織全体または一部のメンバーアカウントに対して新しいアクションを有効にできます。管理アカウントの場合は、すべてのメンバーアカウントの影響を受けるポリシーを更新し、組織で新しいアクションを有効にします。詳細については、「アカウントを新しいきめ細かいアクションと既存の IAM アクションに切り替える方法」を参照してください。 ブログ投稿のセクション。 AWS

> **Note**
>
> これを実行するには、次のアクセス許可が必要です。
>
> - `aws-portal:GetConsoleActionSetEnforced`
> - `aws-portal:UpdateConsoleActionSetEnforced`
> - `ce:GetConsoleActionSetEnforced`
> - `ce:UpdateConsoleActionSetEnforced`
> - `purchase-orders:GetConsoleActionSetEnforced`
> - `purchase-orders:UpdateConsoleActionSetEnforced`

[新しい IAM アクションを管理] セクションが表示されない場合は、アカウントで詳細な IAM アクションがすでに有効になっていることを意味します。

1. [新しい IAM アクションを管理] では、[強制される現在のアクションセット] 設定は [既存] ステータスになります。

   [新しいアクションを有効にする (詳細)] を選択し、[変更を適用] を選択します。
2. ダイアログボックスで、[Yes] を選択します。「強制される現在のアクションセット] ステータスが [詳細] に変わります。つまり、新しいアクションがユーザーの AWS アカウント または組織に強制されます。
3. (オプション) その後、既存のポリシーを更新して、古いアクションをすべて削除できます。

Example 例: IAM ポリシーの前と後

次の IAM ポリシーには古い `aws-portal:ViewPaymentMethods` アクションが含まれています。

```
{
    "Version": "2012-10-17",
    "Statement": [
        {
```

```
            "Effect": "Allow",
            "Action": [
                "aws-portal:ViewPaymentMethods"
            ],
            "Resource": "*"
        }
    ]
}
```

更新したポリシーをコピーすると、次の例では詳細なアクションを含む新しい Sid ブロックが作成されます。

```
{
    "Version": "2012-10-17",
    "Statement": [
        {
            "Effect": "Allow",
            "Action": [
                "aws-portal:ViewPaymentMethods"
            ],
            "Resource": "*"
        },
        {
            "Sid": "AffectedPoliciesMigrator0",
            "Effect": "Allow",
            "Action": [
                "account:GetAccountInformation",
                "invoicing:GetInvoicePDF",
                "payments:GetPaymentInstrument",
                "payments:GetPaymentStatus",
                "payments:ListPaymentPreferences"
            ],
            "Resource": "*"
        }
    ]
}
```

関連リソース

詳細については、「IAM ユーザーガイド」の「Sid」を参照してください。

新しい詳細アクションの詳細については、「詳細な IAM アクションのリファレンスのマッピング」と「きめ細かな請求アクションの使用」を参照してください。

スクリプトを使用して詳細な IAM の アクションを使用するポリシーを一括移行する

> **Note**
>
> 次の AWS Identity and Access Management (IAM) アクションは 2023 年 7 月に標準サポートが終了しました。
>
> - *aws-portal* 名前空間
> - *purchase-orders:ViewPurchaseOrders*
> - *purchase-orders:ModifyPurchaseOrders*
>
> を使用している場合は AWS Organizations、一括ポリシー移行スクリプトを使用して支払いアカウントからポリシーを更新できます。また、従来のアクションから詳細なアクションへのマッピングのリファレンスを使用して、追加する必要のある IAM アクションを検証することもできます。
> 詳細については、「AWS 請求、 AWS コスト管理、アカウントコンソールの権限の変更」ブログをご覧ください。
> 2023 年 3 月 6 日午前 11 時 (PDT) AWS Organizations 以降に作成された、または作成に参加している場合、詳細なアクションは組織ですでに実施されています。 AWS アカウント

IAM ポリシーを移行して詳細なアクションとして知られる新しいアクションを使用するために、AWS サンプルのウェブサイトのスクリプトを使用できます。

これらのスクリプトを組織の支払いアカウントから実行して、組織内で古い IAM アクションを使用し、影響を受ける以下のポリシーを特定します。

- カスタマーマネージド IAM ポリシー
- ロール、グループ、ユーザーの IAM インラインポリシー
- サービスコントロールポリシー (支払人のアカウントのみに適用)
- 許可セット

スクリプトは、ポリシーで使用されている既存のアクションに対応する の新しいアクションの提案を生成します。提案を確認し、スクリプトを使用して組織内の影響を受けるすべてのポリシーに新しいアクションを追加します。 AWS AWS 管理ポリシーや管理 SCP (SCP など) を更新する必要はありません。 AWS Control Tower AWS Organizations

これらのスクリプトは以下の目的で使用します。

- ポリシーの更新が効率化され、影響を受けるポリシーを支払いアカウントから簡単に管理できます。
- ポリシーの更新に必要な時間が短縮されます。各メンバーアカウントにサインインしてポリシーを手動で更新する必要はありません。
- 複数の異なるメンバーアカウントの同一のポリシーをグループにまとめることができます。その場合、1 つずつ確認しなくても、すべての同じポリシーで同じ更新を確認することや適用することができます。
- 2023 年 7 月 6 日に古い IAM AWS アクションを廃止した後も、ユーザーアクセスが影響を受けないようにしてください。

ポリシーとサービスコントロールポリシーの詳細については、 以下のトピックを参照してください。

- 「IAM ユーザーガイド」の「IAM ポリシーを管理する」
- 「AWS Organizations ユーザーガイド」の「サービスコントロールポリシー (SCP)」
- 「IAM Identity Center ユーザーガイド」の「カスタム権限」

概要

このトピックに従って、次のステップを完了します。

トピック

- 前提条件
- ステップ1: 環境の構築
- ステップ 2: 作成 CloudFormation StackSet
- ステップ 3: 影響を受けるポリシーを特定する
- ステップ 4: 推奨された変更を確認する
- ステップ 5: 影響を受けるポリシーを更新する
- ステップ 6: 変更を元に戻す (オプション)
- IAM ポリシーの例

前提条件

開始するには、以下を実行する必要があります。

- Python 3 をダウンロードしてインストールします。
- 支払いアカウントへのサインイン、および次の IAM 権限を持つ IAM プリンシパルがあることを確認します。

```
"iam:GetAccountAuthorizationDetails",
"iam:GetPolicy",
"iam:GetPolicyVersion",
"iam:GetUserPolicy",
"iam:GetGroupPolicy",
"iam:GetRole",
"iam:GetRolePolicy",
"iam:CreatePolicyVersion",
"iam:DeletePolicyVersion",
"iam:ListAttachedRolePolicies",
"iam:ListPolicyVersions",
"iam:PutUserPolicy",
"iam:PutGroupPolicy",
"iam:PutRolePolicy",
"iam:SetDefaultPolicyVersion",
"organizations:ListAccounts",
"organizations:ListPolicies",
"organizations:DescribePolicy",
"organizations:UpdatePolicy",
"organizations:DescribeOrganization",
"sso:DescribePermissionSet",
"sso:DescribePermissionSetProvisioningStatus",
"sso:GetInlinePolicyForPermissionSet",
"sso:ListInstances",
"sso:ListPermissionSets",
"sso:ProvisionPermissionSet",
"sso:PutInlinePolicyToPermissionSet",
"sts:AssumeRole"
```

> **Tip**
>
> 最初に、テストアカウントなどのアカウントのサブセットを使用して、提案された変更が予期された通りに行われることを確認することをお勧めします。

その後、組織内の残りのアカウントに対してスクリプトを再度実行できます。

ステップ1: 環境の構築

開始するには、AWS Samples Web サイトから必要なファイルをダウンロードします。次に、コマンドを実行して環境をセットアップします。

使用する環境をセットアップするには

1. AWS Samples ウェブサイトからリポジトリを複製します。コマンドラインウィンドウで、次のコマンドを実行できます。

```
git clone https://github.com/aws-samples/bulk-policy-migrator-scripts-for-account-cost-billing-consoles.git
```

2. ファイルをダウンロードしたディレクトリに移動します。以下のコマンドを使用できます。

```
cd bulk-policy-migrator-scripts-for-account-cost-billing-consoles
```

リポジトリには、以下のスクリプトとリソースがあります。

- `billing_console_policy_migrator_role.json`— 組織のメンバーアカウントに `BillingConsolePolicyMigratorRole` IAM CloudFormation ロールを作成するテンプレート。スクリプトはこのロールを継承し、影響を受けるポリシーを読み取って更新することができます。
- `action_mapping_config.json`— one-to-many 古いアクションと新しいアクションのマッピングが含まれます。スクリプトはこのファイルを使用して、古いアクションを含み、影響を受ける各ポリシーの新しいアクションを提案します。

  それぞれの古いアクションは、複数の詳細なアクションに対応しています。ファイルに提案されている新しいアクションにより、 AWS のサービス ユーザーは移行前にそのアクションにアクセスできます。
- `identify_affected_policies.py` – 組織内の影響を受けるポリシーをスキャンして特定します。このスクリプトは、影響を受けるポリシーと提案された新しいアクションをリストする `affected_policies_and_suggestions.json` ファイルを生成します。

  古いアクションの同じセットを使用し、影響を受けるポリシーは JSON ファイルにグループ化されるため、提案された新しいアクションを確認または更新できます。

- `update_affected_policies.py` – 組織内の影響を受けるポリシーを更新します。スクリプトは `affected_policies_and_suggestions.json` ファイルを入力し、提案された新しいアクションをポリシーに追加します。
- `rollback_affected_policies.py` – (オプション) 影響を受けるポリシーに加えられた変更を元に戻します。このスクリプトは、影響を受けるポリシーから新しい詳細アクションを削除します。

3. 仮想環境をセットアップして有効化するには、次のコマンドを実行します。

```
python3 -m venv venv
```

```
source venv/bin/activate
```

4. AWS SDK for Python (Boto3) 以下のコマンドを実行して依存関係をインストールします。

```
pip install -r requirements.txt
```

> **Note**
>
> AWS Command Line Interface (AWS CLI) AWS を使用するように認証情報を設定する必要があります。詳細については、「AWS SDK for Python (Boto3)」を参照してください。

詳細については、README.md ファイルを参照してください。

ステップ 2: 作成 CloudFormation StackSet

CloudFormation 以下の手順に従ってスタックセットを作成します。このスタックセットは、組織内のすべてのメンバーアカウントの `BillingConsolePolicyMigratorRole` IAM ロールを作成します。

> **Note**
>
> このステップを完了する必要があるのは、管理アカウント (支払いアカウント) から 1 回だけです。

を作成するには CloudFormation StackSet

1. テキストエディタで `billing_console_policy_migrator_role.json` ファイルを開き、*`<management_account>`* の各インスタンスを支払いアカウントのアカウント ID (*`123456789012`* など) に置き換えます。
2. ファイルを保存します。
3. AWS Management Console 支払人アカウントとしてにログインします。
4. CloudFormation コンソールで、`billing_console_policy_migrator_role.json`更新したファイルを使用してスタックセットを作成します。

   詳細については、『AWS CloudFormation ユーザーガイド』の「 AWS CloudFormation コンソールでのスタックセットの作成」を参照してください。

CloudFormation スタックセットを作成すると、組織内の各メンバーアカウントに `BillingConsolePolicyMigratorRole` IAM ロールが割り当てられます。

IAM ロールには以下のアクセス許可が含まれます。

```
"iam:GetAccountAuthorizationDetails",
"iam:GetPolicy",
"iam:GetPolicyVersion",
"iam:GetUserPolicy",
"iam:GetGroupPolicy",
"iam:GetRolePolicy",
"iam:CreatePolicyVersion",
"iam:DeletePolicyVersion",
"iam:ListPolicyVersions",
"iam:PutUserPolicy",
"iam:PutGroupPolicy",
"iam:PutRolePolicy",
"iam:SetDefaultPolicyVersion"
```

メモ

- メンバーアカウントごとに、スクリプトは AssumeRoleAPI オペレーションを呼び出し、`BillingConsolePolicyMigratorRole` IAM ロールを引き受けるための一時的な認証情報を取得します。

- スクリプトは ListAccountsAPI オペレーションを呼び出して、すべてのメンバーアカウントを取得します。
- また、スクリプトは IAM API オペレーションを呼び出して、ポリシーへの読み取りアクセス許可と書き込みアクセス許可を実行します。

ステップ 3: 影響を受けるポリシーを特定する

スタックセットを作成してファイルをダウンロードしたら、identify_affected_policies.py スクリプトを実行します。このスクリプトは、各メンバーアカウントの BillingConsolePolicyMigratorRole IAM ロールを継承し、影響を受けるポリシーを特定します。

影響を受けるポリシーを特定するには

1. スクリプトをダウンロードしたディレクトリに移動します。

```
cd policy_migration_scripts/scripts
```

2. identify_affected_policies.py スクリプトを実行します。

次の入力パラメータを使用できます。

- AWS アカウント スクリプトにスキャンさせたいこと。アカウントを指定するには、次の入力パラメータを使用します。
  - --all – 組織内のすべてのメンバーアカウントをスキャンします。

```
python3 identify_affected_policies.py --all
```

  - --accounts – 組織内のメンバーアカウントのサブセットをスキャンします。

```
python3 identify_affected_policies.py --accounts 111122223333, 444455556666,
 777788889999
```

  - --exclude-accounts – 組織内の特定のメンバーアカウントを除外します。

```
python3 identify_affected_policies.py --all --exclude-accounts 111111111111,
 222222222222, 333333333333
```

- `--action-mapping-config-file` – (オプション) `action_mapping_config.json` ファイルへのパスを指定します。スクリプトは、このファイルを使用して影響を受けるポリシーの推奨される更新を生成します。パスを指定しない場合、スクリプトはフォルダー内の `action_mapping_config.json` ファイルを使用します。

```
python3 identify_affected_policies.py --action-mapping-config-file c:\Users\username
\Desktop\Scripts\action_mapping_config.json --all
```

> **Note**
>
> このスクリプトで組織単位 (OU) を指定することはできません。

スクリプトを実行すると、`Affected_Policies_<Timestamp>` フォルダーに 2 つの JSON ファイルが作成されます。

- `affected_policies_and_suggestions.json`
- `detailed_affected_policies.json`

`affected_policies_and_suggestions.json`

影響を受けるポリシーと推奨される新しいアクションを一覧表示します。古いアクションの同じセットを使用し、影響を受けるポリシーは、ファイルにグループ化されます。

このファイルには次のセクションが含まれます。

- スクリプトで指定したアカウントの概要を提供するメタデータ。これには以下が含まれます。
  - スキャンされたアカウントと `identify_affected_policies.py` スクリプトで使用された入力パラメータ
  - 影響を受けるアカウントの数
  - 影響を受けるポリシーの数
  - 類似ポリシーグループの数
- 類似ポリシーグループ — アカウントのリストとポリシーの詳細 (次のセクションを含む) が含まれます。
  - `ImpactedPolicies` – 影響を受けるポリシーとグループに含めるポリシーを指定します

- ImpactedPolicyStatements – 影響を受けるポリシー内で古いアクションを現在使用している Sid ブロックに関する情報を提供します。このセクションには古いアクションと IAM 要素 (Effect、Principal、NotPrincipal、NotAction、Condition など) が含まれます。
- SuggestedPolicyStatementsToAppend – 新しい SID ブロックとして追加される新しい推奨アクションを提供します。

  ポリシーを更新すると、このブロックがポリシーの最後に追加されます。

Example **affected_policies_and_suggestions.json** ファイルの例

このファイルには、以下の基準に基づいて類似するポリシーがグループ化されています。

- 同じ古いアクションが使用されている — すべての SID ブロックに同じ古いアクションがあるポリシー。
- マッチングの詳細 — 影響を受けるアクションに加えて、ポリシーには次のような同一の IAM 要素があります。
  - Effect (Allow/Deny)
  - Principal (アクセスを許可または拒否されるユーザー)
  - NotAction (許可されていないアクション)
  - NotPrincipal (アクセスが明示的に拒否されるユーザー)
  - Resource(AWS ポリシーが適用されるリソース)
  - Condition (ポリシーが適用される特定の条件)

> **Note**
>
> 詳細については、「IAM ポリシーの例」を参照してください。

Example **affected_policies_and_suggestions.json** の例

```
[{
        "AccountsScanned": [
            "111111111111",
            "222222222222"
        ],
        "TotalAffectedAccounts": 2,
        "TotalAffectedPolicies": 2,
        "TotalSimilarPolicyGroups": 2
```

```
    },
    {
        "GroupName": "Group1",
        "ImpactedPolicies": [{
                "Account": "111111111111",
                "PolicyType": "UserInlinePolicy",
                "PolicyName": "Inline-Test-Policy-Allow",
                "PolicyIdentifier": "1111111_1-user:Inline-Test-Policy-Allow"
            },
            {
                "Account": "222222222222",
                "PolicyType": "UserInlinePolicy",
                "PolicyName": "Inline-Test-Policy-Allow",
                "PolicyIdentifier": "222222_1-group:Inline-Test-Policy-Allow"
            }
        ],
        "ImpactedPolicyStatements": [
            [{
                "Sid": "VisualEditor0",
                "Effect": "Allow",
                "Action": [
                    "aws-portal:ViewAccounts"
                ],
                "Resource": "*"
            }]
        ],
        "SuggestedPolicyStatementsToAppend": [{
            "Sid": "BillingConsolePolicyMigrator0",
            "Effect": "Allow",
            "Action": [
                "account:GetAccountInformation",
                "account:GetAlternateContact",
                "account:GetChallengeQuestions",
                "account:GetContactInformation",
                "billing:GetContractInformation",
                "billing:GetIAMAccessPreference",
                "billing:GetSellerOfRecord",
                "payments:ListPaymentPreferences"
            ],
            "Resource": "*"
        }]
    },
    {
        "GroupName": "Group2",
```

```
        "ImpactedPolicies": [{
                "Account": "111111111111",
                "PolicyType": "UserInlinePolicy",
                "PolicyName": "Inline-Test-Policy-deny",
                "PolicyIdentifier": "1111111_2-user:Inline-Test-Policy-deny"
            },
            {
                "Account": "222222222222",
                "PolicyType": "UserInlinePolicy",
                "PolicyName": "Inline-Test-Policy-deny",
                "PolicyIdentifier": "222222_2-group:Inline-Test-Policy-deny"
            }
        ],
        "ImpactedPolicyStatements": [
            [{
                "Sid": "VisualEditor0",
                "Effect": "deny",
                "Action": [
                    "aws-portal:ModifyAccount"
                ],
                "Resource": "*"
            }]
        ],
        "SuggestedPolicyStatementsToAppend": [{
            "Sid": "BillingConsolePolicyMigrator1",
            "Effect": "Deny",
            "Action": [
                "account:CloseAccount",
                "account:DeleteAlternateContact",
                "account:PutAlternateContact",
                "account:PutChallengeQuestions",
                "account:PutContactInformation",
                "billing:PutContractInformation",
                "billing:UpdateIAMAccessPreference",
                "payments:UpdatePaymentPreferences"
            ],
            "Resource": "*"
        }]
    }
]
```

detailed_affected_policies.json

メンバーアカウントに対して identify_affected_policies.py スクリプトが識別した影響を受けるすべてのアカウントの定義が含まれます。

ファイルには類似するポリシーがグループ化されています。このファイルを参照として使用すると、各メンバーアカウントにサインインして各ポリシーとアカウントの更新をここに確認する必要なく、ポリシーの変更を確認および管理できます。

ファイルでポリシー名 (*YourCustomerManagedReadOnlyAccessBillingUser* など) を検索して、影響を受けるポリシー定義を確認できます。

Example 例: **detailed_affected_policies.json**

```
[{
        "Account": "111111111111",
        "PolicyType": "CustomerManagedPolicy",
        "PolicyName": "AwsPortalviewAccount",
        "PolicyIdentifier": "arn:aws:iam::111111111111:policy/AwsPortalviewAccount",

        "PolicyDocument": {
            "Version": "2012-10-17",
            "Statement": [{
                "Sid": "VisualEditor0",
                "Effect": "Allow",
                "Action": [
                    "aws-portal:ViewAccount"
                ],
                "Resource": "*"
            }]
        }
    },

    {
        "Account": "222222222222",
        "PolicyType": "CustomerManagedPolicy",
        "PolicyName": "AwsPortalviewAccount",
        "PolicyIdentifier": "arn:aws:iam::222222222222:policy/AwsPortalviewAccount",

        "PolicyDocument": {
            "Version": "2012-10-17",
            "Statement": [{
                "Sid": "VisualEditor0",
```

```
                "Effect": "Allow",
                "Action": [
                    "aws-portal:ViewAccount"
                ],
                "Resource": "*"
            }]
        }
    },
    {
        "Account": "111111111111",
        "PolicyType": "CustomerManagedPolicy",
        "PolicyName": "AwsPortalModifyAccount",
        "PolicyIdentifier": "arn:aws:iam::111111111111:policy/
AwsPortalModifyAccount",

        "PolicyDocument": {

            "Version": "2012-10-17",
            "Statement": [{
                "Sid": "VisualEditor0",
                "Effect": "Deny",
                "Action": [
                    "aws-portal:ModifyAccount"
                ],
                "Resource": "*"
            }]
        }
    },

    {
        "Account": "222222222222",
        "PolicyType": "CustomerManagedPolicy",
        "PolicyName": "AwsPortalModifyAccount",
        "PolicyIdentifier": "arn:aws:iam::222222222222:policy/
AwsPortalModifyAccount",

        "PolicyDocument": {

            "Version": "2012-10-17",
            "Statement": [{
                "Sid": "VisualEditor0",
                "Effect": "Deny",
                "Action": [
                    "aws-portal:ModifyAccount"
```

```
                ],
                "Resource": "*"
            }]
        }
    }

]
```

ステップ 4: 推奨された変更を確認する

スクリプトによって作成された affected_policies_and_suggestions.json ファイルを確認して変更を加えます。

影響を受けるポリシーを確認するには

1. テキストエディタで、affected_policies_and_suggestions.json ファイルを開きます。
2. AccountsScanned セクションで、スキャンされたアカウント全体で識別された類似グループの数が予期されることを確認します。
3. 影響を受けるポリシーに追加される推奨詳細アクションを確認します。
4. 必要に応じてファイルを更新して保存します。

例 1: **action_mapping_config.json** ファイルを更新する

action_mapping_config.json の推奨マッピングは更新できます。ファイルを更新した後、identify_affected_policies.py スクリプトを再実行します。このスクリプトは、絵協を受けるポリシーの更新された候補を生成します。

action_mapping_config.json ファイルの複数のバージョンを作成して、さまざまなアクセス許可を持つさまざまなアカウントのポリシーを変更できます。例えば、テストアカウントのアクセス許可を移行する action_mapping_config_testing.json という名前のファイルを作成し、本番稼働用アカウント用の action_mapping_config_production.json を作成します。

例 2: **affected_policies_and_suggestions.json** ファイルを更新する

affected_policies_and_suggestions.json ファイル内の推奨される変更セクションを直接編集して、影響を受ける特定のポリシーグループの推奨される変更を変更できます。

このセクションで行った変更は、影響を受ける特定のポリシーグループ内のすべてのポリシーに適用されます。

例 3: 特定のポリシーをカスタマイズする

影響を受けるポリシーグループ内のポリシーで、推奨される更新とは異なる変更が必要であることがわかった場合は、次のことを行うことができます。

- identify_affected_policies.py スクリプトから特定のアカウントを除外します。その後、除外されたアカウントを個別に確認できます。
- 別のアクセス許可が必要な影響を受けるポリシーとアカウントを削除することによって、影響を受ける Sid ブロックを更新します。特定のアカウントのみを含む JSON ブロック、または現在の更新の影響を受けるポリシー実行から除外する JSON ブロックを作成します。

  identify_affected_policies.py スクリプトを再実行すると、更新されたブロックに関連アカウントのみが表示されます。その後、その特定の Sid ブロックに推奨される変更を絞り込むことができます。

ステップ 5: 影響を受けるポリシーを更新する

推奨される変更を確認して修正した後、update_affected_policies.py スクリプトを実行します。スクリプトは入力として affected_policies_and_suggestions.json ファイルを取ります。このスクリプトは、affected_policies_and_suggestions.json ファイルにリストされている影響を受けるポリシーを更新する BillingConsolePolicyMigratorRole IAM ロールを継承します。

影響を受けるポリシーを更新するには

1. まだ開いていない場合は、 AWS CLI のコマンドラインウィンドウを開きます。
2. 次のコマンドを入力して update_affected_policies.py スクリプトを実行します。次の入力パラメータを入力できます。

- 更新対象となる影響を受けるポリシーのリストを含む affected_policies_and_suggestions.json ファイルのディレクトリパス。このファイルは前のステップの出力です。

```
python3 update_affected_policies.py --affected-policies-directory
 Affected_Policies_<Timestamp>
```

update_affected_policies.py スクリプト
は、affected_policies_and_suggestions.json ファイル内の影響を受けるポリシーを推奨される新しいアクションで更新します。スクリプトは BillingConsolePolicyMigrator# として識別されるポリシーに Sid ブロックを追加します。ここで、# は増分カウンタ (1、2、3 など) に対応します。

例えば、古いアクションを使用し、影響を受けるポリシー内に複数の Sid ブロックがある場合、スクリプトは、各 Sid ブロックに対応する複数の Sid ブロック (BillingConsolePolicyMigrator# として表示) を追加します。

> **Important**
>
> - このスクリプトは、ポリシーから古い IAM アクションを削除することや、ポリシー内の既存の Sid ブロックを変更することはありません。代わりに、Sid ブロックを作成してポリシーの最後に追加します。これらの新しい Sid ブロックには、JSON ファイルの推奨される新しいアクションが含まれています。元のポリシーのアクセス許可は変更されません。
> - 変更を元に戻す必要がある場合に備えて、BillingConsolePolicyMigrator# Sid ブロックの名前を変更しないことを推奨します。

Example 例: **Sid** ブロックが追加されたポリシー

BillingConsolePolicyMigrator1 ブロックと BillingConsolePolicyMigrator2 ブロックに追加された Sid ブロックを確認します。

```
{
    "Version": "2012-10-17",
    "Statement": [{
            "Effect": "Allow",
            "Action": [
                "ce:*",
                "aws-portal:ViewAccount"
            ],
            "Resource": "*",
            "Principal": {
                "AWS": "arn:aws:iam::111111111111:BillingRole"
```

```
            },
            "Condition": {
                "BoolIfExists": {
                    "aws:MultiFactorAuthPresent": "true"
                }
            }
        },
        {
            "Sid": "BillingConsolePolicyMigrator1",
            "Effect": "Allow",
            "Action": [
                "account:GetAccountInformation",
                "account:GetAlternateContact",
                "account:GetChallengeQuestions",
                "account:GetContactInformation",
                "billing:GetContractInformation",
                "billing:GetIAMAccessPreference",
                "billing:GetSellerOfRecord",
                "payments:ListPaymentPreferences"
            ],
            "Resource": "*",
            "Principal": {
                "AWS": "arn:aws:iam::111111111111:BillingRole"
            },
            "Condition": {
                "BoolIfExists": {
                    "aws:MultiFactorAuthPresent": "true"
                }
            }
        },
        {
            "Sid": "BillingConsolePolicyMigrator2",
            "Effect": "Deny",
            "Action": [
                "account:CloseAccount",
                "account:DeleteAlternateContact",
                "account:PutAlternateContact",
                "account:PutChallengeQuestions",
                "account:PutContactInformation",
                "billing:PutContractInformation",
                "billing:UpdateIAMAccessPreference",
                "payments:UpdatePaymentPreferences"
            ],
            "Resource": "*"
```

```
        }
    ]
}
```

スクリプトは、失敗したオペレーションを含むステータスレポートを生成し、JSON ファイルをローカルに出力します。

Example 例: ステータスレポート

```
[{
    "Account": "111111111111",
    "PolicyType": "Customer Managed Policy"
    "PolicyName": "AwsPortalViewPaymentMethods",
    "PolicyIdentifier": "identifier",
    "Status": "FAILURE", // FAILURE or SKIPPED
    "ErrorMessage": "Error message details"
}]
```

Important

- identify_affected_policies.py スクリプトと update_affected_policies.py スクリプトを再実行すると、BillingConsolePolicyMigratorRole#Sid ブロックを含むすべてのポリシーがスキップされます。スクリプトでは、これらのポリシーが以前にスキャンおよび更新されていること、および追加の更新は必要ないことが想定されています。これにより、スクリプトがポリシー内の同じアクションを複製することが防止されます。
- 影響を受けるポリシーを更新した後、影響を受けるポリシーツールを使用して新しい IAM を使用できます。問題が見つかった場合は、ツールを使用して前のアクションに戻すことができます。スクリプトを使用してポリシーの更新を元に戻すこともできます。

  詳細については、「AWS 請求影響を受けるポリシーツールの使用方法、コスト管理、アカウントコンソールの権限の変更」ブログ記事を参照してください。
- 更新を管理するには、次の方法があります。
  - 各アカウントにスクリプトを個別に実行します。
  - 類似アカウント (テストアカウント、QA アカウント、本番稼働用アカウントなど) にスクリプトをバッチで実行します。
  - すべてのアカウントにスクリプトを実行します。

- 一部のアカウントをバッチで更新し、その他のアカウントを個々に更新します。

ステップ 6: 変更を元に戻す (オプション)

rollback_affected_policies.py スクリプトは、指定されたアカウントに関して影響を受ける各ポリシーに適用された変更を元に戻します。スクリプトは、update_affected_policies.py スクリプトが追加したすべての Sid ブロックを削除します。これらの Sid ブロックは BillingConsolePolicyMigratorRole# の形式です。

変更を元に戻すには

1. まだ開いていない場合は、 AWS CLI のコマンドラインウィンドウを開きます。
2. 次のコマンドを入力して rollback_affected_policies.py スクリプトを実行します。次の入力パラメータを入力できます。

- --accounts
  - ロールバックに含める AWS アカウント ID をカンマで区切ったリストを指定します。
  - 次の例では、指定されたポリシーをスキャンし AWS アカウント、ブロックを含むステートメントをすべて削除します。BillingConsolePolicyMigrator# Sid

```
python3 rollback_affected_policies.py --accounts 111122223333, 555555555555,
 666666666666
```

- --all
  - 組織内のすべての AWS アカウント ID が含まれます。
  - 次の例では、組織内のすべてのポリシーがスキャンされ、BillingConsolePolicyMigratorRole# Sid ブロックを含むすべてのステートメントが削除されます。

```
python3 rollback_affected_policies.py --all
```

- --exclude-accounts
  - ロールバックから除外する AWS アカウント ID をカンマで区切ったリストを指定します。

    このパラメータは、--all パラメータも指定する場合にのみ使用できます。

- 次の例では、 AWS アカウント 指定したアカウントを除く組織内のすべてのポリシーをスキャンします。

```
python3 rollback_affected_policies.py --all --exclude-accounts 777777777777,
 888888888888, 999999999999
```

IAM ポリシーの例

ポリシーは、以下が同一の場合に類似しているとみなされます。

- すべての Sid ブロックで影響を受けるアクション。
- 以下の IAM 要素の詳細:
  - Effect (Allow/Deny)
  - Principal (アクセスを許可または拒否されるユーザー)
  - NotAction (許可されていないアクション)
  - NotPrincipal (アクセスが明示的に拒否されるユーザー)
  - Resource(AWS ポリシーが適用されるリソース)
  - Condition (ポリシーが適用される特定の条件)

以下の例は、IAM が相違点に基づいて類似していると見なす可能性があるポリシー、またはそうでないポリシーを示しています。

Example 例 1: ポリシーが類似していると見なされる場合

各ポリシータイプは異なりますが、どちらのポリシーにも影響を受ける同じAction を含む 1 つの Sid ブロックがあります。

Policy 1: Group inline IAM policy

```
{
    "Version": "2012-10-17",
    "Statement": [{
        "Sid": "VisualEditor0",
        "Effect": "Allow",
        "Action": [
            "aws-portal:ViewAccount",
            "aws-portal:*Billing"
        ],
```

```
        "Resource": "*"
    }]
}
```

Policy 2: Customer managed IAM policy

```
{
    "Version": "2012-10-17",
    "Statement": [{
        "Sid": "VisualEditor0",
        "Effect": "Allow",
        "Action": [
            "aws-portal:ViewAccount",
            "aws-portal:*Billing"
        ],
        "Resource": "*"
    }]
}
```

Example 例 2: ポリシーが類似していると見なされる場合

どちらのポリシーにも、影響を受ける同じ Action を含む 1 つの Sid ブロックが含まれます。ポリシー 2 には追加のアクションが含まれていますが、これらのアクションは影響を受けません。

Policy 1

```
{
    "Version": "2012-10-17",
    "Statement": [{
        "Sid": "VisualEditor0",
        "Effect": "Allow",
        "Action": [
            "aws-portal:ViewAccount",
            "aws-portal:*Billing"
        ],
        "Resource": "*"
    }]
}
```

Policy 2

```
{
```

```
    "Version": "2012-10-17",
    "Statement": [{
        "Sid": "VisualEditor0",
        "Effect": "Allow",
        "Action": [
            "aws-portal:ViewAccount",
            "aws-portal:*Billing",
            "athena:*"
        ],
        "Resource": "*"
    }]
}
```

Example 例 3: ポリシーが類似していると見なされない場合

どちらのポリシーにも、影響を受ける同じ Action を含む 1 つの Sid ブロックが含まれます。ただし、Policy 2 には Policy 1 に存在しない Condition 要素が含まれています。

Policy 1

```
{
    "Version": "2012-10-17",
    "Statement": [{
        "Sid": "VisualEditor0",
        "Effect": "Allow",
        "Action": [
            "aws-portal:ViewAccount",
            "aws-portal:*Billing"
        ],
        "Resource": "*"
    }]
}
```

Policy 2

```
{
    "Version": "2012-10-17",
    "Statement": [{
        "Sid": "VisualEditor0",
        "Effect": "Allow",
        "Action": [
            "aws-portal:ViewAccount",
```

```
            "aws-portal:*Billing",
            "athena:*"
        ],
        "Resource": "*",
        "Condition": {
            "BoolIfExists": {
                "aws:MultiFactorAuthPresent": "true"
            }
        }
    }]
}
```

Example 例 4: ポリシーが類似していると見なされる場合

Policy 1 には、影響を受ける Sid を含む 1 つの Action ブロックがあります。Policy 2 には複数の Sid ブロックがありますが、影響を受ける Action は 1 つのブロックにしかありません。

Policy 1

```
{
    "Version": "2012-10-17",
    "Statement": [{
        "Sid": "VisualEditor0",
        "Effect": "Allow",
        "Action": [
            "aws-portal:View*"
        ],
        "Resource": "*"
    }]
}}
```

Policy 2

```
{
    "Version": "2012-10-17",
    "Statement": [{
            "Sid": "VisualEditor0",
            "Effect": "Allow",
            "Action": [
                "aws-portal:View*"
            ],
            "Resource": "*"
```

```
        },
        {
            "Sid": "VisualEditor1",
            "Effect": "Allow",
            "Action": [
                "cloudtrail:Get*"
            ],
            "Resource": "*"
        }
    ]
}
```

Example 例 5: ポリシーが類似していると見なされない場合

Policy 1 には、影響を受ける Sid を含む 1 つの Action ブロックがあります。Policy 2 には複数の Sid ブロックがあり、影響を受ける Action は複数のブロックにあります。

Policy 1

```
{
    "Version": "2012-10-17",
    "Statement": [{
        "Sid": "VisualEditor0",
        "Effect": "Allow",
        "Action": [
            "aws-portal:View*"
        ],
        "Resource": "*"
    }]
}
```

Policy 2

```
{
    "Version": "2012-10-17",
    "Statement": [{
            "Sid": "VisualEditor0",
            "Effect": "Allow",
            "Action": [
                "aws-portal:View*"
            ],
            "Resource": "*"
```

```
        },
        {
            "Sid": "VisualEditor1",
            "Effect": "Deny",
            "Action": [
                "aws-portal:Modify*"
            ],
            "Resource": "*"
        }
    ]
}
```

Example 例 6: ポリシーが類似していると見なされる場合

どちらのポリシーにも複数の Sid ブロックがあり、各 Sid ブロックに影響を受ける同じ Action があります。

Policy 1

```
{
    "Version": "2012-10-17",
    "Statement": [{
            "Sid": "VisualEditor0",
            "Effect": "Allow",
            "Action": [
                "aws-portal:*Account",
                "iam:Get*"
            ],
            "Resource": "*"
        },
        {
            "Sid": "VisualEditor1",
            "Effect": "Deny",
            "Action": [
                "aws-portal:Modify*",
                "iam:Update*"
            ],
            "Resource": "*"
        }
    ]
}
```

Policy 2

```
{
    "Version": "2012-10-17",
    "Statement": [{
            "Sid": "VisualEditor0",
            "Effect": "Allow",
            "Action": [
                "aws-portal:*Account",
                "athena:Get*"
            ],
            "Resource": "*"
        },
        {
            "Sid": "VisualEditor1",
            "Effect": "Deny",
            "Action": [
                "aws-portal:Modify*",
                "athena:Update*"
            ],
            "Resource": "*"
        }
    ]
}
```

Example 例 7

次の 2 つのポリシーは、類似していると見なされません。

Policy 1 には、影響を受ける Sid を含む 1 つの Action ブロックがあります。Policy 2 には、影響を受ける同じ Action を含む 1 つの Sid ブロックがあります。ただし、Policy 2 にはアクションが異なる別の Sid ブロックも含まれます。

Policy 1

```
{
    "Version": "2012-10-17",
    "Statement": [{
            "Sid": "VisualEditor0",
            "Effect": "Allow",
            "Action": [
                "aws-portal:*Account",
```

```
                "iam:Get*"
            ],
            "Resource": "*"
        },
        {
            "Sid": "VisualEditor1",
            "Effect": "Deny",
            "Action": [
                "aws-portal:Modify*",
                "iam:Update*"
            ],
            "Resource": "*"
        }
    ]
}
```

Policy 2

```
{
    "Version": "2012-10-17",
    "Statement": [{
            "Sid": "VisualEditor0",
            "Effect": "Allow",
            "Action": [
                "aws-portal:*Account",
                "athena:Get*"
            ],
            "Resource": "*"
        },
        {
            "Sid": "VisualEditor1",
            "Effect": "Deny",
            "Action": [
                "aws-portal:*Billing",
                "athena:Update*"
            ],
            "Resource": "*"
        }
    ]
}
```

詳細な IAM アクションのリファレンスのマッピング

> **Note**
>
> 次の AWS Identity and Access Management (IAM) アクションは、2023 年 7 月に標準サポートが終了しました。
>
> - *aws-portal* 名前空間
> - *purchase-orders:ViewPurchaseOrders*
> - *purchase-orders:ModifyPurchaseOrders*
>
> を使用している場合は AWS Organizations、一括ポリシー移行スクリプトを使用して支払いアカウントからポリシーを更新できます。また、従来のアクションから詳細なアクションへのマッピングのリファレンスを使用して、追加する必要のある IAM アクションを検証することもできます。
> 詳細については、「AWS 請求、 AWS コスト管理、アカウントコンソールの権限の変更」ブログをご覧ください。
> 2023 年 3 月 6 日午前 11 時 (PDT) AWS Organizations 以降に作成された、または作成に参加している場合、詳細なアクションは組織ですでに実施されています。 AWS アカウント

アクセス許可ポリシーまたはサービスコントロールポリシー (SCP) で次の IAM アクションを移行する必要があります。

- `aws-portal:ViewAccount`
- `aws-portal:ViewBilling`
- `aws-portal:ViewPaymentMethods`
- `aws-portal:ViewUsage`
- `aws-portal:ModifyAccount`
- `aws-portal:ModifyBilling`
- `aws-portal:ModifyPaymentMethods`
- `purchase-orders:ViewPurchaseOrders`
- `purchase-orders:ModifyPurchaseOrders`

このトピックを使用して、廃止される各 IAM アクションの古いアクションと新しいアクションのマッピングを詳細に表示できます。

概要

1. 該当する IAM ポリシーを AWS アカウントで確認してください。そのためには、影響を受ける IAM ポリシーを特定する [影響を受けるポリシー] ツールの手順に従ってください。影響を受けるポリシーツールの使用方法 を参照してください。
2. IAM コンソールを使用して、新しい詳細なアクセス許可をポリシーに追加します。例えば、ポリシーで purchase-orders:ModifyPurchaseOrders アクセス許可が付与されている場合は、purchase-orders:ModifyPurchaseOrders のマッピング テーブルに各アクションを追加する必要があります。

   古いポリシー

   以下のポリシーでは、ユーザーはアカウント内の発注書を追加、削除、または変更できます。

   ```
   {
       "Version": "2012-10-17",
       "Statement": [
           {
               "Sid": "VisualEditor0",
               "Effect": "Allow",
               "Action": "purchase-orders:ModifyPurchaseOrders",
               "Resource": "arn:aws:purchase-orders::123456789012:purchase-order/*"
           }
       ]
   }
   ```

   新しいポリシー

   以下のポリシーでも、ユーザーはアカウント内の発注書を追加、削除、または変更できます。詳細なアクセス許可はそれぞれ、古い purchase-orders:ModifyPurchaseOrders アクセス許可の後に表示されます。これらのアクセス許可により、許可または拒否するアクションをより細かく制御できます。

> **Tip**
>
> 移行が完了するまではアクセス許可を失わないように、古いアクセス許可をそのままにしておくことをお勧めします。

```
{
 "Version": "2012-10-17",
 "Statement": [
  {
   "Sid": "VisualEditor0",
   "Effect": "Allow",
   "Action": [
    "purchase-orders:ModifyPurchaseOrders",
    "purchase-orders:AddPurchaseOrder",
    "purchase-orders:DeletePurchaseOrder",
    "purchase-orders:UpdatePurchaseOrder",
    "purchase-orders:UpdatePurchaseOrderStatus"
   ],
   "Resource": "arn:aws:purchase-orders::123456789012:purchase-order/*"
  }
 ]
}
```

3. 変更を保存します。

> **メモ**
>
> - IAM コンソールでポリシーを手動で編集するには、「IAM ユーザーガイド」の「カスタマー管理ポリシーの編集 (コンソール)」を参照してください。
> - 詳細なアクション (新しいアクション) を使用するように IAM ポリシーを一括移行する場合は、「スクリプトを使用して詳細な IAM の アクションを使用するポリシーを一括移行する」を参照してください。

目次

- aws-portal:ViewAccount のマッピング

- aws-portal:ViewBilling のマッピング
- aws-portal:ViewPaymentMethods のマッピング
- aws-portal:ViewUsage のマッピング
- aws-portal:ModifyAccount のマッピング
- aws-portal:ModifyBilling のマッピング
- aws-portal:ModifyPaymentMethods のマッピング
- purchase-orders:ViewPurchaseOrders のマッピング
- purchase-orders:ModifyPurchaseOrders のマッピング

aws-portal:ViewAccount のマッピング

新しいアクション	説明	アクセスレベル
account:GetAccountInformation	アカウントのアカウント情報を取得するアクセス許可を付与	読み取り
account:GetAlternateContact	アカウントの代替連絡先を取得するためのアクセス許可を付与する	読み取り
account:GetChallengeQuestions	アカウントのチャレンジ質問を取得するアクセス許可を付与	読み取り
account:GetContactInformation	アカウントの主な連絡先情報を取得する許可を付与	読み取り
billing:GetContractInformation	契約番号、エンドユーザーの組織名、発注書番号、アカウントが公共機関の顧客へのサービスに使用されているかどうかなど、アカウントの契約情報を表示するアクセス許可を付与する	読み取り

新しいアクション	説明	アクセスレベル
billing:GetIAMAccessPreference	請求設定の [IAM アクセス許可を付与する] 状態を取得するアクセス許可を付与する	読み取り
billing:GetSellerOfRecord	アカウントのデフォルトの登録販売者を取得するアクセス許可を付与する	読み取り
payments:ListPaymentPreferences	支払い設定 (優先支払い通貨、優先支払い方法など) を取得するアクセス許可を付与する	読み取り

aws-portal:ViewBilling のマッピング

新しいアクション	説明	アクセスレベル
account:GetAccountInformation	アカウントのアカウント情報を取得するアクセス許可を付与	読み取り
billing:GetBillingData	請求情報に関するクエリを実行するアクセス許可を付与	読み取り
billing:GetBillingDetails	詳細な項目の請求情報を表示するアクセス許可を付与	読み取り
billing:GetBillingNotifications	AWS アカウントの請求情報に関連して送信された通知を閲覧する権限を付与します。	読み取り
billing:GetBillingPreferences	リザーブドインスタンス、Savings Plans、クレジット共有などの請求設定を表示するアクセス許可を付与する	読み取り

新しいアクション	説明	アクセスレベル
billing:GetContractInformation	契約番号、エンドユーザーの組織名、発注書番号、アカウントが公共機関の顧客へのサービスに使用されているかどうかなど、アカウントの契約情報を表示するアクセス許可を付与する	読み取り
billing:GetCredits	引き換えられたクレジットを表示するアクセス許可を付与	読み取り
billing:GetIAMAccessPreference	請求設定の [IAM アクセス許可を付与する] 状態を取得するアクセス許可を付与する	読み取り
billing:GetSellerOfRecord	アカウントのデフォルトの登録販売者を取得するアクセス許可を付与する	読み取り
billing:ListBillingViews	プロフォーマ請求グループの請求情報を取得するアクセス許可を付与	リスト
ce:DescribeNotificationSubscription	予約の有効期限アラートを表示する許可を付与する	読み取り
ce:DescribeReport	Cost Explorer の [レポート] ページを表示する許可を付与する	読み取り
ce:GetAnomalies	異常を取得する許可を付与	読み取り
ce:GetAnomalyMonitors	異常モニターをクエリする許可を付与する	読み取り
ce:GetAnomalySubscriptions	異常サブスクリプションをクエリする許可を付与する	読み取り

新しいアクション	説明	アクセスレベル
ce:GetCostAndUsage	アカウントのコストと利用状況のメトリクスを取得する許可を付与	読み取り
ce:GetCostAndUsageWithResources	アカウントのリソースを使用してコストと利用状況のメトリクスを取得する許可を付与	読み取り
ce:GetCostCategories	指定した期間のコストカテゴリーの名前と値をクエリする許可を付与する	読み取り
ce:GetCostForecast	予測期間のコスト予測を取得する許可を付与	読み取り
ce:GetDimensionValues	一定期間にわたってフィルタに使用可能なすべてのフィルタの値を取得する許可を付与	読み取り
ce:GetPreferences	Cost Explorer の設定ページを表示する許可を付与する	読み取り
ce:GetReservationCoverage	アカウントの予約のカバレッジを取得する許可を付与	読み取り
ce:GetReservationPurchaseRecommendation	アカウントの予約の推奨事項を取得する許可を付与	読み取り
ce:GetReservationUtilization	アカウントの予約率を取得する許可を付与	読み取り
ce:GetRightsizingRecommendation	アカウントの適切なサイズ設定に関する推奨事項を取得する許可を付与	読み取り

新しいアクション	説明	アクセスレベル
ce:GetSavingsPlans Coverage	アカウントの Savings Plans のカバレッジを取得する許可を付与	読み取り
ce:GetSavingsPlans PurchaseRecommenda tion	アカウントの Savings Plans に関する推奨事項を取得する許可を付与	読み取り
ce:GetSavingsPlans Utilization	アカウントの Savings Plans 使用率を取得する許可を付与	読み取り
ce:GetSavingsPlans UtilizationDetails	アカウントの Savings Plans 使用率の詳細を取得する許可を付与	読み取り
ce:GetTags	指定された期間のタグを照会する許可を付与	読み取り
ce:GetUsageForecast	予測期間の使用状況予測を取得する許可を付与	読み取り
ce:ListCostAllocat ionTags	コスト配分タグを一覧表示する許可を付与する	リスト
ce:ListSavingsPlan sPurchaseRecommend ationGeneration	過去のレコメンデーション生成のリストを取得する許可を付与	読み取り
consolidatedbillin g:GetAccountBillin gRole	アカウントロール (支払人、リンク付け、レギュラー) を取得するアクセス許可を付与する	読み取り
consolidatedbillin g:ListLinkedAccoun ts	メンバーおよび連結アカウントのリストを取得するアクセス許可を付与する	リスト

新しいアクション	説明	アクセスレベル
cur:GetClassicReport	請求書の CSV レポートを取得するアクセス許可を付与する	読み取り
cur:GetClassicReportPreferences	使用状況レポートのクラシックレポート有効化ステータスを取得するアクセス許可を付与する	読み取り
cur:ValidateReportDestination	Amazon S3 バケットが存在するかどうかを検証する権限を付与し、 AWS CUR 配信の適切なアクセス権限を付与します	読み取り
freetier:GetFreeTierAlertPreference	AWS 無料利用枠 アラート設定を (E メールアドレスで) 取得する権限を付与します。	読み取り
freetier:GetFreeTierUsage	AWS 無料利用枠 使用制限と month-to-date (MTD) 使用状況を取得する権限を付与します。	読み取り
invoicing:GetInvoiceEmailDeliveryPreferences	請求書の E メール配信設定を取得するアクセス許可を付与する	読み取り
invoicing:GetInvoicePDF	請求書 PDF を取得するアクセス許可を付与する	読み取り
invoicing:ListInvoiceSummaries	アカウントまたは連結アカウントの請求書概要情報を取得するアクセス許可を付与する	リスト
payments:GetPaymentInstrument	支払い方法に関する情報を取得するアクセス許可を付与	読み取り

新しいアクション	説明	アクセスレベル
payments:GetPaymentStatus	請求書の支払い状況を取得するアクセス許可を付与	読み取り
payments:ListPaymentPreferences	支払い設定 (優先支払い通貨、優先支払い方法など) を取得するアクセス許可を付与する	読み取り
tax:GetTaxInheritance	税継承ステータスを表示するアクセス許可を付与	読み取り
tax:GetTaxRegistrationDocument	税登録ドキュメントをダウンロードするアクセス許可を付与	読み取り
tax:ListTaxRegistrations	納税登録を表示するアクセス許可を付与する	読み取り

aws-portal:ViewPaymentMethods のマッピング

新しいアクション	説明	アクセスレベル
account:GetAccountInformation	アカウントのアカウント情報を取得するアクセス許可を付与	読み取り
invoicing:GetInvoicePDF	請求書 PDF を取得するアクセス許可を付与する	読み取り
payments:GetPaymentInstrument	支払い方法に関する情報を取得するアクセス許可を付与	読み取り
payments:GetPaymentStatus	請求書の支払い状況を取得するアクセス許可を付与	読み取り

新しいアクション	説明	アクセスレベル
payments:ListPaymentPreferences	支払い設定 (優先支払い通貨、優先支払い方法など) を取得するアクセス許可を付与する	リスト

aws-portal:ViewUsage のマッピング

新しいアクション	説明	アクセスレベル
cur:GetUsageReport	使用状況レポートワークフローのリスト AWS のサービス、使用タイプ、操作を取得し、使用状況レポートをダウンロードする権限を付与します。	読み取り

aws-portal:ModifyAccount のマッピング

新しいアクション	説明	アクセスレベル
account:CloseAccount	アカウント情報を閉じるアクセス許可を付与	書き込み
account:DeleteAlternateContact	アカウントの代替連絡先を削除するためのアクセス許可を付与する	書き込み
account:PutAlternateContact	アカウントの代替連絡先を変更するためのアクセス許可を付与する	書き込み
account:PutChallengeQuestions	アカウントのチャレンジ質問を取変更するアクセス許可を付与	書き込み

新しいアクション	説明	アクセスレベル
account:PutContactInformation	アカウントの主な連絡先情報を更新する許可を付与	書き込み
billing:PutContractInformation	アカウントの契約情報、エンドユーザーの組織名、およびアカウントが公共部門の顧客にサービスを提供するために使用されるかどうかを設定するアクセス許可を付与	書き込み
billing:UpdateIAMAccessPreference	請求設定の [IAM アクセス許可を付与する] 状態を更新するアクセス許可を付与する	書き込み
payments:UpdatePaymentPreferences	支払い設定 (優先支払い通貨、優先支払い方法など) を取得するアクセス許可を付与	書き込み

aws-portal:ModifyBilling のマッピング

新しいアクション	説明	アクセスレベル
billing:PutContractInformation	アカウントの契約情報、エンドユーザーの組織名、およびアカウントが公共部門の顧客にサービスを提供するために使用されるかどうかを設定するアクセス許可を付与	書き込み
billing:RedeemCredits	クレジットを引き換える権限を付与します。 AWS	書き込み
billing:UpdateBillingPreferences	リザーブドインスタンス、Savings Plans、クレジッ	書き込み

新しいアクション	説明	アクセスレベル
	ト共有などの請求設定を更新するアクセス許可を付与する	
ce:CreateAnomalyMonitor	新しい異常モニターを作成する許可を付与する	書き込み
ce:CreateAnomalySubscription	新しい異常サブスクリプションを作成する許可を付与する	書き込み
ce:CreateNotificationSubscription	予約期限切れのアラートを作成する許可を付与する	書き込み
ce:CreateReport	Cost Explorer レポートを作成する許可を付与する	書き込み
ce:DeleteAnomalyMonitor	異常モニターを削除する許可を付与する	書き込み
ce:DeleteAnomalySubscription	異常サブスクリプションを削除する許可を付与する	書き込み
ce:DeleteNotificationSubscription	予約の有効期限アラートを削除する許可を付与する	書き込み
ce:DeleteReport	Cost Explorer レポートを削除する許可を付与する	書き込み
ce:ProvideAnomalyFeedback	検出された異常に関するフィードバックを提供する許可を付与	書き込み
ce:StartSavingsPlansPurchaseRecommendationGeneration	Savings Plans のレコメンデーション生成をリクエストする許可を付与	書き込み
ce:UpdateAnomalyMonitor	既存の異常モニターを更新する許可を付与する	書き込み

新しいアクション	説明	アクセスレベル
ce:UpdateAnomalySubscription	既存の異常サブスクリプションを更新する許可を付与する	書き込み
ce:UpdateCostAllocationTagsStatus	既存のコスト配分タグのステータスを更新する許可を付与する	書き込み
ce:UpdateNotificationSubscription	予約の有効期限アラートを更新する許可を付与する	書き込み
ce:UpdatePreferences	Cost Explorer の設定ページを編集する許可を付与する	書き込み
cur:PutClassicReportPreferences	クラシックレポートを有効にするアクセス許可を付与	書き込み
freetier:PutFreeTierAlertPreference	AWS 無料利用枠 アラート設定を (電子メールアドレスで) 設定する権限を付与します。	書き込み
invoicing:PutInvoiceEmailDeliveryPreferences	請求書の E メール配信設定を取得するアクセス許可を付与する	書き込み
payments:CreatePaymentInstrument	支払い方法を作成するアクセス許可を付与	書き込み
payments:DeletePaymentInstrument	支払い方法を削除するアクセス許可を付与	書き込み
payments:MakePayment	支払い、支払いの認証、支払い方法の検証、および Advance Pay の資金請求書類の作成を行うアクセス許可を付与	書き込み

新しいアクション	説明	アクセスレベル
payments:UpdatePaymentPreferences	支払い設定 (優先支払い通貨、優先支払い方法など) を取得するアクセス許可を付与	書き込み
tax:BatchPutTaxRegistration	税登録をバッチ更新するアクセス許可を付与	書き込み
tax:DeleteTaxRegistration	税登録データを削除するアクセス許可を付与	書き込み
tax:PutTaxInheritance	税継承を設定するアクセス許可を付与	書き込み

aws-portal:ModifyPaymentMethods のマッピング

新しいアクション	説明	アクセスレベル
account:GetAccountInformation	アカウントのアカウント情報を取得するアクセス許可を付与	読み取り
payments:DeletePaymentInstrument	支払い方法を削除するアクセス許可を付与	書き込み
payments:CreatePaymentInstrument	支払い方法を作成するアクセス許可を付与	書き込み
payments:MakePayment	支払い、支払いの認証、支払い方法の検証、および Advance Pay の資金請求書類の作成を行うアクセス許可を付与	書き込み
payments:UpdatePaymentPreferences	支払い設定 (優先支払い通貨、優先支払い方法など) を取得するアクセス許可を付与	書き込み

purchase-orders:ViewPurchaseOrders のマッピング

新しいアクション	説明	アクセスレベル
invoicing:GetInvoicePDF	請求書 PDF を取得するアクセス許可を付与する	Get
payments:ListPaymentPreferences	支払い設定 (優先支払い通貨、優先支払い方法など) を取得するアクセス許可を付与する	リスト
purchase-orders:GetPurchaseOrder	発注書を取得する許可を付与	読み取り
purchase-orders:ListPurchaseOrderInvoices	発詳細および詳細を表示するアクセス許可を付与	リスト
purchase-orders:ListPurchaseOrders	すべての使用可能な発注書を取得する許可を付与	リスト

purchase-orders:ModifyPurchaseOrders のマッピング

新しいアクション	説明	アクセスレベル
purchase-orders:AddPurchaseOrder	発注書を追加する許可を付与する	書き込み
purchase-orders:DeletePurchaseOrder	発注書を削除する許可を付与する	書き込み
purchase-orders:UpdatePurchaseOrder	既存の発注書を更新する許可を付与	書き込み
purchase-orders:UpdatePurchaseOrderStatus	発注書のステータスを設定する許可を付与	書き込み

AWS 管理ポリシー

管理ポリシーは、アカウント内の複数のユーザー、グループ、ロールにアタッチできるスタンドアロンの ID ベースのポリシーです。 AWS AWS 管理ポリシーを使用して Billing のアクセスを制御できます。

AWS 管理ポリシーは、によって作成および管理されるスタンドアロンのポリシーです。 AWS AWS 管理ポリシーは、多くの一般的なユースケースにアクセス権限を与えるように設計されています。 AWS 管理ポリシーを使用すると、ポリシーを自分で作成するよりも、ユーザー、グループ、ロールに適切な権限を簡単に割り当てることができます。

AWS 管理ポリシーで定義されている権限は変更できません。 AWS AWS 管理ポリシーで定義されている権限が更新されることがあります。行われた更新は、ポリシーがアタッチされているすべてのプリンシパルエンティティ (ユーザー、グループ、ロール) に影響します。

Billing には、 AWS 一般的なユースケースに対応した管理ポリシーがいくつか用意されています。

トピック

- AWSPurchaseOrdersServiceRolePolicy
- AWSBillingReadOnlyAccess
- Billing
- AWSAccountActivityAccess
- AWSAWS 請求管理ポリシーの更新

AWSPurchaseOrdersServiceRolePolicy

このマネージドポリシーは、Billing and Cost Management コンソールと発注書コンソールへのフルアクセスを許可します。このポリシーにより、ユーザーはアカウントの発注書を表示、作成、更新、削除できます。

```
{
   "Version":"2012-10-17",
   "Statement":[
      {
         "Effect":"Allow",
         "Action":[
            "account:GetAccountInformation",
            "account:GetContactInformation",
            "aws-portal:*Billing",
```

```
            "consolidatedbilling:GetAccountBillingRole",
            "invoicing:GetInvoicePDF",
            "payments:GetPaymentInstrument",
            "payments:ListPaymentPreferences",
            "purchase-orders:AddPurchaseOrder",
            "purchase-orders:DeletePurchaseOrder",
            "purchase-orders:GetPurchaseOrder",
            "purchase-orders:ListPurchaseOrderInvoices",
            "purchase-orders:ListPurchaseOrders",
            "purchase-orders:ListTagsForResource",
            "purchase-orders:ModifyPurchaseOrders",
            "purchase-orders:TagResource",
            "purchase-orders:UntagResource",
            "purchase-orders:UpdatePurchaseOrder",
            "purchase-orders:UpdatePurchaseOrderStatus",
            "purchase-orders:ViewPurchaseOrders",
            "tax:ListTaxRegistrations"
         ],
         "Resource":"*"
      }
   ]
}
```

AWSBillingReadOnlyAccess

このマネージドポリシーは、 AWS Billing and Cost Management コンソールを閲覧するためのアクセス許可をユーザーに付与します。

```
{
      "Version": "2012-10-17",
      "Statement": [
            {
                "Sid": "VisualEditor0",
                "Effect": "Allow",
                "Action": [
                    "account:GetAccountInformation",
                    "aws-portal:ViewBilling",
                    "billing:GetBillingData",
                    "billing:GetBillingDetails",
                    "billing:GetBillingNotifications",
                    "billing:GetBillingPreferences",
                    "billing:GetContractInformation",
                    "billing:GetCredits",
```

```
                "billing:GetIAMAccessPreference",
                "billing:GetSellerOfRecord",
                "billing:ListBillingViews",
                "budgets:DescribeBudgetActionsForBudget",
                "budgets:DescribeBudgetAction",
                "budgets:DescribeBudgetActionsForAccount",
                "budgets:DescribeBudgetActionHistories",
                "budgets:ViewBudget",
                "ce:DescribeCostCategoryDefinition",
                "ce:GetCostAndUsage",
                "ce:GetDimensionValues",
                "ce:GetTags",
                "ce:ListCostCategoryDefinitions",
                "ce:ListCostAllocationTags",
                "ce:ListCostAllocationTagBackfillHistory",
                "ce:ListTagsForResource",
                "consolidatedbilling:GetAccountBillingRole",
                "consolidatedbilling:ListLinkedAccounts",
                "cur:DescribeReportDefinitions",
                "cur:GetClassicReport",
                "cur:GetClassicReportPreferences",
                "cur:GetUsageReport",
                "freetier:GetFreeTierAlertPreference",
                "freetier:GetFreeTierUsage",
                "invoicing:GetInvoiceEmailDeliveryPreferences",
                "invoicing:GetInvoicePDF",
                "invoicing:ListInvoiceSummaries",
                "mapcredit:ListAssociatedPrograms",
                "mapcredit:ListQuarterCredits",
                "mapcredit:ListQuarterSpend",
                "payments:GetPaymentInstrument",
                "payments:GetPaymentStatus",
                "payments:ListPaymentPreferences",
                "purchase-orders:GetPurchaseOrder",
                "purchase-orders:ListPurchaseOrderInvoices",
                "purchase-orders:ListPurchaseOrders",
                "purchase-orders:ListTagsForResource",
                "purchase-orders:ViewPurchaseOrders",
                "sustainability:GetCarbonFootprintSummary",
                "tax:GetTaxInheritance",
                "tax:GetTaxRegistrationDocument",
                "tax:ListTaxRegistrations"
            ],
        "Resource": "*"
```

```
      }
   ]
}
```

Billing

この管理ポリシーは、 AWS Billing and Cost Management コンソールを表示および編集する権限をユーザーに付与します。これには、アカウントの使用状況の閲覧、予算および支払い方法の修正が含まれます。

```
{
    "Version": "2012-10-17",
    "Statement": [
      {
        "Sid": "VisualEditor0",
        "Effect": "Allow",
        "Action": [
            "account:GetAccountInformation",
            "aws-portal:*Billing",
            "aws-portal:*PaymentMethods",
            "aws-portal:*Usage",
            "billing:GetBillingData",
            "billing:GetBillingDetails",
            "billing:GetBillingNotifications",
            "billing:GetBillingPreferences",
            "billing:GetContractInformation",
            "billing:GetCredits",
            "billing:GetIAMAccessPreference",
            "billing:GetSellerOfRecord",
            "billing:ListBillingViews",
            "billing:PutContractInformation",
            "billing:RedeemCredits",
            "billing:UpdateBillingPreferences",
            "billing:UpdateIAMAccessPreference",
            "budgets:CreateBudgetAction",
            "budgets:DeleteBudgetAction",
            "budgets:DescribeBudgetActionsForBudget",
            "budgets:DescribeBudgetAction",
            "budgets:DescribeBudgetActionsForAccount",
            "budgets:DescribeBudgetActionHistories",
            "budgets:ExecuteBudgetAction",
            "budgets:ModifyBudget",
            "budgets:UpdateBudgetAction",
```

```
            "budgets:ViewBudget",
            "ce:CreateNotificationSubscription",
            "ce:CreateReport",
            "ce:CreateCostCategoryDefinition",
            "ce:DeleteNotificationSubscription",
            "ce:DeleteCostCategoryDefinition",
            "ce:DescribeCostCategoryDefinition",
            "ce:DeleteReport",
            "ce:GetCostAndUsage",
            "ce:GetDimensionValues",
            "ce:GetTags",
            "ce:ListCostAllocationTags",
            "ce:ListCostAllocationTagBackfillHistory",
            "ce:ListCostCategoryDefinitions",
            "ce:ListTagsForResource",
            "ce:StartCostAllocationTagBackfill",
            "ce:UpdateCostAllocationTagsStatus",
            "ce:UpdateNotificationSubscription",
            "ce:TagResource",
            "ce:UpdatePreferences",
            "ce:UpdateReport",
            "ce:UntagResource",
            "ce:UpdateCostCategoryDefinition",
            "consolidatedbilling:GetAccountBillingRole",
            "consolidatedbilling:ListLinkedAccounts",
            "cur:DeleteReportDefinition",
            "cur:DescribeReportDefinitions",
            "cur:GetClassicReport",
            "cur:GetClassicReportPreferences",
            "cur:GetUsageReport",
            "cur:ModifyReportDefinition",
            "cur:PutClassicReportPreferences",
            "cur:PutReportDefinition",
            "cur:ValidateReportDestination",
            "freetier:GetFreeTierAlertPreference",
            "freetier:GetFreeTierUsage",
            "freetier:PutFreeTierAlertPreference",
            "invoicing:GetInvoiceEmailDeliveryPreferences",
            "invoicing:GetInvoicePDF",
            "invoicing:ListInvoiceSummaries",
            "invoicing:PutInvoiceEmailDeliveryPreferences",
            "mapcredit:ListAssociatedPrograms",
            "mapcredit:ListQuarterCredits",
            "mapcredit:ListQuarterSpend",
```

```
            "payments:CreatePaymentInstrument",
            "payments:DeletePaymentInstrument",
            "payments:GetPaymentInstrument",
            "payments:GetPaymentStatus",
            "payments:ListPaymentPreferences",
            "payments:MakePayment",
            "payments:UpdatePaymentPreferences",
            "pricing:DescribeServices",
            "purchase-orders:AddPurchaseOrder",
            "purchase-orders:DeletePurchaseOrder",
            "purchase-orders:GetPurchaseOrder",
            "purchase-orders:ListPurchaseOrderInvoices",
            "purchase-orders:ListPurchaseOrders",
            "purchase-orders:ListTagsForResource",
            "purchase-orders:ModifyPurchaseOrders",
            "purchase-orders:TagResource",
            "purchase-orders:UntagResource",
            "purchase-orders:UpdatePurchaseOrder",
            "purchase-orders:UpdatePurchaseOrderStatus",
            "purchase-orders:ViewPurchaseOrders",
            "support:AddAttachmentsToSet",
            "support:CreateCase",
            "sustainability:GetCarbonFootprintSummary",
            "tax:BatchPutTaxRegistration",
            "tax:DeleteTaxRegistration",
            "tax:GetExemptions",
            "tax:GetTaxInheritance",
            "tax:GetTaxInterview",
            "tax:GetTaxRegistration",
            "tax:GetTaxRegistrationDocument",
            "tax:ListTaxRegistrations",
            "tax:PutTaxInheritance",
            "tax:PutTaxInterview",
            "tax:PutTaxRegistration",
            "tax:UpdateExemptions"
        ],
        "Resource": "*"
      }
   ]
}
```

AWSAccountActivityAccess

このマネージドポリシーは、[アカウントアクティビティ] を閲覧するアクセス許可をユーザーに付与します。

```
{
      "Version": "2012-10-17",
      "Statement": [
            {
              "Sid": "VisualEditor0",
              "Effect": "Allow",
              "Action": [
                "account:GetRegionOptStatus",
                "account:GetAccountInformation",
                "account:GetAlternateContact",
                "account:GetChallengeQuestions",
                "account:GetContactInformation",
                "account:ListRegions",
                "aws-portal:ViewBilling",
                "billing:GetIAMAccessPreference",
                "billing:GetSellerOfRecord",
                "payments:ListPaymentPreferences"
          ],
          "Resource": "*"
        }
    ]
}
```

AWSAWS 請求管理ポリシーの更新

AWS AWS このサービスが変更を追跡し始めてからの請求管理ポリシーの更新に関する詳細を表示します。このページへの変更に関する自動通知を受け取るには、 AWS 請求書類履歴ページの RSS フィードを購読してください。

変更	説明	日付
請求と AWSBillingReadOnly Access— 既存のポリシーへの更新	次のコスト配分タグ関連の権限を Billing に追加しました。	2024 年 3 月 25 日

変更	説明	日付
	• ce:ListCostAllocationTagBackfillHistory • ce:StartCostAllocationTagBackfill • ce:GetTags • ce:GetDimensionValues 次のコスト配分タグ関連の権限 AWSBillingReadOnlyAccess に追加しました。 • ce:ListCostAllocationTagBackfillHistory • ce:GetTags • ce:GetDimensionValues	

変更	説明	日付
請求と AWSBillingReadOnlyAccess— 既存のポリシーへの更新	次のコスト配分タグ関連の権限を Billing に追加しました。 • ce:ListCostAllocationTags • ce:UpdateCostAllocationTagsStatus 次のコスト配分タグ関連の権限 AWSBillingReadOnlyAccess に追加しました。 • ce:ListCostAllocationTags	2023 年 7 月 26 日
AWSPurchaseOrdersServiceRolePolicy、請求、および AWSBillingReadOnlyAccess— 既存のポリシーへの更新	次の発注書タグ関連の権限を Billing および AWSPurchaseOrdersServiceRolePolicy に追加しました。 • purchase-orders:ListTagsForResource • purchase-orders:TagResource • purchase-orders:UntagResource 次のタグ関連の権限を AWSBillingReadOnlyAccess に追加しました。 • purchase-orders:ListTagsForResource	2023 年 7 月 17 日

変更	説明	日付
AWSPurchaseOrdersServiceRolePolicy、請求、および AWSBillingReadOnlyAccess— 既存のポリシーへの更新 AWSAccountActivityAccess— AWS AWS 請求に関する新しい管理ポリシーが文書化されました	更新済みのアクションセットをすべてのポリシーに追加	2023 年 3 月 6 日
AWSPurchaseOrdersServiceRolePolicy – 既存ポリシーへの更新	AWS Billing によって不要な権限が削除されました。	2021 年 11 月 18 日
AWS 請求による変更の追跡が開始されました。	AWS Billing AWS 社は管理ポリシーの変更を追跡し始めました。	2021 年 11 月 18 日

トラブルシューティング: AWS 請求 ID とアクセス

以下の情報は、Billing と IAM を使用する際に発生する可能性のある一般的な問題の診断と修正に役立ちます。

トピック

- Billing でアクションを実行する権限がありません。
- 私には IAM を実行する権限がありません:PassRole
- アクセスキーを表示したい
- 私は管理者ですが、他のユーザーがBillingにアクセスできるようにしたいと思っています。
- AWS アカウント 社外の人にも私の請求リソースへのアクセスを許可したい。

Billing でアクションを実行する権限がありません。

AWS Management Console アクションを実行する権限がないと表示された場合は、管理者に連絡して支援を受ける必要があります。サインイン資格情報を提供した担当者が管理者です。

以下のエラー例は、mateojackson ユーザーがコンソールを使用して架空の *my-example-widget* リソースに関する詳細情報を表示しようとしているが、架空の billing:*GetWidget* 許可がないという場合に発生します。

```
User: arn:aws:iam::123456789012:user/mateojackson is not authorized to perform:
 billing:GetWidget on resource: my-example-widget
```

この場合、Mateo は、billing:*GetWidget* アクションを使用して *my-example-widget* リソースへのアクセスが許可されるように、管理者にポリシーの更新を依頼します。

私には IAM を実行する権限がありません:PassRole

iam:PassRoleアクションを実行する権限がないというエラーが表示された場合は、Billing にロールを渡せるようにポリシーを更新する必要があります。

新しいサービスロールやサービスにリンクされたロールを作成する代わりに、 AWS のサービス 既存のロールをそのサービスに渡すことができるものもあります。そのためには、サービスにロールを渡す権限が必要です。

以下のエラー例は、という名前の IAM ユーザーがコンソールを使用して Billing marymajor でアクションを実行しようとしたときに発生します。ただし、このアクションをサービスが実行するには、サービスロールから付与された権限が必要です。Mary には、ロールをサービスに渡す権限がありません。

```
User: arn:aws:iam::123456789012:user/marymajor is not authorized to perform:
 iam:PassRole
```

この場合、Mary のポリシーを更新してメアリーに iam:PassRole アクションの実行を許可する必要があります。

サポートが必要な場合は、 AWS 管理者に問い合わせてください。サインイン資格情報を提供した担当者が管理者です。

アクセスキーを表示したい

IAM ユーザーアクセスキーを作成した後は、いつでもアクセスキー ID を表示できます。ただし、シークレットアクセスキーを再表示することはできません。シークレットアクセスキーを紛失した場合は、新しいアクセスキーペアを作成する必要があります。

アクセスキーは、アクセスキー ID (例: AKIAIOSFODNN7EXAMPLE) とシークレットアクセスキー (例: wJalrXUtnFEMI/K7MDENG/bPxRfiCYEXAMPLEKEY) の 2 つで構成されています。ユーザー名とパスワードと同様に、リクエストを認証するために、アクセスキー ID とシークレットアクセスキーの両方を使用する必要があります。ユーザー名とパスワードと同様に、アクセスキーは安全に管理してください。

> **Important**
>
> 正規のユーザー ID を確認するためであっても、アクセスキーを第三者に提供しないでください。そうすることで、誰かに自分への永続的なアクセス権を与えることができます AWS アカウント。

アクセスキーペアを作成する場合、アクセスキー ID とシークレットアクセスキーを安全な場所に保存するように求めるプロンプトが表示されます。このシークレットアクセスキーは、作成時にのみ使用できます。シークレットアクセスキーを紛失した場合、IAM ユーザーに新規アクセスキーを追加する必要があります。アクセスキーは最大 2 つまで持つことができます。既に 2 つある場合は、新規キーペアを作成する前に、いずれかを削除する必要があります。手順を表示するには、「IAM ユーザーガイド」の「アクセスキーの管理」を参照してください。

私は管理者ですが、他のユーザーがBillingにアクセスできるようにしたいと思っています。

他のユーザーが Billing にアクセスできるようにするには、アクセスが必要なユーザーまたはアプリケーション用の IAM エンティティ (ユーザーまたはロール) を作成する必要があります。ユーザーまたはアプリケーションは、そのエンティティの認証情報を使用して AWSにアクセスします。次に、Billing で適切な権限を付与するポリシーをそのエンティティにアタッチする必要があります。

すぐにスタートするには、「IAM ユーザーガイド」の「IAM が委任した初期のユーザーおよびグループの作成」を参照してください。

AWS アカウント 社外の人にも私の請求リソースへのアクセスを許可したい。

他のアカウントのユーザーや組織外の人が、リソースにアクセスするために使用できるロールを作成できます。ロールの引き受けを委託するユーザーを指定できます。リソースベースのポリシーまたはアクセス制御リスト (ACL) をサポートするサービスの場合、それらのポリシーを使用して、リソースへのアクセスを付与できます。

詳細については、以下を参照してください:

- Billing がこれらの機能をサポートしているかどうかについては、を参照してくださいAWS 請求と IAM の連携の仕組み。
- AWS アカウント 所有しているリソース全体のリソースへのアクセスを提供する方法については、『IAM ユーザーガイド』の「AWS アカウント 所有する別の IAM ユーザーへのアクセスを提供する」を参照してください。
- リソースへのアクセスを第三者に提供する方法については AWS アカウント、IAM ユーザーガイドの「AWS アカウント 第三者が所有するリソースへのアクセスの提供」を参照してください。
- ID フェデレーションを介してアクセスを提供する方法については、『IAM ユーザーガイド』の「外部で認証されたユーザー (ID フェデレーション) へのアクセス権限」を参照してください。
- クロスアカウントアクセスでのロールとリソースベースのポリシーの使用の違いの詳細については、『IAM ユーザーガイド』の「IAM ロールとリソースベースのポリシーとの相違点」を参照してください。

ログインとモニタリング AWS Billing and Cost Management

監視は、 AWS アカウントの信頼性、可用性、パフォーマンスを維持する上で重要な部分です。請求情報とコスト管理の使用状況をモニタリングするためのツールがいくつかあります。

AWS コストと使用状況レポート

AWS AWS コストと使用状況レポートは使用状況を追跡し、アカウントに関連する推定請求額を表示します。各レポートには、 AWS AWS アカウントで使用している製品、使用タイプ、オペレーションの固有の組み合わせごとの明細項目が含まれています。 AWS コストと使用状況レポートをカスタマイズして、情報を時間単位または日単位で集計できます。

AWS コストと使用状況レポートの詳細については、『コストと使用状況レポートガイド』を参照してください。

AWS CloudTrail

Billing and Cost Management は AWS CloudTrail、Billing and Cost Management でユーザー、ロール、 AWS またはサービスが実行したアクションの記録を提供するサービスと統合されています。CloudTrail 請求およびコスト管理コンソールからの呼び出しや、請求およびコスト管理 API へのコード呼び出しを含む、Billing and Cost Management のすべての書き込みおよび変更 API 呼び出しをイベントとしてキャプチャします。

の詳細については AWS CloudTrail、を参照してください。Billing and Cost Management API 呼び出しのロギング AWS CloudTrail

Billing and Cost Management API 呼び出しのロギング AWS CloudTrail

Billing and Cost Management は AWS CloudTrail、Billing and Cost Management でユーザー、ロール、 AWS またはサービスが実行したアクションの記録を提供するサービスと統合されています。CloudTrail 請求およびコスト管理コンソールからの呼び出しや、Billing and Cost Management API へのコード呼び出しを含む、Billing and Cost Management の API 呼び出しをイベントとしてキャプチャします。 CloudTrail 請求に関連するイベントの全リストについては、を参照してください CloudTrail 請求イベント。

証跡を作成すると、Billing and Cost Management CloudTrail イベントを含むイベントを Amazon S3 バケットに継続的に配信できるようになります。証跡を設定しなくても、 CloudTrailコンソールの [イベント履歴] で最新のイベントを確認できます。によって収集された情報を使用して CloudTrail、Billing and Cost Management に対して行われた要求、要求が行われた IP アドレス、要求の実行者、実行日時、その他の詳細を判断できます。

設定方法や有効化方法などの詳細については、『AWS CloudTrail ユーザーガイド』を参照してください。 CloudTrail

CloudTrail 請求イベント

このセクションには、Billing and Cost Management CloudTrail に関連するイベントの全リストが表示されます。

> **メモ**
>
> CloudTrail 以下のイベントは、代わりに別のイベントソースを使用しますbillingconsole.amazonaws.com。

- CreateCustomerCase、GetTaxExemptionTypes、および BatchGetTaxExemptions が taxconsole.amazonaws.com を使用します。
- CreateCustomerVerificationDetails、GetCustomerVerificationDetails、GetCusto および UpdateCustomerVerificationDetails が customer-verification.amazonaws.com を使用します。
- AddPurchaseOrder、DeletePurchaseOrder、ListPurchaseOrders、GetPurchaseOrder および ListTagsForResource は purchase-orders.amazonaws.com を使用します。

イベント名	定義
AddPurchaseOrder	発注書の作成を口グに記録します。
AcceptFxPaymentCurrencyTermsAndConditions	USD 以外の通貨での支払いに関する利用規約の承諾を口グに記録します。
BatchGetTaxExemptions	アカウントおよびリンクされたアカウントの米国免税へのアクセスを口グに記録します。
CloseAccount	アカウントの閉鎖を口グに記録します。
CreateCustomerCase	カスタマーサポートケースの作成を記録して、アカウントの米国の免税を検証します。
CreateCustomerVerificationDetails	(請求先住所または連絡先住所がインドのお客様のみ) アカウントの顧客確認詳細の作成を記録します。
CreateOrigamiReportPreference	コストと使用状況レポートの作成を口グに記録します (管理アカウントのみ)。
DeletePurchaseOrder	発注書の削除を口グに記録します。

イベント名	定義
DeleteOrigamiReportPreferences	コストと使用状況レポートの削除をログに記録します (管理アカウントのみ)。
DownloadCommercialInvoice	コマーシャルインボイスのダウンロードをログに記録します。
DownloadECSVForBillingPeriod	特定の請求期間の eCSV ファイル (月次使用状況レポート) のダウンロードのログを作成します。
DownloadRegistrationDocument	税金登録文書のダウンロードをログに記録します。
DownloadTaxInvoice	タックスインボイスのダウンロードをログに記録します。
EnableBillingAlerts	CloudWatch 予想請求額の請求アラート受信のオプトインを記録します。
FindECSVForBillingPeriod	特定の請求期間における eCSV ファイルの取得をログに記録します。
GetAccountEDPStatus	アカウントの EDP ステータスの取得をログに記録します。
GetAddresses	アカウントの納税先住所、請求先住所、連絡先住所へのアクセスを記録します。
GetAllAccounts	管理アカウントのすべてのメンバーアカウント番号へのアクセスを記録します。
GetAllAccountDetails	管理アカウントのすべてのメンバーアカウントの税金登録詳細を記録します。

イベント名	定義
GetBillsForBillingPeriod	特定の請求期間におけるアカウントの使用状況および料金のアクセスを口グに記録します。
GetBillsForLinkedAccount	特定の請求期間における一括請求 (コンソリデーティッドビリング) ファミリー内のメンバーアカウントの 1 つの使用状況および料金を取得する管理アカウントのアクセスをログに記録します。
GetCommercialInvoicesForBillingPeriod	特定の請求期間におけるアカウントのコマーシャルインボイスのメタデータへのアクセスをログに記録します。
GetConsolidatedBillingFamilySummary	一括請求 (コンソリデーティッドビリング) ファミリー全体の概要を取得する管理アカウントのアクセスをログに記録します。
GetCustomerVerificationEligibility	(請求先住所または連絡先住所がインドのお客様のみ) アカウントの顧客検証資格取得をログに記録します。
GetCustomerVerificationDetails	(請求先住所または連絡先住所がインドのお客様のみ) アカウントの顧客確認詳細の取得を記録します。
GetLinkedAccountNames	特定の請求期間における一括請求ファミリーに属するメンバーアカウント名の管理アカウントからの取得をログに記録します。
GetPurchaseOrder	発注書の取得をログに記録します。
GetSupportedCountryCodes	税金コンソールでサポートされているすべての国コードへのアクセスを記録します。
GetTaxExemptionTypes	税金コンソールで、サポートされているすべての米国免税タイプへのアクセスを記録します。

イベント名	定義
GetTaxInheritance	アカウントの税相続プリファレンス (有効化または無効化) へのアクセスを記録します。
GetTaxInvoicesMetadata	税金請求書のメタデータの取得を ログに記録します。
GetTaxRegistration	アカウントの税務登録番号へのアクセスを記録します。
GetTotal	アカウントの合計請求額の取得を ログに記録します。
GetTotalAmountForForecast	特定の請求期間における予測料金へのアクセスを ログに記録します。
ListCostAllocationTags	コスト配分タグの取得とリストを記録します。
ListPurchaseOrders	発注書の取得と一覧を ログに記録します。
ListPurchaseOrderInvoices	発注書に関連する請求書の取得と一覧の ログ。
ListTagsForResource	発注書のリソースに関連するタグを一覧表示します。
PreviewTaxRegistrationChange	確定前に税務登録の変更のプレビューを記録します。
RedeemPromoCode	アカウントのプロモーションクレジットの利用を ログに記録します。
SetAccountContractMetadata	公共部門のお客様に必要な契約情報の作成、削除、または更新を ログに記録します。
SetAccountPreferences	アカウント名、E メール、パスワードの更新を ログに記録します。

イベント名	定義
SetAdditionalContacts	請求、オペレーション、セキュリティ通信用の代替連絡先の作成、削除、または更新を口グに記録します。
SetContactAddress	住所や電話番号を含む、アカウント所有者の連絡先情報の作成、削除、または更新を口グに記録します。
SetCreatedByOptIn	awscreatedby コスト配分タグ設定のオプトインを口グに記録します。
SetCreditSharing	管理アカウントのクレジット共有設定の履歴を口グに記録します。
SetFreetierBudgetsPreference	無料利用枠のアラートの受信の設定 (オプトインまたはオプトアウト) を口グに記録します。
SetFxPaymentCurrency	請求書の支払いに使用される優先通貨の作成、削除、または更新を口グに記録します。
SetIAMAccessPreference	IAM ユーザーによる請求コンソールへのアクセスの許可の作成、削除、または更新を口グに記録します。この設定は、root アクセスが許可されたお客様のみを対象としています。
SetPANInformation	AWS インドでの PAN 情報の作成、削除、更新を記録します。
SetPayInformation	アカウントの支払い方法の履歴 (請求書またはクレジット/デビットカード) を口グに記録します。
SetRISharing	管理アカウントの RI/Savings Plans 共有設定の履歴を口グに記録します。
SetSecurityQuestions	セキュリティチャレンジの質問の作成、削除、更新を記録して、AWS アカウントの所有者を特定しやすくします。
SetTagKeysState	特定のコスト配分タグのアクティブまたは非アクティブ状態を口グに記録します。
SetTaxInheritance	相続税の設定 (オプトインまたはオプトアウト) を記録します。

イベント名	定義
SetTaxRegistration	アカウントの税登録番号の作成、削除、または更新を口グに記録します。
TagResource	発注書のリソースのタグ付けを口グに記録します。
UntagResource	発注書のリソースからのタグの削除を口グに記録します。
UpdateCustomerVerificationDetails	(請求先住所または連絡先住所がインドのお客様のみ) アカウントの顧客確認詳細の更新を記録します。
UpdateOrigamiReportPreference	コストと使用状況レポートの更新を口グに記録します (管理アカウントのみ)。
UpdatePurchaseOrder	発注書の更新を口グに記録します。
UpdatePurchaseOrderStatus	発注書の状態の更新を口グに記録します。
ValidateAddress	アカウントの納税住所の検証を記録します。

のBilling and Cost Management 情報 CloudTrail

CloudTrail アカウントを作成すると、 AWS アカウントで有効になります。Billing and Cost Management でサポートされるイベントアクティビティが発生すると、 CloudTrail AWS そのアクティビティは他のサービスイベントとともにイベント履歴に記録されます。 AWS アカウント内の最近のイベントを表示、検索、ダウンロードできます。詳細については、『AWS CloudTrail ユーザーガイド』の「 CloudTrail イベント履歴でイベントを表示する」を参照してください。

Billing and Cost Management に関するイベントなど、 AWS アカウント内のイベントを継続的に記録するには、証跡を作成してください。トレイルを使用すると CloudTrail 、Amazon S3 バケットにログファイルを配信できます。デフォルトでは、コンソールで証跡を作成すると、 AWS その証跡はすべてのリージョンに適用されます。トレイルは、 AWS パーティション内のすべてのリージョンからのイベントを記録し、指定した Amazon S3 バケットにログファイルを配信します。さらに、

AWS CloudTrail ログに収集されたイベントデータをさらに分析して処理するように他のサービスを設定できます。

詳細については、次を参照してください:

- 証跡の作成のための概要
- CloudTrail サポート対象のサービスとインテグレーション
- の Amazon SNS 通知の設定 CloudTrail
- CloudTrail 複数のリージョンからのログファイルの受信、 CloudTrail複数のアカウントからのログファイルの受信

各イベントまたはログエントリには、誰がリクエストを生成したかという情報が含まれます。同一性情報は次の判断に役立ちます。

- リクエストが、ルートと IAM ユーザー認証情報のどちらを使用して送信されたか。
- リクエストがロールまたはフェデレーションユーザーの一時的なセキュリティ認証情報を使用して行われたかどうか。
- AWS リクエストが別のサービスによって行われたかどうか。

詳細については、『AWS CloudTrail ユーザーガイド』の「CloudTrail userIdentity 要素」を参照してください。

CloudTrail ログエントリの例

次の例は、特定のBilling and Cost Management CloudTrail ログエントリシナリオ向けに提供されています。

トピック

- 請求およびコスト管理ログファイルエントリ
- 税金コンソール

請求およびコスト管理ログファイルエントリ

トレイルは、指定した Amazon S3 バケットにイベントをログファイルとして配信できるようにする設定です。 CloudTrail ログファイルには 1 つ以上のログエントリが含まれます。イベントはあらゆるソースからの単一のリクエストを表し、リクエストされたアクションに関する情報、アクションの

日時、リクエストパラメータなどが含まれます。 CloudTrail ログファイルはパブリック API 呼び出しの順序付けられたスタックトレースではないため、特定の順序で表示されることはありません。

次の例は、 CloudTrail SetContactAddressアクションを示すログエントリを示しています。

```
{
        "eventVersion": "1.05",
        "userIdentity": {
            "accountId": "111122223333",
            "accessKeyId": "AIDACKCEVSQ6C2EXAMPLE"
        },
        "eventTime": "2018-05-30T16:44:04Z",
        "eventSource": "billingconsole.amazonaws.com",
        "eventName": "SetContactAddress",
        "awsRegion": "us-east-1",
        "sourceIPAddress": "100.100.10.10",
        "requestParameters": {
            "website": "https://amazon.com",
            "city": "Seattle",
            "postalCode": "98108",
            "fullName": "Jane Doe",
            "districtOrCounty": null,
            "phoneNumber": "206-555-0100",
            "countryCode": "US",
            "addressLine1": "Nowhere Estates",
            "addressLine2": "100 Main Street",
            "company": "AnyCompany",
            "state": "Washington",
            "addressLine3": "Anytown, USA",
            "secondaryPhone": "206-555-0101"
        },
        "responseElements": null,
        "eventID": "5923c499-063e-44ac-80fb-b40example9f",
        "readOnly": false,
        "eventType": "AwsConsoleAction",
        "recipientAccountId": "1111-2222-3333"
    }
```

税金コンソール

次の例は、 CloudTrail CreateCustomerCaseアクションを使用するログエントリを示しています。

```
{
```

```
   "eventVersion":"1.05",
   "userIdentity":{
      "accountId":"111122223333",
      "accessKeyId":"AIDACKCEVSQ6C2EXAMPLE"
   },
   "eventTime":"2018-05-30T16:44:04Z",
   "eventSource":"taxconsole.amazonaws.com",
   "eventName":"CreateCustomerCase",
   "awsRegion":"us-east-1",
   "sourceIPAddress":"100.100.10.10",
   "requestParameters":{
      "state":"NJ",
      "exemptionType":"501C",
      "exemptionCertificateList":[
         {
            "documentName":"ExemptionCertificate.png"
         }
      ]
   },
   "responseElements":{
      "caseId":"case-111122223333-iris-2022-3cd52e8dbf262242"
   },
   "eventID":"5923c499-063e-44ac-80fb-b40example9f",
   "readOnly":false,
   "eventType":"AwsConsoleAction",
   "recipientAccountId":"1111-2222-3333"
}
```


のコンプライアンス検証 AWS Billing and Cost Management

第三者監査人は、 AWS AWS 複数のコンプライアンスプログラムの一環としてサービスのセキュリティとコンプライアンスを評価します。Billing and Cost Management は、 AWS いかなるコンプライアンスプログラムの対象外です。

AWS 特定のコンプライアンスプログラムの対象となるサービスの一覧については、「https://aws.amazon.com/compliance/services-in-scope/」を参照してくださいAWS 。一般的な情報については、「AWS」を参照してください。

サードパーティの監査レポートはを使用してダウンロードできます AWS Artifact。詳細については、「」を参照してください。

BBilling and Cost Management を使用する際のコンプライアンス責任は、データの機密性、会社のコンプライアンス目標、および適用される法律と規制によって決まります。 AWS コンプライアンスに役立つ以下のリソースを提供しています。

- 「セキュリティ＆コンプライアンスクイックリファレンスガイド」– これらのデプロイガイドには、アーキテクチャ上の考慮事項の説明と、 AWSでセキュリティとコンプライアンスに重点を置いたベースライン環境をデプロイするための手順が記載されています。
- AWS — この一連のワークブックとガイドは、お客様の業界や地域に当てはまる場合があります。
- AWS Config 開発者ガイドのルールによるリソースの評価 — AWS Config このサービスでは、リソース構成が社内慣行、業界のガイドライン、規制にどの程度準拠しているかを評価します。
- AWS Security Hub— AWS このサービスでは、内部のセキュリティ状態を包括的に把握できるため、 AWS セキュリティ業界の標準やベストプラクティスに準拠しているかどうかを確認できます。

レジリエンスとは AWS Billing and Cost Management

AWS AWS グローバルインフラストラクチャはリージョンとアベイラビリティーゾーンを中心に構築されています。 AWS リージョンには、物理的に分離され隔離された複数のアベイラビリティーゾーンがあり、低レイテンシー、高スループット、冗長性の高いネットワークで接続されています。アベイラビリティーゾーンでは、ゾーン間で中断することなく自動的にフェイルオーバーするアプリケーションとデータベースを設計および運用することができます。アベイラビリティーゾーンは、従来の単一または複数のデータセンターインフラストラクチャよりも可用性が高く、フォールトトレラントで、スケーラブルです。

AWS リージョンとアベイラビリティーゾーンの詳細については、「グローバルインフラストラクチャ」を参照してください。AWS

のインフラストラクチャーセキュリティ AWS Billing and Cost Management

マネージドサービスとして、 AWS Billing and Cost Management AWS グローバルなネットワークセキュリティによって保護されています。 AWS AWS セキュリティサービスとインフラストラクチャの保護方法については、「AWS Cloud Security」を参照してください。 AWS インフラストラクチャセキュリティのベストプラクティスを使用して環境を設計するには、「Security Pillar AWS Well-Architected Framework におけるインフラストラクチャ保護」を参照してください。

AWS 公開されている API 呼び出しを使用して、ネットワーク経由でBilling and Cost Management にアクセスします。クライアントは以下をサポートする必要があります:

- Transport Layer Security (TLS)。TLS 1.2 は必須で TLS 1.3 がお勧めです。
- DHE (楕円ディフィー・ヘルマン鍵共有) や ECDHE (楕円曲線ディフィー・ヘルマン鍵共有) などの完全前方秘匿性 (PFS) による暗号スイート。これらのモードは、Java 7 以降など、ほとんどの最新システムでサポートされています。

また、リクエストには、アクセスキー ID と、IAM プリンシパルに関連付けられているシークレットアクセスキーを使用して署名する必要があります。または、AWS Security Token ServiceAWS STS を使用して、一時的なセキュリティ認証情報を生成し、リクエストに署名することもできます。

クォータと制限

次のテーブルを使用して、AWS Billing and Cost Management コンソール内の現在のクォータ、制限、命名に関する制約を確認できます。

> メモ
>
> - AWS Cost Management コンソールのクォータと制限に関する詳細については、「AWS コスト管理ユーザーガイド」の「クォータと制限」を参照してください。
> - 他のAWS のサービス クォータの詳細については、「AWS 全般のリファレンス」の「AWS サービスクォータ」を参照してください。

トピック

- コストカテゴリ
- 発注書
- 事前支払い
- コスト配分タグ
- AWS の料金表

コストカテゴリ

コストカテゴリについては、以下のクォータと制限を参照してください。

説明	クォータと制限
管理アカウントでのコストカテゴリの合計数	50
コストカテゴリ (API) でのコストカテゴリルールの数	500
コストカテゴリ (UI) でのコストカテゴリルールの数	100
コストカテゴリ名	• 名前は一意である必要があります。

説明	クォータと制限
	• 大文字と小文字の区別
コストカテゴリ値名	名前は一意である必要はありません
コストカテゴリ名と値名で許可されている文字のタイプと数	• 数字: 0-9 • Unicode 文字 • Space (名前の先頭または末尾には使用不可) • 次の記号: アンダースコア (_) またはエンダッシュ (-)
コストカテゴリでの分割料金ルールの数	10

発注書

発注書については、以下のクォータと制限をご覧ください。

説明	クォータと制限
発注書 ID で許可されている文字のタイプ	• A-Z および a-z • Space • 次の記号: _.:/=+-%@
発注書 ID で許可されている文字の数	100
発注書で許可されている連絡先の数	20
発注書で許可されているタグの数	50
発注書で許可されている明細項目の数	100

事前支払い

前払いについては、以下のクォータと制限をご覧ください。

説明	クォータと制限
ユーザーエンティティ	AWS Inc
通貨	USD
資金が事前支払いに加算された後の資金の使用状況	• 資金は、適格な AWS 料金の支払いにのみ使用できます。適格でない料金 (例: AWS Marketplace 請求書) は、事前支払いの登録時のデフォルトの支払い方法を使用して請求されます。 • 資金は、引き出し、払い戻し、または譲渡することはできません。 • 資金は、他の通貨に変換することはできません。
事前支払いに未使用の資金がある場合	• 登録されている販売者は変更できません。 • 希望する通貨は変更できません。 • デフォルトの支払い方法は変更できません。

コスト配分タグ

Service Quotas でアクティブなコスト配分タグキーの最大数を調整できます。詳細については、「Service Quotas ユーザーガイド」の「クォータ引き上げのリクエスト」を参照してください。

> **Note**
>
> 自動的に有効化されたタグ (`awsApplication` タグなど) は、コスト配分タグのクォータにはカウントされません。

コスト配分タグについては、以下のクォータと制限を参照してください。

説明	クォータと制限
支払者アカウントあたりのアクティブなコスト配分タグキーの最大数	500
API またはコンソールを使用して、1 つのリクエストに対してアクティブ化または非アクティブ化ができるコスト配分タグの数	20

AWS の料金表

AWS Price List Query API については、「クォータ」を参照してください。

AWS Price List Bulk API については、「クォータ」を参照してください。

ドキュメント履歴

以下は、「AWS ユーザーガイド」の今回リリースされたドキュメントの内容です。

変更	説明	日付
AWS 管理ポリシーのドキュメントが更新されました。	BillingおよびAWSBillingReadOnlyAccess — 既存のポリシーを更新して、コスト配分タグのバックフィル機能の権限を追加しました。	2024 年 3 月 27 日
更新版	AWS インドのアカウントでは、統一支払いインターフェース (UPI) 支払い方法を使用して請求書を支払うことができます AWS 。	2024 年 3 月 14 日
AWS 管理ポリシーのドキュメントが更新されました。	BillingおよびAWSBillingReadOnlyAccess — 既存のポリシーを更新して、の権限を追加しましたAWS Migration Acceleration Program。	2024 年 1 月 18 日
更新版	BillingAWSBillingReadOnlyAccess およびcur、、、sustainability 、cebudgetspricing、supportおよびアクションを追加しました。	2024 年 1 月 17 日
更新版	Amazon Web Services インドプライベートリミテッドでは、 AWS アカウント クレジットカードまたはデビット	2023 年 12 月 18 日

	カードの詳細を保存できます。	
更新版	コストカテゴリは、さまざまなコストタイプを使用して表示することができます。	2023 年 12 月 14 日
更新版	AWS クラウド財務管理データの概要については、Billing and Cost Management AWS Billing and Cost Management ホームページのウィジェットを使用してください。 以下の更新を参照してください。 • AWS Billing and Cost Management ホームページを使用する • AWSAWS Cost Explorer 請求データとデータの違いを理解する	2023 年 11 月 26 日
更新版	無料利用枠 API の詳細を説明します。 以下の更新を参照してください。 • AWS Billing and Cost Management API リファレンス • 無料利用枠 API を使用する	2023 年 11 月 26 日
更新版	影響を受ける IAM ポリシーツールの使用法に関して更新した情報	2023 年 11 月 14 日

更新版	AWS Service Catalog AppRegistryで作成したアプリケーションには、awsApplication ユーザー定義のコスト配分タグが自動的に追加され、有効化されます。 以下の更新を参照してください。 • ユーザー定義のコスト配分タグ • ユーザー定義のコスト配分タグのアクティブ化 • クォータと制限	2023 年 11 月 14 日
更新版	AWS アカウントにサインアップして、登録販売者 (SOR) の詳細を確認してください。	2023 年 11 月 10 日
支払いに関する更新版	クレジットカードでの支払い方法の確認に関する情報が更新されました。	2023 年 11 月 8 日
Updates for Amazon Web Services India Private Limited 顧客確認の更新	AWS インドのお客様は、にサインアップする際に ID 情報を確認できます AWS アカウント。	2023 年 10 月 27 日
更新版	[請求設定] ページを使用して、 AWS Organizationsの会員アカウントのリザーブドインスタンスと Savings Plans のクレジット共有やディスカウント共有を有効または無効にできます。	2023 年 10 月 19 日

のドキュメントが更新されました。 AWS の料金表	AWS CLI AWS AWS 価格表一括APIと価格表クエリAPIのコマンド、定義、通知の例を含むドキュメントを更新しました。	2023 年 10 月 3 日
支払い方法の更新	AWS アカウント AWS ヨーロッパでは、請求コンソールで銀行口座をリンクして確認できます。	2023 年 9 月 15 日
更新版	発行された請求書の内容が正しいことを確認するときは、月次請求チェックリストのトピックを使用すれば請求情報を確認できます。	2023 年 9 月 1 日
コスト配分タグの更新	[最終更新日] と [最終使用月] のフィールドを使用して、コスト配分タグが最後に更新または使用された日時を確認できます。	2022 年 8 月 23 日
AWS 価格表クエリ API の更新	欧州 (フランクフルト) リージョンのエンドポイントが追加されました。	2023 年 8 月 15 日
AWS 管理ポリシーが更新されました。	`Billing` および `AWSBillingReadOnlyAccess` — 既存のポリシーを更新して、コスト配分タグの権限を追加しました。	2023 年 7 月 26 日
支払いドキュメントの更新	[支払い] ページのテーブルを使用して、一部適用されたクレジットメモを表示できます。	2023 年 7 月 25 日

AWS 管理ポリシーのドキュメントが更新されました。	AWSPurchaseOrdersServiceRolePolicy 、Billing、AWSBillingReadOnlyAccess — 既存のポリシーを更新して、発注書タグの権限を追加しました。	2023 年 7 月 17 日
IAM の詳細なアクションに関するリファレンスドキュメントを更新しました	古い IAM アクションが新しい詳細な IAM アクションにどのようにマッピングされるかを確認できるようにドキュメントを追加しました。	2023 年 6 月 28 日
アカウントページ用のドキュメントを更新しました	AWS 請求コンソールのドキュメントを更新しました。	2023 年 6 月 22 日
更新版	発注書のタグサポートを追加しました 発注書にタグを追加できます。詳細については、次のトピックを参照してください。 • 発注書を追加する • 発注書を編集する • タグを使用して発注書へのアクセスを管理する • 発注書クォータ	2023 年 6 月 19 日
スクリプトを使用して IAM の詳細なアクションに一括移行する	ポリシーを新しい IAM の詳細なアクションに一括移行できるようにドキュメントを追加しました。	2023 年 6 月 8 日
支払い方法の更新	ブラジルの PIX 支払い方法を管理する新機能が追加されました。	2023 年 6 月 6 日

AWS EMEA 向けの一括請求	Amazon Web Services EMEA SARL (ヨーロッパ) エンティティを通じて請求されるアカウントの一括請求機能を追加しました。AWS	2023 年 6 月 6 日
短いバージョンの PDF 請求書のサポートを追加	短いバージョンの PDF 請求書をリクエストする方法に関するドキュメントを追加しました。	2023 年 5 月 30 日
新しいコストカテゴリディメンションを追加しました	請求に使用タイプディメンションを追加しました。 AWS	2023 年 5 月 16 日
新しいマネージドポリシーと更新されたマネージドポリシー	`AWSPurchaseOrdersServiceRolePolicy` 、`Billing`、`AWSBillingReadOnlyAccess` — 既存のポリシーを更新しました。`AWSAccountActivityAccess` — Billing AWS に関する新しい管理ポリシーが文書化されました。 AWS	2023 年 3 月 6 日
新しい Customer Carbon Footprint Tool	AWS 製品やサービスに関連する二酸化炭素排出量の推定値を表示する新しい顧客カーボンフットプリントツール機能を追加しました。	2022 年 2 月 28 日
新しい支払いプロファイル	請求書に自動支払い方法を割り当てるための新しい支払いプロファイル機能が追加されました。	2022 年 2 月 17 日
AWSPurchaseOrdersServiceRolePolicy — 既存のポリシーへの更新	AWS Billing によって不要な権限が削除されました。	2021 年 11 月 18 日

AWS Billing AWS が管理ポリシーの変更を追跡し始めました。	AWS Billing AWS 社は管理ポリシーの変更を追跡し始めました。	2021 年 11 月 18 日
AWS 新しいコスト管理ガイド	Billing and Cost Management ユーザーガイドを分割し、AWS コンソールに合わせて機能の詳細を請求ガイドとコスト管理ガイドにまとめました。	2021 年 10 月 20 日
AWS 新しいコスト異常検知	AWS 機械学習を使用してコストと使用状況を継続的に監視し、異常な支出を検出する新しいコスト異常検出機能が追加されました。	2020 年 12 月 16 日
新しい発注書管理	購入が請求書に反映される方法を設定する新しい発注書機能が追加されました。	2020 年 10 月 15 日
新しい Budgets アクション	AWS 予算が特定のコストまたは使用量のしきい値を超えたときにユーザーに代わってアクションを実行する新しい予算アクション機能を追加しました。	2020 年 10 月 15 日
新しい	AWS 費用を有意義なカテゴリに分類する新機能が追加されました。	2020 年 4 月 20 日
新しい相続税機能	連結アカウントで税務登録情報を使用できるようにする新機能が追加されました。	2020 年 3 月 19 日

新しい中国銀行リダイレクト支払い方法	中国人民元をご利用のお客様が、China Bank AWS Redirect を使用して延滞した支払いを支払うことができる新しい支払い方法を追加しました。	2020 年 2 月 20 日
セキュリティに関する新しい章	さまざまなセキュリティ制御に関する情報を提供する新しいセキュリティの章が追加されました。この章に、以前の「アクセス制御」章の内容を移行しました。	2020 年 2 月 6 日
AWS コストと使用状況レポートの新しいユーザーガイド	AWS コストと使用状況レポートのすべての内容が別のユーザーガイドに移行され、再編成されました。	2020 年 1 月 21 日
Budgets を使用する新しいレポート方法 AWS	AWS 予算レポートを使用する新しいレポート機能を追加しました。	2019 年 6 月 27 日
Cost Explorer に正規化された単位を追加	Cost Explorer レポートに、正規化された単位が追加されました。	2019 年 2 月 5 日
クレジットアプリケーションの変更	AWS クレジットの適用方法を変更しました。	2019 年 1 月 17 日
新しい支払いの動作	AWS インドのお客様は、支払いの自動請求機能を有効にできるようになりました。	2018 年 12 月 20 日
AWS 新しい価格表サービスエンドポイント	AWS 価格表サービスの新しいエンドポイントを追加しました。	2018 年 12 月 17 日

Cost Explorer UI を更新	Cost Explorer UI が更新されました。	2018 年 11 月 15 日
Amazon Athena AWS をコストと使用状況レポートに統合しました	AWS コストと使用状況のレポートから Athena にデータをアップロードする機能が追加されました。	2018 年 11 月 15 日
Budgets 履歴を追加	予算の履歴を表示する機能が追加されました。	2018 年 11 月 13 日
予算のサービスを拡張	RI 予算をAmazon OpenSearch サービスに拡大。	2018 年 11 月 8 日
新しい支払い方法の追加	SEPA 銀行デビットの支払い方法が追加されました。	2018 年 10 月 25 日
オンデマンドキャパシティー予約を追加	AWS キャパシティ予約に適用されるコストと使用状況レポートの明細項目に関するドキュメントを追加しました。	2018 年 10 月 25 日
AWS 予算エクスペリエンスが再設計されました。	AWS 予算 UI とワークフローが更新されました。	2018 年 10 月 23 日
リザーブドインスタンスの推奨事項に新しい列を追加	Cost Explorer RI のレコメンデーションに新しい列が追加されました。	2018 年 10 月 18 日
新しいアクション AWS CloudTrail	CloudTrail ロギングにさらに多くのアクションが追加されました。	2018 年 10 月 18 日
リザーブドインスタンスの新しいレポートを追加	RI レポートをAmazon OpenSearch サービスに拡張しました。	2018 年 10 月 10 日

AWS コストと使用状況のレポート列が新しくなりました。	AWS コストと使用状況レポートに新しい列が追加されました。	2018 年 9 月 27 日
Cost Explorer チュートリアル	Cost Explorer に、よく使用される機能のチュートリアルが追加されました。	2018 年 9 月 24 日
CloudTrail イベントが追加されました。	CloudTrail イベントを追加しました。	2018 年 8 月 13 日
新しい支払い方法の追加	ACH 銀行デビット支払い方法を追加しました。	2018 年 7 月 24 日
AWS 無料利用枠ウィジェットを更新しました。	AWS 無料利用枠ウィジェットを更新しました。	2018 年 7 月 19 日
その他のサービスの RI 購入の推奨事項を追加	Cost Explorer にその他のサービスの RI 購入のレコメンデーションが追加されました。	2018 年 7 月 11 日
連結アカウントの RI 購入の推奨事項の追加	Cost Explorer に連結アカウントの RI 購入のレコメンデーションが追加されました。	2018 年 6 月 27 日
AWS コストと使用状況レポートのデータ更新のサポートが追加されました。	AWS アカウントに返金、クレジット、 AWS またはサポート料金を適用した場合、コストと使用状況レポートを最終処理後に更新できるようになりました。	2018 年 6 月 20 日
サポートが追加されました。 CloudTrail	CloudTrail イベントロギングのサポートが追加されました。	2018 年 6 月 7 日
予算に追加されました AWS CloudFormation 。	の予算テンプレートが追加されました。 AWS CloudFormation	2018 年 5 月 22 日

連結アカウントの RI 割り当て動作の更新	連結アカウントのサイズ柔軟 RI の割り当て動作を更新しました。	2018 年 5 月 9 日
RI カバレッジアラート	RI カバレッジアラートを追加しました。	2018 年 5 月 8 日
非ブレンド連結アカウント請求書	連結アカウント請求書に組織の混合レートが表示されなくなりました。	2018 年 5 月 7 日
AWS 税設定が更新されました。	課税設定を一括編集する機能が追加されました。	2018 年 4 月 25 日
Cost Explorer に Amazon RDS の推奨事項を追加	Cost Explorer に Amazon RDS のレコメンデーションが追加されました。	2018 年 4 月 19 日
Cost Explorer AWS ディメンションとコストと使用状況レポートの新しい行項目を追加しました。	Cost Explorer AWS ディメンションとコストと使用状況レポートの新しい行項目を追加しました。	2018 年 3 月 27 日
Cost Explorer API に購入の推奨事項を追加	Amazon EC2 リザーブドインスタンス (RI) の購入のレコメンデーションへの Cost Explorer API を介したアクセスが追加されました。	2018 年 3 月 20 日
Amazon RDS、Amazon Redshift、および RI カバレッジを追加しました。 ElastiCache	Amazon RDS、Amazon Redshift、およびのリザーブドインスタンス (RI) の補償範囲 ElastiCache	2018 年 3 月 13 日
RI カバレッジを Cost Explorer API に追加	`GetReservationCoverage` が Cost Explorer API に追加されました。	2018 年 2 月 22 日

AWS 無料利用枠アラートを追加しました。	AWS 無料利用枠の制限を超えないようにする無料利用枠アラートを追加しました。	2017 年 13 月 12 日
RI 推奨事項	以前の使用状況に基づく RI 推奨事項が追加されました。	2017 年 11 月 20 日
Cost Explorer API	アクティブ化された API アクセス Cost Explorer。	2017 年 11 月 20 日
その他のサービスの RI 使用率のアラート	その他のサービスに通知が追加されました。	2017 年 11 月 10 日
RI レポートの追加	RI レポートを Amazon RDS、Redshift、およびに拡張しました。 ElastiCache	2017 年 11 月 10 日
共有設定の割引	AWS クレジットと RI discount の共有をオフにできるように設定を更新しました。	2017 年 11 月 6 日
新しい Amazon S3 コンソール	新しい Amazon S3 コンソール用に更新されました。	2017 年 9 月 15 日
RI 使用率アラート	RI 使用率がプリセットのパーセント値に基づくしきい値を下回った場合の通知を追加しました。	2017 年 8 月 21 日
Cost Explorer UI を更新	新しい Cost Explorer UI をリリースしました。	2017 年 8 月 16 日
AWS Marketplace データ統合	Bills ページ、Cost Explorer など、 AWS Marketplace すべての請求アーティファクトに顧客が自分のデータが反映されていることを確認できるように追加されました。	2017 年 8 月 10 日

組織の一括請求	一括請求を組織の動作にあわせて更新しました。	2017 年 6 月 20 日
Budgets AWS 内のリンクされたアカウントアクセスと使用タイプグループ	特定の使用タイプと使用タイプグループに基づいたコストと使用予算の作成、およびすべてのアカウントタイプの拡張予算の作成機能のサポートが追加されました。	2017 年 6 月 19 日
リージョン指定オファーファイル	AWS Price List API は、各サービスの地域別オファーファイルを提供するようになりました。	2017 年 4 月 20 日
Cost Explorer 詳細オプションの追加	返金、クレジット、RI 前払い料金、RI 定期料金やサポート料金などの詳細オプションを追加することで、 Cost Explorer レポートのフィルタができるようになりました。	2017 年 3 月 22 日
Cost Explorer レポートの追加	リザーブドインスタンス (RI) の日別範囲を Cost Explorer で追跡できるようになりました。	2017 年 3 月 20 日
Cost Explorer フィルターの追加	テナンシー、プラットフォーム、および Amazon EC2 スポットやスケジュールされたリザーブドインスタンス購入オプションによって、 Cost Explorer レポートをフィルタリングできるようになりました。	2017 年 3 月 20 日

インドのCost Explorer AWS と予算	AWS インドのユーザーは、Cost Explorer と予算を使用できるようになりました。	2017 年 3 月 6 日
Cost Explorer 使用タイプのグループ化の追加	Cost Explorer は、コストと使用状況データの両方のグループ化をサポートすることで、ユーザーがコストと使用状況グラフを相互参照してコスト要因を識別できるようにしています。	2017 年 2 月 24 日
Cost Explorer レポートの追加	Amazon EC2 リザーブドインスタンス (RI) の月別使用率を Cost Explorer で追跡できるようになりました。	2016 年 12 月 16 日
Cost Explorer レポートの追加	Amazon EC2 リザーブドインスタンス (RI) の日別使用率を Cost Explorer で追跡できるようになりました。	2016 年 12 月 15 日
AWS 生成されたコスト配分タグが追加されました。	AWS `createdBy` 生成されたタグを有効にして、 AWS 誰がリソースを作成したかを追跡できるようになりました。	2016 年 12 月 12 日
Cost Explorer 詳細オプションの追加	Cost Explorer レポートからタグ付けされたリソースを除外できるようになりました。	2016 年 11 月 18 日
AWS コストと使用状況レポートの Amazon QuickSight 統合	AWS コストと使用状況レポートでは、Amazon QuickSight にデータをアップロードするためのカスタマイズされたクエリが提供されるようになりました。	2016 年 11 月 15 日

AWS 予算機能の拡張	AWS 予算を使用して使用状況データを追跡できるようになりました。	2016 年 10 月 20 日
Cost Explorer の機能の拡張	Cost Explorer を使用して、使用タイプグループに基づいてコストを可視化できるようになりました。	2016 年 9 月 15 日
AWS コストと使用状況レポートの Amazon Redshift 統合の改善	AWS コストと使用状況レポートでは、Amazon Redshift にデータをアップロードするためのカスタマイズされたクエリが提供されるようになりました。	2016 年 8 月 18 日
AWS コストと使用状況レポート	AWS コストと使用状況のレポートを作成してダウンロードできるようになりました。	2015 年 12 月 16 日
AWS 価格リスト API	1 AWS つのサービスの商品、価格、制限を記載したオファーファイルをダウンロードできるようになりました。	2015 年 12 月 9 日
Cost Explorer レポートマネージャ	Cost Explorer クエリを保存できるようになりました。	2015 年 12 月 11 日
AWS 無料利用枠トラッキング	無料利用枠の制限のうち使用した容量を追跡できるようになりました。	2015 年 8 月 12 日
予算と予測	AWS 予算とコスト予測を使用して、 AWS 使用量とコストを管理できるようになりました。	2015 年 6 月 29 日

Amazon Web Services India Private Limited	Amazon Web Services インドプライベートリミテッド (AWS インド) アカウントのアカウント設定と支払い方法を管理できるようになりました。	2015 年 6 月 1– 日
Cost Explorer の機能の拡張	Cost Explorer を使用して、コストをアベイラビリティーゾーン、API オペレーション、購入オプション別に、または複数のコスト配分タグ別に可視化できるようになりました。	2015 年 2 月 19 日
優先する支払い通貨	クレジットカードに関連付けられた支払い通貨を変更できるようになりました。	2015 年 2 月 16 日
Cost Explorer の機能の拡張	Cost Explorer を使用して、Amazon EC2 のインスタンスタイプまたはリージョン別にコストを可視化できるようになりました。	2015 年 1 月 5 日
予想外の料金の回避	「予想外の料金の回避」と「無料利用枠の使用」を改訂および拡張しました。	2014 年 8 月 19 日

IAM ユーザー許可	AWS Identity and Access Management (IAM) ユーザーとフェデレーティッドユーザーがアカウント設定へのアクセスと管理、請求書の閲覧、コスト管理を行えるようになりました。たとえば、財務部門のメンバーに、 AWS 運用環境へのアクセスを許可しなくても、 AWS 財務設定とアカウントの管理に対するフルアクセス権を付与できます。	2014 年 7 月 7 日
Cost Explorer の起動	Cost Explorer AWS はコストを視覚化し、さまざまな方法でコストを分析できます。	2014 年 4 月 8 日
バージョン 2.0 発行	AWS Billing and Cost Management ユーザーガイドは、新しい請求情報とコスト管理コンソールに合わせて再編集され、記述内容が改められています。	2013 年 10 月 25 日

AWS 用語集

AWS の最新の用語については、「AWS の用語集リファレンス」の「AWS 用語集」を参照してください。

翻訳は機械翻訳により提供されています。提供された翻訳内容と英語版の間で齟齬、不一致または矛盾がある場合、英語版が優先します。